2026 年度

教　育　要　項

（シラバス）

第４学年

岩手医科大学歯学部

目　　次

教育要項の利用の仕方 …… 4
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） …… 5
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） …… 7
教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） …… 8
評価方針（アセスメント・ポリシー） …… 9
岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー …… 11
2026 年度歯学部カリキュラム×コンピテンス･コンピテンシーマトリックス表 …… 14
2026 年度履修系統図 …… 16
2026 年度第 4 学年カリキュラム …… 17
2026 年度第 4 学年授業時間割 …… 18
歯学部歯学科教育課程ナンバリング表 …… 20
2026 年度第 4 学年カリキュラム履修科目一覧 …… 22
矢巾キャンパス教場平面図 …… 23
歯学部教場平面図 …… 29

授業科目

全部床義歯補綴学（Ⅱ） …… 35
部分床義歯補綴学 …… 49
口腔インプラント学 …… 68
歯科麻酔学 …… 75
法歯科医学・災害歯科医学 …… 87
医科学（4年） …… 95
口腔外科学 …… 116
歯科矯正学 …… 136
小児歯科学 …… 147
障害者歯科学 …… 160
高齢者歯科医学 …… 165
歯科総合演習（4年） …… 179
専門英語（4年） …… 187
コミュニケーション学 …… 191

自由科目

海外英語演習 …… 199
地域医療課題解決演習 …… 201

学則・試験規程・その他

岩手医科大学学則 …… 205
岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程 …… 223
岩手医科大学歯学部における人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程 …… 225
学生心得 …… 227
岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程 …… 234
岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領 …… 235
岩手医科大学歯学部試験規程 …… 236
岩手医科大学歯学部試験規程の取扱内規 …… 239
進級・卒業に関する申し合わせ事項 …… 241
成績評価に対する異議申し立てに関する内規 …… 242
岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程 …… 246
歯学部歯学科カリキュラムマップ …… 250
GPA・CAP 制度 …… 251
大学における単位の考え方と授業外学修について …… 252
岩手医科大学生命倫理規範 …… 253
岩手医科大学における人体標本取扱指針 …… 254
教育成果物の利用に関して …… 254
学生健康診断規程 …… 255
2026 年度学生健康診断等実施要領 …… 257
オフィスアワー …… 259

教育要項（シラバス）の利用の仕方

この教育要項は、本学歯学部の授業を受ける学生諸君に、各教育科目とそれぞれの授業計画および授業内容を知らせるためのものです。

学生諸君が本学における歯学教育の内容を把握するとともに、充実した履修を行うために本要項を有意義に活用されることを希望します。

具体的な利用の仕方について以下に示します。

授業計画、授業内容について

科目ごとに 学修方針、教育成果*1、到達目標*2 を掲げています。

＊1 教育成果 —— 学習の成果であり、学習された知識･技能･態度が将来どのように利用されるかが分かります。

＊2 到達目標 —— 行動目標ともいわれ、学習者がこの授業で学んだことにより、具体的に何ができるようになるかを記したものです。

また、授業ごとに 内容、到達目標 を記載してありますので、各回の授業で何を理解し、何が出来るようになればよいかを予め確認し、日々の予習復習に役立ててください。

教科書（教）・参考図書（参）・推薦図書（推）について

授業科目ごとに、教科書（教）または、学習に必要な参考図書（参）・推薦図書（推）を掲げています。図書館にもありますから、積極的に利用してください。

なお、教科書として指定された図書については各自購入してください。

成績評価方法について

授業科目毎に、学習者の成績を評価するための基準を明示していますから、あらかじめ理解したうえで授業に臨んでください。

なお、試験に関する全体的なことについては、「歯学部試験規程」および「同取扱内規」によります。

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。

学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

(方　式)

1．時　　間　　あらかじめ特定の時間帯を示す。

2．面談方式　　オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

スモールグループチュートリアル（SG）について

スモールグループチュートリアル（SG）は、チューター1 人が 5～10 名の学生を担当し、随時、学生と接することにより学生の学業・生活面などについて把握し、その長所を伸ばすとともに問題点を改善する方策などをアドバイスするものです。

歯学部教務委員会

岩手医科大学　歯学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、「医療人たる前に、誠の人間たれ」という建学の精神のもとに、地域医療に貢献する医療人育成を使命として設立されました。学則には、「まず人間としての教養を高め、充分な知識と技術とを習得し、更に進んでは専門の学理を極め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献する」ことが掲げられています。歯学教育・教養教育を通して、優れた資質と深い人間愛を有する医療人、研究者、人格的に成長できる人材の育成が、本学の目指すところです。

歯学部では、次のような人材を求めています。

1. 全人的な立場で周囲と交流できる協調性のある人
2. 明確な目的意識を持って、積極的に社会貢献のできる人
3. 科学的な思考のもとに周囲の現象を捉えることができる人
4. 医学や歯学を生涯学習の対象として捉え、意欲的に勉学のできる人
5. 国際社会における医療や研究活動に、積極的に参加する意欲のある人

多様な人材を募るために、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、医学部入学試験利用選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、編入学者選抜により、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性などを多面的・総合的に評価し、入学者を選抜します。

一般選抜、医学部入学試験利用選抜では、高等学校で履修する３教科（理科、数学、英語）についての筆記試験と面接試験により、入学後の修学に必要な学力を有しているかを確認します。筆記試験では、歯科医学を修得するために必要とされる生命現象を理論的に捉える力を評価するため、理科の試験を課します。また、歯科医療の現場で必要とされる医療統計の理解に必要な基礎学力や、国際的コミュニケーション能力の修得に資する基礎学力を確認するために、「数学」、「英語」の試験を課します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確かめるとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの結果をもとに、「外国語（英語）」、「国語、数学のいずれか１科目」、「理科、地歴公民、情報のいずれか１科目」について、基本的な学力を有するかを判定します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確認するとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

これらの試験を通して、歯科医師にふさわしい資質とバランスの取れた人格とを備えているかの総合的な判断をおこないます。

学校推薦型選抜では、志望理由書や調査書に基づいて学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、歯科医療の実践に必要とされる問題発見力とその問題解決に必要な思考力を有しているかを小論文にて評価します。面接試験では、歯科医療の現場で必要とされる自己の考えを人にわかりやすく説明する力や人の意見を聞きそれについて議論する力を評価するとともに、高校在籍時における学修態度、課外活動などを調査書により評価します。

総合型選抜では、志望理由書や調査書に基づき、学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、模擬授業で得た知識をもとに思考・表現する力を、理解度確認テストによって評価します。また、自己推薦書では、本学の建学の精神や教育理念に対する理解、地域医療への貢献意欲、多職種との協働姿勢などを確認し、面接と併せて、歯科医師としての適性・意欲・学力を多面的に評価します。

編入学者選抜は、高い目的意識をもつ他分野の履修者や社会経験者を受け入れ、それまでの経験を生かしながら歯科医師としての知識・態度・技能を修得することを目的に実施しています。選抜は小論文と面接とでおこない、歯科医師を志す熱意に加え、基礎知識や一般常識を確認し、学修に必要な資質を備えているかを総合的に判断します。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、年齢、性別、家庭環境、居住地域および性的指向などを問わず、多様な人材を募集します。

岩手医科大学　歯学部学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得し、チーム医療や地域社会において活躍できる歯科医師として以下の各資質を身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して学士（歯学）の学位を授与します。

1. 歯科医師として患者や地域住民の健康と生命を守るという責務を理解し、高度な専門性と豊かな人間性と倫理観を有すること。（プロフェッショナリズム）
2. 患者･家族や他職種と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を備えること。加えて ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルを身につけていること。（コミュニケーション能力）
3. 医療チームの一員として、相手の立場を尊重しお互いの協力のもとに医療を円滑に実践すること。（チーム医療の実践能力）
4. 科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践すること。（包括的歯科医療の実践能力）
5. 地域の保健、医療、福祉、介護の現状や問題点を把握して、地域医療の向上に取組む態度・技能が備わっていること。（地域保健・医療の実践能力）
6. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で修得していること。（高水準の診療能力）
7. 国際的な保健・医療活動に貢献するための態度と基本的な語学能力を有すること。（国際貢献への資質）
8. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究を遂行するために必要な知識と技能を有すること。（研究マインドの保持）
9. 生涯にわたり歯科医療に対する自己研鑽を続ける態度が備わっていること。生涯学習のための ICT スキルを含む情報リテラシーを有していること。（生涯学習の実践）

以上の教育成果を達成することができるように六年一貫でカリキュラムが構成されています。本学のすべてのカリキュラムを完遂し、年次ごとの科目を着実に修得することが必要です。そのため、学則第２条に定める期間を在学し、かつ第６条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得しなければなりません。その上で、各学年および卒業時に定められた成果評価試験（筆記式の試験、客観的臨床技能試験、態度評価）に合格したものを卒業とし、学士（歯学）の学位を授与します。

岩手医科大学歯学部教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

学士（歯学）の学位授与の方針を実現するために、汎用的な共通教育科目と、幅広い分野にわたる基礎専門科目、より専門的な臨床専門科目による教育課程を整備し、体系的な歯学の履修を可能にします。

1. 歯科医師の社会的責任を自覚し、初年時から継続的なプロフェッショナリズム教育を行います。（プロフェッショナリズムの育成）
2. 患者やその家族および他職種とのコミュニケーション能力を高めるため、医療面接を理解し体験する科目、チーム医療に関する科目を設置します。それらの科目のなかで、ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルについても学修します。（コミュニケーション能力の向上）
3. 地域の医療施設ならびに居宅、福祉施設等で多職種と協働して適切な保健・医療を提供するためには地域保健・医療の問題点の疫学的把握方法、職種間の相互理解と円滑なコミュニケーションが必要です。そのために社会歯科学系科目に加え、演習によるシミュレーション、現場実習等を行う科目を初年次から 6 年次までに設置します。（地域保健・医療、チーム医療の実践能力の育成）
4. 科学的根拠に基づいた診断と歯科診療の計画立案ならびに実践のために、基礎、臨床科目を統合した、包括的臨床科目教育を実施します。（包括的臨床歯科医学教育）
5. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で獲得するために、スチューデントクリニシャンシステムを導入し、自験を充実させた診療参加型実習を行います。（高水準の基本的診療能力の獲得）
6. 国際的な歯科医療活動に参加するための基本的な英語能力を身につけるために、歯科医療に関連する英単語から英会話を学修する歯科専門英語の科目を設置します。さらに培った語学力を実践する国際的体験コースを設置します（選択制）。（国際貢献の資質の育成）
7. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究マインドを涵養するために実際に課題に対する研究を行う科目を設置します。（研究マインドの涵養）
8. 生涯にわたる自己研鑽を継続するために必要な問題発見・解決能力を身につけるため、プレゼンテーション、PBL などの能動的学修機会を各科目に設けます。これらの中で生涯学習に必要な ICT スキルを含む情報リテラシーを学修する機会を設けます。（能動的学修の習慣化）

歯学部における評価方針（アセスメント・ポリシー）

【大学】
本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで、医療人として必要な資質を備えているかを、多面的な評価方法で判定します。

【歯学部】
本学歯学部は、医療人として備えるべき資質を学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定め、歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得するためのカリキュラムを構成しています。「誠の人間を育成する」との大学・学部の理念に立脚し、以下の指針に則って学年ごとあるいは科目ごとに、認知領域、精神運動領域並びに情意領域を多面的に評価します。

１．講義・演習のみの科目では、知識とその応用を査定します。実習を伴う科目では、技能、態度、コミュニケ-ション能力も評価します。臨床現場での実習科目では更に倫理・遵法精神と利他精神を評価対象にします。
２．知識とその応用に関しては筆記試験や口頭試問、技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価（レポート、スケッチ、段階的技能・行動表と業務現場評価法、および自己進達度表等を取りまとめたポートフォリオ）で査定します。
３．筆記試験、口頭試問、実技試験は数値化して達成度を査定します。実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を査定します。
４．評価方法の選定と合否基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、担当委員会にて定期的に見直しを行い、次年度開始時に被評価者と評価者にシラバスで呈示します。
５．歯学教育における順次性を考慮し、原則的に年度ごとの統括評価（進級判定あるいは卒業判定）を行います。
６．科目合否判定や進級あるいはまた卒業時の判定に用いる統括評価に加え、形成的評価を随時行うことで到達目標に至る道程を明らかにします。
７．卒業に拘わる試験を除く各学年での統括試験では、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行います。また、何らかの事情で試験を受験できなかった場合は、追試験を行うことがあります（獲得した点数の 9 割に減じられたのが、最終評価になります)。
８．第 5 学年次で臨床実習を行うことができる知識・技能・態度が備わっているか否かは、共用試験（CBT と OSCE）と統括試験で判定します。
９．科目履修は出席することが前提です。各学年次の講義・演習・実習を 1/3 以上欠席した場合、第 5 学年次の臨床実習を 1/5 以上欠席または学外連携プログラムを欠席した場合は、原則として評価対象から外れます。統括評価に出席状況は加えられません。
10．各学年の進級・卒業要件と各科目の合否基準の詳細は、シラバスに明示するとともに、学年当初に被評価者に確認をとります。

11. 各科目の査定をもとにGrade Point Average; GPAを算出し、進路に対する助言をします。
12. 被評価者からの照会に応じる体制を整備します(統括試験問題と正答あるいは判定基準の保管、照会時の答案開示、等)。

注

- 大学入学者選抜時のアセスメント・ポリシーは、アドミッション・ポリシーに含めます。
- 本学学生としての資質に欠けると思われる行動をとった場合は、他に定める処罰規定によって、処分します。
- やむを得ない事由で欠席した場合の取り扱いに関しては、進級・卒業要件に記します。

用語説明

- 判定;合否で表すものとして用いる、査定;連続変数で表すものに用いる、評価;判定・査定を包括した用語
- 段階的技能・行動表;ルーブリック、業務現場評価法;ワーク・プレイス・アセスメント WBAと言われるもので、代表的なものはMini-CEX (mini-clinical evaluation exercise)

岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー

Ⅰ　プロフェッショナリズム

関連コンピテンシー

1．医療倫理

医療は個人の尊厳・福利のためのものであることを理解し、歯科医療を行う上で、常に個人の尊厳が冒されるようなことのない方法を選択できる。

2．研究倫理

基礎医学研究、疫学研究、人を対象とした研究の計画において、倫理的かつ道義的な問題点を指摘することができる。

3．法と制度に則った歯科医療の提供

歯科医療に係わる法ならびに社会保障制度を理解し、法と制度に則った適正な歯科保健・医療サービスについて概説することができる。

4. 情報リテラシー

医学情報の適切な収集と理解および利用に関し高度な情報リテラシーを有し、患者情報の保護を実践できる。

Ⅱ　コミュニケーション能力

関連コンピテンシー

1．医療面接

歯科保健医療の提供のため、医学的に必要な情報を患者・家族から得ることができる。

2．インフォームドコンセント

検査を含む全ての診療行為の前に患者からの同意を得る態度が身についており、必要に応じて書面でのインフォームドコンセントを取得するための説明を行うことができる。

3．コミュニケーションスキル

基本的なコミュニケーションスキルを医療面接において適用できる。

4．プレゼンテーション能力

患者・家族や他職種に歯科専門職からの情報提供を行うための適切な説明またはプレゼンテーションを行うことができる。

5. ICT スキル

ICT を用いた遠隔コミュニケーションを円滑に行うことが出来る。

Ⅲ　チーム医療

関連コンピテンシー

1．他職種への理解

歯科保健医療に係わる職種を列挙し、チーム医療におけるそれらの役割を説明することができる。

2．コンサルテーション能力

他職種または専門医、上級医の専門性を理解し、コンサルテーションが必要な時機とコンサルテーション相手を判断することができる。

3．人間関係の構築

チーム医療を行うための良好な人間関係を構築するのに適切な態度をとることができる。

4．地域包括ケアシステムへの理解

地域包括ケアシステムの制度、構造と実践でのチーム医療の重要性を理解し、歯科医師としてシステム内で機能するための方法を列挙できる。

Ⅳ　包括的・継続的歯科医療

関連コンピテンシー

1．歯科医学的知識

疾患の病因、病態、治療法などを基礎歯科医学的知識に基づいて説明することができる。

2．歯科医学的診断能力

診察結果や検査値または画像検査結果から疾病の診断ならびにリスクの把握をすることができる。

3．EBM の実践能力

診療ガイドライン等による最新の根拠を参照し、適切かつ効率的な診療・予防計画策定を立案しようと努め、患者等の価値観を考慮した計画を策定することができる。

4．包括的・継続的歯科保健医療計画

歯科保健医療の包括性と継続性の重要性を説明でき、患者等の QOL の維持・向上のための予防、リハビリテーションを含めた長期的視点に立った歯科保健医療計画を策定することができる。

5．ライフステージに応じた歯科保健医療の提供

周術期ケア、終末期の食支援等を含めた様々なライフステージに応じた歯科保健医療を提案することができる。

6．健康教育

保健・医療への患者等の積極的参加の重要性を理解し、適切な行動変容を生じさせるための基本的行動科学理論を概説できる。

7．患者等への配慮

全ての局面で患者・家族等の苦痛や不安に配慮した診療を行うことができる。

Ⅴ　地域保健・医療

関連コンピテンシー

1．健康課題の疫学的把握

集団、地域の健康課題を把握するための統計指標を列挙し、与えられた資料から、集団、地域の健康課題を統計学的に分析することができる。

2．健康課題への公衆衛生的介入

集団、地域に認められる健康課題に対して公衆衛生的介入方法を提案することができる。

3．健康課題の変化への対応

地域、時代によって変化する健康課題を把握することができる。

4．医療連携

医療施設の種類を列挙し、それぞれの役割と連携方法を概説できる。

5．訪問歯科診療

訪問歯科診療の特殊性を理解し、生活の場における歯科医療の現場に参加できる。

Ⅵ　高水準の基本的診療能力の獲得

関連コンピテンシー

1．基本的治療の習得

高頻度に接する代表的歯科疾患（う蝕、歯周病など)、外傷（打撲、裂傷など）に対する検査、診断、基本的治療ができる。

2．高度技能習得への準備

高度な知識、技能を要する検査、治療の原理と手順を理解してそれらに対する介助ができる。

3．医療安全

歯科診療に必要な医療安全管理、感染対策を講じることができる。

Ⅶ　歯科医師としての可能性の追究

関連コンピテンシー

1．国際貢献

国際的な歯科保健・医療・研究活動に参加するための基本的な英会話ができる。また、国際社会の一員として文化、社会的背景の差違を考慮した国際交流を行うことができる。

2．研究（リサーチ）マインド

歯科医学に関わる疑問点に対する最新の情報を収集し、その内容を説明することができる。また、自ら研究計画を立案し、その研究を行うために必要な研究環境について説明できる。

3．生涯学習

生涯にわたる自己研鑽を継続するために自己の問題を発見することができ、問題解決のための方略を策定することができる。

2026年度 歯学部カリキュラム×コンピテンス・コンピテンシー マトリックス表

第2学年 教養科目
↓

レベルの概要

レベルE：修得する機会がない

レベルD：触れる機会はあるが単位認定に関係がない
（形成的評価には用いることができる）

レベルC：基礎知識を有していることが
単位認定の要件である

レベルB：基礎知識を活用（実践）できることが
単位認定の要件である

レベルA：修得していることが単位認定の要件である
（＝卒業時コンピテンシーに到達している）

卒業時コンピテンス		関連コンピテンシー	全体選択数					第1学年 教養科目																																										第1学年 専門科目						第2学年 教養科目
			レベルE	レベルD	レベルC	レベルB	レベルA	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	医療倫理学	法学	心理学	医療における社会・行動科学	医療面接の基礎	データサイエンス	情報リテラシー	物理学	物理学実習	専門課程への化学	化学実習	エッセンシャル生物	専門課程への生物学	生物学実習	ERW Ⅰ	ERW Ⅱ	ESL Ⅰ	ESL Ⅱ	健康運動科学	ベーシック生物	スタンダード生物	アドバンスト生物	自然・文化人類学	ベーシック化学	ベーシック物理	解析学入門	医療とスポーツ	医療とコミュニケーション	道徳のしくみ	ベーシック数学	アドバンスト数学	アドバンスト化学	文学の世界	実践英語	医療と福祉	科学英語	医療と物語	人間関係論	パーソナリティ心理学	哲学の世界	医療と法律	歯科医学概論	解剖学Ⅰ	組織学基礎	生理学Ⅰ	生化学Ⅰ	臨床歯科学入門	医学統計学
卒業時コンピテンス		関連コンピテンシー																																																						
Ⅰ	プロフェッショナリズム	医療倫理																																																						
		研究倫理																																																						
		法と制度に則った歯科医療の提供																																																						
		情報リテラシー																																																						
Ⅱ	コミュニケーション能力	医療面接																																																						
		インフォームドコンセント																																																						
		コミュニケーションスキル																																																						
		プレゼンテーション能力																																																						
		ICTスキル																																																						
Ⅲ	チーム医療	他職種への理解																																																						
		コンサルテーション能力																																																						
		人間関係の構築																																																						
		地域包括ケアシステムへの理解																																																						
Ⅳ	包括的・継続的歯科医療	歯科医学的知識																																																						
		歯科医学的診断能力																																																						
		EBMの実践能力																																																						
		包括的・継続的歯科保健医療計画																																																						
		ライフステージに応じた歯科保健医療の提供																																																						
		健康教育																																																						
		患者等への配慮																																																						
Ⅴ	地域保健・医療	健康課題の疫学的把握																																																						
		健康課題への公衆衛生的介入																																																						
		健康課題の変化への対応																																																						
		医療連携																																																						
		訪問歯科診療																																																						
Ⅵ	高水準の基本的診療能力の獲得	基本的治療の習得																																																						
		高度技能習得への準備																																																						
		医療安全																																																						
Ⅶ	歯科医師としての可能性の追究	国際貢献																																																						
		研究（リサーチ）マインド																																																						
		生涯学習																																																						

公開準備中

2026年度 歯学部カリキュラム×コンピテンス・コンピテンシー マトリックス表

レベルの概要

レベルE：修得する機会がない

レベルD：触れる機会はあるが単位認定に関係がない（形成的評価には用いることができる）

レベルC：基礎知識を有していることが単位認定の要件である

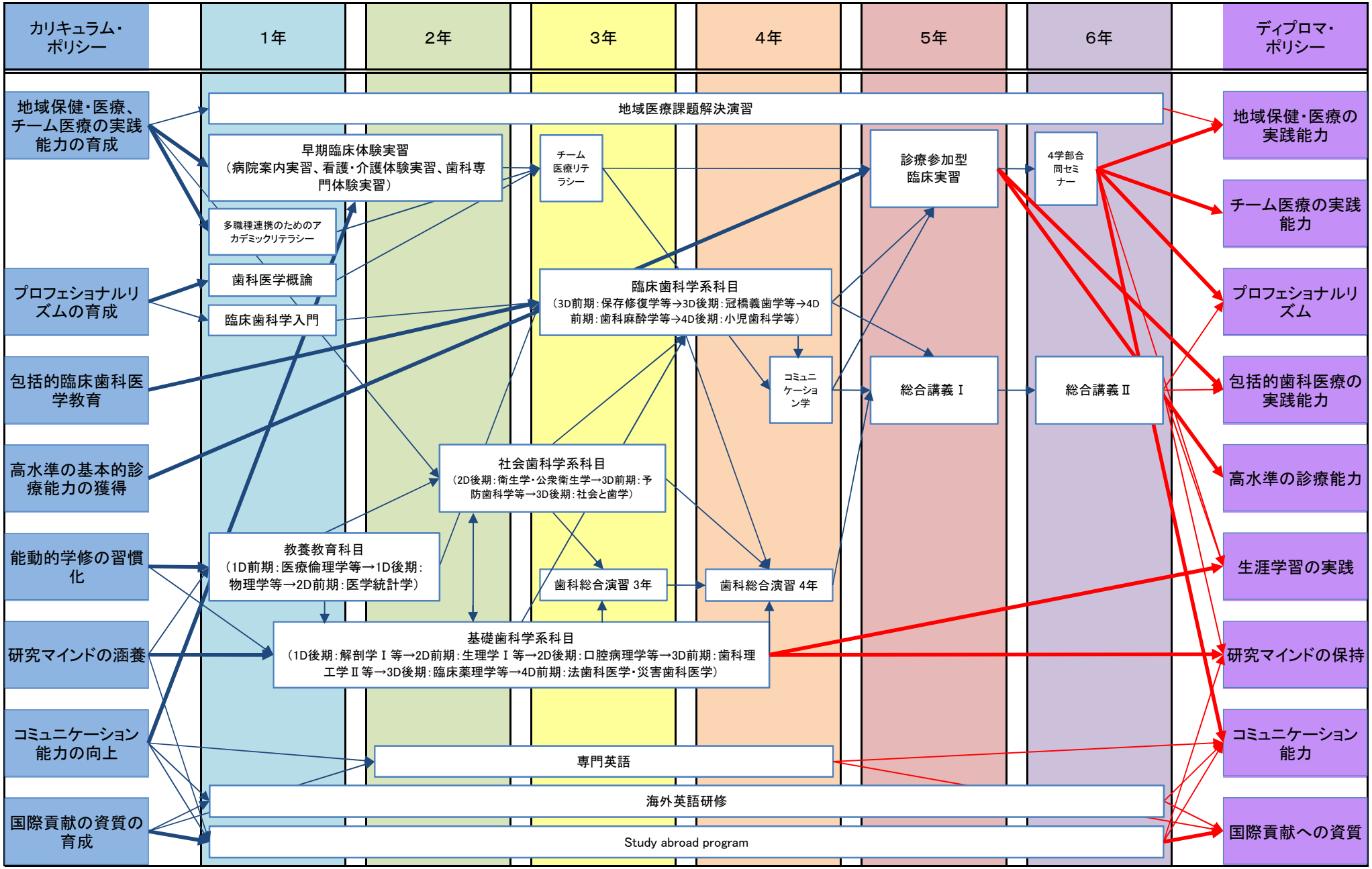
レベルB：基礎知識を活用（実践）できることが単位認定の要件である

レベルA：修得していることが単位認定の要件である（＝卒業時コンピテンシーに到達している）

卒業時コンピテンス		関連コンピテンシー	全体選択数					第2学年　専門科目											第3学年　専門科目																			第4学年　専門科目														5D 専門		6D 専門		自由科目	
			レベルE	レベルD	レベルC	レベルB	レベルA	解剖学Ⅱ	組織学・発生学	生理学Ⅱ	生化学Ⅱ	微生物学・免疫学Ⅰ	歯科理工学Ⅰ	薬理学Ⅰ	病理学総論	衛生学・公衆衛生学	歯科専門体験実習	専門英語（2年）	微生物学・免疫学Ⅱ	歯科理工学Ⅱ	薬理学Ⅱ	口腔病理学	予防歯科学	保存修復学	補綴学総論	歯科放射線学	医科学（3年）	歯周病学	臨床薬理学	社会と歯学	歯内療法学	全部床義歯補綴学（Ⅰ）	冠橋義歯学	基礎科学演習	医療リベラルアーツ	歯科総合演習（3年）	チーム医療リテラシー	全部床義歯補綴学（Ⅱ）	部分床義歯補綴学	口腔インプラント学	歯科麻酔学	法歯科医学・災害歯科医学	医科学（4年）	口腔外科学	歯科矯正学	小児歯科学	障害者歯科学	高齢者歯科医学	歯科総合演習（4年）	専門英語（4年）	コミュニケーション学	総合講義（Ⅰ）	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）	総合講義（Ⅱ）	4学部合同セミナー	海外英語演習	地域医療課題解決演習
Ⅰ	プロフェッショナリズム	医療倫理																																																			
		研究倫理																																																			
		法と制度に則った歯科医療の提供																																																			
		情報リテラシー																																																			
Ⅱ	コミュニケーション能力	医療面接																																																			
		インフォームドコンセント																																																			
		コミュニケーションスキル																																																			
		プレゼンテーション能力																																																			
		ICTスキル																																																			
Ⅲ	チーム医療	他職種への理解																																																			
		コンサルテーション能力																																																			
		人間関係の構築																																																			
		地域包括ケアシステムへの理解																																																			
Ⅳ	包括的・継続的歯科医療	歯科医学的知識																																																			
		歯科医学的診断能力																																																			
		EBMの実践能力																																																			
		包括的・継続的歯科保健医療計画																																																			
		ライフステージに応じた歯科保健医療の提供																																																			
		健康教育																																																			
		患者等への配慮																																																			
Ⅴ	地域保健・医療	健康課題の疫学的把握																																																			
		健康課題への公衆衛生的介入																																																			
		健康課題の変化への対応																																																			
		医療連携																																																			
		訪問歯科診療																																																			
Ⅵ	高水準の基本的診療能力の獲得	基本的治療の習得																																																			
		高度技能習得への準備																																																			
		医療安全																																																			
Ⅶ	歯科医師としての可能性の追究	国際貢献																																																			
		研究（リサーチ）マインド																																																			
		生涯学習																																																			

公開準備中

カリキュラム・ポリシー、カリキュラム、ディプロマ・ポリシーの関連（2026年度）



2026年度　第4学年　カリキュラム

学期区分	期　　間	週　数
オリエンテーション	2026年 3月27日（金）	
前　期　授　業　①	3月30日（月）～ 7月24日（金）	16週
夏　期　休　業	7月25日（土）～ 8月17日（月）	4週
前　期　授　業　②	8月18日（火）～ 8月25日（火）	1週
前　期　試　験	8月26日（水）～ 9月 4日（金） 全部床義歯補綴学（Ⅱ）、部分床義歯補綴学、 口腔インプラント学、法歯科医学・災害歯科医学、 歯科麻酔学、医科学（4年）、口腔外科学、歯科矯正学、 高齢者歯科医学、歯科総合演習（4年）　（全10科目）	2週
後　期　授　業　①	9月9日（水）～ 12月11日（金）	14週
後　期　試　験	12月14日（月）～ 12月22日（火） 医科学（4年）、口腔外科学、歯科矯正学、小児歯科学、 障害者歯科学、歯科総合演習（4年） （全7科目）	2週
冬　期　休　業	12月26日（土）～ 2027年 1月 4日（月）	2週
後　期　授　業　②	1月 5日（火）～ 1月22日（金）	3週
C　B　T	1月14日（木）	
一　次　判　定	1月15日（金）	
O　S　C　E	1月24日（日）	
再　試　験	2月16日（火）～ 2月25日（木）	2週
C　B　T　再　試　験	2月10日（水）	
O　S　C　E　再　試　験	2月21日（日）	
進　級　判　定	3月 3日（水）	
春　期　休　業	2月27日（土）～ 3月25日（木）　予定	4週
備　考		授業34週 試験6週 休み10週

2026年度　第4学年　前期　授業時間割

月					火					水					木					金					土				
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
3/23					3/24					3/25					3/26					3/27					3/28				
春季休業					春季休業					春季休業					春季休業					オリエンテーション					×	×			
3/30					3/31					4/1					4/2					4/3					4/4				
口外	口外	*	*		*	*	口外	*		全部	全部	全部	*	機材販売	法災	高齢	高齢	全部		*	*	*	*		*	*			
4/6					4/7					4/8					4/9（入学式）					4/10									
口外	口外	麻酔	麻酔		*	医科	口外	*		全部	全部	全部	全部	医科	全部	全部	高齢	高齢		*	矯正	インプ	インプ						
4/13					4/14					4/15					4/16					4/17									
口外	口外	麻酔	麻酔	医科	医科	*	口外	口外		全部	全部	全部	全部		法災	全部	全部	全部		*	矯正	*	インプ						
4/20					4/21					4/22					4/23					4/24					4/25				
健康診断		麻酔	麻酔		*	*	口外	口外		全部	全部	全部	全部		法災	高齢	高齢	部分	医科	*	矯正	インプ	*		*	*			
4/27					4/28					4/29					4/30					5/1					5/2				
口外	*	麻酔	麻酔		*	*	医科	医科		昭和の日					法災	高齢	高齢	部分		*	矯正	理工	生化		*	*			
5/4					5/5					5/6					5/7					5/8					5/9				
みどりの日					こどもの日					振替休日					GW休暇					GW休暇					GW休暇				
5/11					5/12					5/13					5/14					5/15									
口外	口外	麻酔	麻酔		*	*	口外	口外		部分	全部	全部	全部		法災	高齢	高齢	部分		医科	矯正	インプ	インプ						
5/18					5/19					5/20					5/21					5/22					5/23				
口外	*	麻酔	麻酔		医科	医科	*	口外		部分	部分	部分	部分		法災	高齢	高齢	B肝		*	矯正	微生	薬理		*	*			
5/25					5/26					5/27					5/28					5/29									
口外	口外	麻酔	麻酔		医科	医科	口外	口外		部分	部分	部分	部分		医科	高齢	高齢	*		*	矯正	インプ	病理						
6/1					6/2					6/3					6/4					6/5					6/6				
口外	口外	麻酔	麻酔	医科	*	*	*	*		部分	部分	部分	部分		*	高齢	高齢	*		*	矯正	組織	インプ	内科	*	*			
6/8					6/9					6/10					6/11					6/12									
口外	口外	麻酔	麻酔	医科	医科	医科	口外	口外		部分	部分	部分	部分		*	全部	部分	部分		*	矯正	インプ	インプ						
6/15					6/16					6/17					6/18					6/19									
口外	口外	麻酔	麻酔		医科	医科	*	医科		部分	部分	部分	部分		法災	高齢	高齢	B肝		*	矯正	生理	*						
6/22					6/23					6/24					6/25					6/26					6/27				
口外	口外	麻酔	麻酔		医科	医科	口外	口外		部分	部分	部分	部分		法災	高齢	高齢	全部		放射	矯正	医科	*		*	*			
6/29					6/30					7/1					7/2					7/3					7/4				
口外	医科	麻酔	麻酔		*	*	口外	口外		全部	部分	部分	部分	部分	法災	高齢	高齢	部分		歯周	矯正	*	*		*	*			
7/6					7/7					7/8					7/9					7/10									
口外	口外	麻酔	麻酔		*	*	*	口外		部分	部分	部分	*		法災	高齢	*	*		冠橋	矯正	インプ	インプ						
7/13					7/14					7/15					7/16					7/17									
口外	口外	麻酔	麻酔		*	*	口外	口外		全部	全部	部分	部分		法災	法災	*	*		解剖	矯正	インプ	インプ						
7/20					7/21					7/22					7/23					7/24					7/25				
海の日					*	*	口外	口外		部分	部分	*	*		法災	*	*	*		*	*	衛生/予防/社歯			夏季休業				
7/27					7/28					7/29					7/30					7/31									
夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業				
8/3					8/4					8/5					8/6					8/7									
夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業				
8/10					8/11					8/12					8/13					8/14									
夏季休業/山の日					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業					夏季休業				
8/17					8/18					8/19					8/20					8/21					8/22				
夏季休業					*	*	医科	医科		全部	全部	全部	全部		法災	全部	全部	全部		*	*	*	医科		*	*			
8/24					8/25					8/26					8/27					8/28									
口外	口外	口外	口外		*	*	修復	歯内		前期試験（8日間）					前期試験（8日間）					前期試験（8日間）									
8/31					9/1					9/2					9/3					9/4					9/5				
前期試験（8日間）					前期試験（8日間）					前期試験（8日間）					前期試験（8日間）					★前期総合試験★					×	×			
9/7					9/8					[redacted]																			
前期試験予備日（2日間）					前期試験予備日（2日間）																								

→ 歯科総合演習（4年）　→ 医科学（4年）

黒文字 → 講義/演習　黒文字 → 実習

2026年度　第4学年　後期　授業時間割

月					火					水					木					金					土				
1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
[redacted]										9/9					9/10					9/11									
										医科	*	組織	医科		小児	小児	コミ	障害		小児	小児	小児	解剖	ネット模試説明会					
9/14					9/15					9/16					9/17					9/18									
口外	口外	口外	口外		矯正	矯正	矯正	矯正		*	医科	英語	*		*	*	コミ	障害		小児	小児	*	*						
9/21					9/22					9/23					9/24					9/25					9/26				
敬老の日					国民の休日					秋分の日					*	*	コミ	障害		*	*	英語	*		CBTネット模試①				
9/28					9/29					9/30					10/1					10/2					10/3				
口外	口外	口外	口外		矯正	矯正	矯正	矯正		医科	医科	微生	放射		小児	小児	コミ	障害		小児	小児	小児	*		CBTネット模試①予備日				
10/5					10/6					10/7					10/8					10/9									
*	口外	口外	口外		矯正	矯正	矯正	矯正		医科	医科	生理	生化		コミ	コミ	*	障害		小児	小児	英語	医科						
10/12					10/13					10/14					10/15					10/16									
スポーツの日					*	*	*	*		医科	*	理工	*		コミ	コミ	*	障害		小児	小児	英語	*						
10/19					10/20					10/21					10/22					10/23					10/24				
口外	口外	口外	インフル予防接種		矯正	矯正	矯正	矯正	矯正	医科	*	病理	*		*	*	*	障害	障害	小児	小児	小児	小児		×	×			
10/26					10/27					10/28					10/29					10/30									
口外	口外	口外	口外		矯正	矯正	矯正	矯正	矯正	医科	医科	法災	歯周		小児	小児	*	障害		小児	小児	医科	医科						
11/2					11/3					11/4					11/5					11/6					11/7				
*	*	*	*		文化の日					医科	*	*	*		*	*	*	B肝		小児	小児	衛生/予防/社歯			CBTネット模試②				
11/9					11/10					11/11					11/12					11/13					11/14				
口外	口外	口外	口外		矯正	矯正	矯正	矯正		*	*	聴訪高	医科		コミ	コミ	*	障害	医科	小児	小児	修復	歯内		CBTネット模試②予備日				
11/16					11/17					11/18					11/19					11/20									
口外	口外	英語	医科		矯正	矯正	矯正	矯正		医科	医科	*	*		小児	小児	コミ	障害	障害	小児	小児	英語	麻酔						
11/23					11/24					11/25					11/26					11/27					11/28				
勤労感謝の日					矯正	矯正	矯正	矯正		医科	内科	冠橋	インプ		*	*	コミ	障害		小児	小児	*	*		×	×			
11/30					12/1					12/2					12/3					12/4					12/5				
口外	口外	*	*		矯正	矯正	矯正	矯正		*	医科	矯正	口外		*	*	*	B肝		*	*	*	*		*	*			
12/7					12/8					12/9					12/10					12/11									
*	*	*	*		矯正	矯正	矯正	矯正		*	コミ	全部	部分		*	*	コミ	障害		*	小児	英語	薬理						
12/14					12/15					12/16					12/17					12/18									
後期試験（7日間）					後期試験（7日間）					後期試験（7日間）					後期試験（7日間）					後期試験（7日間）									
12/21					12/22					12/23					12/24					12/25					12/26				
後期試験（7日間）					★後期総合試験★					有志ネット模試枠					後期試験予備日（2日間）					後期試験予備日（2日間）					冬季休業				
12/28					12/29					12/30					12/31					1/1									
冬季休業					冬季休業					冬季休業					冬季休業					冬季休業					冬季休業				
1/4					1/5					1/6					1/7					1/8									
冬季休業					微生	解剖	生化	理工	病理	組織	生理	薬理	放射	衛予社	PC操作体験		B肝	障害		小児	口外	冠イン	有床	内科					
1/11					1/12					1/13					1/14					1/15（進級判定Ⅰ）									
成人の日					麻酔	*	聴訪高	法災	矯正	う蝕	歯周	×	×	×	CBT本試験					*	*	基復	基復						
1/18					1/19					1/20					1/21					1/22					1/23			1/24	
*	*	基復	基復		基復	基復	基復	基復		基復	基復	基復	*		*	*	*	*		*	*	*	*	説明会	OSCE本試験前日			OSCE本試験	
1/25					1/26					1/27					1/28					1/29					1/30			1/31	
																									OSCE本試験（予備日）前日			OSCE本試験（予備日）	
2/1					2/2					2/3					2/4					2/5					2/6				
																									×	×			
2/8					2/9					2/10					2/11					2/12									
										CBT再試験					建国記念の日														
2/15					2/16					2/17					2/18					2/19					2/20			2/21	
					再試験（7日間）					再試験（7日間）					再試験（7日間）					再試験（7日間）				説明会	OSCE再試験前日			OSCE再試験	
2/22					2/23					2/24					2/25					2/26					2/27			2/28	
再試験（7日間）					天皇誕生日					★総合試験再試験★					再試験（7日間）					再試験予備日					OSCE再試験（予備日）前日			OSCE再試験（予備日）	
3/1					3/2					3/3					3/4					3/5					3/6				
										進級判定Ⅱ										卒業式					春季休業予定				
3/8					3/9					3/10					3/11					3/12									
春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定				
3/15					3/16					3/17					3/18					3/19									
春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定				
3/22					3/23					3/24					3/25					[redacted]									
春季休業予定/振替休日					春季休業予定					春季休業予定					春季休業予定														

→ 歯科総合演習（4年）　→ 医科学（4年）　→ 歯科総合演習（4年）CBT直前　→ コミュニケーション学（基礎実習復習演習）

黒文字 → 講義/演習　黒文字 → 実習

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名
D:歯学部	1:1年次 （入門/導入レベル）	L:教養	1:必修	A:IPE	01	D1-L1-A01	多職種連携のためのアカデミックリテラシー
				Z:教養	01	D1-L1-Z01	医療倫理学
					02	D1-L1-Z02	法学
					03	D1-L1-Z03	心理学
					04	D1-L1-Z04	医療における社会・行動科学
					05	D1-L1-Z05	医療面接の基礎
					06	D1-L1-Z06	データサイエンス
					07	D1-L1-Z07	情報リテラシー
					08	D1-L1-Z08	物理学
					09	D1-L1-Z09	物理学実習
					10	D1-L1-Z10	専門課程への化学
					11	D1-L1-Z11	化学実習
					12	D1-L1-Z12	エッセンシャル生物
					13	D1-L1-Z13	専門課程への生物学
					14	D1-L1-Z14	生物学実習
					15	D1-L1-Z15	English Reading & WritingⅠ
					16	D1-L1-Z16	English Reading & WritingⅡ
					17	D1-L1-Z17	English Speaking & ListeningⅠ
					18	D1-L1-Z18	English Speaking & ListeningⅡ
					19	D1-L1-Z19	健康運動科学
			2:選択必修	Z:教養	20	D1-L2-Z20	ベーシック生物
					21	D1-L2-Z21	スタンダード生物
					22	D1-L2-Z22	アドバンスト生物
					23	D1-L2-Z23	自然・文化人類学
					24	D1-L2-Z24	ベーシック化学
					25	D1-L2-Z25	ベーシック物理
					26	D1-L2-Z26	解析学入門
					27	D1-L2-Z27	医療とスポーツ
					28	D1-L2-Z28	医療とコミュニケーション
					29	D1-L2-Z29	道徳のしくみ
					30	D1-L2-Z30	ベーシック数学
					31	D1-L2-Z31	アドバンスト数学
					32	D1-L2-Z32	アドバンスト化学
					33	D1-L2-Z33	文学の世界
					34	D1-L2-Z34	実践英語
					35	D1-L2-Z35	医療と福祉
					36	D1-L2-Z36	科学英語
					37	D1-L2-Z37	医療と物語
					38	D1-L2-Z38	人間関係論
					39	D1-L2-Z39	パーソナリティ心理学
					40	D1-L2-Z40	哲学の世界
					41	D1-L2-Z41	医療と法律
		S:専門	1:必修	B:プロフェッショナリズム	01	D1-S1-B01	歯科医学概論
				C:基礎歯科医学	01	D1-S1-C01	解剖学Ⅰ
					02	D1-S1-C02	組織学基礎
					03	D1-S1-C03	生理学Ⅰ
					04	D1-S1-C04	生化学Ⅰ
				B:プロフェッショナリズム	02	D1-S1-B02	臨床歯科学入門
	2:2年次 （基礎レベル）	L:教養	1:必修	Z:教養	42	D2-L1-Z42	医学統計学
		S:専門		C:基礎歯科医学	06	D2-S1-C06	解剖学Ⅱ
					07	D2-S1-C07	組織学・発生学
					08	D2-S1-C08	生理学Ⅱ
					09	D2-S1-C09	生化学Ⅱ
					10	D2-S1-C10	微生物学・免疫学Ⅰ
					11	D2-S1-C11	歯科理工学Ⅰ
					12	D2-S1-C12	薬理学Ⅰ
					13	D2-S1-C13	病理学総論
				D:社会歯科医学	01	D2-S1-D01	衛生学・公衆衛生学
				B:プロフェッショナリズム	03	D2-S1-B03	歯科専門体験実習
				C:基礎歯科医学	14	D2-S1-C14	専門英語（2年）
	3:3年次 （応用/発展レベル）	S:専門	1:必修	C:基礎歯科医学	15	D3-S1-C15	微生物学・免疫学Ⅱ
					16	D3-S1-C16	歯科理工学Ⅱ
					17	D3-S1-C17	薬理学Ⅱ
					18	D3-S1-C18	口腔病理学
				E:臨床歯科医学	01	D3-S1-E01	予防歯科学
					02	D3-S1-E02	保存修復学
					03	D3-S1-E03	補綴学総論
					04	D3-S1-E04	歯科放射線学
					05	D3-S1-E05	医科学（3年）
					06	D3-S1-E06	歯周病学
				C:基礎歯科医学	19	D3-S1-C19	臨床薬理学
				D:社会歯科医学	02	D3-S1-D02	社会と歯学
				E:臨床歯科医学	07	D3-S1-E07	歯内療法学
					08	D3-S1-E08	全部床義歯補綴学（Ⅰ）
					09	D3-S1-E09	冠橋義歯学
				C:基礎歯科医学	20	D3-S1-C20	基礎科学演習
				D:社会歯科医学	03	D3-S1-D03	医療リベラルアーツ
				F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	01	D3-S1-F01	歯科総合演習（3年）
				A:IPE	02	D3-S1-A02	チーム医療リテラシー

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名
D:歯学部	4:4年次 （高度レベル）	S:専門	1:必修		11	D4-S1-E11	全部床義歯補綴学（Ⅱ）
					12	D4-S1-E12	部分床義歯補綴学
					14	D4-S1-E14	歯科麻酔学
				C:基礎歯科医学	21	D4-S1-C21	法歯科医学・災害歯科医学
				E:臨床歯科医学	15	D4-S1-E15	医科学（4年）
					16	D4-S1-E16	口腔外科学
					17	D4-S1-E17	口腔インプラント学
					18	D4-S1-E18	歯科矯正学
					19	D4-S1-E19	小児歯科学
					20	D4-S1-E20	障害者歯科学
					21	D4-S1-E21	専門英語（4年）
					22	D4-S1-E22	高齢者歯科医学
				F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	02	D4-S1-F02	歯科総合演習（4年）
				E:臨床歯科医学	23	D4-S1-E23	コミュニケーション学
	5:5年次配当レベル	S:専門	1:必修	F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	03	D5-S1-F03	総合講義（Ⅰ）
				G:臨床実習	01	D5-S1-G01	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）
	6:6年次配当レベル	S:専門	1:必修	F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	04	D6-S1-F04	総合講義（Ⅱ）
				A:IPE	03	D6-S1-A03	4学部合同セミナー
	1:1年次 （入門/導入レベル）	L:教養	3:自由	Z:教養	43	D1-L3-Z43	海外英語演習
		S:専門		A:IPE	04	D1-S3-A04	地域医療課題解決演習

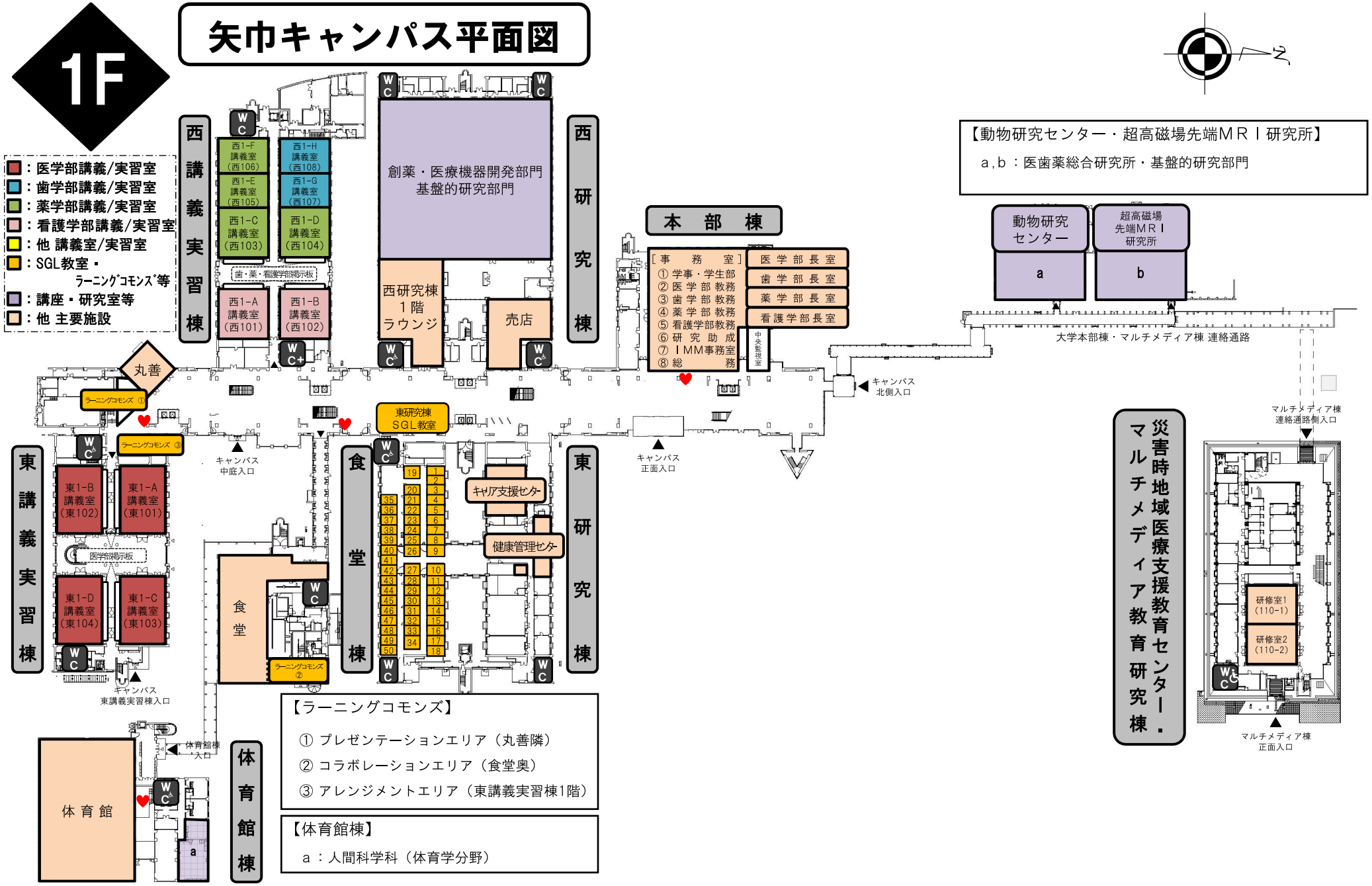
D1ーS1ーA1
①②ー③④ー⑤⑥

①学部	②レベル	③科目種別	④科目区分	⑤中分類	⑥小分類
M:医学部	1:1年次配当レベル（または入門／導入レベル）	L:教養	1:必修	A:IPE	通し番号（2桁）
D:歯学部	2:2年次配当レベル（または基礎レベル）	S:専門	2:選択必修	B:プロフェッショナリズム	
P:薬学部	3:3年次配当レベル（または応用／発展レベル）		3:自由	C:基礎歯科医学	
N:看護学部	4:4年次配当レベル（または高度レベル）			D:社会歯科医学	
	5:5年次配当レベル			E:臨床歯科医学	
	6:6年次配当レベル			F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	
	※学年跨ぎ、自由科目については、1～4のレベルで振り分ける。			G:臨床実習	
				Z:教養	

2026年度　第4学年カリキュラム　履修科目一覧

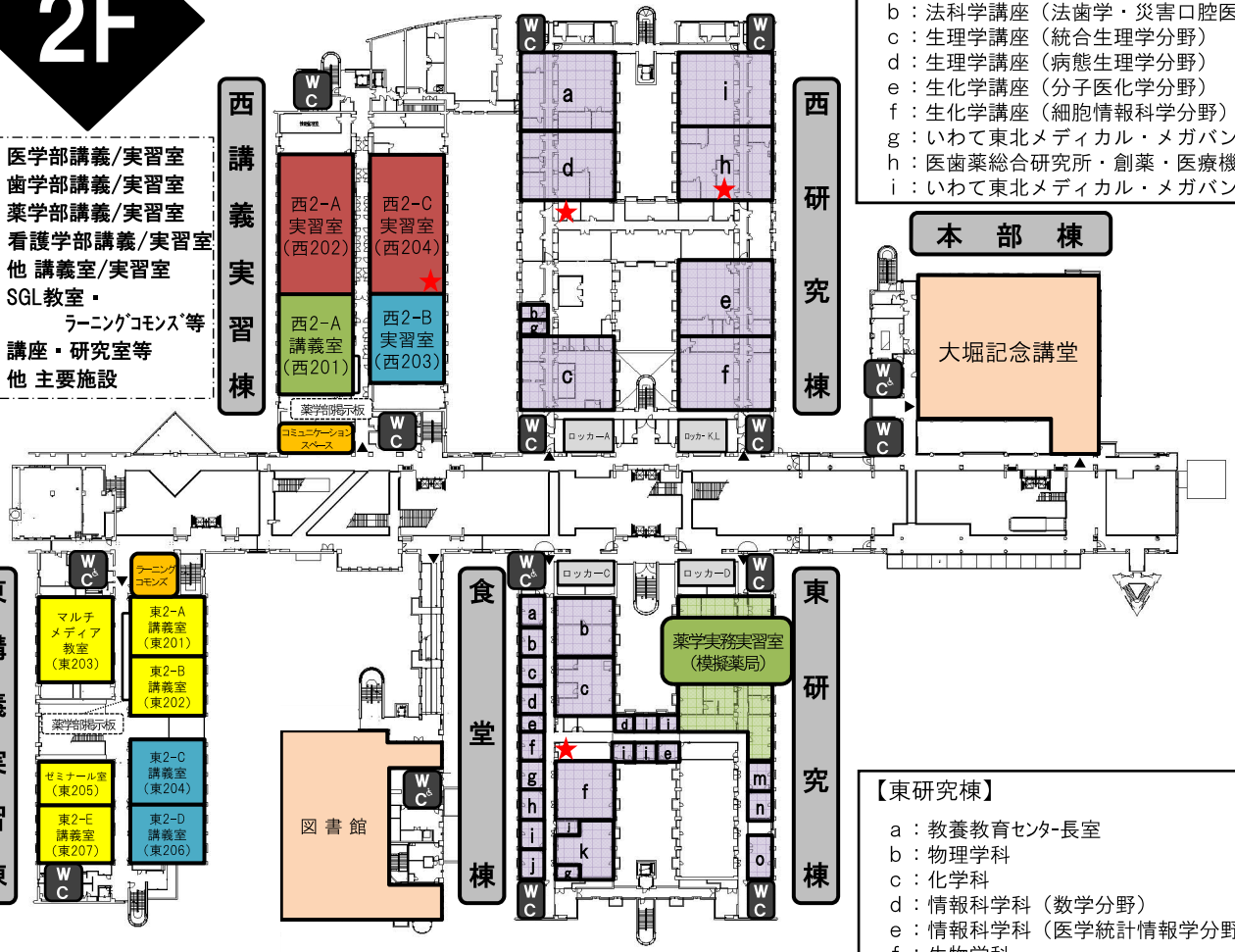
区分	科目名		前期		後期		総時間数		単位	備考
			コマ数	時間	コマ数	時間	コマ数	時間		
	全部床義歯補綴学（Ⅱ）	講義	8.0	16.0			8.0	16.0	2.5	
	全部床義歯補綴学（Ⅱ）実習	実習	27.0	54.0			27.0	54.0		
	部分床義歯補綴学	講義	16.0	32.0			16.0	32.0	3.0	
	部分義歯補綴学実習	実習	26.0	52.0			26.0	52.0		
	口腔インプラント学	講義	10.0	20.0			10.0	20.0	1.0	
	口腔インプラント学実習	実習	4.0	8.0			4.0	8.0		
	歯科麻酔学	講義	28.0	56.0			28.0	56.0	2.0	
	法歯科医学・災害歯科医学	講義	7.0	14.0			7.0	14.0	1.0	
	法歯科医学・災害歯科医学実習	実習	7.0	14.0			7.0	14.0		
	医科学（4年）	講義	27.0	54.0	22.0	44.0	49.0	98.0	3.5	
	口腔外科学	講義	51.0	102.0	18.0	36.0	69.0	138.0	5.5	
	口腔外科学実習	実習			8.0	16.0	8.0	16.0		
	歯科矯正学	講義	14.0	28.0	21.0	42.0	35.0	70.0	4.0	
	歯科矯正学実習	実習			21.0	42.0	21.0	42.0		
	小児歯科学	講義			20.0	40.0	20.0	40.0	2.5	
	小児歯科学実習	実習			15.0	30.0	15.0	30.0		
	障害者歯科学	講義			14.0	28.0	14.0	28.0	1.0	
	高齢者歯科医学	講義			23.0	46.0	23.0	46.0	1.5	
	歯科総合演習（4年）	演習	17.0	34.0	46.0	92.0	63.0	126.0	4.5	
	専門英語（4年）	講義			7.0	14.0	7.0	14.0	0.5	
	コミュニケーション学	講義			6.0	12.0	6.0	12.0	1.5	
	コミュニケーション学実習	実習			19.0	38.0	19.0	38.0		
合計			242.0	484.0	240.0	480.0	482.0	964.0	34.0	

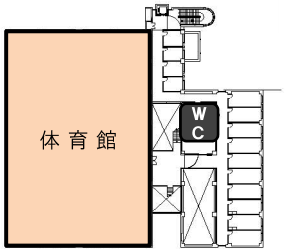
矢巾キャンパス平面図


1F
■：医学部講義/実習室
■：歯学部講義/実習室
■：薬学部講義/実習室
■：看護学部講義/実習室
■：他 講義室/実習室
■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
■：講座・研究室等
■：他 主要施設
西講義実習棟
西1-F講義室（西106）
西1-H講義室（西108）
西1-E講義室（西105）
西1-G講義室（西107）
西1-C講義室（西103）
西1-D講義室（西104）
歯・薬・看護学部掲示板
西1-A講義室（西101）
西1-B講義室（西102）
創薬・医療機器開発部門
基盤的研究部門
西研究棟1階ラウンジ
売店
西研究棟
本部棟
［事務室］
① 学事・学生部
② 医学部教務
③ 歯学部教務
④ 薬学部教務
⑤ 看護学部教務
⑥ 研究助成
⑦ IMM事務室
⑧ 総務
医学部長室
歯学部長室
薬学部長室
看護学部長室
中央監視室
動物研究センター
a
超高磁場先端MRI研究所
b
大学本部棟・マルチメディア棟 連絡通路
キャンパス北側入口
キャンパス正面入口
丸善
ラーニングコモンズ①
ラーニングコモンズ③
キャンパス中庭入口
東研究棟SGL教室
東講義実習棟
東1-B講義室（東102）
東1-A講義室（東101）
医学部掲示板
東1-D講義室（東104）
東1-C講義室（東103）
キャンパス東講義実習棟入口
食堂
ラーニングコモンズ②
食堂棟
キャリア支援センター
健康管理センター
東研究棟
体育館棟入口
体育館
a
体育館棟
【動物研究センター・超高磁場先端MRI研究所】
a,b：医歯薬総合研究所・基盤的研究部門
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟
マルチメディア棟連絡通路側入口
研修室1（110-1）
研修室2（110-2）
マルチメディア棟正面入口
【ラーニングコモンズ】
① プレゼンテーションエリア（丸善隣）
② コラボレーションエリア（食堂奥）
③ アレンジメントエリア（東講義実習棟1階）
【体育館棟】
a：人間科学科（体育学分野）
：AED（自動体外式除細動器）
：トイレ（♿：多目的付，＋：オストメイト対応）

2F

- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設





★：緊急時用シャワー

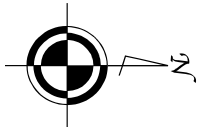
WC：トイレ（♿：多目的付）

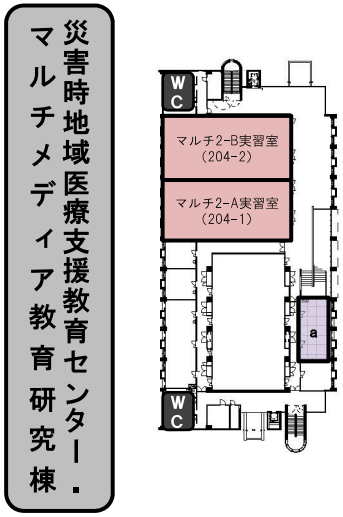
【西研究棟】

a：法科学講座（法医学分野）
b：法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）
c：生理学講座（統合生理学分野）
d：生理学講座（病態生理学分野）
e：生化学講座（分子医化学分野）
f：生化学講座（細胞情報科学分野）
g：いわて東北メディカル・メガバンク機構
h：医歯薬総合研究所・創薬・医療機器開発部門
i：いわて東北メディカル・メガバンク機構

【東研究棟】

a：教養教育ｾﾝﾀｰ長室
b：物理学科
c：化学科
d：情報科学科（数学分野）
e：情報科学科（医学統計情報学分野）
f：生物学科
g：人間科学科（心理学・行動科学分野）
h：人間科学科（文学分野）
i：外国語学科（英語分野）
j：人間科学科（哲学分野）
k：人文社会語学系研究室
l：人間科学科（法学分野）
m：全学教育推進機構長室
n：口腔医学講座（歯科医学教育学分野）
o：看護専門基礎講座



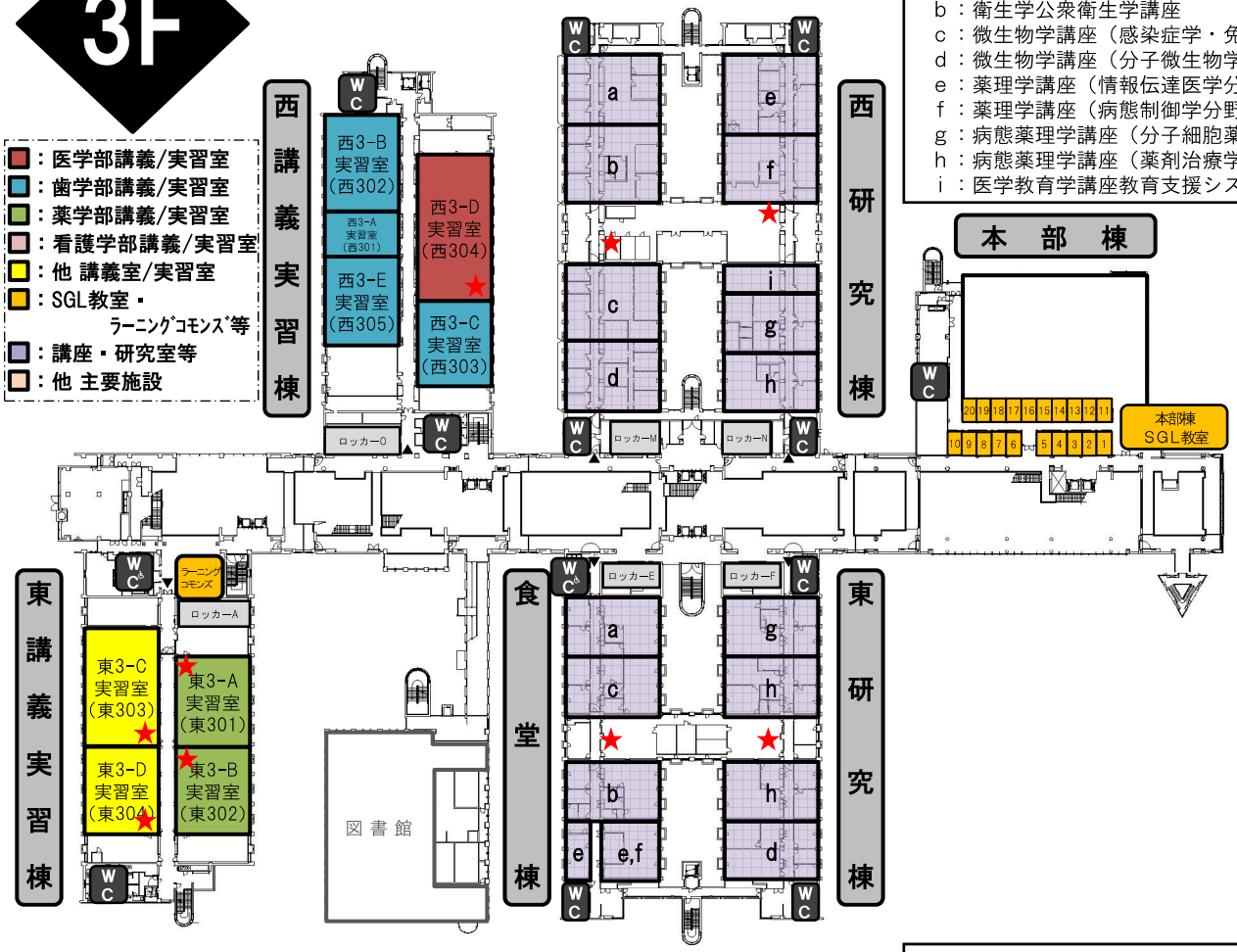


【災害時地域医療支援教育センター】

a：救急・災害医学講座

3F

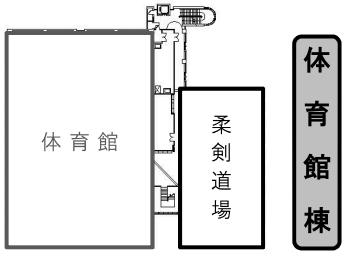
- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設



【西研究棟】

a：医療工学講座
b：衛生学公衆衛生学講座
c：微生物学講座（感染症学・免疫学分野）
d：微生物学講座（分子微生物学分野）
e：薬理学講座（情報伝達医学分野）
f：薬理学講座（病態制御学分野）
g：病態薬理学講座（分子細胞薬理学分野）
h：病態薬理学講座（薬剤治療学分野）
i：医学教育学講座教育支援システム開発分野

動物研究センター

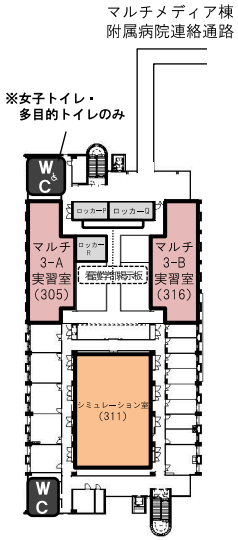


体育館棟

【東研究棟】

a：生物薬学講座（生体防御学分野）
b：生物薬学講座（機能生化学分野）
c：臨床薬学講座（情報薬科学分野）
d：臨床薬学講座（臨床薬剤学分野）
e：臨床薬学講座（地域医療薬学分野）
f：臨床薬学講座（薬学教育学分野）
g：病態薬理学講座（臨床医化学分野）
h：いわて東北メディカル・メガバンク機構

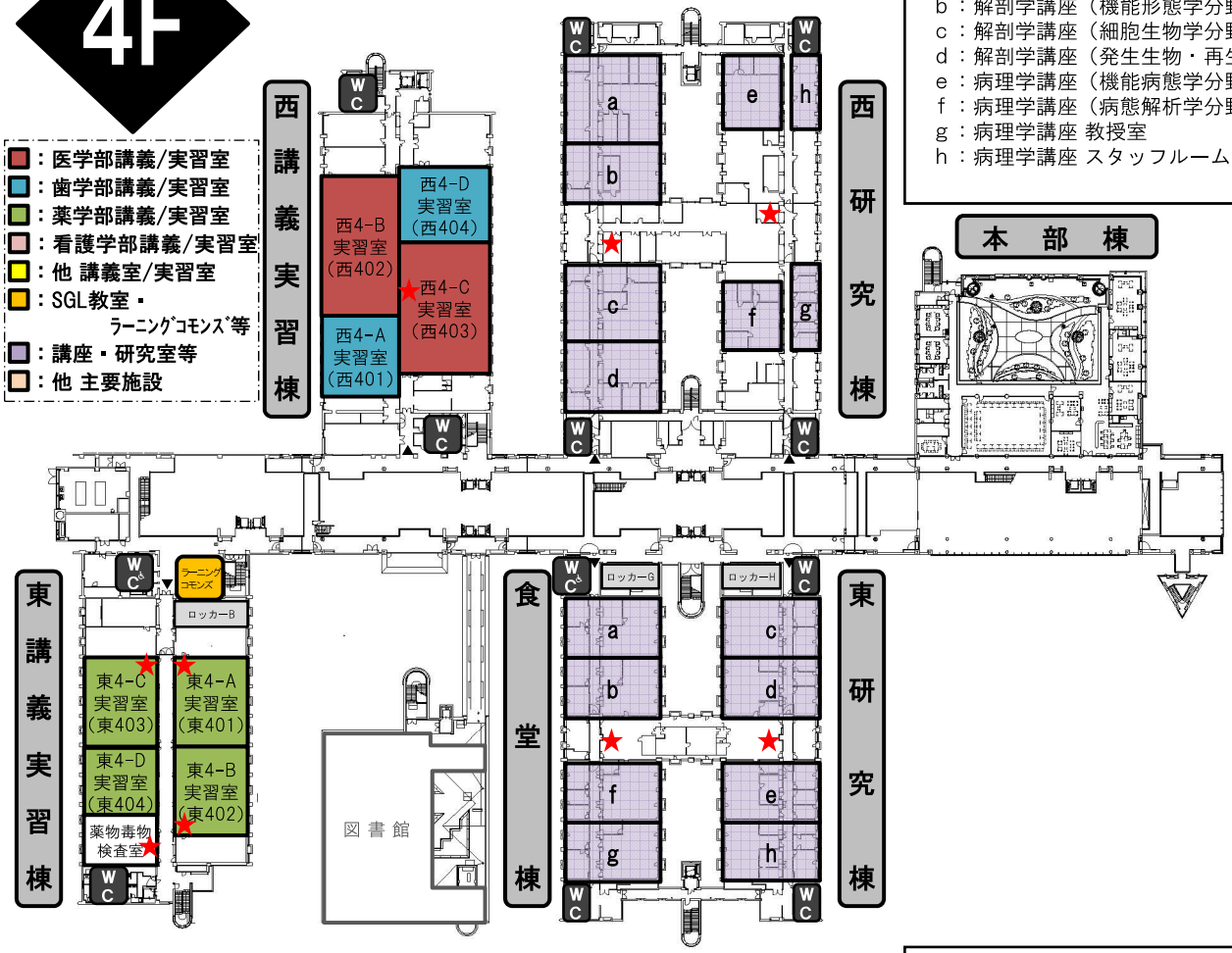
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



★：緊急時用シャワー
WC：トイレ（♿：多目的付）

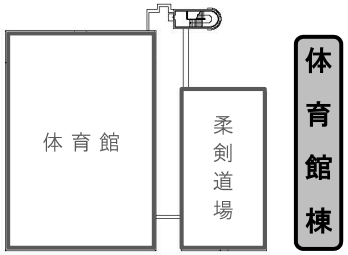
4F

- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設



【西研究棟】

- a：解剖学講座（人体発生学分野）
- b：解剖学講座（機能形態学分野）
- c：解剖学講座（細胞生物学分野）
- d：解剖学講座（発生生物・再生医学分野）
- e：病理学講座（機能病態学分野）
- f：病理学講座（病態解析学分野）
- g：病理学講座 教授室
- h：病理学講座 スタッフルーム



体育館棟

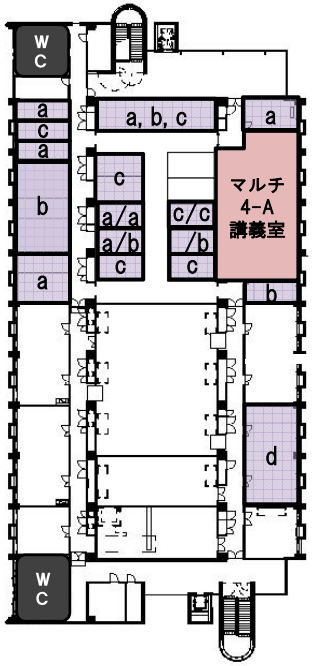
★：緊急時用シャワー

WC：トイレ（♿：多目的付）

【東研究棟】

- a：生物薬学講座（神経科学分野）
- b：薬科学講座（分析化学分野）
- c：薬科学講座（天然物化学分野）
- d：薬科学講座（創薬有機化学分野）
- e：薬科学講座（構造生物薬学分野）
- f：医療薬科学講座（薬物代謝動態学分野）
- g：医療薬科学講座（創剤学分野）
- h：医療薬科学講座（衛生化学分野）

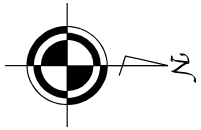
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



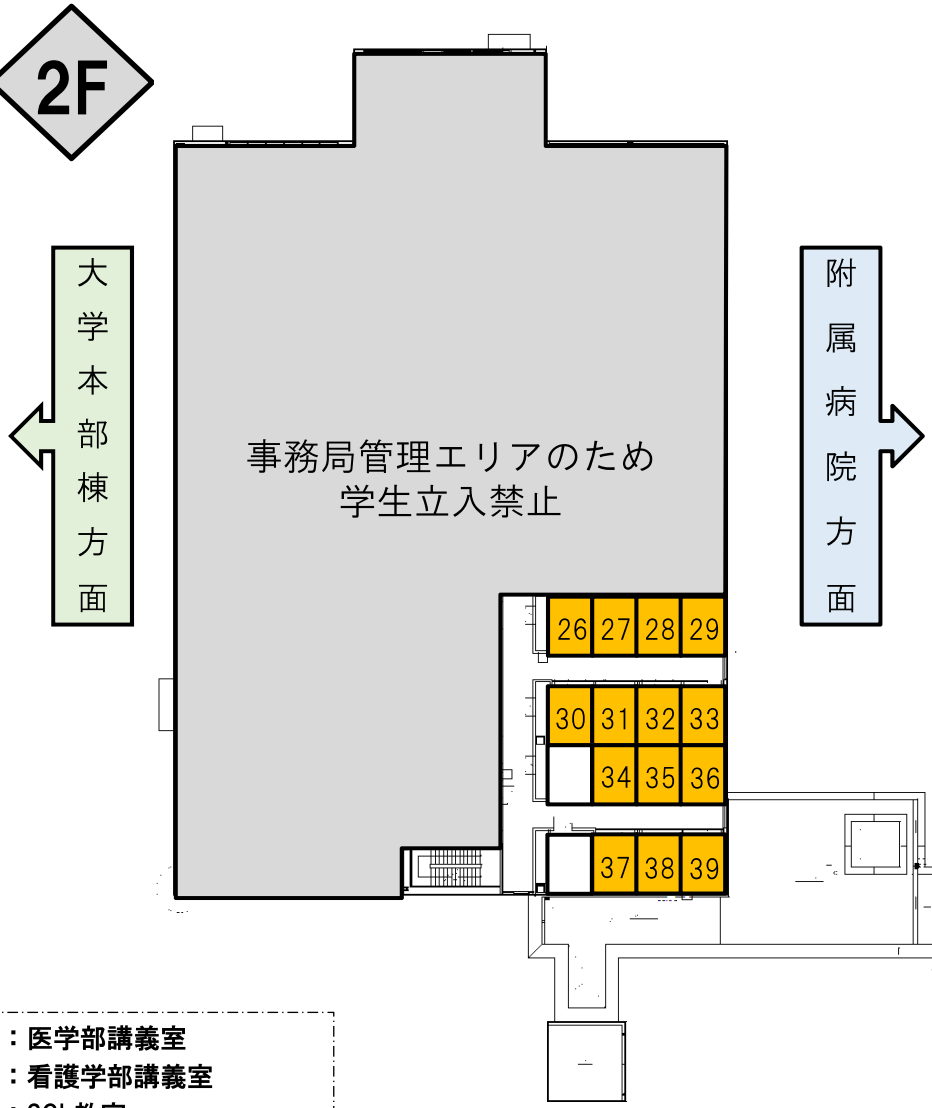
【マルチメディア教育研究棟】

- a：共通基盤看護学講座
- b：地域包括ケア講座
- c：成育看護学講座
- d：医学教育学講座

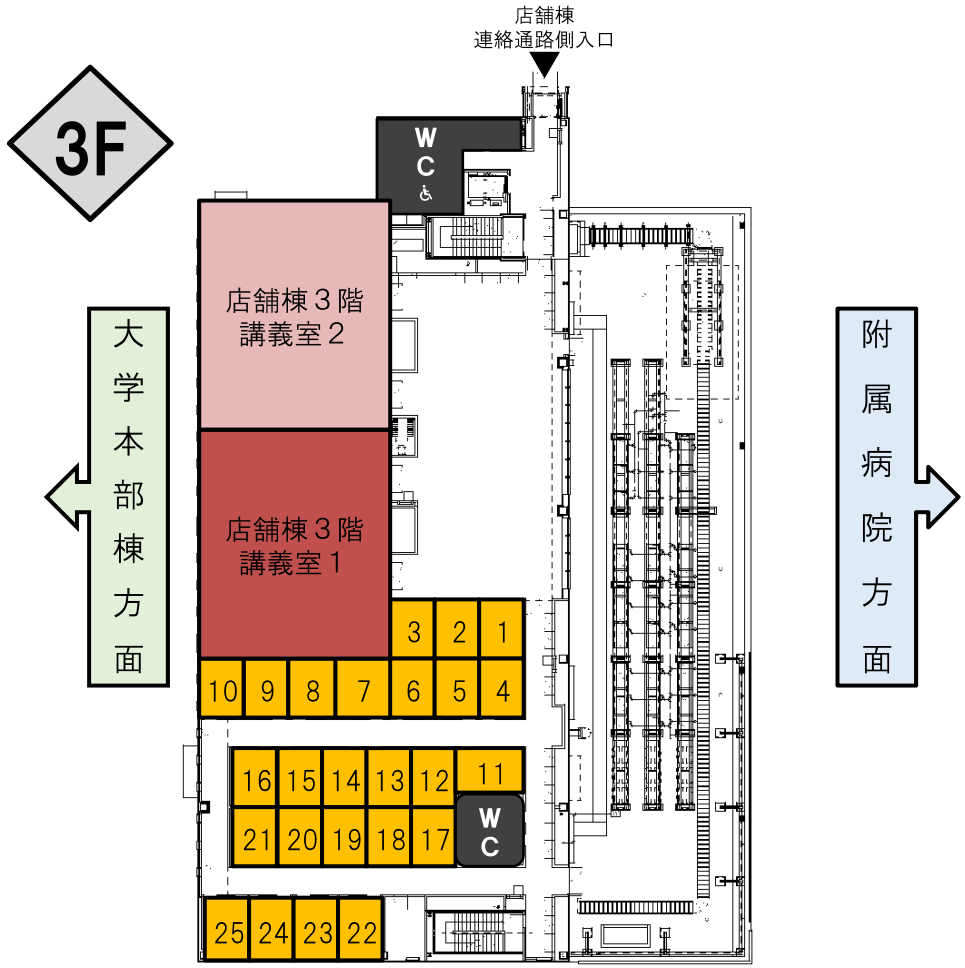
トクタヴェール（店舗棟）



2F



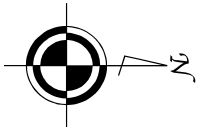
3F



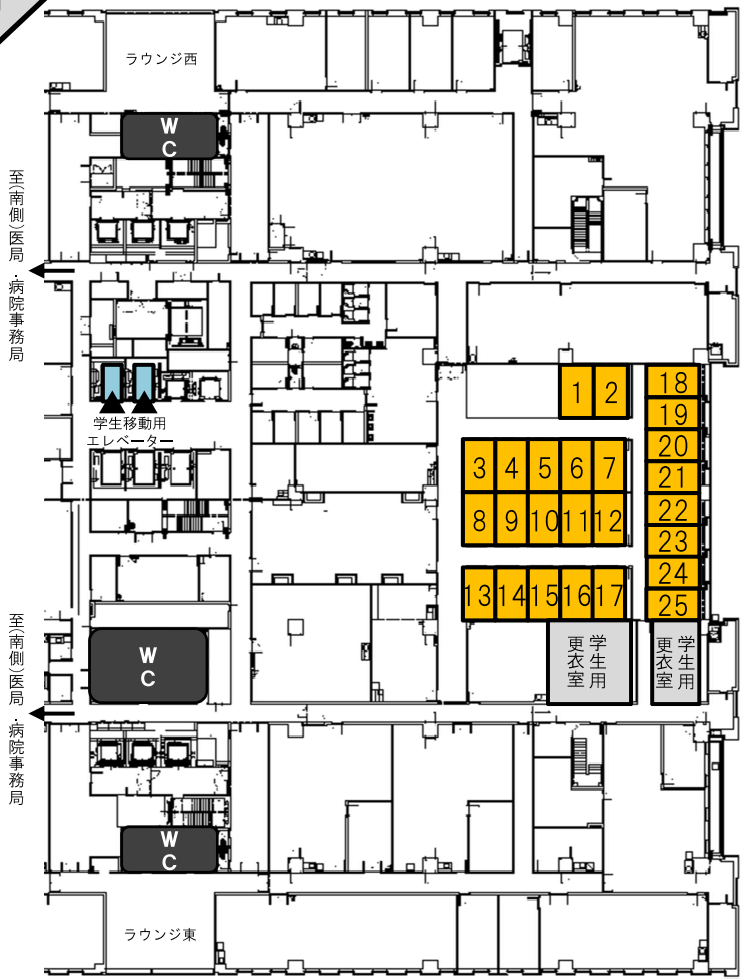
- ■：医学部講義室
- ■：看護学部講義室
- ■：SGL教室
- WC：トイレ（♿ ：多目的付）

※店舗棟のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

附　属　病　院



5F



■：SGL教室
W C：トイレ（♿ ：多目的付）

※附属病院のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

歯学部教場平面図

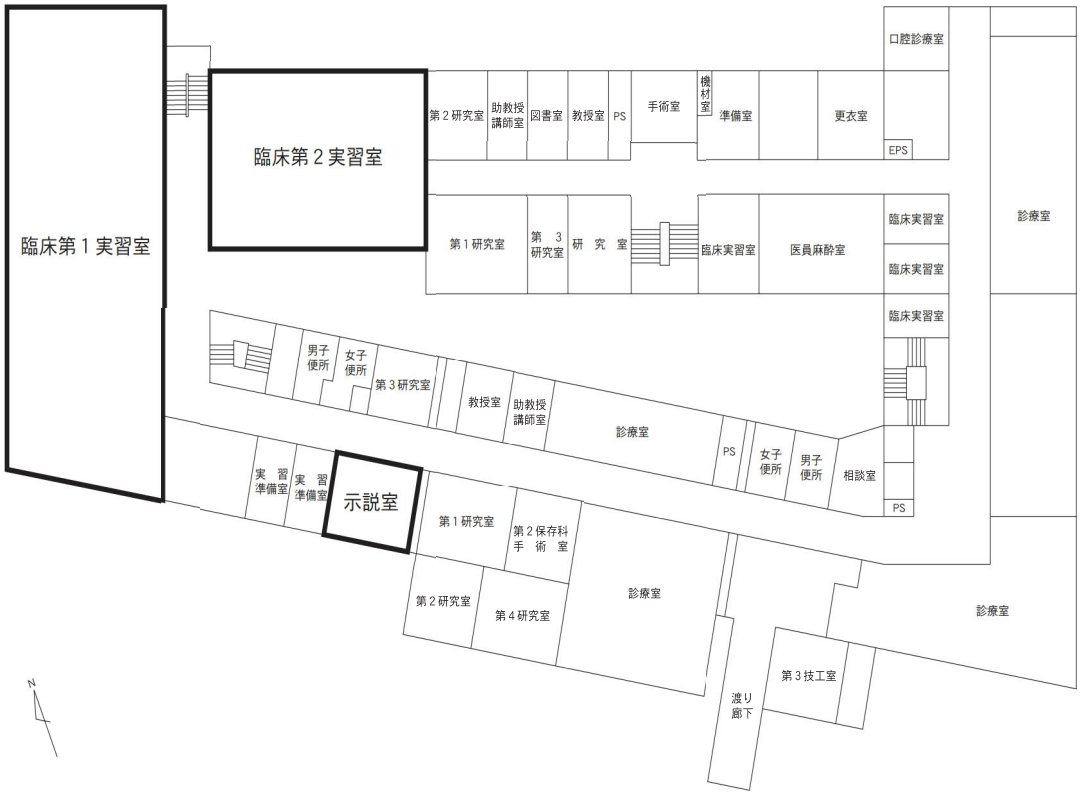
歯学部地下１階

歯学部１階

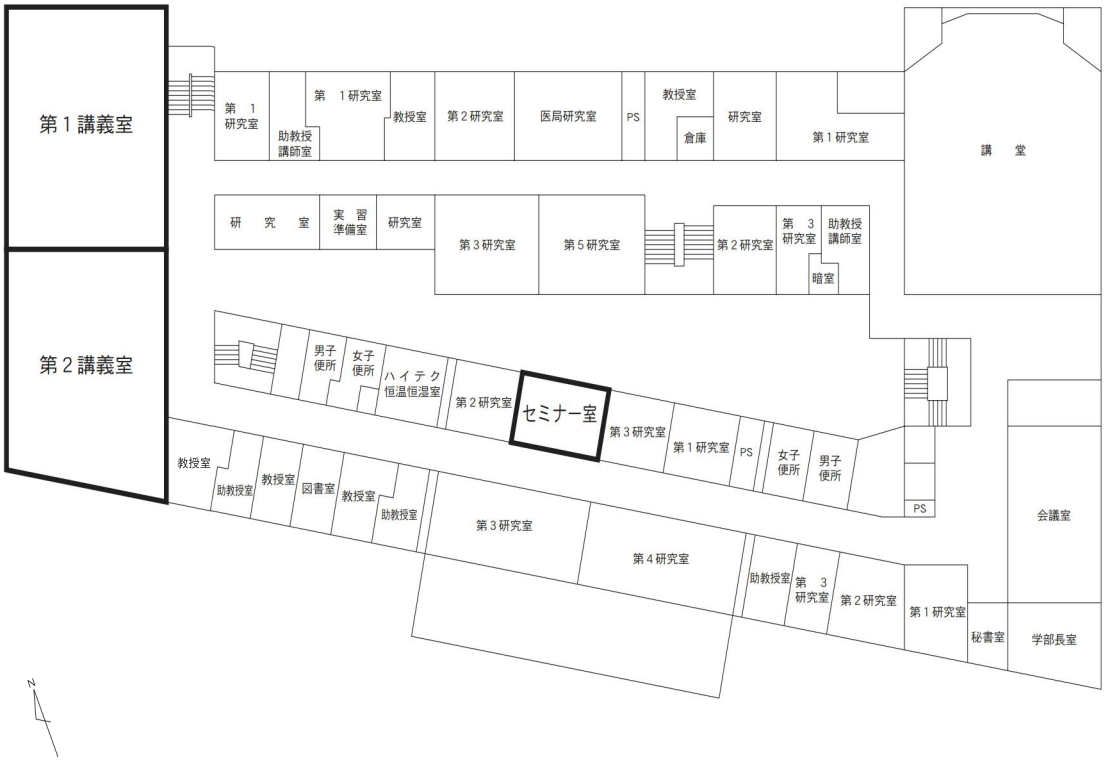
歯学部2階

基礎第２実習室
基礎第３実習室
第１研究室
第２研究室
第３研究室
助教授講師室
第１研究室
教授室
第２研究室
PS
学生技工室
第１技工室
EPS
診療室
第4研究室
教授室
助教授室
第３研究室
第４研究室
医員技工室
機械室
倉　庫
陶材室
男子便所
女子便所
ハイテク恒温恒湿室
第３研究室
診療室
PS
女子便所
男子便所
歯　科材料室
PS
実　習準備室
実　習準備室
助講室
研究室
教授室
第１研究室
第２研究室
診療室
診療室
診療室
N

歯学部3階


臨床第１実習室
臨床第２実習室
第２研究室
助教授講師室
図書室
教授室
PS
手術室
機材室
準備室
更衣室
口腔診療室
EPS
第１研究室
第３研究室
研　究　室
臨床実習室
医員麻酔室
臨床実習室
臨床実習室
臨床実習室
診療室
男子便所
女子便所
第３研究室
教授室
助教授講師室
診療室
PS
女子便所
男子便所
相談室
PS
実　習準備室
実　習準備室
示説室
第１研究室
第２保存科手　術　室
第２研究室
第４研究室
診療室
診療室
第３技工室
渡り廊下
N

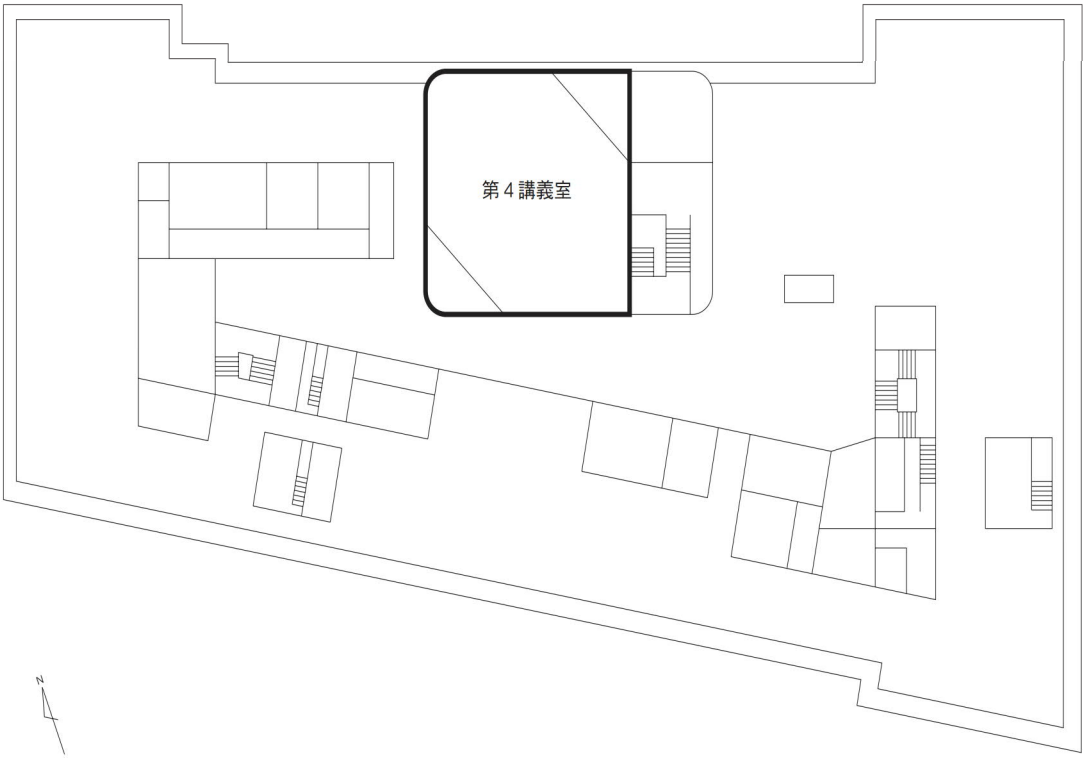
歯学部4階


第１講義室
第２講義室
第 1 研究室
助教授講師室
第 1研究室
教授室
第２研究室
医局研究室
PS
教授室
倉庫
研究室
第１研究室
講 堂
研 究 室
実 習 準備室
研究室
第３研究室
第５研究室
第２研究室
第 3 研究室
助教授講師室
暗室
男子便所
女子便所
ハイテク恒温恒湿室
第２研究室
セミナー室
第３研究室
第１研究室
PS
女子便所
男子便所
PS
教授室
助教授室
教授室
図書室
教授室
助教授室
第３研究室
第４研究室
助教授室
第 3 研究室
第２研究室
第１研究室
秘書室
会議室
学部長室
N

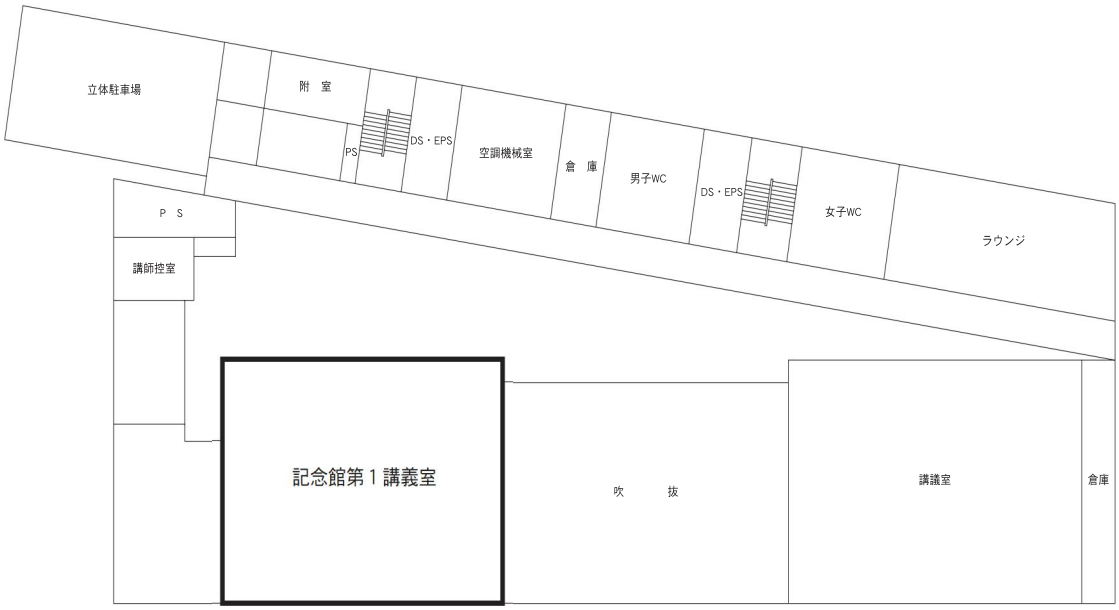
歯学部5階

助教授室
講師室
研究室
第１研究室
暗室
第３研究室
第 4 研究室
教授室
第４研究室
研究室
PS
第２研究室
第３研究室
暗室
講 堂
ハイテク機器分析室
第 7 研究室
暗 室
助教授講師室
教授室
コピー室
第 5 研究室
第３研究室
第 2 研究室
第１研究室
教授室
助教授講師室
第３講義室
男子便所
女子便所
第６研究室
第５研究室
第４研究室
第３研究室
PS
女子便所
男子便所
工作室
PS
教授室
図書室
助教授講師室
第 1 研究室
第２研究室
第３研究室
第４研究室
第１研究室
第２研究室
助教授講師室
教授室
助教授講師室
教授室
第５研究室
コンファランスルーム
機械室
ハイテク組織像解析室
ハイテク生体イメージング解析室
第２研究室
第３研究室
第４研究室
N

歯学部6階

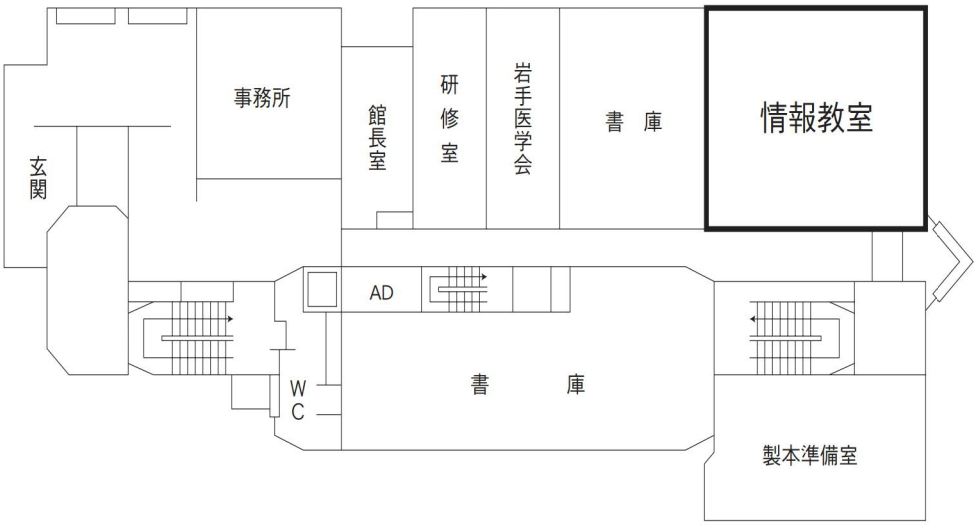

第４講義室
N

記念館9階

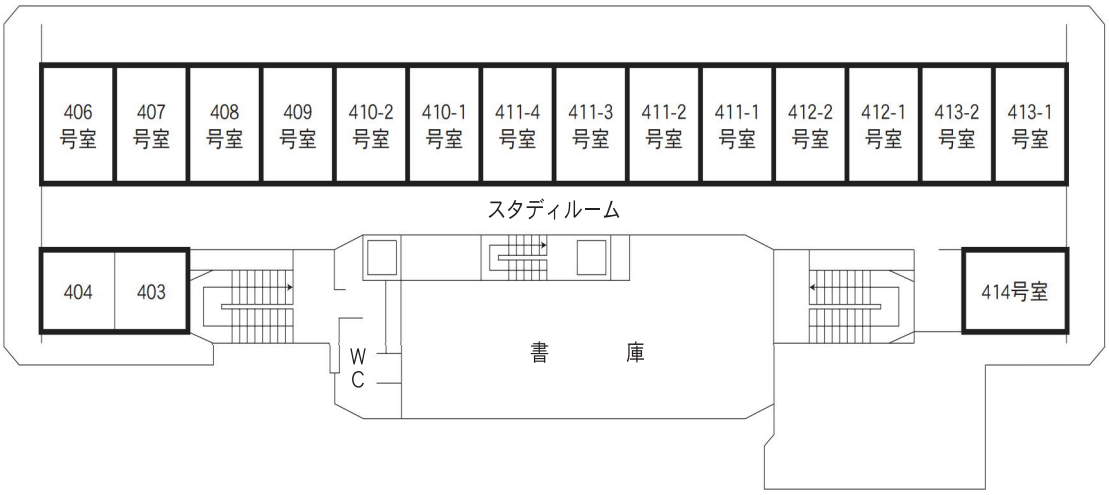

立体駐車場
附　室
PS
DS・EPS
空調機械室
倉　庫
男子WC
DS・EPS
女子WC
ラウンジ
P　S
講師控室
記念館第１講義室
吹　　抜
講議室
倉庫

内丸図書館

〔１階〕


玄関
事務所
館長室
研修室
岩手医学会
書庫
情報教室
AD
W
C
書庫
製本準備室

〔４階〕


406号室
407号室
408号室
409号室
410-2号室
410-1号室
411-4号室
411-3号室
411-2号室
411-1号室
412-2号室
412-1号室
413-2号室
413-1号室
スタディルーム
404
403
414号室
W
C
書庫

授　業　科　目

全部床義歯補綴学（Ⅱ）

責任者・コーディネーター	歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 小林　琢也　教授				
担当講座（分野）	歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）				
対象学年	4	区分・時間数 （1コマ2時間換算）		講義/演習	実習
期間	前期		前期	16.0時間	54.0時間
			後期	―	―

学修方針（講義概要等）

歯科補綴学とは、歯・口腔・顎・その関連組織の先天性欠如、後天的欠損、喪失や異常を人工装置を用いて修復し、喪失した形態または障害された機能を回復するとともに、継発疾病の予防を図るために必要な理論と技術を考究する学問である。

全部床義歯補綴学では、片顎または上下両顎のすべての歯を喪失した症例に対し、全部床義歯によって修復・整形し、損なわれた口腔と関連組織の形態と機能および外観を回復させるとともに、患者の健康の維持・増進を図るために必要な方法に関して、理論と技術を修得することを目的に学修する。

教育成果（アウトカム）

全部床義歯補綴学の講義及び実習では、無歯顎患者の喪失あるいは低下した形態と機能を回復・向上させ、健全な社会生活を送るため、無歯顎患者補綴治療の基礎理論を学修し、全部床義歯の基本構造や支持・維持・安定の原則を学修する。また、無歯顎患者の診察、診断、適切な治療計画の立案、義歯の設計理論と製作工程、装着後の調整に至るまでの知識と技術を修得する。

（関連するディプロマポリシー：1，4，6）

到達目標（SBOs）

1．無歯顎に伴う障害の種類と病態を理解している。D-5-3-2-1
2．全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。D-5-3-2-2
3．全部床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、安定、咬合平衡を含む)を理解している。D-5-3-2-3
4．全部床義歯製作のための印象採得を理解している。D-5-3-2-4
5．全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。D-5-3-2-5
6．全部床義歯の人工歯選択を理解している。D-5-3-2-7
7．全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。D-5-3-2-8
8．全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。D-5-3-2-9
9．全部床義歯のろう義歯試適、装着及び調整を理解している。D-5-3-2-10
10．全部床義歯装着後のメインテナンスの意義と方法、調整を理解している。D-5-3-2-11
11．可撤性義歯のリラインと修理を理解している。D-5-3-2-12

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】

シラバスに記載されている次回の講義と実習内容を確認し、教科書と実習書を用いて調べ、事前学修として疑問点を整理しておくこと。各講義に対する事前学修の時間は平均30分を要する。

【事後学修】

講義後にポストテストを実施する。ポストテストで理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各講義に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[コア・カリキュラム]** 事前事後学修
講義	4/1（水）	1	小林琢也教授 佐藤宏明講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学①（振り返り講義）** 全部床義歯補綴学（Ⅰ）の履修内容（総論、診察・検査・診断、印象採得、顎間関係の記録）を理解する。 講義・ディスカッション	1. 無歯顎に伴う障害の種類と病態を理解している。 2. 全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。 3. 全部床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、安定、咬合平衡を含む)を理解している。 4. 全部床義歯製作のための印象採得を理解している。 5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a）無歯顎の病態を説明できる。 b）概形印象採得と研究用模型について説明できる。 c）個人トレーの製作について説明できる。 d）印象材の種類と適応を説明できる。 e）上下顎無歯顎の解剖学的ランドマークと圧負担域を説明できる。 f）上下顎の筋圧形成に関わる筋を説明できる。 g）筋圧形成の意義を説明できる。 h）精密印象採得の目的と方法を説明できる。 i）全部床義歯の作業用模型製作の目的と方法を説明できる。 j）咬合床の機能と仮想咬合平面の決定方法を説明できる。 k）咬合高径の形態的、機能的な決定方法を説明できる。 l）水平的顎間関係の特に器具を必要としない方法、特殊な器具を使用する方法を説明できる。 m）ゴシックアーチ描記法を説明できる。 n）咬合床に記入する標示線を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-1, 2, 3, 4, 5]** 事前学修：無歯顎の病因と病態及び治療法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/1 (水)	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学② （振り返り講義）** 全部床義歯補綴学（Ⅰ）の履修内容（総論、診察・検査・診断、印象採得、顎間関係の記録）を理解する。 講義・ディスカッション	1. 無歯顎に伴う障害の種類と病態を理解している。 2. 全部床義歯の目的、意義及び適応症を理解している。 3. 全部床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、安定、咬合平衡を含む)を理解している。 4. 全部床義歯製作のための印象採得を理解している。 5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a）無歯顎の病態を説明できる。 b）概形印象採得と研究用模型について説明できる。 c）個人トレーの製作について説明できる。 d）印象材の種類と適応を説明できる。 e）上下顎無歯顎の解剖学的ランドマークと圧負担域を説明できる。 f）上下顎の筋圧形成に関わる筋を説明できる。 g）筋圧形成の意義を説明できる。 h）精密印象採得の目的と方法を説明できる。 i）全部床義歯の作業用模型製作の目的と方法を説明できる。 j）咬合床の機能と仮想咬合平面の決定方法を説明できる。 k）咬合高径の形態的、機能的な決定方法を説明できる。 l）水平的顎間関係の特に器具を必要としない方法、特殊な器具を使用する方法を説明できる。 m）ゴシックアーチ描記法を説明できる。 n）咬合床に記入する標示線を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-1, 2, 3, 4, 5]** 事前学修：無歯顎の病因と病態及び治療法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/1 (水)	3	米澤悠助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学③ （人工歯の選択と咬合器装着）** 人工歯の選択と咬合器装着について理解する。 講義・ディスカッション	5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 6. 全部床義歯の人工歯選択を理解している。 a）基本的な顔型、SPA要素、標示線、大きさ、症例による人工歯の選択を説明できる。 b）咬合器装着について説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-5, 6, 7]** 事前学修：人工歯の種類、選択方法、咬合器装着方法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/2 (木)	4	米澤悠助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学④** **（前歯部人工歯の排列）** 前歯部人工歯の排列について理解する。 講義・ディスカッション	7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 a) 基本的な前歯部排列の方法を説明できる。 b) 垂直被蓋と水平被蓋について説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-8]** 事前学修：前歯部人工歯の排列の目的と手法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/15 (水)	1	原総一朗助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学⑤** **（臼歯部人工歯の排列と咬合様式）** 全部床義歯に用いる臼歯部人工歯の排列について理解する。 講義・ディスカッション **（咬合様式）** 全部床義歯に与える咬合様式の種類を知り、両側性平衡咬合を理解する。 講義・ディスカッション	（臼歯部人工歯の排列） 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 a) 臼歯部人工歯の排列の基本原則を説明できる。 b) 歯槽頂間線法則、ニュートラルゾーン、パウンドライン、調節彎曲を説明できる。 （咬合様式） 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 a) 咬合様式の種類を列挙し、有歯顎と無歯顎の咬合様式の違いを説明できる。 b) 全部床義歯に付与する咬合様式を列挙し、説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-8]** 事前学修：臼歯部人工歯の排列の目的と手法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/22 (水)	1	原総一朗助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学⑥** **（歯肉形成とろう義歯試適）** ろう義歯試適時の検査内容、研磨面形態の意義と歯肉形成の方法を理解する。 講義・ディスカッション	6. 全部床義歯の人工歯選択を理解している。 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 9. 全部床義歯のろう義歯試適、装着及び調整を理解している。 a) ろう義歯試適時の検査項目を列挙できる。 b) 発音に関連する解剖学的・生理学的事項を説明できる。 c) 研磨面形態が義歯の維持、安定におよぼす影響を説明できる。 d) 研磨面形態の形成法と歯肉形成を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-7, 8, 10]** 事前学修：ろう義歯試適時の検査項目と手法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/25 (木)	4	米澤悠助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学⑦** **（埋没・レジン填入・重合・研磨）** 埋没・レジン填入・重合・研磨の方法を理解する。 講義・ディスカッション	8. 全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。 9. 全部床義歯のろう義歯試適、装着及び調整を理解している。 a) 全部床義歯と部分床義歯の埋没・レジン填入・重合・研磨の方法について説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-9, 10]** 事前学修：埋没・レジン填入・重合・研磨の方法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/1 (水)	1	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学⑧** **（咬合器再装着と咬合調整・義歯装着と調整）** 全部床義歯の装着に際する診察や注意ならびに装着後の患者指導を理解する。 講義・ディスカッション	9. 全部床義歯のろう義歯試適、装着及び調整を理解している。 10. 全部床義歯装着後のメインテナンスの意義と方法、調整を理解している。 a) 粘膜面及び咬合面の調整について説明できる。 b) 患者指導内容を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-10, 11]** 事前学修：咬合器再装着による咬合調整の目的と義歯装着の手法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習日程表

実習	4/8 (水)	1 2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学実習（顎間関係の記録　咬合器装着③④）** 顎間関係の記録の術式を理解し、顎間関係の記録法を修得する。	5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 a）咬合床を用いた咬合採得を説明できる。 b）咬合採得材料の種類や特徴を説明できる。 c）咬合床に標示線を記入できる。 d）スプリットキャスト法による咬合器装着の意義と手法を説明できる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-5、E-5-3-4-2-6]** 事前学修：咬合採得の手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	4/8 (水)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学実習（前歯部人工歯の排列①②）** 人工歯の種類を認識し、前歯部人工歯の排列について理解する。	6. 全部床義歯の人工歯選択を理解している。 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 8. 全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。 a）前歯部人工歯を適切な位置に排列できる。 b）適切な被蓋関係を付与できる。 **[D-5-3-2-7, 8, 9、E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：前歯部人工歯の排列の手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	4/9 (木)	1 2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学実習（前歯部人工歯の排列③④）** 人工歯の種類を認識し、前歯部人工歯の排列について理解する。	6. 全部床義歯の人工歯選択を理解している。 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 8. 全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。 a) 前歯部人工歯を適切な位置に排列できる。 b) 適切な被蓋関係を付与できる。 **[D-5-3-2-7, 8, 9、E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：前歯部人工歯の排列の手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	4/15 (水)	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学実習（前歯部人工歯の排列⑤）** 人工歯の種類を認識し、前歯部人工歯の排列について理解する。	6. 全部床義歯の人工歯選択を理解している。 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 8. 全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。 a) 前歯部人工歯を適切な位置に排列できる。 b) 適切な被蓋関係を付与できる。 **[D-5-3-2-7, 8, 9、E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：前歯部人工歯の排列の手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	4/15（水）	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**全部床義歯補綴学実習（臼歯部人工歯の排列①②）** 人工歯の種類を認識し、臼歯部人工歯の排列を理解する。	6. 全部床義歯の人工歯選択を理解している。 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 8. 全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。 a）全部床義歯の咬合様式が説明できる。 b）顎堤に対する人工歯の頬舌的及び近遠心的な位置関係を付与できる。 c）人工歯の対合関係を適切に付与できる。 **[D-5-3-2-7，8，9、E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：臼歯部人工歯の排列の手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	4/16（木）	2 3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**全部床義歯補綴学実習（臼歯部人工歯の排列③④⑤）** 人工歯の種類を認識し、臼歯部人工歯の排列を理解する。	6. 全部床義歯の人工歯選択を理解している。 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 8. 全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。 a）全部床義歯の咬合様式が説明できる。 b）顎堤に対する人工歯の頬舌的及び近遠心的な位置関係を付与できる。 c）人工歯の対合関係を適切に付与できる。 **[D-5-3-2-7，8，9、E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：臼歯部人工歯の排列の手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	4/22 (水)	2 3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学実習（臼歯部人工歯の排列⑥⑦⑧）** 人工歯の種類を認識し、臼歯部人工歯の排列を理解する。	6. 全部床義歯の人工歯選択を理解している。 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 8. 全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。 a) 全部床義歯の咬合様式が説明できる。 b) 顎堤に対する人工歯の頬舌的及び近遠心的な位置関係を付与できる。 c) 人工歯の対合関係を適切に付与できる。 **[D-5-3-2-7, 8, 9、E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：臼歯部人工歯の排列の手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	5/13 (水)	2 3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学実習（歯肉形成と研磨面形態①②③）** 完成義歯の研磨面形態、上顎義歯の口蓋後縁封鎖を理解し、術式を習得する。	8. 全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。 9. 全部床義歯のろう義歯試適、装着及び調整を理解している。 a) 適切な研磨面形態を付与できる。 b) ポストダムを付与し、後縁封鎖ができる。 c) 上顎基礎床口蓋部をワックスに置換できる。 **[D-5-3-2-7, 8, 9、E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：歯肉形成と研磨面形態及び後縁封鎖の目的と手法について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	7/15 (水)	1 2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**全部床義歯補綴学実習（実習試験）** 全部床義歯を製作するうえで必要な基本的手技についての理解を問う。	1. 無歯顎に伴う障害の種類と病態を理解している。 3. 全部床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、安定、咬合平衡を含む)を理解している。 4. 全部床義歯製作のための印象採得を理解している。 5. 全部床義歯製作のための咬合採得を理解している。 6. 全部床義歯の人工歯選択を理解している。 7. 全部床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を理解している。 8. 全部床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を理解している。 9. 全部床義歯のろう義歯試適、装着及び調整を理解している。 a) 全部床義歯を製作するうえで必要な基本的手技を説明できる。 b) 全部床義歯を製作するうえで必要な基本的手技を実施できる。 **[D-5-3-2-1, 3, 4, 5, 7, 8, 9、E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：全部床義歯を製作するうえで必要な基本的手技について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	8/19 (水)	1 2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福徳暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木渓斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**歯科補綴学総論実習①②（概形印象採得と研究用模型の製作）** 概形印象採得と研究用模型の製作の方法を相互実習にて習得、概形印象採得と研究用模型の製作の手技を理解する。	8. 固定性補綴装置の意義と具備条件を理解している。 9. 固定性補綴装置の種類、特徴及び製作法(CAD/CAMを含む)を理解している。 10. 無歯顎及び歯列欠損に伴う障害の種類と病態を理解している。 11. 可撤性義歯の種類、目的、意義及び適応症を理解している。 a) 概形印象採得ができる。 b) 研究用模型の製作ができる。 **[D-5-3-1-1, 2、D-5-3-2-1, 2、E-5-3-4-2-3]** 事前学修：概形印象採得と研究用模型の製作の方法について、教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	8/19 （水）	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福徳暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木渓斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**歯科補綴学総論実習③④** **（咬合と下顎運動の検査、チェックバイト、顔弓記録）** 咬合と下顎運動の検査の方法を習得し、チェックバイトと顔弓記録の手技を理解する。	6. 顎関節の構造と機能を理解している。 13. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を理解している。 a）咬合と下顎運動の検査ができる。 b）チェックバイトが行える。 c）顔弓記録が行える。 **[E-2-2-4、E-5-3-4-1-5、E-5-3-4-2-5]** 事前学修：下顎位の種類や下顎運動の特徴、チェックバイト、顔弓記録、フェイスボウトランスファーの意義と目的、及び手法について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	8/20 （木）	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福徳暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木渓斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**歯科補綴学総論実習⑤** **（咬合器装着）** 咬合器装着の方法を習得し、咬合器装着の手技を理解する。	13. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を理解している。 a）模型を調節性咬合器へ装着できる。 **[E-5-3-4-2-6]** 事前学修：下顎位の種類や下顎運動の特徴、チェックバイト、顔弓記録、フェイスボウトランスファー、咬合器装着の意義と目的、及び手法について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	8/20 （木）	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福徳暁宏講師 齊藤裕美子助教 佐々木渓斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**歯科補綴学総論実習⑥⑦** **（半調節性咬合器の顆路調節）** 咬合と下顎運動の検査の方法を習得し、半調節性咬合器の顆路調節の手技を理解する。	6. 顎関節の構造と機能を理解している。 13. 平均値咬合器及び調節性咬合器の種類と特徴を理解している。 a）咬合と下顎運動の検査ができる。 b）半調節性咬合器の調節機構の説明ができる。 c）半調節性咬合器の顆路調節ができる。 **[E-5-3-4-2-6]** 事前学修：下顎位の種類や下顎運動の特徴、半調節性咬合器の特徴と顆路調節の意義、目的、及び手法について教科書よ実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	無歯顎補綴治療学　第4版	市川哲雄ほか編	医歯薬出版	2022年
教	コンプリートデンチャーテクニック　第6版	細井紀雄ほか編	医歯薬出版	2011年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義・実習の評価方法は、以下の評価方法と割合で行う。
・定期試験　70%
・平常点（ポストテスト）10%
・実習点（試験、技能・態度）20%
合格は65点以上とする。
実習評価において、全ての実習内容を履修し、ライターの確認、検印を受けることで、実習試験の受験資格を得ることができる。

到達目標	DP	実習試験	小テスト	定期試験	合計
1、2	1.4	5	2	14	21
3	4	5	2	14	21
4、5	1、4、6	5	2	14	21
6、7、8、9	1、4、6	5	2	14	21
10, 11	4, 6	0	2	14	16
合計		**20**	**10**	**70**	**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【フィードバック】
・非常勤講師担当以外の講義では講義後に試験（ポストテスト）を行い、試験に関する解説は、次の講義時にフィードバックする。
・提出されたレポートは、採点後、コメントをつけて返却する。
【アクティブラーニング】
講義/演習日程表の「ユニット名 内容」の欄に別途記載済み。
【ICT】
講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップコンピュータ	MDV-AGG9210X	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
デスクトップパソコン	Inspiron580S	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
ノートパソコン	MC516J/A Education	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
一眼レフカメラ・EOS	KISSX5 LKIT	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
ノートパソコン・VAIO　一式	VPCZ21AJ	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
内視鏡用ビデオシステム	PSV-4000	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
バイトアイ　咬合接触面測定器	BE-Ⅰ	1	臨床実習用機器	咬合接触状態の可視化および観察、分析のため
ノートパソコン一式	PCLZ750TSB(SSS)	1	基礎実習・研究用機器	授業のデモ及び研究データ解析用
ジルコニア焼結用ファーネス一式（KavoEverestTherm)	4180	1	基礎実習・臨床実習用機器	ジルコニアフレーム（実習用）製作用
標準カラーカメラユニット・一式	VW-300C	1	基礎実習・臨床実習用機器	相互実習時の口腔内写真撮影用
歯科用拡大鏡・サージテルルーペ・オークリレーダー	EVK450	1	基礎実習・臨床実習用機器	拡大視野下での形成、技工のため
コピー機・ミニコピア	DPC995	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
10.2インチiPad Wi-Fiモデル	MK2P3J/A	1	視聴覚用機器	学生講義、研究用

部分床義歯補綴学

責任者・コーディネーター	歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 小林　琢也　教授				
担当講座（分野）	歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）				
対象学年	4	区分・時間数 （1コマ2時間換算）		講義/演習	実習
期間	前期		前期	32.0時間	52.0時間
			後期	―	―

学修方針（講義概要等）

歯科補綴学とは、歯・口腔・顎・その関連組織の先天性欠如、後天的欠損、喪失や異常を人工装置を用いて修復し、喪失した形態または障害された機能を回復するとともに、継発疾病の予防を図るために必要な理論と技術を考究する学問である。

部分床義歯補綴学では、歯列内の部分的な歯の喪失、関連組織の実質欠損、また、それらによる異常を部分床義歯によって修復・整形し、損なわれた機能と外観を回復させるとともに、患者の健康の維持・増進を図るために必要な方法に関して、理論と技術を修得することを目的に学修する。

教育成果（アウトカム）

部分床義歯補綴学の講義及び実習では、部分床義歯の基本構造や支持・把持・維持の原則を理解し、診察、診断、適切な治療計画の立案、義歯の設計理論と製作工程、装着後の調整に至るまでの知識と技術を修得する。

（関連するディプロマポリシー：1，4，6）

到達目標（SBOs）

1．歯列欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。D-5-3-2-1
2．部分床義歯の種類、目的、意義及び適応症を説明できる。D-5-3-2-2
3．部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。D-5-3-2-3
4．部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。D-5-3-2-4
5．部分床義歯製作のための咬合採得を説明できる。D-5-3-2-5
6．部分床義歯製作における人工歯選択を説明できる。D-5-3-2-7
7．部分床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を説明できる。D-5-3-2-8
8．部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。D-5-3-2-9
9．ろう義歯試適、装着及び調整を説明できる。D-5-3-2-10
10．部分床義歯装着後のメインテナンスの意義と方法、調整を説明できる。D-5-3-2-11
11．部分床義歯のリラインと修理を説明できる。D-5-3-2-12

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】
シラバスに記載されている次回の講義と実習内容を確認し、教科書と実習書を用いて調べ、事前学修として疑問点を整理しておくこと。各講義に対する事前学修の時間は平均30分を要する。
【事後学修】
講義後にポストテストを実施する。ポストテストで理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各講義に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［コア・カリキュラム］** 事前事後学修
講義	4/23（木）	4	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学①（欠損様式と診察・検査・診断）** 欠損歯列の様々な分類法と臨床的意義、部分床義歯製作時の診察法を理解する。 講義・ディスカッション	1. 歯列欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 2. 部分床義歯の種類、目的、意義及び適応症を説明できる。 a）分類の必要性と臨床的意義を説明できる。 b）部分床義歯製作時の診察項目を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-1，2]** 事前学修：歯の欠損による顎口腔系の変化と欠損様式について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/30（木）	4	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学②（構成要素）** 義歯の構成要素の種類とその作用について理解する。 講義・ディスカッション	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 a）部分床義歯の構成要素を列挙し、説明できる。 b）義歯の構成要素が持つ作用を説明できる。 c）レストの作用を説明できる。 d）義歯床、大連結子による作用を説明できる。 e）誘導面と隣接面板を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-3]** 事前学修：部分床義歯の構成要素の役割について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/13（水）	1	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学③（支台装置）** 部分床義歯の維持の考え方を理解し、支台装置の種類、構造、機能などを修得する。 講義・ディスカッション	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 a）部分床義歯の支持・把持・維持について説明できる。 b）支台装置の一般的所要条件を説明できる。 c）支台装置の種類、特徴、利点・欠点を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-3]** 事前学修：支台装置の目的と機能について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/14（木）	4	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学④（設計）** 部分床義歯の基本的な設計原則について理解する。 講義・ディスカッション	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 a）義歯の基本的な設計原則を説明できる。 b）義歯の構成要素と設定位置・順序を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-3]** 事前学修：部分床義歯の設計原則と手順について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/20（水）	1	米澤悠助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学⑤（サベイング）** サベイングの目的と意義について理解する。 講義・ディスカッション	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 a）サベイングの目的を説明できる。 b）サベイングの手順と意味を説明できる。 c）サベイングと義歯の設計の関係を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-3]** 事前学修：サベイングの目的と手順及び使用器具について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/27（水）	1	原総一朗助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学⑥（前処置）** 前処置の目的と意義について理解する。 講義・ディスカッション	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 a）前処置の種類を列挙し、その意義、目的を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-3]** 事前学修：広義の前処置と補綴前処置の目的について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/3（水）	1	原総一朗助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学⑦（印象採得）** 歯と粘膜により支持される部分床義歯の印象採得を理解する。 講義・ディスカッション	4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 a）印象法の種類と特徴を説明できる。 b）印象用材料について説明できる。 c）印象用トレーについて説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-4]** 事前学修：部分床義歯の印象採得の手法と手技及びオルタードキャスト法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/10（水）	1	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学⑧（顎間関係の記録と咬合）** 部分床義歯の顎間関係の記録の特徴を知り、術式を理解する。 講義・ディスカッション	5. 部分床義歯製作のための咬合採得を説明できる。 a）顎間関係の記録の術式、材料を歯列対向関係の違いに分けて説明できる。 b）部分床義歯に付与する咬合様式について説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-5]** 事前学修：部分床義歯の顎間関係の記録（咬合採得）の特徴と手法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/17 (水)	1	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学⑨（フレームワーク）** フレームワークの特徴と製作方法を理解する。 講義・ディスカッション	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a) フレームワークの製作方法を説明できる。 b) フレームワークの試適方法を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-3, 9]** 事前学修：フレームワークの製作手順について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/24 (水)	1	原総一朗助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学⑩（人工歯の排列とろう義歯試適）** 人工歯の排列の基本原則とろう義歯試適時の検査項目を理解する。 講義・ディスカッション	6. 部分床義歯製作における人工歯選択を説明できる。 7. 部分床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 9. ろう義歯試適、装着及び調整を説明できる。 a) 人工歯の選択と排列について説明できる。 b) 部分床義歯に付与する咬合様式を説明できる。 c) 歯肉形成について説明できる。 d) ろう義歯試適時の検査項目を列挙できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-7, 8, 9, 10]** 事前学修：部分床義歯と全部床義歯の人工歯排列の違いについて教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/2 (木)	4	原総一朗助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学⑪** **（義歯装着と調整）** 部分床義歯の装着と術後管理、患者指導について理解する。 講義・ディスカッション	9. ろう義歯試適、装着及び調整を説明できる。 10. 部分床義歯装着後のメインテナンスの意義と方法、調整を説明できる。 a) 義歯装着の手技について説明できる。 b) 咬合調整について説明できる。 c) 義歯装着時の患者指導を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-10, 11]** 事前学修：部分床義歯の装着手法と手技について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/8 (水)	1	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学⑫** **（義歯装着後の変化と対応、義歯修理）** 床義歯の装着後に生じる残存諸組織と咬合の変化とその対応を理解する。 義歯破損の原因とその対応法について理解する。 講義・ディスカッション	10. 部分床義歯装着後のメインテナンスの意義と方法、調整を説明できる。 11. 部分床義歯のリラインと修理を説明できる。 a) 義歯装着後の口腔内の変化について列挙し、説明できる。 b) 義歯装着後の顎堤粘膜、歯槽骨、顎間関係、咬合の変化とその対応を説明できる。 c) リベースとリラインの違いを説明できる。 d) 義歯の破損の原因について説明できる。 e) 義歯修理の直接法について説明できる。 f) 義歯修理の間接法について説明できる。 g) 咬合面再形成について説明できる。 h) 粘膜調整について説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-11, 12]** 事前学修：義歯装着後の変化とその対応方法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/8 (水)	2	原総一朗助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学⑬ （様々な義歯）** オーバーデンチャーについて理解する。 講義・ディスカッション	2. 部分床義歯の種類、目的、意義及び適応症を説明できる。 a) オーバーデンチャーについて説明できる。 b) アタッチメントについて説明できる。 c) インプラントを応用したオーバーデンチャーについて説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-2]** 事前学修：オーバーデンチャーにおけるアタッチメントの特徴と選択について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/8 (水)	3	鈴木哲也非常勤講師	**部分床義歯補綴学⑭ 補綴治療の難症例への対応** 超高齢者の欠損補綴治療の難度を理解する。	2. 部分床義歯の種類、目的、意義及び適応症を説明できる。 3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 5. 部分床義歯製作のための咬合採得を説明できる。 6. 部分床義歯製作における人工歯選択を説明できる。 7. 部分床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 9. ろう義歯試適、装着及び調整を説明できる。 10. 部分床義歯装着後のメインテナンスの意義と方法、調整を説明できる。 a) 欠損補綴の定義を説明できる。 b) 難症例に対する床義歯補綴の治療手順を説明できる。 **[D-5-3-2、D-5-3-2-2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 11]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P100-106を読み、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/22 （水）	1	小林琢也教授 佐藤宏明講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学⑮** **（振り返り講義）** 部分床義歯補綴学の履修内容（欠損様式と診察・検査・診断、構成要素、支台装置、設計、サベイング、前処置、印象採得、顎間関係の記録、フレームワーク、人工歯の排列とろう義歯試適、義歯装着と調整、義歯装着後の変化と対応、義歯修理、様々な義歯）を理解する。 講義・ディスカッション	1. 歯列欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 2. 部分床義歯の種類、目的、意義及び適応症を説明できる。 3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 5. 部分床義歯製作のための咬合採得を説明できる。 6. 部分床義歯製作における人工歯選択を説明できる。 7. 部分床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 9. ろう義歯試適、装着及び調整を説明できる。 10. 部分床義歯装着後のメインテナンスの意義と方法、調整を説明できる。 11. 部分床義歯のリラインと修理を説明できる。 a）分類の必要性と臨床的意義を説明できる。 b）部分床義歯製作時の診察項目を説明できる。 c）部分床義歯の構成要素を列挙し、説明できる。 d）義歯の構成要素が持つ作用を説明できる。 e）部分床義歯の支持・把持・維持について説明できる。 f）支台装置の種類、特徴、利点・欠点を説明できる。 g）義歯の基本的な設計原則を説明できる。 h）サベイングの目的を説明できる。 i）サベイングの手順と意味を説明できる。 j）サベイングと義歯の設計の関係を説明できる。 k）前処置の種類を列挙し、その意義、目的を説明できる。 l）印象法の種類と特徴を説明できる。 m）顎間関係の記録の術式、材料を歯列対向関係の違いに分けて説明できる。 n）部分床義歯に付与する咬合様式について説明できる。 o）フレームワークの製作方法を説明できる。 p）ろう義歯試適時の検査項目を列挙できる。 q）義歯装着の手技について説明できる。 r）義歯装着時の患者指導を説明できる。 s）義歯装着後の口腔内の変化について列挙し、説明できる。 t）義歯装着後の顎堤粘膜、歯槽骨、顎間関係、咬合の変化とその対応を説明できる。 u）リベースとリラインの違いを説明できる。 v）義歯の破損の原因について説明できる。 w）義歯修理の直接法について説明できる。 x）義歯修理の間接法について説明できる。 事前学修：歯の部分欠損の病因と病態及び治療法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/22 （水）	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学⑯** **（振り返り講義）** 部分床義歯補綴学の履修内容（欠損様式と診察・検査・診断、構成要素、支台装置、設計、サベイング、前処置、印象採得、顎間関係の記録、フレームワーク、人工歯の排列とろう義歯試適、義歯装着と調整、義歯装着後の変化と対応、義歯修理、様々な義歯）を理解する。 講義・ディスカッション	1. 歯列欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 2. 部分床義歯の種類、目的、意義及び適応症を説明できる。 3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 5. 部分床義歯製作のための咬合採得を説明できる。 6. 部分床義歯製作における人工歯選択を説明できる。 7. 部分床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 9. ろう義歯試適、装着及び調整を説明できる。 10. 部分床義歯装着後のメインテナンスの意義と方法、調整を説明できる。 11. 部分床義歯のリラインと修理を説明できる。 a）分類の必要性と臨床的意義を説明できる。 b）部分床義歯製作時の診察項目を説明できる。 c）部分床義歯の構成要素を列挙し、説明できる。 d）義歯の構成要素が持つ作用を説明できる。 e）部分床義歯の支持・把持・維持について説明できる。 f）支台装置の種類、特徴、利点・欠点を説明できる。 g）義歯の基本的な設計原則を説明できる。 h）サベイングの目的を説明できる。 i）サベイングの手順と意味を説明できる。 j）サベイングと義歯の設計の関係を説明できる。 k）前処置の種類を列挙し、その意義、目的を説明できる。 l）印象法の種類と特徴を説明できる。 m）顎間関係の記録の術式、材料を歯列対向関係の違いに分けて説明できる。 n）部分床義歯に付与する咬合様式について説明できる。 o）フレームワークの製作方法を説明できる。 p）ろう義歯試適時の検査項目を列挙できる。 q）義歯装着の手技について説明できる。 r）義歯装着時の患者指導を説明できる。 s）義歯装着後の口腔内の変化について列挙し、説明できる。 t）義歯装着後の顎堤粘膜、歯槽骨、顎間関係、咬合の変化とその対応を説明できる。 u）リベースとリラインの違いを説明できる。 v）義歯の破損の原因について説明できる。 w）義歯修理の直接法について説明できる。 x）義歯修理の間接法について説明できる。 事前学修：歯の部分欠損の病因と病態及び治療法について教科書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習日程表

実習	5/20（水）	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学実習（概形印象採得）** 概形印象採得を行うために、印象域、印象材、印象手法を理解し、その術式を習得する。	4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 a）概形印象採得について説明できる。 b）適切な概形印象採得ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-3]** 事前学修：部分床義歯の研究用模型を用いた診察と検査及び診断について、教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	5/20（水）	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学実習（研究用模型の製作①②）** 研究用模型の使用目的を理解し、製作方法を習得する。	4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a）研究用模型の使用目的について説明できる。 b）適切な研究用模型を製作することができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-3]** 事前学修：部分床義歯の研究用模型を用いた診察と検査及び診断について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	5/27 (水)	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（予備サベイングと予備設計）** 予備サベイングと予備設計の目的を理解し、習得する。	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 a) 欠損歯列の分類法について説明できる。 b) 適切な連結装置を選択し設計できる。 c) 適切な支台装置を選択し設計できる。 d) サベイングの目的と意義を説明できる。 e) サベイヤーと付属品の名称と使用法を説明できる。 f) 適切にサベイング操作を行うことができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-1]** 事前学修：予備サベイングの目的と手技及び予備設計の手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	5/27 (水)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（個人トレーの製作①②）** 部分床義歯製作に用いる個人トレーの製作方法を習得する。	4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a) 個人トレーの使用意義を説明できる。 b) 個人トレーの外形線を記入できる c) 常温重合レジンを練和し、個人トレー体部と柄の圧接ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-1]** 事前学修：個人トレーの目的と製作方法について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	6/3 (水)	2 3	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（個人トレーの製作③④）** 部分床義歯製作に用いる個人トレーの製作方法を習得する。	4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a) 個人トレーの使用意義を説明できる。 b) 個人トレーの外形線を記入できる c) 常温重合レジンを練和し、個人トレー体部と柄の圧接ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-1]** 事前学修：個人トレーの目的と製作方法について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	6/3 (水)	4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（前処置①）** 欠損歯列の口腔内前処置を習得する。	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 a) 欠損歯列の前処置について説明できる。 b) 歯冠形態の修正、ガイドプレーン、レストシートの形成ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-2]** 事前学修：補綴前処置の手法と手技について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	6/10 (水)	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（前処置②）** 欠損歯列の口腔内前処置を習得する。	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 a) 欠損歯列の前処置について説明できる。 b) 歯冠形態の修正、ガイドプレーン、レストシートの形成ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-2]** 事前学修：補綴前処置の手法と手技について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	6/10（水）	3	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学実習（筋圧形成）** 個人トレーを用いた筋圧形成を習得する。	4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a）個人トレーとモデリングコンパウンドを用いた筋圧形成ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-2]** 事前学修：部分床義歯印象採得の手技について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	6/10（水）	4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学実習（精密印象採得）** 部分床義歯の精密印象採得方法を習得する。	4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a）精密印象採得材の種類と適応を説明できる。 b）精密印象採得の操作方法を説明できる。 c）精密印象採得の目的と方法を説明できる。 d）精密印象採得を行うことができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-4]** 事前学修：部分床義歯印象採得の手技について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	6/11 (木)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（作業用模型の製作①②）** 床義歯の作業用模型の製作方法を習得する。	4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a) ボクシングの目的を説明できる。 b) 作業用模型について説明できる。 c) 作業用模型を製作できる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-4]** 事前学修：ボクシングの製作手法について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	6/17 (水)	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（作業用模型の製作③）** 床義歯の作業用模型の製作方法を習得する。	4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a) ボクシングの目的を説明できる。 b) 作業用模型について説明できる。 c) 作業用模型を製作できる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-4]** 事前学修：ボクシングの製作手法について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	6/17 (水)	3	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（サベイングと設計）** サベイングの方法を習得する。	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 a) 適切なサベイングを行える。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2、E-5-3-4-2-1]** 事前学修：サベイングと設計手順について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	6/17（水）	4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学実習（フレームワーク・作業用模型の修正①）** 支台装置と連結子の特徴と製作方法を理解する。	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則（支持、維持、把持）を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a）フレームワークの製作方法を説明できる。 b）支台装置の製作方法を説明できる。 c）連結子の製作方法を説明できる。 d）作業用模型の修正ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：フレームワークの製作手順と作業用模型の修正手技について調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	6/24（水）	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**部分床義歯補綴学実習（フレームワーク・作業用模型の修正②）** 支台装置と連結子の特徴と製作方法を理解する。	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則（支持、維持、把持）を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a）フレームワークの製作方法を説明できる。 b）支台装置の製作方法を説明できる。 c）連結子の製作方法を説明できる。 d）作業用模型の修正ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：フレームワークの製作手順と作業用模型の修正手技について調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	6/24 (水)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（複印象と耐火模型の製作①②）** 支台装置と連結子の特徴と製作方法を理解する。	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a) フレームワークの製作方法を説明できる。 b) 支台装置の製作方法を説明できる。 c) 連結子の製作方法を説明できる。 d) 複印象と耐火模型の製作ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：フレームワークの製作手順と複印象と耐火模型の製作手技について調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	7/1 (水)	2	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（複印象と耐火模型の製作③）** 支台装置と連結子の特徴と製作方法を理解する。	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a) フレームワークの製作方法を説明できる。 b) 支台装置の製作方法を説明できる。 c) 連結子の製作方法を説明できる。 d) 複印象と耐火模型の製作ができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：フレームワークの製作手順と複印象と耐火模型の製作手技について調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	7/1 (水)	3 4 5	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（フレームワークのワックスアップ①②③）** 支台装置と連結子の特徴と製作方法を理解する。	3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 a) フレームワークの製作方法を説明できる。 b) 支台装置の製作方法を説明できる。 c) 連結子の製作方法を説明できる。 d) フレームワークのワックスアップができる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：フレームワークの製作手順とワックスアップの手技について調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	7/15 (水)	3 4	小林琢也教授 佐藤宏明講師 米澤悠助教 原総一朗助教 米澤紗織助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	**部分床義歯補綴学実習（実習試験）** 部分床義歯を製作するうえで必要な基本的手技についての理解を問う。	1. 歯列欠損に伴う障害の種類と病態を説明できる。 2. 部分床義歯の種類、目的、意義及び適応症を説明できる。 3. 部分床義歯の要素構成と設計原則(支持、維持、把持)を説明できる。 4. 部分床義歯製作のための印象採得を説明できる。 5. 部分床義歯製作のための咬合採得を説明できる。 6. 部分床義歯製作における人工歯選択を説明できる。 7. 部分床義歯の人工歯排列(咬合様式を含む)を説明できる。 8. 部分床義歯の製作に必要な材料の特性と基本的操作方法を説明できる。 9. ろう義歯試適、装着及び調整を説明できる。 a) 部分床義歯を製作するうえで必要な基本的手技を説明できる。 b) 部分床義歯を製作するうえで必要な基本的手技を実施できる。 **[E-5-3-4、E-5-3-4-2]** 事前学修：部分床義歯を製作するうえで必要な基本的手技について教科書と実習書を用いて調べ、疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：実習を行ったうえで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書及び実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダードパーシャルデンチャー補綴学　第4版	藍稔ほか編	学建書院	2024年
教	パーシャルデンチャーテクニック　第6版	大久保力廣ほか編	医歯薬出版	2021年
参	歯学生のパーシャルデンチャー　第6版	三谷春保ほか編	医歯薬出版	2018年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義・実習の評価方法は、以下の評価方法と割合で行う。
・定期試験　70%
・平常点（ポストテスト）10%
・実習点（試験、技能・態度）20%
合格は65点以上とする。
実習評価において、全ての実習内容を履修し、ライターの確認、検印を受けることで、実習試験の受験資格を得ることができる。

到達目標	DP	実習試験	小テスト	定期試験	合計
1、2	4	5	2	14	21
3	4	5	2	14	21
4、5	1、4	5	2	14	21
6	4	5	2	14	21
7, 8, 9, 10,11	4	0	2	14	16
合計		**20**	**10**	**70**	**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【フィードバック】
・非常勤講師担当以外の講義では講義後に試験（ポストテスト）を行い、試験に関する解説は、次の講義時にフィードバックする。
・提出されたレポートは、採点後、コメントをつけて返却する。
【アクティブラーニング】
講義/演習日程表の「ユニット名 内容」の欄に別途記載済み。
【ICT】
講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップコンピュータ	MDV-AGG9210X	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
デスクトップパソコン	Inspiron580S	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
ノートパソコン	MC516J/A Education	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
一眼レフカメラ・EOS	KISSX5 LKIT	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
ノートパソコン・VAIO　一式	VPCZ21AJ	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
内視鏡用ビデオシステム	PSV-4000	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
バイトアイ　咬合接触面測定器	BE-Ⅰ	1	臨床実習用機器	咬合接触状態の可視化および観察、分析のため
ノートパソコン一式	PCLZ750TSB(SSS)	1	基礎実習・研究用機器	授業のデモ及び研究データ解析用
ジルコニア焼結用ファーネス一式（KavoEverestTherm)	4180	1	基礎実習・臨床実習用機器	ジルコニアフレーム（実習用）製作用
標準カラーカメラユニット・一式	VW-300C	1	基礎実習・臨床実習用機器	相互実習時の口腔内写真撮影用
歯科用拡大鏡・サージテルルーペ・オークリレーダー	EVK450	1	基礎実習・臨床実習用機器	拡大視野下での形成、技工のため
コピー機・ミニコピア	DPC995	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
10.2インチiPad Wi-Fiモデル	MK2P3J/A	1	視聴覚用機器	学生講義、研究用

口腔インプラント学

責任者・コーディネーター	歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野） 今　一裕　教授				
担当講座（分野）	歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）				
対象学年	4	区分・時間数		講義/演習	実習
期間	前期		前期	20.0時間	8.0時間
			後期	—	—

学修方針（講義概要等）

歯の欠損に対する補綴治療には、冠橋義歯、部分床義歯、全部床義歯が長く活用されてきたが、歯科インプラントによる補綴治療が近年では広く活用されるようになってきた。 口腔インプラント学では、歯科インプラント治療の変遷、術前検査からインプラント埋入手術、補綴治療とその後のメインテナンスについて学修する。

教育成果（アウトカム）

講義で内容を理解、把握し、知識を確かなものとし、実習を行うことで、本分野の学修をおこなう。
口腔インプラント治療の検査・診断・治療について、確実な理解を確立し、5年次臨床実習を行うに足る十分な補綴歯科領域の知識を確実に身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：1～5、7、9）

到達目標（SBOs）

1. 口腔インプラントによる治療の意義と目的について説明できる。
2. 口腔インプラントによる治療の特徴を説明できる。
3. 口腔インプラントによる治療の補綴様式（固定性補綴、インプラント―バーデンチャー）について理解し、説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分、事後学修の時間は45分を要する。本内容は本科目全授業に対して該当するものとする。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日(曜)	時限	担当教員(講座 分野)	**ユニット名** 内容	到達目標 **[コア・カリキュラム]** 事前事後学修
講義	4/10(金)	3	**塩田真** **(非常勤講師)**	**インプラント治療法の変遷** インプラント治療を行う上で必要な知識を習得する。	1.インプラント治療の基本原則について説明できる。 2.インプラントと補綴装置の基本構造を説明できる。 **[E-3-4)-(3)-①]** 事前学修：インプラントの基本原則について事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。
講義	4/10(金)	4	山森徹雄 (非常勤講師)	**インプラント診察・ 診断治療計画** インプラント治療を行う上で診察・診断・治療計画立案に必要な知識を習得する。	1.インプラント治療の長所・短所について、説明できる。 2.インプラント治療を行うための診察・診断ができる。 3.治療計画を立案することができる。 **[E-3-4)-(3)-③、 E-3-4)-(3)-④]** 事前学修：インプラント治療を行うための診察・診断について事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。
講義	4/17(金)	4	**今一裕教授** **(冠橋義歯・口腔インプラント学分野)**	**インプラント外科術式1** インプラント埋入手術を行う上で必要な知識を習得する。	1.インプラントの外科処置に必要な器材等について説明できる。 2.インプラントの埋入手術の術式を説明できる。 **[E-3-4)-(3)-③、 E-3-4)-(3)-⑤]** 事前学修：インプラントの外科術式について事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。
講義	4/24(金)	3	**今一裕教授** **(冠橋義歯・口腔インプラント学分野)**	**インプラント外科術式2** インプラント埋入手術を行う上で必要な知識を習得する。	1.インプラント外科におけるテンプレートを用いた手術、動的ガイドを用いた手術について説明できる 2.インプラントの埋入手術に併用する外科手技を理解する。 **[E-3-4)-(3)-③、 E-3-4)-(3)-⑤]** 事前学修：インプラントの外科術式について事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。
講義	5/15(金)	3	**春日井昇平** **(非常勤講師)**	**高度なインプラント治療1** インプラント治療の予後と併発症	1.インプラント治療の予後について説明できる。 2.インプラント治療における併発症について説明できる。 **[E-3-4)-(3)-①、 E-3-4)-(3)-②、E-3-4)-(3)-③、 E-3-4)-(3)-⑧]** アクティブラーニング：実習、ディスカッション ICT:WebClass、オンライン講義システム事前学修：インプラントの偶発症について、教科書（よくわかる口腔インプラント学第3版P262-286）等を用いて事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。

講義	5/15（金）	4	今一裕教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**高度なインプラント治療2** 高度なインプラント外科手術	1.インプラント治療における骨移植の方法について説明できる。 2.インプラント治療における骨造成法の種類と適応について説明できる。 [E-3-4)-(3)-④、 E-3-4)-(3)-⑤] アクティブラーニング：実習、ディスカッション ICT:WebClass、オンライン講義システム 事前学修：インプラント関連の骨移植と骨補填材料について、教科書（よくわかる口腔インプラント学第3版P61-63, P219-240）等を用いて事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。
講義	5/29（金）	3	今一裕教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**インプラント補綴術式1** インプラント補綴処置を行う上で必要な知識を習得する。	1.インプラントの補綴処置に必要な器材等について説明できる。 2.インプラントの印象採得の術式を説明できる。 3.インプラントの補綴処置の術式を説明できる。 [E-3-4)-(3)-⑥、 E-3-4)-(3)-⑦] 事前学修：インプラントの補綴術式について事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。
講義	6/5（金）	4	今一裕教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**インプラント補綴術式2** インプラント補綴処置を行う上で必要な知識を習得する。	1.インプラントの暫間補綴装置の製作と装着について説明できる。 2.インプラントの最終補綴装置の製作と装着について説明できる。 3.インプラント補綴装置の特徴と長所・短所について説明できる。 [E-3-4)-(3)-⑥、 E-3-4)-(3)-⑦] 事前学修：インプラントの補綴術式について事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。
講義	6/12（金）	3	福徳暁宏 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**イ ンプラ ントメイ ンテナンス・ 予後** メインテナンスを行う上で必要な知識を習得する。	1.インプラント補綴装置のメインテナンスについて説明できる。 [E-3-4)-(3)-⑧] 事前学修：インプラントのメインテナンスについて事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。
講義	6/12（金）	4	鬼原英道 （非常勤講師）	**インプラント合併症・トラブル** インプラント治療に関連する合併症についての知識を習得する。	1.インプラント治療で生じうる合併症について説明できる。 2.インプラント治療で生じうるトラブルへの対処法について説明できる。 [E-3-4)-(3)-②] 事前学修：インプラント治療に関する合併症について事前に調べ、500字程度にまとめ、発表できるようにしておく。

実習日程表

実習	7/10 (金)	3	今一裕教授 横田潤講師 福徳暁宏講師 佐々木渓斗助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	**インプラント埋入実習** ①インプラント器具確認 ②インプラント埋入	1.インプラント体の埋入器具の準備ができる。 2.インプラント埋入手術の手順を説明できる。 3.手術器具を適切に扱うことができる。 4.インプラントの埋入手術に必要な手技を習得する。 [E-3-4)-(3)-⑤] アクティブラーニング：実習、ディスカッション ICT:WebClass 事前学修：FRで学んだインプラントの埋入について、使用する器具と術式について、教科書（よくわかる口腔インプラント学第3版P137-172）等を用いて事前に調べ、500字程度にまとめ、実習が滞りなくできるようにしておく。
実習	7/10 (金)	4	今一裕教授 横田潤講師 福徳暁宏講師 佐々木渓斗助教 八戸勇樹助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	**インプラント埋入実習** ①インプラント器具確認 ②インプラント埋入	1.インプラント体の埋入器具の準備ができる。 2.インプラント埋入手術の手順を説明できる。 3.手術器具を適切に扱うことができる。 4.インプラントの埋入手術に必要な手技を習得する。 [E-3-4)-(3)-⑤] アクティブラーニング：実習、ディスカッション ICT:WebClass 事前学修：FRで学んだインプラントの埋入について、使用する器具と術式について、教科書（よくわかる口腔インプラント学第3版P137-172）等を用いて事前に調べ、500字程度にまとめ、実習が滞りなくできるようにしておく。

実習	7/17（金）	3	今一裕教授 横田潤講師 福徳暁宏講師 佐々木渓斗助教 八戸勇樹助教 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**インプラント実習解説** **オープントレー製作**	1.インプラント体の埋入器具の準備ができる。 2.インプラント埋入手術の手順を説明できる。 3.個人トレーの製作法を理解する。 [E-3-4)-(3)-⑤、 E-3-4)-(3)-⑥] アクティブラーニング：実習、ディスカッション ICT:WebClass 事前学修：FRで学んだインプラントの埋入手術に使用する器具について、教科書（よくわかる口腔インプラント学第3版P137-172）等を用いて事前に調べ、500字程度にまとめ、ディスカッションできるようにしておく。
実習	7/17（金）	4	今一裕教授 横田潤講師 福徳暁宏講師 佐々木渓斗助教 八戸勇樹助教 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**インプラント印象採得実習** インプラント印象採得（オープントレー法）	1.インプラント印象採得に必要な器具の準備ができる。 2.個人トレーの作製の手技を習得する。 3.インプラント印象採得の手順を説明できる。 4.インプラント印象採得必要な手技を習得する。 [E-3-4)-(3)-⑥] アクティブラーニング：実習、ディスカッション ICT:WebClass 事前学修：FRで学んだインプラントの印象採得について、使用する器具と術式について、教科書（よくわかる口腔インプラント学第3版P163-172）等を用いて事前に調べ、500字程度にまとめ、実習が滞りなくできるようにしておく。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	よくわかる口腔インプラント学　第4版	赤川安正ほか著	医歯薬出版	2023年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義（65点以上で合格）：筆記試験に合格すること。
最終筆記試験：100%にて成績の評価を行う。
65点未満の場合は再試験となる。

実習（65点以上で合格）：口腔インプラント学実習において、全ての実習内容を履修し、ライターの確認、検印を受けることで65点を獲得でき、授業態度、実習に対する知識（実習内容を理解することができる）、技術（実習内容に則した手技ができる）、積極性（実習意欲があり積極的に行動することができる）、礼節（礼儀正しい話し方ができ責任ある行動ができる）を評価対象とする。

講義90%、実習10%

備考

講義・実習ともに欠席・遅刻に応じて減点する。

講義

到達目標	DP	定期試験	合計
1,2	1,2,3,4,9	65	65
3	5	35	35
合計		**100**	**100**

実習

到達目標	DP	知識 ※定期試験で評価	技術	態度･礼節	合計
1,2	1,2,3,4,9	40	30	10	80
3	5	20			20
合計		**60**	**30**	**10**	**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

WebClassにて講義資料の配布を予定しているので、タブレット等を活用できるように準備しておく。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップコンピュータ	MDV-AGG9210X	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
デスクトップパソコン	Inspiron580S	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料の作成
ノートパソコン	MC516J/A Education	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
一眼レフカメラ・EOS	KISSX5 LKIT	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
ノートパソコン・VAIO　一式	VPCZ21AJ	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
内視鏡用ビデオシステム	PSV-4000	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
バイトアイ　咬合接触面測定器	BE-Ⅰ	1	臨床実習用機器	咬合接触状態の可視化および観察、分析のため
ノートパソコン一式	PCLZ750TSB(SSS)	1	基礎実習・研究用機器	授業のデモ及び研究データ解析用
ジルコニア焼結用ファーネス一式（KavoEverestTherm)	4180	1	基礎実習・臨床実習用機器	ジルコニアフレーム（実習用）製作用
標準カラーカメラユニット・一式	VW-300C	1	基礎実習・臨床実習用機器	相互実習時の口腔内写真撮影用
歯科用拡大鏡・サージテルルーペ・オークリレーダー	EVK450	1	基礎実習・臨床実習用機器	拡大視野下での形成、技工のため
コピー機・ミニコピア	DPC995	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
10.2インチiPad Wi-Fiモデル	MK2P3J/A	1	視聴覚用機器	学生講義、研究用

歯科麻酔学（Dental anesthesiology）

責任者・コーディネーター	口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野） 佐藤 健一 教授
担当講座（分野）	生理学講座（病態生理学分野）、解剖学講座（機能形態学分野）、口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野）、麻酔学講座

対象学年	4	区分・時間数 （1コマ2時間換算）		講義/演習	実習
期間	前期		前期	56.0時間	―
			後期	―	―

学修方針（講義概要等）

歯科麻酔学（Dental anesthesiology）では、これまでに学修してきた解剖学、生理学および薬理学等の基礎科目の知識を再度整理・統合し、呼吸、循環、自律神経、内分泌・代謝等を臨床との関連づけを意識しながら理解することで歯科治療時の全身管理を習得する。全身管理を習得するために歯科麻酔学として全身麻酔学、局所麻酔学のみならず、精神鎮静法、全身疾患を有する患者の歯科治療時の全身管理学、ペインクリニック、救急蘇生法について講義を行う。

教育成果（アウトカム）

［講義］
これまでに学修した人体の生理学や解剖学、薬理学の知識を再度整理・統合し、麻酔と鎮静および救急蘇生の知識・技能、歯科医師として必要とする医学的知識および有病者に対する基礎的知識・病態を学ぶことで、顎口腔領域に疾患をもつ患者の適切な全身管理法を理解することができる。

（関連するディプロマポリシー：1、3～6）

到達目標（SBOs）

1. 局所麻酔について説明できる。
2. 全身麻酔について説明できる。
3. 全身疾患について説明できる。
4. 歯科治療時の全身管理を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し、教科書や講義ノート、Webclass資料等を用いて事前学修（予習）を行うものとし、各授業最低40分以上を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。各授業に特記された事前学修項目がある場合は、その内容に従うものとする。授業や実習においてレポートが課された場合は、提出後、評価の上返却する。授業後は、学修した内容について教科書や配布資料を使用した事後学修を最低40分以上を要する。

（事前学修：平均40分を要する　事後学修：平均40分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［コア・カリキュラム］** 事前事後学修
講義	4/6（月）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**歯科麻酔学概論** **麻酔の概念** 歯科麻酔の役割、意義を学ぶことで超高齢社会における歯科麻酔医の役割を理解することができる。	1. 麻酔の概念を説明できる。 2. 麻酔法の特徴、種類を説明できる。 3. 超高齢社会における歯科麻酔医の役割を説明できる。 **[E-1-4)]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第1章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	4/6（月）	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**全身管理** **全身状態評価法** 術前診察法、各種臨床検査の基準値、リスク分類を学ぶことで全身状態を評価する必要性を理解することができる。	1. 術前診察の方法を説明できる。 2. 問診、視診、触診および打診等によって患者の現症を説明できる。 3. バイタルサインを列挙し、説明できる。 4. 各種臨床検査の基準値を知り、異常な値の意味を説明できる。 5. リスク・重篤度の分類を説明できる。 **[D-2-3, E-2-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版第3章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	4/13（月）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**全身管理** **管理上問題となる疾患1** 全身管理上問題となる疾患を学ぶことで歯科治療時の全身管理の重要性を理解することができる。	1.呼吸器系疾患を説明できる。 2.循環器系疾患を説明できる。 3.内分泌疾患を説明できる。 4.腎疾患を説明できる。 **[D-2-3, E-2-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版第3章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	4/13 （月）	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**全身管理** **管理上問題となる疾患2** 全身管理上問題となる疾患を学ぶことで歯科治療時の全身管理の重要性を理解することができる。	1.神経・筋疾患を説明できる。 2.精神疾患を説明できる。 3.血液疾患を説明できる。 **[D-2-3, E-2-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版第3章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	4/20 （月）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**局所麻酔 2** **注射の基本手技と局所麻酔薬（法）** 注射の基本手技と局所麻酔薬（法）を学ぶことで歯科治療時の局所麻酔の重要性を理解することができる。	1. 注射の種類と基本手技を説明できる。 （静脈内・皮内・皮下・筋肉内・骨髄内注射） 2. 局所麻酔の目的を説明できる。 3. 局所麻酔法の種類、特徴を説明できる。 4. 表面麻酔法を説明できる。 5. 浸潤麻酔法を説明できる。 6. 伝達麻酔法を説明できる。 **[D-1-2-1-1～4, E-1-3-1]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第4、第5章1～4を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	4/20 （月）	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**局所麻酔 3** **局所麻酔の合併症** 局所麻酔の合併症とそのメカニズムを学ぶことで合併症への対処法を理解することができる。	1. 全身的合併症を説明できる。 2. 全身的合併症への対処法を説明できる。 3. 局所的合併症を説明できる。 4. 局所的合併症への対処法を説明できる。 **[D-1-2-1-1～4, E-1-3-1]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第5章5を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	4/27 （月）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**全身管理** **モニタリング** 全身管理をする上で全身状態を把握するためのモニタリングの重要性を理解することができる。	1.呼吸器系モニタを説明できる。 2.循環器系モニタ説明できる。 3.体温モニタを説明できる。 4.筋弛緩モニタを説明できる。 5.中枢神経系モニタを理解できる。 **[D-2-3, E-2-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版第3章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	4/27（月）	4	藤原尚樹教授（解剖学講座　機能形態学分野）	**局所麻酔 1** **顎骨の解剖** 局所麻酔に必要な頭蓋骨の形態、筋隙を神経の走行から理解する。	1. 下顎孔伝達麻酔に関わる翼突下顎隙と神経の関係性について解剖学的に説明できる。 2 . 眼窩下孔伝達麻酔と関係する神経の走行について解剖学的に説明できる。 3. 浸潤麻酔の際に留意すべき顎骨の構造と関係する神経の走行について解剖学的に説明できる。 **[A-3-2-1,2,3,5,6,A-3-3-1,2,4,D-1-2-1-1]** 配布するテキストに書き込むと共に必要に応じてディスカッションしながら進める。 事前学修：口腔解剖学第2版の教科書P232～236と第2学年のテキストの関連領域について復習しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学修：頭蓋骨の形態と神経の走行経路についての三次元的配置についてまとめること。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	5/11（月）	3	黒瀬雅之教授（生理学講座　病態生理学分野）	**全身管理に必要な生理学1** **自律神経系** 自律神経系の機能的役割を学び、全身管理における生理学の重要性を理解する。	1. 神経系の種類を列記できる。 2. 交感神経系を概説できる。 3. 副交感神経系を概説できる。 4. アドレナリン受容体と薬理作用を説明できる。 5.アセチルコリンの作用を説明できる。 6.アトロピンの薬理作用を説明できる。 **[C-3-4)-(5)-⑦⑨]** 事前学修：2年次に用いた講義用資料を読み直して、知識の確認を行うこと。
講義	5/11（月）	4	黒瀬雅之教授（生理学講座　病態生理学分野）	**全身管理に必要な生理学2** **循 環** 心機能・血圧調節を学び、全身管理における生理学の重要性を理解する。	1. 心臓の解剖学的特徴を説明できる。 2. 刺激伝導系を説明できる。 3. 心臓の神経系による調節を説明できる。 4. 心周期を説明できる。 5. 前負荷と後負荷を説明できる。 **[C-3-4)-(4)-②]** 事前学修：2年次に用いた講義用資料を読み直して、知識の確認を行うこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	5/18（月）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**精神鎮静法** 精神鎮静法の概念、各種精神鎮静法を学ぶことで歯科治療時における精神鎮静法の必要性が理解できる。	1. 精神鎮静法の概念、目的、適応、禁忌、種類、実施法を説明できる。 2. 吸入鎮静法を説明できる。 3. 静脈内鎮静法を説明できる。 4. 静脈内鎮静法の使用薬剤を説明できる。 **[D-1-2-2, E-1-3-2]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第6章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	5/18（月）	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**全身麻酔法 1** 全身麻酔の理論、気道確保法を学ぶことで全身麻酔を理解することができる。	1. 全身麻酔の理論を説明できる。 2. 吸入麻酔法を説明できる。 3. 麻酔導入法・麻酔維持・麻酔の覚醒を説明できる。 4. 全身麻酔における気道確保法を説明できる。 **[D-1-2-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第7章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	5/25（月）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**全身麻酔法 2** 気管挿管法、各種麻酔法を学ぶことで全身麻酔を理解することができる。	1. 気管挿管の適応、手技を説明できる。 2. 静脈麻酔法を説明できる。 3. 全身麻酔時に行うモニタリングを説明できる。 **[D-1-2-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第7、9章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	5/25 (月)	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**全身麻酔法 3** **麻酔で使用する薬剤について** 神経筋伝達の機序および筋弛緩のモニタリングについて説明できる。	1. 神経筋伝達の機序を説明できる。 2. 主な筋弛緩薬について説明できる。 3. 筋弛緩モニタリングを説明できる。 4. 筋弛緩薬の拮抗について説明できる。 **[D-1-2-3-2]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第7章4を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/1 (月)	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**全身麻酔法 4** **麻酔で使用する器具について** 全身麻酔で使用する器具を学ぶことで全身麻酔についての理解が深まる。	1. 全身麻酔で使用する器具を説明できる。 2. 気管挿管の適応、手技を説明できる。 **[D-1-2-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第7章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/1 (月)	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**周術期管理 1** **術前管理** 術前管理を学ぶことで全身管理を理解することができる。	1. インフォームドコンセントを説明できる。 2. 経口摂取制限を説明できる。 3. 常用薬の取り扱いを説明できる。 **[E-1-4)-③]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第8章1を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	6/8 (月)	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**周術期管理 2** **術中管理・合併症** 術中管理と合併症を学ぶことで全身管理を理解することができる。	1. 呼吸・循環・体温管理を説明できる。 2. 酸塩基平衡の管理を説明できる。 3. 輸液・輸血を説明できる。 4. 呼吸器・循環器の合併症を説明できる。 5. 代謝性合併症を説明できる。 6. 悪性高熱症を説明できる。 **[D-1-2-3-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第8章2を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/8 (月)	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**周術期管理 3** **術後管理・合併症** 術後管理と合併症を学ぶことで全身管理を理解することができる。	1. 術後の全身管理を説明できる。 2. 術後全身合併症を列挙し、対処法を説明できる。 3. 術後疼痛管理を説明できる。術後鎮痛薬の種類と特徴を説明できる。 **[D-1-2-3-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第8章3を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/15 (月)	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**歯科外来の全身麻酔** 歯科外来における全身麻酔法を理解することができる。	1. 外来全身麻酔の概念を説明できる。 2. 障がい者の麻酔を説明できる。 3. 歯科外来全身麻酔の適応を説明できる。 4. 歯科外来全身麻酔として選択すべきではない症例を説明できる。 5. 歯科外来全身麻酔の流れを説明できる。 **[D-1-2-3, E-2-3, D-5-7-1]** 事前学修：　臨床歯科麻酔学第6版第9章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	6/15 （月）	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**小児と高齢者の全身麻酔** 小児の解剖・生理学的特徴、高齢者の身体の医学的特徴・老化による身体的変化を学ぶことで小児と高齢者に対する全身麻酔法を理解することができる。	1. 小児の解剖・生理学的特徴と麻酔との関係を説明できる。 2. 小児の全身麻酔の方法、特徴を説明できる。 3. 高齢者の身体の医学的特徴を説明できる。 4. 老化による身体的変化を説明できる。 5. 高齢者に対する全身麻酔を説明できる。 **[D-1-2-3, E-2-3, D-5-7-1]** 事前学修：　臨床歯科麻酔学第6版第10、11章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/22 （月）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**歯科治療時の全身的合併症・偶発症 1** 全身的合併症・偶発症とそのメカニズムを学ぶことで対処法を理解することができる。	1. 血管迷走神経反射を説明できる。 2. 過換気症候群を説明できる。 3. 術中異常高血圧を説明できる。 4. 心筋虚血を説明できる。 5. 不整脈を説明できる。 6. 急性心不全を説明できる。 **[D-1-2-1-5]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第12章を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	6/22 （月）	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**歯科治療時の全身的合併症・偶発症 2** 全身的合併症・偶発症とそのメカニズムを学ぶことで対処法を理解することができる。	7. 脳卒中を説明できる。 8. 気管支喘息を説明できる。 9. 糖尿病性昏睡を説明できる。 10. 低血糖性昏睡を説明できる。 11. 仰臥位低血圧症候群を説明できる。 12. 異物の誤飲・誤嚥を説明できる。 **[D-1-2-1-5]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第12章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	6/29 （月）	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**救急救命処置** 救命処置を学ぶことで救急時の対処法を理解することができる。	1. 救急蘇生法を説明できる。 2. 救命の連鎖を説明できる。 3. 一次救命処置を説明できる。 4. 成人における窒息の解除を説明できる。 5. 二次救命処置を説明できる。 6. 小児の救急蘇生法を説明できる。 7. 脳死について説明できる。 **[D-1-1]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第13章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	6/29 （月）	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**ペインクリニック** 顎口腔領域の疼痛性および麻痺性疾患を学ぶことで疼痛管理の重要性を理解することができる。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛及び麻痺性疾患を説明できる。 2. 三叉神経痛の概念、症状及び治療法を説明できる。 3. 顔面神経麻痺の概念、症状及び治療法を説明できる。 4. 星状神経節ブロックの適応、方法及び合併症を説明できる。 **[D-3-1-9, D-5-9-5]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第14章を読み、疑問点を抽出しておくこと。
講義	7/6 （月）	3	大畑光彦准教授 （麻酔学講座）	**東洋医学療法** 特に口腔顔面痛に対して東洋医学療法を理解することができる。	1. 東洋医学の病態について説明できる。 2. 東洋医学療法の進め方を説明できる。 3. 漢方療法・鍼灸療法を説明できる。 4. 口腔顔面痛に対する漢方療法を説明できる。 **[E-1-3-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学第6版第15章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	7/6 (月)	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**救急薬剤について** 救急薬を学ぶことで救急時の薬剤投与を理解することができる。	1. 循環器系に作用する薬剤を説明できる。 2. 抗けいれん薬を説明できる。 **[D-1-2-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版第16章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	7/13 (月)	3	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**麻酔に必要な生理学1** 麻酔を行う際に必要な生理学を理解することができる。	1. 循環生理、特に低酸素性肺血管収縮を説明できる。 2. 呼吸生理、特にスパイログラムから鑑別する肺疾患について説明できる。 3. 神経生理、特に自律神経に作用する薬物を説明できる。 **[D-1-2-3-1]** 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版第2章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	7/13 (月)	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座　歯科麻酔学分野）	**麻酔に必要な生理学2** 麻酔を行う際に必要な生理学を理解することができる。	1. 酸塩基平衡、特に酸塩基平衡異常の原因について説明できる。 2. 動脈血液ガス分析について説明できる。 **[D-1-2-3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学 第6版第2章を読み、疑問点を抽出しておくこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：授業で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	臨床歯科麻酔学　第6版	丹羽均ほか編著	永末書店	2021年
参	今日の治療薬：解説と便覧 2023年版	川合眞一ほか編	南江堂	2023年
参	歯科麻酔学　8版	福島和昭ほか編	医歯薬出版	2019年
参	基礎歯科生理学　7版	岩田幸一ほか編	医歯薬出版	2020年
参	生理学テキスト　9版	大地陸男 著	文光堂	2022年
参	口腔解剖学　第2版	井出吉信ほか編	医歯薬出版	2018年

成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験（最終試験）評価点 ＝ 65点以上を合格とする。

到達目標	DP	定期試験	その他	合計
1	4	25		25
2	4，6	25		25
3	4	25		25
4	1，4	25		25
合計		100		100

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

再試験について
評価点が65点未満の場合には、学期末に行われる再試期間に再試を受けることができます。再試は全ての範囲です。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有　（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
カラー複合機・DocuCentre Ⅳ	C3370P	1	基礎実習・臨床実習用機器	講義資料作成用
ノートパソコン・MacBookAir　一式	11ｲﾝﾁ MC505J/A	1	基礎実習・臨床実習用機器	講義資料作成用
ノートブックパソコン・MacBookAir・一式	CTO Education ZOJK	1	基礎実習用機器	講義資料作成・提示用
ノートパソコン・VAIO	VPCS149FJ/B	1	基礎実習用機器	講義資料作成・提示用
デスクトップパソコン・MacPro	2.4GHz 8Core Xeon ZOLG	1	基礎実習用機器	講義資料作成用
カラー複合機・一式	imagio MPC3301	1	基礎実習・臨床実習用機器	講義資料作成用
ノートパソコンＬｅｔｓ note B10	CF-B10 CWHDR	1	基礎実習・臨床実習用機器	講義プレゼンテーション用
ノートパソコン・MacBookAir		1	基礎実習・臨床実習用機器	講義プレゼンテーション用
ノートパソコン　MacBook Pro		1	基礎実習用機器 視聴覚機器	症例プレゼンテーション用

デスクトップパソコン	MC813J/A	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	実習資料保存 症例プレゼンテーション用
Ettan IPGｐhor+Strip　Holder一式		1	基礎実習用機器	実習試料作成用
ノートパソコン MacBook Pro	MD101J/A Education	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	症例プレゼンテーション用
デスクトップパソコン	Vostro 470 ミニタワー	1	基礎実習用機器 視聴覚機器	講義に使用する配布資料の作成
デジタルカメラ一式	OM-D　E-M10	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例提示資料の作成
ノートパソコン・MacBook Air　11インチ		1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義プレゼンテーション 症例提示用
歯科用ユニット　スマイリー 一式	GMP2-MS1211	1	臨床実習用機器	全身管理、精神鎮静法の実習
ノートパソコン・MacBookPro	MGXA2JA	1	視聴覚用機器	講義資料提示用
デスクトップパソコン・iMac27 一式	Retina5K Z0QX　Academic	1	視聴覚用機器	講義資料提示用
ノートパソコン・dynabook　一式	PR73PBP-SHA	1	視聴覚用機器	講義資料提示用
両袖机	LE-157D-33	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
MacBookPro RetinaDisplay	Z0QN BTO Academic	1	視聴覚用機器	講義でpptでの視聴覚素材供覧に使用
プレゼンテーションマウス	ELAMGU91	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション
メディカルビデオレコーダー	UR-4MD	1	視聴覚用機器	実際の手術術式の供覧
27ｲﾝﾁ iMac Retina 5Kﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ 一式	Z0SC　Academic	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション作製
ノートパソコン 一式	PC-NS150CA	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション
ノートパソコン	CFSZ5HDKRP	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション
CEチェア　RXタイプ	CE68RXP794	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション作製
Macmini CoreI5	MGEQ2JA(SSS)	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション作製
一眼レフカメラ	EOS80D(SSS)	1	視聴覚用機器	実際の症例の供覧
マクロリングライト	MR14EX2	1	視聴覚用機器	実際の症例の供覧
ノートパソコン・MacBookAir	13ｲﾝﾁ　Z0RJ Academic	1	基礎実習・研究用機器	授業の資料提示用
デスクトップ型パソコン	XPS89000	1	基礎実習・研究用機器	授業の資料作成及び研究データ解析用
冷蔵庫	SJS17B	1	基礎実習・研究用機器	実験、実習試料及び試薬の保存
ノートパソコン ProBookNotebookPC	450　G2	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
複合機 一式	MP C3504SP	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
ノートパソコン	B9440UA-750016	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
ノートパソコン	UX430UN-8550	1	視聴覚用機器	講義資料の作成
レーザー血流計	ALF21D	1	基礎実習・研究用機器	講義資料作成及び研究
ノートパソコン	OneMix 2s	1	視聴覚用機器	授業のデモ及び研究データ解析用
ノートパソコン MacBookPro	MPXQ2JA	1	視聴覚用機器	授業のデモ及び研究データ解析用
タブレットパソコン11インチiPadPro Wi-Fi128GB一式	MY232J/A	1	視聴覚用機器	講義の資料提示用

法歯科医学・災害歯科医学

責任者・コーディネーター	法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）熊谷　章子　教授				
担当講座（分野）	法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）				
対象学年	4	区分・時間数		講義/演習	実習
期間	前期		前期	14.0時間	14.0時間
			後期		

学修方針（講義概要等）

3年次までに学び得た歯学的知識に加え、本科目で学ぶ法医学的知見から、適切で正確な身元不詳者の個人識別方法を学修する。
歯科医師の法的責任が発生した過去の事案を追求することで、歯科医師として法令を遵守する態度を習得する。
災害被災者への歯科保健医療活動、虐待防止等における歯科医師の責務を知り、歯科医師が国民の健康を守る重要な立場にあることを理解する。
これらを実践的な方法で学び、様々な状況でも対応できる能力を身につける。

教育成果（アウトカム）

【講義】
法歯科医学・災害歯科医学を実例から学ぶことで、法医学領域における歯科医師の責務を理解し、災害発生時の歯科保健医療活動や犠牲者個人識別に備える態度が身につく。
虐待予防、早期発見、発見時の対応を理解することで実行に移すことができる。
【実習】
適切で正確な歯科的個人識別方法が身につく。災害発生時の歯科医師としての役割と、多職種と連携した柔軟な対応方法が身につく。咬傷鑑定方法を考える能力が身につく。

（関連するディプロマポリシー：1、2、3、4、5、7、8、9）

到達目標（SBOs）

1.身元不詳者個人識別のための性差や加齢変化について説明できる。
2.歯科情報を使用した身元不明者とその候補者となる行方不明者を正しく照合し、異同判定の根拠を説明できる。
3.歯科医師の法的責任について説明できる。
4.被虐待者の所見と、発見時の対応を説明できる。
5.災害時に歯科医師としての責務を果たす準備ができる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】
シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し、教科書を用いて調べて、ノートにまとめておくものとする。各回平均30分を要する。また、各講義に対する事前配布資料またはWeb classに提示される講義資料がある場合には、適宜活用することとする。
各講義の冒頭または講義中に、適宜、事前学修内容の発表時間を設けて知識の習得状況を確認する。
【事後学修】
講義後に確認テストを実施する。理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［コア・カリキュラム］** 事前事後学修
講義	4/2（木）	1	熊谷章子教授 （法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**法歯科医学概論** 法歯科医学の概要を理解する。 講義・ディスカッション	1. 法歯科医学用語を説明できる。 2. 異状死について説明できる。 3. 身元不明者の個人識別について説明できる。 4. 災害時における法歯学の役割を説明できる。 **[PR-01、GE-05、PS-10、CM-04・05、IP-01・02・03・04、SO-06、A-2-3-4、 C-1-1-2、 C-1-3-2・3・4、C-4-1-1、C-4-3-7・8、C-4-4-2・3]** 事前学修：法歯科医学p1-5、p83-99、p181-194を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。
講義	4/16（木）	1	熊谷章子教授 （法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**法と歯学** 法律と歯科医療を理解する。 講義・ディスカッション	1. 歯科医師の法的責任を説明できる。 2. 正当行為と不法行為を説明できる。 3. 医療事故調査制度を説明できる。 4. 医療事故・過誤を説明できる。 5. 死体解剖について説明できる。 6. 死因究明等の推進制度を説明できる。 7. 死亡診断ができる。 8. 死亡診断書を書くことができる。 **[PR-01、C-1-1-2、C-1-2-1・2・5、C-1-3-5、C-3-2-1・2、C-4-2-1・2]** 事前学修：法歯科医学p6-16、p195-209を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。

講義	4/23（木）	1	熊谷章子教授（法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**法医学概論** 法病理学を理解する。講義・ディスカッション	1. 生活反応と死後変化の区別ができる。 2. 早期・晩期死体現象について説明できる。 3. 死因とその死体所見を説明できる。 4. 薬物中毒と依存の違いについて説明できる。 5. 代表的な中毒の外表所見を説明できる。 **[PR-01、A-2-3-4、C-1-1-2、 C-4-1-1、C-4-4-2・3]** 事前学修：法歯科医学p17-37、p41-53、p65-82を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。
実習	4/30（木）	1	熊谷章子教授（法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**法医学的個人識別実習** 身元不詳者の個人識別方法を習得する。	1. 人骨形態から引き出せる情報を説明できる。 2. 人骨から性別判定ができる。 3. 人骨から死亡時年齢を推定できる。 4. 歯科的年齢推定の方法を説明できる。 5. 歯科的個人識別の方法を説明できる。 6. 歯科所見をデンタルチャートに記入できる。 7. グループワークを通して疑問点を解決することができる。 **[PR-01、A-2-3-2、A-2-4-5・7、C-4-2-2、C-4-4-1]** 事前学修：法歯科医学p100-129、p134-145、p156-167を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	5/14（木）	1	熊谷章子教授（法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**法医学的年齢推定実習** 歯からの年齢推定法を習得する。	1. 歯の成長発育や加齢変化に関する知識を使用して、歯から個人の年齢推定ができる。 2. グループワークを通して疑問点を解決することができる。 **[A-2-3-2、A-2-4-5・7]** 事前学修：歯の解剖学を復習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/21（木）	1	熊谷章子教授（法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**虐待** 虐待と歯科医師の関りを理解する。 講義・プレゼンテーション	1. 虐待の種類を説明できる。 2. 虐待の徴候と対応を説明できる。 3. 虐待防止制度を説明できる。 4. 虐待に対する歯科医師の責務を説明できる。 5. 虐待発見時の通報先を説明できる。 6. 咬傷鑑定について説明できる。 7. 被害者の咬傷と被疑者の歯列弓を科学的に分析できる。 8. 科学的分析結果についてプレゼンテーションを実施できる。 **[PR-01、C-1-3-3・4・5、C-4-2-2、C-4-3-5・6、C-4-4-2、D-5-6-10、D-5-7-10]** 事前学修：法歯科医学p 38-40、p54-64を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。
講義	6/18（木）	1	眞瀬智彦教授（救急・災害医学講座）	**災害医学概論** 災害医学の概容を理解する。 講義・ディスカッション	1. 過去に起きた大規模災害とその問題について説明できる。 2. 平時と災害時の医療の違いを説明できる。 3. 災害医療の基本理念を説明できる。 4. 災害拠点病院について説明できる。 5. DMAT、JMATについて説明できる。 6. 災害時傷病者トリアージについて説明できる。 7. 多職種による災害時対応の意義を説明できる。 **[C-1-3-2・3・4、C-4-3-7・8]** 事前学修：我が国の過去の災害とその被害状況を調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。
実習	6/25（木）	1	熊谷章子教授（法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**発災後経時的活動記録実習** 災害発生直後に対応できる能力を習得する。	1. 災害歯科医学用語を説明できる。 2. 災害時に必要な医療支援を説明できる。 3. グループワークを通して、発災後の経時的活動記録（クロノロジー）の重要性を説明できる。 **[C-1-3-2・3・4、C-4-3-7・8]** 事前学修：岩手県の地域防災計画に目を通しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/2 (木)	1	菊月圭吾 客員教授	**警察協力歯科医による検死活動** 平時・災害時の歯科医師による検死活動を理解する。 講義・ディスカッション	1. 警察歯科医について説明できる。 2. 災害犠牲者に対する歯科医師の役割を説明できる。 3. 災害現場の遺体安置所での歯科医師の活動を説明できる。 4. 身元不明死体と候補者との照合について説明できる。 **[C-1-3-5、C-4-2-1、C-4-2-2、C-4-3-8、C-4-4-1]** 事前学修：法歯科医学p187-190を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。
実習	7/9 (木)	1	熊谷章子教授 （法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**大規模災害犠牲者対応実習１** 災害時の歯科医師の役割と多職種が連携した対応について理解する。	1. 災害現場出動のための準備が行える。 2. 安全に配慮した災害対応が行える。 3. 犠牲者に対する他職種の役割を理解できる。 4. 災害被災者、犠牲者に対する多職種と連携した作業が行える。 5. 災害犠牲者身元確認に関する日本の制度を説明できる。 6. 災害対応者の心的ストレス、PTSDについて説明できる。 7. 海外の身元確認システムを説明できる。 8. DVIチームについて説明できる。 9. DMORTについて説明できる。 10. グループワークを取り入れて、災害現場の遺体安置所設営が行える。 **[PR-01、C-1-3-2・3・4・5、C-4-2・2、C-4-3-8、C-4-4-1]** 事前学修：法歯科医学p187-194を読み、疑問点を抽出しておくこと。岩手県の地域防災計画に目を通しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/16 （木）	1	中久木康一 非常勤講師	**災害時歯科保健医療活動** 災害時の歯科保健医療活動を理解する。 講義・ディスカッション	1. 災害医療に関わる法律について説明できる。 2. 災害発生時の歯科医師としての立場とその役割を理解できる。 3. 災害避難者に対する歯科医師の役割を説明できる。 4. 災害時の歯科保健医療の必要性を理解できる。 5. 被災者の口腔ケアの重要性について説明できる。 6. JDAT、DHEATについて説明できる。 7. 災害関連死について説明できる。 **[PR-01、GE-05、PS-10、CM-04・05、IP-01・02・03・04、SO-06、C-1-3-2・3・4、C-4-1-2、C-4-2-2、C-4-3-7・8]** 事前学修：法歯科医学p186-187を読み、加えてWebClassに掲示したURLを閲覧し、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義の最後に実施する確認テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間45分程度。
実習	7/16 （木）	2	中久木康一 非常勤講師	**災害時避難所対応実習** 災害時避難所の歯科保健管理が行える力を習得する。	1. グループワークを通して、災害時避難所のアセスメントを行うことができる。 **[GE-05、PS-10、CM-04・05、IP-01・02・03・04、SO-06、C-1-3-2・3・4、C-4-1-2、C-4-2-2、C-4-3-7・8]** 事前学修：我が国の過去の災害とその被災者数を調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	7/23 （木）	1	熊谷章子教授 （法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**大規模災害対応実習２** 正確なデンタルチャートの記入方法を習得する。 遺体のデンタルエックス線写真撮影法を取得する。	1. 死後記録として有用なデンタルチャートを完成させることができる。 2. グループワークを通して疑問点を解決することができる。 **[C-4-2-2、C-4-3-8、C-4-4-1]** 事前学修：我が国の過去の災害とその犠牲者数を調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

実習	8/20（木）	1	熊谷章子教授（法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**大規模災害対応実習３** 照合による歯科的個人識別法を習得する。	1. 生前記録との照合作業ができる。 2. 学生同士でのディスカッションを通して、正確で適切な歯科的個人識別について説明できる。 3. オンラインシステムを利用した生前－死後照合用アプリケーションを利用した効率的な犠牲者対応ができる。 **[C-4-2-2、C-4-3-8、C-4-4-1]** 事前学修：我が国の過去の災害での犠牲者身元確認方法を調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解不十分であった点については知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	法歯科医学 第2版	髙橋雅典　監修、都築民幸、山田良広、櫻田宏一　編	永末書店	2022年
参	災害歯科医学	槻木恵一、中久木康一編	医歯薬出版	2018年
推	東日本大震災から15年　日本は変われたのか	日本身元不明・行方不明者対策チーム	学術研究出版	2026年

成績評価方法・基準・配点割合等

総括評価：
定期試験（記述および多選択肢問題）90%、実習成果物　10%
ただし、授業態度、礼節、欠席、遅刻等、状況に応じて減点する。

形式的評価：
講義毎のポストテストで理解度を確認し、次回講義でフィードバックする。

到達目標	DP	実習成果物	定期試験	合計
1	4,7,8	2	10	12
2	1,3,4,5,7	2	30	32
3	8,9	2	10	12
4	1,2,3,4,5	2	10	12
5	1,2,3,4,5,7	2	30	32
合計		**10**	**90**	**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【フィードバック】
・非常勤講師担当以外の講義では講義後に試験（ポストテスト）を行い、次回講義開始時にフィードバックする。
・実習で作成されたプロダクトを他の学生と共有し相互でブラッシュアップする。
【アクティブラーニング】
・各授業の中では学生同士で話し合う時間を設け、個々の理解を図る。
・各実習ではグループワークを実施し、他者に伝える力の強化を図る。
【ICT】
・講義前にWeb Classに資料を配信する。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
NOMAD Pro2	8500025	2	基礎実習用機器	基礎実習時の指導用
AIWA 10.5インチ2IN1 PC	JA2-TBA1001	2	基礎実習用機器	基礎実習時の指導用
AIWA 10.1インチタブレット	JA2-TBW1002	2	基礎実習用機器	基礎実習時の指導用

医科学（4年）

責任者・コーディネーター	口腔医学講座（関連医学分野）千葉 俊美 教授				
担当講座（分野）	口腔医学講座（関連医学分野）、薬理学講座（病態制御学分野）、口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野）、医学部各講座				
対象学年	4	区分・時間数 （1コマ2時間換算）		講義/演習	実習
期間	通期		前期	54.0時間	―
			後期	44.0時間	―

学修方針（講義概要等）

4年次で歯科医師が必要とする医学的知識の習得を目的とし、さらなる専門分野の知識を得ることにより、歯科診療上重要な疾患の病因･病態と診断･治療について学修する。

教育成果（アウトカム）

口腔医学の観点から歯科診療上重要な眼科学、産婦人科学、皮膚科学、小児科学、泌尿器科学、精神神経科学、臨床検査医学などの疾患の病因･病態と診断･治療を学び、主要疾患の基本的知識を習得することで、口腔と全身の関わりを理解するとともに、全人的医療の一環としての歯科医療人が育成される。

（関連するディプロマポリシー：3、4、8）

到達目標（SBOs）

1.泌尿器疾患、腫瘍の発生、転移、がん遺伝子と化学療法、小児科疾患、眼科疾患、臨床検査学、輸血療法、細菌学検査、産婦人科疾患、精神・神経疾患、皮膚科疾患、冠動脈バイパス術、感染性心内膜炎と弁膜症の外科、非アルコー性脂肪性肝疾患（NAFLD）、上部消化器疾患、循環器疾患診療の進歩、神経変性疾患、脳血管障害、救急医療、内科救急、臓器移植、頭頸部の画像診断と治療への応用、肝疾患、消化器疾患と外科治療、PET診療の基礎知識、骨粗鬆症、関節リウマチ、下部消化管疾患と外科治療、胆膵疾患、救急の画像診断、心身医学、咽喉頭部疾患、耳鼻科疾患、内分泌代謝疾患、脳血管障害の外科治療、がん治療と口腔管理、腹部救急疾患、腎疾患、高磁場MRIの現状と臨床応用、肺癌、集中治療について理解し説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

[事前学修]シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。
[事後学修]講義資料や教科書等を用いて事後学習を行うこと。各授業に対する事後学習の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[コア・カリキュラム]** 事前事後学修
講義	4/7（火）	2	阿部貴弥教授（泌尿器科学講座）	**1. 泌尿器科学2-腎不全とその治療**	以下の項目について理解し説明できる。 1. 急性腎障害, 慢性腎臓病の原因・病態・治療 2. 透析療法と腎移植 3. 透析および腎移植症例での歯科治療上の留意点 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 急性腎障害、慢性腎臓病、透析療法、腎移植 **[事前学修]腎臓に関する解剖および機能について確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。** **[事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。**
講義	4/8（水）	5	兼平貢講師（泌尿器科学講座）	**2. 泌尿器科学1-泌尿器総論**	以下の項目について理解し説明できる。 1. 泌尿器の解剖・生理 2. 泌尿器疾患の病態生理・症候 3. 泌尿器疾患での歯科治療の留意点 4. 尿路感染症、性行為関連感染症の病態と治療 5. 腎・尿管・膀胱結石の病態と治療 6. 泌尿器科疾患での歯科治療の留意点 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 泌尿器の解剖・生理、泌尿器疾患の病態生理・症候、尿路感染症、腎・尿管・膀胱結石 [事前学修]泌尿器科学および尿路に関する解剖および機能について確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	4/13 (月)	5	千葉俊美教授（口腔医学講座 関連医学分野）	**3.身体所見とリスク評価と主要徴候および感染症・院内感染**	以下の項目について理解し説明できる。 1.バイタルサインの原理と測定 2.胸痛、ショック、頭痛、意識障害、呼吸困難、出血 3.感染症の分類、主要な症候、病態 4.院内感染経路および院内感染防止対策感染防止対策 **[E-6-②]** （口腔医学キーワード） バイタルサイン、胸痛、ショック、頭痛、意識障害、呼吸困難、出血、感染症、院内感染 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	4/14 (火)	1	西塚哲教授（医療開発研究部門）	**4.腫瘍の発生、転移、がん遺伝子と化学療法**	以下の項目について理解し説明できる。 1.腫瘍の概念、病因 2.腫瘍の発育様式、転移 3.がん遺伝子・がん抑制遺伝子 4.悪性腫瘍の症候、病態と診断 5. 抗癌剤の種類と佐作用機序 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 腫瘍、転移、がん遺伝子、がん抑制遺伝子、アポトーシス、分子標的マーカー、化学療法 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	4/23 (木)	5	今泉利康講師（眼科学講座）	**5.眼科学総論-視覚器の解剖と機能**	以下の項目について理解し説明できる。 1.眼球の横断面の構造 2.眼球と付属器の発生 3.網膜から視神経、後頭葉に至る視覚伝導路の発生 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） [事前学修]眼科学に関する解剖および機能を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	4/28 (火)	3	井上義博名誉教授 （救急・災害医学講座）	**6.救急医療** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な救急医療の主要症候と病態等を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.岩手医科大学の救急医療システム 2.救急医療の現状と対応 3.頭頸部外傷の現状と対応 4.ドクターヘリの現状 5.トリアージ **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 救急医療、救急医療システム、頭頸部外傷、交通外傷、ドクターヘリ、トリアージ [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	4/28 (火)	4	中居賢司客員教授	**7.循環器疾患診療の進歩と歯科医療での課題** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な循環器疾患診療の進歩～主要症候と病態を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.口腔（歯科）診療に必要な循環器疾患診療の進歩 2.歯科治療中の主な不整脈発作の心電図上の特徴 3.心房細動での抗凝固療法について 4.ペースメーカー、植込み型除細動器の意義 5.大動脈弁狭窄症での歯科治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 期外収縮、心房細動、心室頻拍、心室細動、房室ブロック、心臓ペースメーカー、埋込み型除細動器（ICD）、抗凝固療法大動脈弁狭窄症 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	5/15 (金)	1	及川誠講師（眼科学講座）	**8.歯科・口腔外科領域および全身疾患と眼**	以下の項目について理解し説明できる。 1.口腔、上顎洞、眼窩の解剖学的関係 2.歯科・口腔外科疾患による眼合併症 3.口腔内と眼病変を伴う全身疾患の症状、病態と治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） [事前学修]眼科学に関する解剖および機能を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	5/19 (火)	1	藤原亨准教授（臨床検査医学・感染症学講座）	**9.輸血検査・輸血療法、GVHD**	以下の項目について理解し説明できる。 1.輸血検査（血液型検査、不規則抗体スクリーニング検査、交差適合試験、輸血後感染症に関する検査） 2.輸血療法（輸血の適応と輸血の副作用） 3.輸血後GVHDの病態と予防方法 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 輸血、GVHD [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	5/19 (火)	2	日比谷健司助教（臨床検査医学・感染症学講座）	**10.細菌学的検査**	以下の項目について理解し説明できる。 1.感染症診断における細菌検査の意義 2.グラム染色と薬剤感受性試験 3.臨床的に問題となる薬剤耐性菌（MRSAなど） **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 細菌検査、薬剤感受性試験、薬剤耐性菌（MRSAなど） [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	5/26 （火）	1	永沢崇幸特任講師 （産婦人科学講座）	**11. 産科学総論**	以下の項目について理解し説明できる。 1. 妊娠経過 2. 分娩経過 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 妊娠、分娩 [事前学修]分娩進行過程および周産期の母胎の生体変化を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	5/26 （火）	2	利部正裕特任准教授 （産婦人科学講座）	**12. 婦人科学総論**	以下の項目について理解し説明できる。 1. 女性性器の構造、機能 2. 婦人科良性疾患 3. 婦人科悪性腫瘍の診断と治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 婦人科良性疾患、婦人科悪性腫瘍 [事前学修]婦人科学に関する解剖および機能を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	5/28 （木）	1	橋浦哲哉講師（眼科学講座）	**13. 角膜移植と角膜屈折矯正手術、白内障手術**	以下の項目について理解し説明できる。 1. 角膜移植の適応となる疾患や方法 2. 角膜屈折矯正手術の適応と方法 3. 白内障の種類 4. 白内障手術の適応と方法 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 角膜移植、角膜屈折矯正手術、白内障 [事前学修]眼科学に関する解剖および機能を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	6/1 (月)	5	中西啓教授（耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座）	**14.鼻・副鼻　腔解剖生理と疾患** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な鼻・副鼻腔の解剖生理と疾患を理解する	以下の項目について理解し説明できる。 1.鼻・副鼻腔の解剖と生理 2.鼻・副鼻腔の疾患の症状と治療 3.食道異物、気管支異物に対する検査・治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 鼻・副鼻腔の疾患 食道異物、気管支異物 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	6/8 (月)	5	中西啓教授（耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座）	**15.聴覚・平衡解剖生理** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な聴覚・平衡解剖生理の意義を理解する	以下の項目について理解し説明できる。 1.側頭骨解剖 2.伝音機構 3.内耳の聴覚・平衡生理 4.聴覚検査 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 側頭骨解剖、伝音機構、内耳、平衡生理、聴覚検査、難聴 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	6/9 (火)	1	三田俊成講師（神経精神科学講座）	**16.精神・神経疾患総論**	以下の項目について理解し説明できる。 1.主な精神症状 2.精神科疾患 3.歯科に関連する精神障害 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 精神症状、精神科疾患 [事前学修]精神神経医学に関する国家試験問題，教科書および過去の講義資料を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	6/9 (火)	2	渡部大輔准教授（皮膚科学講座）	**17.皮膚科学1**	以下の項目について理解し説明できる。 1.皮膚と粘膜の解剖・生理 2.皮膚疾患と粘膜病変のかかわり 3.歯科（口腔疾患）と皮膚粘膜の関連性 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） [事前学修]皮膚科学に関する解剖および機能を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	6/16 (火)	1	王挺講師（口腔医学講座 関連医学分野）	**18.消化器疾患と口腔内細菌叢、非アルコー性脂肪性肝疾患（NAFLD）の分子病態学**	以下の項目について理解し説明できる。 1. 口腔/腸内細菌叢の異常とNAFLDの関連 2. 病原性口腔細菌を標的としたNAFLDの予防・治療法の開発 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） NAFLD、腸内細菌、口腔細菌 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	6/16 (火)	2	角田加奈子講師（皮膚科学講座）	**19.皮膚科学2**	以下の項目について理解し説明できる。 1.湿疹皮膚炎の機序と治療法 2.口腔粘膜病変を伴う薬疹の種類と治療 3.細菌性、ウイルス性、真菌・抗酸菌、性行為感染症の種類を列挙する 4.上記感染症の発症機序、治療法、予防法 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） [事前学修]皮膚科学に関する解剖および機能を確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	6/16 （火）	4	千葉俊美教授（口腔医学講座 関連医学分野）	**20.消化器良性・悪性疾患と重要な消化器疾患** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な消化器疾患について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.胃酸・消化の機能 2.消化性潰瘍の発生機序と鎮痛・消炎薬、ピロリ菌感染症 3.消化管憩室 4.機能性消化管疾患 5.食道癌の危険因子、疫学、検査、治療 6.胃癌の危険因子、疫学、検査、治療 7.大腸癌の危険因子、疫学、検査、治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 胃酸分泌機構、消化性潰瘍、消化性潰瘍の発生機序、ピロリ菌感染症、アラキドンサンカスケード、憩室症、機能性ディスペプシア、過敏性腸症候群、慢性便秘症、腸内細菌、食道癌、胃癌、大腸癌 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	6/23 （火）	1	片桐克則准教授（耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座）	**21.咽喉頭解剖生理と疾患** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な咽喉頭解剖生理と疾患を理解する	以下の項目について理解し説明できる。 1.咽喉頭の解剖と生理 2.嚥下のメカニズム 3.反回神経麻痺の原因と症状 4.咽喉頭の疾患の症状と治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 咽喉頭、嚥下のメカニズム、反回神経麻痺、咽喉頭の疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	6/23 (火)	2	山﨑知子非常勤講師 （埼玉医科大学 医学部国際医療センター 頭頸部腫瘍科 教授） 講義形態：Web	**22.がんの総論 がん治療と口腔管理** 口腔（歯科）診療を行う上で必要ながんの総論、がん治療と口腔管理について理解する。頭頸部癌疾患について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1. がん総論 2. がん治療と口腔管理 3. 頭頸部癌疾患 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） がん総論、頭頸部疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	6/26 (金)	3	前田哲也教授（内科学講座 脳神経内科・老年科分野）	**23.神経変性疾患、その他の神経疾患** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な脳神経系の病態を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.Parkinson病と類縁疾患、認知症疾患 2.その他の代表的神経疾患 **[E-6-②]** （口腔医学キーワード） Alzheimer病と認知症疾患、Parkinson病と類縁疾患、神経感染症、脱髄性疾患、末梢神経疾患、筋疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	6/29 (月)	2	板橋亮教授（内科学講座 脳神経内科・老年科分野）	**24.脳血管障害** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な脳血管の病態を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.脳卒中の定義と種類 2.脳血管の解剖と神経症候 3.脳卒中の治療と予防 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 脳血管障害（脳梗塞、脳出血）、巣症状 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	8/18 (火)	3	千葉俊美教授（口腔医学講座 関連医学分野）	**25.心電図1** 心電図を理解する1	以下の項目について理解し説明できる。 1.心電図の誘導法 2.心電図波形 3.心電図波形の異常 4.不整脈の波形 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 心電図、不整脈 [事前学修]講義内容を確認し、図解心電図テキストを必ず講読し問題を解き事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	8/18 (火)	4	千葉俊美教授（口腔医学講座 関連医学分野）	**26.心電図2** 心電図を理解する2	以下の項目について理解し説明できる。 1.心電図の誘導法 2.心電図波形 3.心電図波形の異常 4.不整脈の波形 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 心電図、不整脈 [事前学修]講義内容を確認し、図解心電図テキストを必ず講読し問題を解き事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	8/21 (金)	4	千葉俊美教授（口腔医学講座 関連医学分野）	**27.心電図3** 心電図を理解する3	以下の項目について理解し説明できる。 1.心電図の誘導法 2.心電図波形 3.心電図波形の異常 4.不整脈の波形 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 心電図、不整脈 [事前学修]講義内容を確認し、図解心電図テキストを必ず講読し問題を解き事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	9/9 (水)	1	髙橋智弘講師（総合診療医学講座）	**28.内科救急** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な内科救急の主要症候と病態の理解と対処法を理解する。	以下の項目について説明できる。 1.一次救命処置（BLS）：心肺蘇生+AED 2.意識障害患者と窒息患者への初期対応 3.二次救命処置（ALS） 4.心停止の鑑別診断 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 気道確保、胸骨圧迫、人工呼吸、心室細動、AED [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	9/9 (水)	4	梅邑晃准教授(外科学講座)	**29.臓器移植** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な臓器移植について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.臓器移植の歴史 2.臓器移植法 3.拒絶反応 4.移植片対宿主病 5.肝臓移植 6.肝臓移植例での歯科治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 移植、免疫抑制剤、肝硬変、黄疸、意識障害 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	9/16 (水)	2	井本逸勢 非常勤講師（愛知県がんセンター研究所 所長）講義形態：Web	**30.特別講義　がんの遺伝学と遺伝性腫瘍入門** 口腔（歯科）診療を行う上でがんの遺伝学と遺伝性腫瘍について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1. がんが遺伝子の病気であることを説明できる。 2. がん診療で遺伝性を考慮する意義を説明できる。 **「A-1-3-4」、「A-5-6-1」，「D-2-3-1」，「D-2-3-6」** （口腔医学キーワード） がん遺伝子、遺伝性腫瘍 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	9/30 （水）	1	柿坂啓介准教授（内科学講座 消化器内科分野）	**31.肝疾患** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な肝、胆、膵疾患について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.肝臓、胆嚢、膵臓の構造、機能、病態 2.肝機能・肝障害の評価方法 3.慢性肝疾患の主要な症候、病態 4.肝硬変の病態 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 肝機能、肝障害、ウイルス肝炎（B型およびC型肝炎ウイルス）、非アルコール性脂肪肝、肝硬変、肝癌 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	9/30 （水）	2	佐々木章教授（外科学講座）	**32.消化器疾患と外科治療** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な消化器疾患と外科治療について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.消化器疾患の主要な病態と症候 2.クリニカルパス 3.内視鏡外科手術 4.全身管理に注意すべき消化器疾患 5.高齢者歯科診療で注意すべき消化器疾患 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 消化器疾患、貧血、黄疸、術前管理、術中管理、術後管理 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	10/7 （水）	1	田中良一教授（口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線分野）	**33.PET診療の基礎知識** がん診療におけるPETの役割と限界を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.画像化の原理 2.偽陽性と偽陰性 3.検査の前処置 4.医療従事者の放射線防護 5.検査の適用 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） ポジトロンエミッショントモグラフィ(PET)、 悪性腫瘍、炎症，放射線防護，適用 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	10/7 (水)	2	佐々木章教授（外科学講座）	**34.内分泌・代謝疾患と外科治療** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な内分泌・代謝疾患の病態、周術期管理と治療について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.甲状腺・副甲状腺の解剖と生理 2.膵臓の解剖と生理 3.副腎の解剖と生理 4.肥満症の病態 5.口腔症状を呈する内分泌・代謝疾患 6.甲状腺機能亢進症の周術期管理と治療 7.肥満症の周術期管理と治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 体重減少、体重増加、頻脈、徐脈、血圧上昇、下痢、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副甲状腺機能亢進症、Cushing病、アルドステロン症、糖尿病 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	10/9 (金)	4	大竹伸平助教（整形外科学講座）	**35.関節リウマチと外科治療** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な関節リウマチの病態と外科治療を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.関節炎の概要 2.関節リウマチの概要と治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 関節炎、関節リウマチ、脊髄障害、開口障害、嚥下障害 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	10/14 (水)	1	小泉淳一准教授（心臓血管外科学講座）	**36.冠動脈バイパス術、感染性心内膜炎と弁膜症の外科**	以下の項目について理解し説明できる。 1.冠動脈バイパス術 2.感染性心内膜炎 3.弁膜症 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 冠動脈バイパス術、オフポンプバイパス手術(OPCAB)、 感染性心内膜炎、人工弁、ワーファリン [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	10/21（水）	1	田中良一教授（口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**37.救急の画像診断** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な救急あるいは併存症の画像診断について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.アレルギーにより生じる画像所見 2.誤嚥・誤飲による画像所見 3.併存症の急変時画像所見 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 肺水腫、ARDS、誤嚥性肺炎、異物誤飲、気胸、縦隔気腫、急性大血管疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	10/28（水）	1	佐藤啓助教（小児科学講座）	**38.小児科学1**	以下の項目について理解し説明できる。 1.小児の成長と発達 2.小児期の疾患の特殊性について **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	10/28（水）	2	佐藤啓助教（小児科学講座）	**39.小児科学2**	以下の項目について理解し説明できる。 1.小児の代表的疾患について 2.骨形成不全等 3.感染性心内膜炎 4.白血病等 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 骨形成不全、感染性心内膜炎、白血病 **[事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。** **[事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。**

講義	10/30 (金)	3	千葉佑介助教（整形外科学講座）	**40.整形外科学総論 －骨粗しょう症** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な整形外科学の意義を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.整形外科学的疾患の主要徴候と病態の概要 2.骨粗しょう症と治療（ビスフォスフォネート） 3.頸椎症性脊髄・神経根症と治療 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 整形外科学的疾患、骨粗しょう症、ビスフォスフォネート、顎骨壊死、頚椎症、脊髄症、神経根症、ロコモティブシンドロームと腰痛疾患 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	10/30 (金)	4	鈴木順非常勤講師	**41.心身医学総論** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な心身医学的疾患の主要症候と病態を理解する。	以下の項目について説明ができる。 1.心身症の定義 2.bio-psycho-social medical model 3.主要な歯科心身症の疾患名、症候、対応 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 心身症・心身医学 口臭症、舌痛症、　顎関節症、口腔異常感症、味覚異常、歯科恐怖症 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	11/4 (水)	1	八重樫瑞典講師（外科学講座）	**42.下部消化管疾患と外科治療** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な下部消化管疾患と外科治療について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.大腸の解剖、機能 2.大腸癌の危険因子、疫学、検査、治療 3.大腸ポリープ・ポリポーシス **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 大腸癌、Peutz-Jeghers症候群、Gardner症候群 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	11/11（水）	4	赤松洋祐教授（脳神経外科学講座）	**43. 脳血管障害の病態と外科治療および意識障害（脳死）** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な脳血管障害の病態と外科治療および意識障害（脳死）について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.脳卒中の病態（脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞） 2.脳血管障害の外科治療（脳動脈瘤、頸動脈硬化症、内膜剥離術） 3.意識障害の機構 4.脳死の判定 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 脳卒中，脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、心原性脳塞栓症、凝固線溶、抗凝固薬、抗血小板薬、脳動脈瘤、脳動脈瘤クリップ、頸動脈硬化症、内膜剥離術、遷延性植物状態、脳死 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	11/12（木）	5	川田一郎教授（内科学講座 呼吸器内科分野）	**44.肺癌** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な肺癌の主要症候と病態，治療を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1. 肺癌の病態、症状、検査所見、治療 2. 肺癌治療と口腔管理 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 肺癌 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	11/16（月）	4	旭浩一教授（内科学講座 腎・高血圧内科分野）	**45.腎疾患** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な腎疾患の主要症候と病態，検査，治療を理解する。	以下の項目について歯科診療との関連を説明できる。 1.腎疾患の主要症候と腎機能検査 2.腎・尿路系の主要な症候、病態、治療（ステロイドを含む） **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 蛋白尿、血尿、脱水、浮腫、糸球体濾過値(GFR)、クレアチニンクリアランス(Ccr)、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、急性腎障害、ステロイド療法、透析 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	11/18（水）	1	中村正帆教授（薬理学講座 病態制御学分野）	**46.集中治療概論** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な集中治療を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1. 全身管理・集学的治療 2. 急性呼吸不全 3. ショック 4. 敗血症 5. 術後管理 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 集中治療、全身管理、呼吸不全、ショック、敗血症、術後管理 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	11/18（水）	2	千葉俊美教授（口腔医学講座 関連医学分野）	**47.最近話題の消化器疾患** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な最近話題の消化器疾患の主要症候と病態を理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1.機能性消化管疾患の主要な症候、病態 2.慢性便秘症の主要な症候、病態 **[D-2-3]** （口腔医学キーワード） 機能性ディスペプシア、過敏性腸症候群、慢性便秘症、腸内細菌 [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。
講義	11/25（水）	1	菊池哲非常勤講師	**48.救急医療－腹部救急疾患と主要徴候** 口腔（歯科）診療を行う上で必要な腹部救急、急性腹症、消化器救急について理解する。	以下の項目について理解し説明できる。 1. 急性腹症の兆候 2. 異物誤飲（義歯等） 3. 鎮痛剤と消化管出血 [D-2-3] （口腔医学キーワード） 救急性腹症、腹膜刺激症状、筋性防御、板状硬、打診痛、反跳痛、消化管異物、NSAIDs潰瘍、アラキドン酸カスケード [事前学修]講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。所要時間30分程度。 [事後学修]講義資料や教科書等を用いて知識を整理しておくこと。所用時間は45分程度。

講義	12/2 （水）	2	小笠原邦昭学長	**49. 特別講演** 本邦の医療レベルの客観的評価、医療の現状、岩手医科大学の医療の考え方、岩手県の医療の現状、医療者の倫理観、学生の目標と手段の違い	以下の項目について説明できる。 1. 本邦の医療レベルの客観的評価 2. 本邦の医療の現状 3. 岩手医科大学の医療の考え方 4. 岩手県の医療の現状 5. 医療者の倫理観 6. 学生の目標と手段の違い （特別講演キーワード） 日本国民の満足度、医療レベル、地域医療、チーム医療、先進医療、医療人たる前に誠の人間たれ、社会常識、目標と手段

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	歯科医師のための内科学	千葉俊美、山田浩之編	医歯薬出版	2021年
教	図解心電図テキスト 原著　第6版	Dale Dubin　著	文光堂	2007年
参	（歯科内科） Internal Medicine for Dental Treatments	Toshimi Chiba, Hiroyuki Yamada, Editors	Springer	2024年
参	（歯科内科） 内科学　第12版	矢﨑義雄　総編集	朝倉書店	2022年
参	（歯科内科） 今日の治療薬：解説と便覧 2024年版	浦部晶夫ほか　編	南江堂	2024年
参	（小児科学） 標準小児科学　第9版	原寿郎　監修	医学書院	2022年
参	（皮膚科学） 歯科医のための皮膚科学 第2版	山崎雙次ほか　編	医歯薬出版	2004年
参	（精神科学） 現代臨床精神医学　第12版改訂	大熊輝雄　著	金原出版	2013年
参	（精神科学） ICD-10 精神および行動の障害：DCR研究用診断基準 新訂版	WHO　編	医学書院	2008年
参	（臨床検査医学） 最新臨床検査項目辞典	伊藤機一ほか　編	医歯薬出版	2008年
参	（臨床検査医学） 標準臨床検査医学　第4版	高木康、山田俊幸　編	医学書院	2013年
参	（産婦人科学） 標準産科婦人科学　第5版	綾部琢哉、板倉敦夫編	医学書院	2021年
参	（眼科学） 標準眼科学　第14版	木下茂　監修	医学書院	2018年
参	（泌尿器科学） 標準泌尿器科学　第9版	赤座英之監修、並木幹夫ほか　編	医学書院	2014年
参	（外科学） 標準外科学　第17版	田邉稔　監修、池田徳彦、大木隆生、猪股雅史、篠原尚　編集	医学書院	2025年
参	5分でできる明るい歯科心身医学	豊福 明、吉川達也、他	永末書店	2017年

成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験で評価する（100%）
＊各講義数に応じた問題数による試験を実施する

到達目標	DP	定期試験	その他	合計
1	3 4 8	100		100
合計		**100**		**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

特記事項なし

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的

口腔外科学

責任者・コーディネーター	口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野） 山田　浩之　教授				
担当講座（分野）	薬理学講座（病態制御学分野）、口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）、口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野）				
対象学年	4	区分・時間数 （1コマ2時間換算）		講義/演習	実習
期間	通期		前期	102.0時間	—
			後期	36.0時間	16.0時間

学修方針（講義概要等）

口腔外科学は、口腔に発症する様々な疾患を理解した上で、それぞれの疾患に対する治療法を学ぶ学修コースである。疾患の診断に必須となる画像診断学や病理学の知識も併せて習得する。治療は正確な診断に基づいて行われる必要があるため、これまでの知識を統合し再確認しながら、各口腔疾患の治療方針を構築する能力を養う。

教育成果（アウトカム）

これまでに学修した人体の解剖学や病理学、薬理学の知識を統合し､口腔病変の病態や診断および口腔外科学的な処置･治療に関する知識･技能･態度を学ぶことで、顎口腔領域に疾患をもつ患者を適切に治療できるようになる。

（関連するディプロマポリシー：1、2、3、4、5、6、8、9）

到達目標（SBOs）

1．医療面接と診察法を理解し、実践できる。
2．主要症候を列挙できる。
3．基本的検査法を列挙できる。
4．顎顔面の損傷の原因、症状、診断、治療を説明できる。
5．顎顔面の炎症の発症原因、症状、診断、治療を説明できる。
6．口腔粘膜疾患の原因、症状、診断、治療を説明できる。
7．腫瘍、嚢胞の原因、症状、診断、治療を説明できる。
8．先天異常・後天異常の原因、症状、診断、治療を説明できる。
9．顎関節疾患の原因、症状、診断、治療を説明できる。
10．唾液腺疾患の原因、症状、診断、治療を説明できる。
11．神経疾患・系統的骨疾患・血液疾患・歯科心身症の原因、症状、診断、治療を説明できる。
12．手術法について理解し説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。毎回原則としてレポート用紙半分程度の分量で学修した内容を提出予定のノートにまとめることとする。本内容は全授業に対して該当するものとし、各回最低45分を要する。

（事前学修：最低30分を要する　事後学修：最低45分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［コア・カリキュラム］** 事前事後学修
講義	3/30（月）	1	山田浩之 教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**医療面接と診察法** 顎・口腔外科の診療において必要な医療面接の知識を習得する。	1. 医療面接を概説し、その重要性について説明できる。 2. 医療面接で収集・留意すべき情報を列挙できる。 3. 診察法の種類を列挙その概略を説明できる。 **[E-2-1-1-1～8, D-2-1-1-1～4]** 事前学修：最新口腔外科学第5版を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	3/30（月）	2	山田浩之 教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**主要症候** 口腔外科疾患における主要な症候を理解し、診断に必要な知識を習得する。	1. 主要な症候とその概略を説明できる。 2. 主要な症候の原因、病理を説明できる。 3. 主要な症候を有する主な疾患を列挙できる。 **[E-3-1-1～3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P26～44を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	3/31（火）	3	川井 忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**基本的検査法1** **全身状態の評価** 口腔外科処置を行うにあたって、全身状態を評価し、施術可能かどうかを判断できる知識を習得する。	1. 歯科治療に際して留意すべき全身状態を列挙できる。 2. 全身状態を評価するために必要な検査項目を列挙できる。 3. 全身状態を評価するために必要な検査項目を説明できる。 **[D-2-3-1～6]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P45～104を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/6（月）	1	泉澤 充教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**基本的検査法2** **画像診断学1** **基礎** 口腔領域に発症する疾患の治療を適切に行うために、画像診断所見の記載方法を習得する。	1. 読影所見の記載方法を列記できる。 2. 歯根嚢胞を例として、読影所見を記述できる。 3. 歯および歯周組織疾患のX線所見を述べられる。 **[D-2-5-7]**
講義	4/6（月）	2	泉澤 充教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**基本的検査法3** **画像診断学2** **基礎** 口腔領域に発症する疾患の治療を適切に行うため、MRI読影に必要な基礎的知識を習得する。	1. T1強調像、T2強調像、プロトン強調像造影撮像について説明できる。 **[D-2-5-9]**

講義	4/7 (火)	3	川井　忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**基本的検査法4** 顎・口腔外科の診察において必要な検査法を習得する	1. 基本的な検査法を挙げ、その概略を説明できる。 2. 基本的な検査法の臨床的意義を説明できる。 3. 各臨床検査の基準値を述べ、異常値の意味を説明できる。 **[D-2-3-1～6]** 事前学修：最新口腔外科学第5版を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/13 (月)	1	平野大輔講師 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**顎顔面の損傷1** **総論** 口腔顎顔面領域に見られる損傷の概念、症状、治療について習得する。	1. 損傷の種類を列挙できる。 2. 損傷の症状を概説できる。 3. 損傷の治療法を概説できる。 **[D-3-1-2-1～2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P149～173、731～740を参照し、顎口腔領域の損傷（硬組織及び軟組織）について学修した内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/13 (月)	2	平野大輔講師 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**顎顔面の損傷2** **軟組織の損傷・合併損傷** 顔面および口腔軟組織損傷の診断法と治療について理解する。 口腔顎顔面外傷の合併傷の診断法と治療法について習得する。	1. 軟組織損傷を分類し、それぞれの症状、処置法および治癒過程を説明できる。 2. 軟組織損傷の治療原則を説明できる。 3. 口腔顎顔面外傷の合併症の種類と特徴を説明できる。 4. 合併傷を分類し、それぞれの処置法、症状および処置法を説明できる。 **[D-3-1-2-5]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P149～173、731～740を参照し、顎口腔領域の損傷（硬組織及び軟組織）について事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/14 (火)	3	川井 忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**顎顔面の損傷3** **歯の外傷・歯槽骨骨折** 歯の損傷および歯槽骨骨折の診断法と治療について修得する。	1. 歯の損傷の種類と特徴および治癒過程を説明できる。 2. 歯の損傷の診断と治療法を説明できる。 3. 歯槽骨骨折の診断と治療法を説明できる。 **[D-3-1-2-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P149～173、731～740を参照し、顎口腔領域の損傷（硬組織及び軟組織）について事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	4/14 (火)	4	川井 忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**顎顔面の損傷4** **顎骨骨折ほか** 顎顔面骨折の診断と治療について習得する。	1. 顎顔面領域の骨折の特徴および治癒過程を説明できる。 2. 顎顔面骨折の原因と種類を列挙できる。 3. 上顎骨骨折、下顎骨骨折、頬骨・頬骨弓骨折および鼻骨骨折の症状と検査法を列挙し、診断と治療法を説明できる。 **[D-3-1-2-4]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P149～173、731～740を参照し、顎口腔領域の損傷（硬組織及び軟組織）について事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/21 (火)	3	川井 忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**炎症1** **顎口腔の炎症** **総論** 炎症の概念を理解し、歯性感染症に関する知識を習得する。	1. 炎症の概念・種類を説明できる。 2. 炎症の症状、診断法、治療法を説明できる。 3. 歯性感染症の概念を説明できる。 4. 歯性感染症の概念と感染経路を説明できる。 5. 急性炎症と慢性炎症の差異を説明できる。 **[D-3-1-3-1～3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P174～198を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/21 (火)	4	川井 忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**炎症2** **組織間隙と支配血管** 顎顔面領域の組織隙について習得する。 選択的動注化学療法に必要な血管の走行について習得する。	1. 口底蜂窩織炎の波及について筋隙の観 点から解剖学的に説明できる。 2. 翼突下顎隙を解剖学的に説明できる。 3. 頭頸部の動脈の走行を説明できる。 4. 超選択的動注化学療法に必要な全身の血管の走行を説明できる。 **[D-3-1-3-6]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P174～198を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	4/27 (月)	1	中山温史 非常勤講師 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**特別講義1** **岩手県立磐井病院歯科口腔外科の臨床**	医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 **[IP-01,04,D-2-4-3]**
講義	5/11 (月)	1	泉澤 充教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**炎症3** **画像診断学3** **骨折・炎症** 口腔領域の外傷・骨折や上顎洞疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 急性骨髄炎・慢性骨髄炎・Garre骨髄炎・放射線性骨髄炎・放射線性骨壊死・BRONJ・上顎洞炎・上顎洞真菌症・上顎洞粘液貯留嚢胞・術後性上顎嚢胞・上顎洞癌・上顎骨骨折・下顎骨骨折 **[D-2-5-6～9]**

講義	5/11 （月）	2	平野大輔講師 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**炎症4** **歯周組織の炎症** **顎骨の炎症** 各種顎骨の炎症に関する知識を習得する。	1. 歯周組織の病態、症状、治療法を説明できる。 2. 歯冠周囲炎(智歯周囲炎を含む)の発症原因、症状、診断、治療について説明できる。 3. 歯槽骨炎と顎骨炎の病態、症状、診断、治療について説明できる。 4. 顎骨骨髄炎の分類について説明できる。 5. 急性顎骨骨髄炎の症状、経過、治療法について説明でき**る。** **[D-3-1-3-1,3,6]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P174～198を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	5/12 （火）	3	川井　忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**炎症5** **特異性炎** **歯性全身感染症** 顎・口腔顔面領域における特異性炎および歯性感染症が全身に及ぼす影響に関する知識を習得する。	1. 特異性炎の概念を説明できる。 2. 顎・口腔顔面領域にみられる特異性炎の種類を列挙できる。 3. 主要な特異性炎の原因菌を列挙できる。 4. 主要な特異性炎の症状、検査法、治療法を説明できる。 5. 歯性病変と全身感染症との関連について説明できる。 6. 菌血症と敗血症の病態を説明できる。 7. 歯性病巣感染の病態を説明できる。 **[D-3-1-3-4～7]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P206～213を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	5/12 （火）	4	川井　忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**炎症6** **顎骨周囲組織の炎症** **蜂窩織炎** **歯性上顎洞炎** 顎骨周囲組織の炎症および歯性上顎洞炎の治療に必要な知識を習得する。	1. 顎骨周囲・頸部の組織隙を列挙できる。 2. 顎骨周囲・頸部の組織隙の位置を説明できる。 3. 軟組織炎症の症状を説明できる。 4. 蜂窩織炎と膿瘍の違いを説明できる。 5. 軟組織炎症の検査法と治療法を説明できる。 6. 歯性上顎洞炎の成因、検査法、治療法を説明できる。 **[D-3-1-3-1,3,6]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P174～198を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	5/18（月）	1	川又慎介助教（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**口腔粘膜疾患1** **総論** **口内炎およびアフタ性病変** 口腔粘膜の解剖学的特徴について学修し、口内炎およびアフタ性病変に関する知識を習得する。	1. 口腔粘膜の解剖学的構造について説明できる。 2. 口内炎やアフタの成因、症状について説明できる。 3. 口内炎やアフタの治療法について説明できる。 **[D-3-1-4-1,2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P214～234、243～251を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	5/19（火）	4	川又慎介助教（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**口腔粘膜疾患2** **水疱性疾患** **ウイルス性疾患** 水疱性疾患およびウイルス性疾患に関する知識を習得する。	1. 口腔粘膜に発症する水疱性疾患を列挙し、その特徴について説明できる。 2. 口腔粘膜に発症する水疱性疾患の治療法について説明できる。 3. 口腔粘膜に発症するウイルス性疾患を列挙し、その特徴について説明できる。 4. 口腔粘膜に発症するウイルス性疾患の治療法について説明できる。 **[D-3-1-4-1,2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P214～234、243～251を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	5/25（月）	1	古城慎太郎講師（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**腫瘍1** **総論** 口腔領域に発生する腫瘍に関する知識を習得する。	1. 一般的な腫瘍の特徴や性質を説明できる。 2. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。 **[D-3-1-6-1～3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P292～327、341～362を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	5/25（月）	2	古城慎太郎講師（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**腫瘍2** **総論** 口腔領域に発生する歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 口腔領域に発症する歯原性腫瘍を列挙し、その特徴について説明できる。 2. 口腔領域に発症する非歯原性腫瘍を列挙し、その特徴について説明できる。 **[D-3-1-6-1 ,2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P292～340、762～775を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	5/26（火）	3	泉澤 充教授（口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**嚢胞3** **画像診断学5** 口腔領域に発生する嚢胞や偽嚢胞の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 歯根嚢胞・残留嚢胞・含歯性嚢胞・歯周嚢胞・側方歯周嚢胞・鼻口蓋嚢胞・鼻歯槽嚢胞・単純性骨嚢胞・静止性骨空洞・脈瘤性骨嚢胞 **[D-3-1-5-1,2,D-2-5-6～9]**

講義	5/26 (火)	4	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**腫瘍4** **歯原性腫瘍** 歯原性腫瘍の種類を把握し、発生病因、臨床症状、病理組織像、診断、治療法を習得する。	1. 歯原性腫瘍を列挙し分類できる。 2. 歯原性良性腫瘍の一般的な臨床症状を説明でき、診断に必要な検査を挙げ、その概略を説明できる。 3. 歯原性良性腫瘍の一般的な治療法を説明できる。 **[D-3-1-6-1～3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P292～327を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/1 (月)	1	秋本祐基助教 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**嚢胞1** **総論** 口腔領域に発生する嚢胞の分類、臨床症状、画像診断、病理組織診断、治療法を習得する。	1. 口腔領域に発生する嚢胞を分類し、その臨床症状が説明できる。 2. 嚢胞の画像所見と病理所見が説明できる。 3. 嚢胞に対する適切な治療が説明できる。 **[D-3-1-5-1,2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P271～291、378を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/1 (月)	2	秋本祐基助教 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**嚢胞2** **顎嚢胞** **軟組織の嚢胞** 口腔顎顔面領域に発生する嚢胞の分類、発生病因、診断、治療法を習得する。	1. 顎骨および軟組織に発生する嚢胞を分類し、発生病因と臨床症状、画像検査所見、病理組織所見を述べ、治療方法が説明できる。 2. 様々な嚢胞に対する手術方法が説明できる。 3. 手術器具の種類を列挙し、その使用方法が説明できる。 **[D-3-1-5-1,2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P271～291、378を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/8 (月)	1	飯島　伸 非常勤講師 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**先天異常・後天異常1** **顔面・口腔の奇形** 先天性・後天性異常の概念、成因、発生との関連について理解し、奇形に関する知識を習得する。	1. 先天異常・後天異常の概念と成因について説明できる。 2. 顔面・口腔の発生と先天異常との関連について説明できる。 3. 顔面･口腔の奇形の種類を列挙できる。 4. 口唇裂の発生率、裂型、症状、治療法を説明できる。 5. 口蓋裂の発生率、裂型、症状、治療法を説明できる。 **[D-3-1-1-1～4]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P126～137を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	6/8 (月)	2	泉澤 充教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**腫瘍3** **画像診断学4** **腫瘍** 口腔領域に発生する良性歯原性・非歯原性腫瘍の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できるできる。エナメル上皮腫・角化嚢胞性歯原性腫瘍・石灰化上皮性歯原性腫瘍・石灰化嚢胞性歯原性腫瘍・腺腫様歯原性腫瘍・歯原性粘液腫・エナメル上皮線維歯牙腫・エナメル上皮線維腫・歯原性線維腫 **[D-2-5-6～9]**
講義	6/9 (火)	3	青村知幸 非常勤講師 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**顎関節疾患1** **外傷、炎症、形態・機能異常** 顎関節における形態と機能異常、損傷、炎症性疾患の原因、症状、診断、治療に関する知識を習得する。	1. 主要な顎関節形態異常、機能異常の種類、原因、症状、治療法を列挙できる。 2. 顎関節損傷の種類、原因、症状、治療法を列挙できる。 3. 顎関節の炎症性疾患の種類、原因、症状、治療法を列挙できる。 **[D-3-1-7-1,2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P392～405を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/9 (火)	4	青村知幸 非常勤講師 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**顎関節疾患2** **顎関節症** 顎関節症の分類、症状、診断、治療に関する知識を習得する。	1. 顎関節の形態と機能について説明できる。 2. 顎関節症の分類を列挙できる。 3. 顎関節症の症状・診断法を概説できる。 4. 顎関節症の治療法を説明できる。 **[D-3-1-7-1,2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P388～391、405～411を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/15 (月)	1	山田浩之教授 阿部亜希研究員 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**特別講義2** **岩手県立中央病院歯科口腔外科の臨床**	医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 **[IP-01,04,D-2-4-3]**
講義	6/15 (月)	2	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**顎関節疾患3** **顎関節の手術**	1. 習慣性顎関節脱臼の手術法について説明できる。 2. 顎関節腫瘍の手術法について説明できる。 **[D-3-1-7-2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P817～827を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	6/22 (月)	1	泉澤 充教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**唾液腺1** **顎関節1** **画像診断学6** 唾液腺疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 唾液腺炎・Sjogren症候群・Mikulicz症候群・唾石・唾液腺腫瘍 **[D-3-1-8-7、D-3-1-7-1,2]**
講義	6/22 (月)	2	古城慎太郎講師 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**唾液腺2** **唾液腺疾患** 唾液腺疾患の症状、診断および治療法を習得する。	1. 唾液腺の炎症性疾患を説明できる。 2. 唾液腺の外傷を説明できる。 3. 唾液腺の閉塞性疾患を説明できる。 **[D-3-1-8-2,3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P509～532を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/23 (火)	3	泉澤 充教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**腫瘍5** **画像診断学8** **悪性腫瘍** 口腔領域に発症する悪性腫瘍と骨髄炎の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 下顎歯肉癌・舌癌・口腔底癌・上顎歯肉癌・上顎洞癌・頬粘膜癌・骨肉腫・悪性黒色腫・悪性リンパ腫 **[D-2-5-6～9]**
講義	6/23 (火)	4	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**神経疾患1** **口腔顔面痛と慢性疼痛** 様々な口腔顔面痛について習得する。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛の種類が列挙できる。 2. 三叉神経痛、舌咽神経痛の概念、症状および治療方法が説明できる。 3. 慢性疼痛の概念、診断、治療方法が説明できる。 **[D-3-1-9-1,2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P412～430を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	6/29 (月)	1	太田藍理助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**神経疾患2** **神経麻痺** 神経麻痺の病態と治療法について習得する。	1. 顔面神経麻痺の特徴、症状および治療法を説明できる。 2. 三叉神経麻痺の症状と治療法を説明できる。 3. 舌咽神経麻痺の症状を説明できる。 **[D-3-1-9-3,4]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P412～441を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	6/30 (火)	3	泉澤 充教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**系統的骨疾患 画像診断学7** 歯や顎骨に異常を呈する全身疾患の適切な治療を行うため、臨床症状や画像診断・病理診断を基にした総合的診断の知識・技能を習得する。	1. 以下の疾患の臨床症状と各種画像所見について説明できる。 副甲状腺疾患、甲状腺疾患、下垂体疾患、骨系統疾患、その他の全身疾患（基底細胞母班症候群、Gardner症候群、 Papillon-Lèfevre症候群、Albright症候群、外胚葉異形成症、Down症候群） **[E-1-2)-⑦～⑨]**
講義	6/30 (火)	4	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**歯科心身症** 舌痛症、非定型歯痛、口腔異常感症、咬合異常感などの心因性病態について習得する。	1. 歯科心身症を列挙できる。 2. 歯科心身症の病態を簡単に説明できる。 3. 歯科心身症の代表的な治療方法を説明できる。 **[D-3-1-10-11, D-5-9-1,2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P431～442を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/6 (月)	1	矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**血液疾患1 赤血球、白血球異常** 貧血や白血病の全身的症状と口腔症状との関連について習得する。	1. 赤血球の異常を現す疾患を列挙できる。 2. 貧血について概説できる。 3. 貧血の症状と治療法を説明できる。 4. 白血球の異常を現す疾患を列挙できる。 5. 白血病について概説できる。 **[D-2-4-1,D-2-3-6]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P254～271を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/6 (月)	2	矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**血液疾患2 出血性素因** 出血性素因に関する知識を習得する。	1. 出血性素因を示す主な疾患を列挙できる。 2. 止血機能のスクリーニング検査項目を列挙できる。 3. 主要な出血性素因の病因、病態、治療法を説明できる。 4. 抗血栓療法について説明し適応疾患を列挙できる。 5. 抗血栓療法薬を列挙できる。 **[D-2-4-1,D-2-3-7]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P254～271を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/7 (火)	4	宮手浩樹 非常勤講師 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**特別講義5 病院歯科の概要や当科で行っているシェーグレン症候群への対応など**	1. 医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 **[IP-01,04,D-2-4-3]**

講義	7/13（月）	1	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**先天異常・後天異常2** **顎の異常** 顎の先天性・後天性異常に関する知識を習得する。	1. 主要な顎形態異常を列挙できる。 2. 主要な顎変形症の症状を説明できる。 3. 主要な顎変形症の診断法を説明できる。 4. 主要な顎変形症の治療法を説明できる。 **[D-3-1-1-1～4]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P139～147を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/13（月）	2	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**先天異常・後天異常3** **軟組織の異常** **顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患** 先天性・後天性の軟組織の異常ならびに顎・口腔に異常を現す症候群と系統的骨疾患に関する知識を習得する。	1. 主要な軟組織の異常と治療法を説明できる。 2. 顎口腔に異常を現す主要な症候群と系統的骨疾患を列挙し症状を説明できる。 3. 主要な症候群と系統的骨疾患の診断法を説明できる。 **[D-3-1-1-1～4]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P109～126、138～139）を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/14（火）	3	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**腫瘍6** **口腔潜在的悪性疾患** 口腔領域に発生する口腔潜在的悪性疾患に関する知識を習得する。	1. 口腔潜在的悪性疾患の概念を説明できる。 2. 口腔潜在的悪性疾患の種類を列挙できる。 3. 口腔潜在的悪性疾患の診断と治療法について説明できる。 **[D-3-1-6-5]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P235～343、363～366を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/14（火）	4	大橋祐生准教授（口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**腫瘍7** **癌腫** 顎顔面口腔領域に発生する上皮性の悪性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 非歯原性悪性腫瘍の分類について概説できる。 2. 悪性腫瘍の特徴について概説できる。 3. 口腔癌の臨床症状を説明できる。 4. 口腔癌の各種画像所見を説明できる。 5. 口腔癌の病理組織像について説明できる。 6. 口腔癌の治療、予後について説明できる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P341～365を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	7/21 (火)	3	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**腫瘍8** **肉腫、悪性リンパ腫、悪性黒色腫** 顎顔面口腔領域に発生する非上皮性の悪性腫瘍に関する知識を習得する。	1. 口腔顎顔面領域に発症する主な悪性腫瘍が列挙できる。 2. 主な肉腫の種類が列挙できる。 3. 主な肉腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 4. 悪性リンパ腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 5. 悪性黒色腫の特徴、臨床症状、治療および予後について説明できる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P341～361を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	7/21 (火)	4	大橋祐生准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**腫瘍9** **唾液腺腫瘍** 唾液腺腫瘍の症状、診断および治療法を習得する。	1. 顔面神経麻痺の特徴、症状および治療法を説明できる。 2. 三叉神経麻痺の症状と治療法を説明できる。 3. 舌咽神経麻痺の症状を説明できる。 **[D-3-1-9-3,4]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P412～441を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	8/24 (月)	1	大橋祐生准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**腫瘍10** **腫瘍の治療1** **外科療法** 顎顔面口腔領域に発生する悪性腫瘍に対する手術の種類、適応、術式について習得する。	1. 悪性腫瘍に対する治療の基本を説明できる。 2. 舌癌の切除法の種類を列挙し、適応を説明できる。 3. 下顎歯肉癌の切除法の種類を列挙し、適応を説明できる。 4. 上顎歯肉癌の切除法の種類を列挙し、適応を説明できる。 5. 頸部郭清術の術式を説明できる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P776～816を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	8/24 (月)	2	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野	**腫瘍11** **腫瘍の治療2** **化学療法、その他の治療** 顎顔面口腔領域に発生する悪性腫瘍に対する化学療法や免疫療法の種類、適応について習得する。	1. 悪性腫瘍の化学療法について概説できる。 2. 口腔悪性腫瘍に使用する化学療法薬を列挙できる。 3. 化学療法薬の投与法を説明できる。 4. 化学療法薬の副作用を説明できる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P541～578を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	8/24 (月)	3	泉澤 充教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**腫瘍12** **腫瘍の治療3** **放射線治療** 口腔癌の治療を適切に行うため、癌の放射線治療の基礎的知識・態度を習得する。	1. 放射線治療における副作用について説明できる。 2. 治療患者の口腔内管理について説明できる。 3. 悪性腫瘍に対する外照射の適応・方法について説明できる。 4. 悪性腫瘍に対する密封小線源照射の適応・方法について説明できる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P541～578を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	8/24 (月)	4	星名秀行 客員教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**特別講義3** **口腔腫瘍の集学的治療と機能再建：再生医療とインプラント治療を含めて**	1.口腔腫瘍の集学的治療および再建について理解できる。 2.インプラント治療における骨増生および再生医療について説明できる。 **[IP-01,04,D-2-4-3]**
講義	9/14 (月)	1	中村正帆教授 （薬理学講座 病態制御学分野）	**腫瘍14** **腫瘍の治療4** **抗癌剤** 悪性腫瘍に対する治療薬の薬理学的知識を習得する。	1. 化学療法薬について説明できる。 2. 分子標的薬について説明できる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版551-556頁を読み、薬理学的知識を整理しておくこと。
講義	9/14 (月)	2	平野大輔講師 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**手術1** **外来手術の基本手技1** **滅菌法・消毒法** 消毒法について修得する。切開、縫合、止血、骨切削などに用いる器具について習得する。	1. 消毒法と滅菌法の概念を説明できる。 2. 消毒法と滅菌法の種類、適応について説明できる。 3. 術前の手指の消毒法を説明できる。 4. 手術野の消毒法を説明できる。 5. 縫合の種類を列挙し、説明できる。 6. 止血法の種類を列挙し、説明できる。 **[D-5-4-4 , E-1-1-2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P493～506を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	9/14（月）	3	古城慎太郎講師（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**手術2** **外来手術の基本手技2** **普通抜歯、埋伏歯抜歯** 抜歯の手順や用いる器具の使い方について習得する。	1. 抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。 2. 抜歯の偶発症と合併症およびその対処法を説明できる。 3. 抜歯に必要な器具を説明できる。 4. 抜歯の正常治癒経過および異常な治癒経過とその対処法を説明できる。 5. 抜歯の基本手技について説明できる。 **[D-5-4-1～3, E-5-3-5-1,3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P484～506、653～694を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	9/14（月）	4	古城慎太郎講師（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**手術3** **外来手術の基本手技3** **歯根端切除術** **歯槽堤手術** **歯の再植・移植** 歯根端切除術、歯槽堤の手術を適切に実施するために必要な知識を習得する。	1. 歯根端切除術の適応症と禁忌症を説明できる。 2. 歯根端切除術の偶発症と合併症およびその対処法を説明できる。 3. 歯根端切除術に必要な器具の用法と手技を説明できる。 4. 歯槽堤整形術の適応症と手技を説明できる。 5. 歯の移植・再植の適応症と手技を説明できる。 **[D-5-4-3～5,E-1-1-2]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P484～506、653～694を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	9/28（月）	1	古城慎太郎講師（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**手術4** **顎矯正手術** **術後管理** **併発症**	1. 上顎骨と下顎骨の手術方法を説明できる。 2. 術後管理について説明できる。 3. 併発症について説明できる。 **[D-3-1-1-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P718～730を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	9/28（月）	2	古城慎太郎講師（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**手術5** **外来手術の基本手技4** **その他の手術** 軟組織の手術、補綴前手術を適切に実施するために必要な知識を習得する。	1. 軟組織の欠損や延長に関する手術の理論が説明できる。 2. 小帯手術の適応症と手術手技が説明できる。 3. 補綴前手術の適応症と手技が説明できる。 **[E-5-3-5-1～4]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P484～506、653～694を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。

講義	9/28 （月）	3	大橋祐生准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**手術6** **移植外科** 顎顔面領域に用いられる移植術に必要な知識を習得する。	1.　移植の定義を説明できる。 2.　再建の定義を説明できる。 3.　移植材料を分離できる。 4.　顎顔面領域の移植術を説明できる。 **[E-5-3-5-1～4,D-3-1-6-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P484～533を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	9/28 （月）	4	大橋祐生准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**手術7** **再建外科** 顎顔面領域の再建に必要な知識を習得する。	1.軟組織移植による再建術が説明できる。 2.骨移植による再建術が説明できる。 3.生体材料による再建術が説明できる。 **[D-3-1-6-3]** 事前学修：最新口腔外科学第5版P509～533を参照し、事前学修の内容を提出予定のノートにまとめておくこと。
講義	10/5 （月）	2	石橋　修 臨床教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**特別講義6** **八戸赤十字病院歯科口腔外科の臨床**	1.医師と連携するために必要な医学的知識を実際の臨床に即して学ぶ。 **[IP-01,04,D-2-4-3]**
演習	10/5 （月）	3 4	山田浩之教授 川井　忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**アクティブ・ラーニング1**	1.　グループ学修 2.　事前に配付されている課題に対してグループごとにプロダクトを作成できる。 3.　グループごとの成果発表（全体発表） 4.　他のグループがまとめた課題について、ディスカッションできる。 **[E-3-2-1, C-2-4]**
講義	10/19 （月）	1	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**抜歯の禁忌症** **抜歯と全身疾患** 抜歯と全身疾患とのかかわりを理解し、安全に治療が行える知識を習得する。	1.抜歯の適応症と禁忌症を説明できる。 2.抜歯を行う際、注意を要する全身疾患を説明できる。 3.抜歯をする際の全身疾患の管理方法が理解できる。 事前学修：抜歯の禁忌症について疑問点、理解しにくい点を箇条書きにしておくこと。疑問点は、随時、質問すること。質問を十分配慮しフィードバックしながら授業を展開する。 **[D-5-4-1、E-5-3-5全般]**

講義	10/19（月）	2	平野大輔講師 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**抜歯窩の治癒・抜歯の偶発症** 抜歯後の治癒過程を理解することで、適切な抜歯後の対応、対処ができる。抜歯の偶発症を解剖学的知識と合わせて理解することで、偶発症や合併症に適切な対応ができる。	1.抜歯の正常治癒経過を説明できる。 2.抜歯の異常治癒過程とその対処法を説明できる。 3.創傷治癒について臨床的事項と基礎医学的事項を整理して説明できる。 4.抗菌薬の使用方法を説明できる。 5.鎮痛剤の使用方法を説明できる。 6.抜歯の偶発症と合併症を説明できる。 7.偶発症や合併症の対処を説明できる。 **[D-5-4全般]** 事前学修：抜歯の治癒異常、抜歯の偶発症5種類（気腫、脱臼、上顎洞瘻孔、神経損傷、誤飲・誤嚥）ついて疑問点、理解しにくい点を箇条書きにしておくこと。疑問点は、随時、質問すること。質問を十分配慮しフィードバックしながら授業を展開する。
講義	10/19（月）	3	高橋美香子助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**医療安全** **歯科医療における安全性への配慮と危機管理** 安全な歯科治療を行うために、安全への配慮に関する知識・態度を習得する。	1. 医療事故と医療過誤の違いを説明できる。 2. 医療事故の事例の原因の分析、防止策について説明できる。 3. 医療事故発生時の緊急処置・記録・報告について説明できる。 4. 針刺し事故の対処法を説明できる。 5. 医療過誤における歯科医師の社会的責任と罰則規定の基本的事項を説明できる。 6. 医療従事者の健康管理の重要性を説明できる。 **[E-1-1-1, 7]**
演習	10/26（月）	1 2	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**アクティブ・ラーニング2**	グループ学修 前回の発表で得られた他のグループからの指摘事項を検討し、プロダクトをブラッシュアップできる。 グループごとの最終発表（全体発表） ブラッシュアップされたプロダクトを発表し、ディスカッションできる。 **[E-3-2-1, C-2-4]**

講義	10/26（月）	3	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**口腔外科における病理診断の重要性** 口腔領域に発症する疾患の診断を適切に行うために、病理組織所見を習得する。	1.　腫瘍の総論的事項を説明できる。 2.　口腔領域に生じる腫瘍を組織由来や良悪性によって分類し、それぞれで頻度の高いものを具体的に列挙できる。 3.　口腔領域に生じる腫瘍について、それぞれの病理組織所見を説明できる。 **[A-5-6-1～6]** 事前学修：新口腔病理学第2版196-211頁を読み、3学年時に学んだ知識を整理しておくこと。
講義	10/26（月）	4	川又慎介　助教 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**症例検討** 顎口腔領域の疾患の治療方針、予後について習得する。	1.　経過、症状および各種検査所見から診断できる。 2.　鑑別診断を列挙できる。 3.　治療方針を立案できる。 4.　予後について説明できる。 **[E-3-2-1～4]**
実習	11/9（月）	1 2	山田浩之教授 川井　忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**医療面接と口腔・頭頸部の診察（実習）** 口腔外科における医療面接と口腔・顔面・頸部の診察に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。	1.診察の環境を整えることができる。 2.適切なコミュニケーションをとりながら診察することができる。 3.患者に配慮した診察を実施できる。 4.頭頸部の診察の手順を説明できる。 5.口腔の診察を実施できる。 6.頭頸部の診察を実施できる。 7.診察結果をカルテに記載できる。 8.診察結果を患者に説明できる。 **[E-2-1-1全般、E-2-2全般、E-5-3-5全般]** 事前学修：歯科治療時に注意しなければいけない全身的な疾患と処方されている薬物について調べておく。 ・抗凝固薬、免疫抑制薬、骨吸収抑制薬など ・薬の相互作用
実習	11/9（月）	3 4	山田浩之教授 川井　忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**手洗い** **普通抜歯1（実習）** 外科手術における手指の消毒に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。 普通抜歯に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。	1.手術前の手洗いが適切に実施できる。 2.普通抜歯に必要な器具を準備できる。 3.普通抜歯に使用する器具の使い方を説明できる。 4.抜歯鉗子の種類を区別できる。 5.抜歯に必要な器具、材料を清潔操作で準備できる。 **[D-5-4-1、E-5-3-5全般]**

実習	11/16 （月）	1 2	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**普通抜歯2** **縫合・抜糸(実習)** 普通抜歯に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。 縫合、抜糸に関する知識、技能、態度を習得し実践できる。	1.抜歯操作を行う環境を整えることができる。 2.抜歯操作が適切にできる。 3.縫合、抜糸に必要な器具、材料を準備できる。 4.手指縫合が実施できる。 5.抜糸が適切にできる。 **[D-5-4-1、E-5-3-5全般]**
実習	11/30 （月）	1 2	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**実習試験** **（医療面接・診察・手洗い・抜歯・縫合）**	1.頭頸部の診査、手洗い、器械の準備、抜歯、縫合を適切に実施できる。 **[D-5-4 全般、E-1-1全般、E-2-2全般、E-5-3-5全般]**

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	歯科医師のための内科学	千葉俊美、山田浩之編	医歯薬出版	2021年
教	最新口腔外科学　第5版	榎本昭二ほか　監修	医歯薬出版	2017年
参	カラーアトラス サクシンクト口腔外科学　4版	内山健志ほか編	学建書院	2019年
参	イラストでみる口腔外科手術　第1-4巻	日本口腔外科学会 編	クインテッセンス出版	2010年
推	Internal Medicine for Dental Treatments	千葉俊美、山田浩之編	Springer	2024年

成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験評価点　＝　前期試験(試験範囲7月6日講義分まで
(6/8講義先天異常・後天異常1顔面・口腔の奇形、
6/22講義唾液腺1、唾液腺2　唾液腺疾患を除く))を40%、
後期試験(試験範囲7月7日以降の講義分
(6/8講義先天異常・後天異常1顔面・口腔の奇形、
6/22講義唾液腺1、唾液腺2　唾液腺疾患を含む))を40%、
実習試験を20%とする。
(小数点がでた場合、65点以上は四捨五入、65点未満は切り捨て)

追試験・再試験について
病気又はやむを得ない理由により本試験を受けられなかった時、その理由の消滅後に願い出により追試験を受けることが可能です。
総合点が65点未満の場合には、期末に行われる再試を受けることが可能です。
再試範囲は前期・後期の全てです。
前期試験あるいは後期試験のどちらが65点以上でも領域の免除はありません。

到達目標	DP	定期試験	実習試験	その他	合計
1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12	1,4,5,6,8,9	80			80
1、3、12	2,3		20		20
合計		**80**	**20**		**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

資料配布は原則としてWebClassを通じて行う。講義前に内容を確認し、理解を深めておくこと。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップパソコン一式	400 G6 SF/CT	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン	NEW Vostro3681	1	視聴覚用機器	資料作成用

デスクトップパソコン	iMac Retina 5K	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン Inspiron277700	FI779-AWHBSC	1	視聴覚用機器	資料作成用
デスクトップパソコン ESPRIMO EH77/E3	FMVF77E3B	1	視聴覚用機器	資料作成用
Mac Book Pro	MYD92J/A	1	視聴覚用機器	資料作成用

歯科矯正学

責任者・コーディネーター	（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）佐藤 和朗 教授				
担当講座（分野）	口腔保健育成学講座（歯科矯正学分野）				
対象学年	4	区分・時間数		講義/演習	実習
期間	通期		前期	28.0時間	—
			後期	42.0時間	42.0時間

学修方針（講義概要等）

歯科矯正学では、乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期を問わず、成長発育期を通した各時期の基本的な知識、検査診断法、治療法を学修するとともに、歯科学生に必要な最新の基礎知識や臨床知識について、問題志向型の教育を取り入れながら学修する。

教育成果（アウトカム）

講義：成長発育、歯列咬合、不正咬合の診査・診断・治療について系統的に講義を行うことにより、成長発達期および成人期における歯科医療、矯正歯科治療を実践できる医療プロフェッショナルの基盤を形成することができる。

実習：矯正歯科での治療法を学ぶことで知識・技術が身につく。実習中の教員との関りや口頭試問を経験することで良好なコミュニケーションスキルが学修できる。また、症例分析や症例検討会等のグループ作業により周囲と協調することの重要性を認識することで、将来の歯科医師として、自己のあるべき態度に気付くことができる。

（関連するディプロマポリシー：1～6、8、9）

到達目標（SBOs）

1.歯科矯正学の目的と矯正歯科治療の必要性を説明できる。
2.身体の成長発育、歯列・咬合の発育を説明できる。
3.不正咬合の種類、原因と治療法を列記できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し、教科書や講義ノート、Webclass資料等を用いて事前学修（予習）を行うものとし、各授業最低30分以上を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。各授業に特記された事前学修項目がある場合は、その内容に従うものとする。授業や実習においてレポートが課された場合は、提出後、評価の上返却する。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日(曜)	時限	担当教員(講座 分野)	**ユニット名** 内容	到達目標 **[コア・カリキュラム]** 事前事後学修
講義	4/10(金)	2	佐藤和朗教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	**歯科矯正学概論** 学習内容と歯科医学における歯科矯正学の役割を理解する。	1. 歯科矯正学の目的について説明できる。 2. 歯科矯正学の成り立ちについて説明できる。 3. 歯科矯正学の役割について説明できる。 **[D-5-5-1]**
講義	4/17(金)	2	佐藤和朗教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	**正常咬合と不正咬合について** 正常咬合の概念と不正咬合について理解する。	1. 正常咬合の概念を説明できる。 2. 正常咬合が成立し保持される条件を説明できる。 3. 歯列と咬合について説明できる。 4. 不正咬合の客観的な表現方法を説明できる。 **[D-5-5-1]**
講義	4/24(金)	2	佐藤和朗教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	**AngleⅠ,Ⅱ,Ⅲ級症例の診断と治療** 不正咬合分類の診断と治療方法について理解する。	1. AngleⅠ,Ⅱ,Ⅲ級の症状を説明できる。 2. AngleⅠ,Ⅱ,Ⅲ級の原因を説明できる。 3. AngleⅠ,Ⅱ,Ⅲ級による障害を列挙できる。 4. AngleⅠ,Ⅱ,Ⅲ級の治療方法を列挙できる。 **[D-5-5-1]**
講義	5/1(金)	2	佐藤和朗教授 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	**頭蓋顎顔面と全身の成長発育** 頭蓋顎顔面と全身の成長発育について理解する。	1. 脳頭蓋の成長発育を説明できる。 2. 顔面頭蓋の成長発育を説明できる。 3. 成長の評価について説明できる。 4. 全身成長と頭蓋顎顔面の関連について説明できる。 **[A-2-2-1、A-2-4-1、A-2-4-5、A-3-1-2-1～4]**
講義	5/15(金)	2	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	**矯正歯科治療における診断用模型の分析** 矯正歯科治療における診断用模型の分析の意義・分析法について理解する。	1. 模型分析の意義を説明できる。 2. 咬合分類について説明できる。 3. 上下顎の咬合状態を説明できる。 4. 計測項目を説明できる。 **[D-5-5-3]**
講義	5/22(金)	2	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	**エックス線診査と分析Ⅰ** 頭部エックス線規格(セファロ)写真と機能分析について理解する。	1. 頭部エックス線規格(セファロ)写真の分析と評価ができる。 2. 各種機能検査について説明できる。 **[D-5-5-3]**
講義	5/29(金)	2	飯塚康之助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	**エックス線診査と分析Ⅱ** 頭部エックス線規格(セファロ)写真と機能分析について理解する。	1. 頭部エックス線規格(セファロ)写真の分析と評価ができる。 2. 各種機能検査について説明できる。 **[D-5-5-3]**

演習	6/5 (金)	2	佐藤和朗教授 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正歯科臨床における診断学/診断・治療計画の立案Ⅰ-1** 矯正歯科臨床における診断の特徴と目的について理解する。	1. 診断に対する基本的理念を説明できる。 2. 矯正歯科臨床における診断の特徴と目的を説明できる。 3. 矯正歯科臨床に必要な医療面接と診療に対する具体的な方法を説明できる。 4. 医療面接と診療から得られた情報を診断に反映できる。 **[D-5-5-3]**
演習	6/12 (金)	2	佐藤和朗教授 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**診断・治療計画の立案Ⅰ-2（症例分析演習）** 診察・検査・分析により得られるデータを統合し、症例の治療目標・計画および予後を設定することができるようになる。	1. 口腔内や顔貌の診察・評価方法を説明できる。 2. 模型分析の意義と内容が説明できる。 3. エックス線分析の意義と内容が説明できる。 4. 治療目標を設定できる。 5. 治療計画の立案ができる。 6. 予後を推定できる。 **[D-5-5-3]**
講義	6/19 (金)	2	佐藤和朗教授 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正力と顎整形力** 矯正力と顎整形力について理解する。	1. 矯正力の種類を列挙できる。 2. 矯正力の大きさを分類できる。 3. 矯正力の作用様式を説明できる。 4. 矯正歯科治療に必要な力学を説明できる。 **[D-5-5-3]**
演習	6/26 (金)	2	石崎　明教授 （生化学講座 細胞情報科学分野） 佐藤和朗教授 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正力による生体反応/偶発症** 矯正歯科治療によって起こる生体反応について理解する。	1. 矯正力による歯、歯周組織の反応を説明できる。 2. 歯の移動に伴う骨改造について説明できる。 3. 適切な矯正力による生体反応の評価を説明できる。 4. 矯正歯科治療により起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。 5. 矯正歯科治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。 **[A-1-5-2、D-5-5-5]**
講義	7/3 (金)	2	武本真治教授 （医療工学講座） 佐藤和朗教授 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正用材料・接着材** 矯正材料と理工学的性質について理解する。	1. 矯正歯科臨床の材料として具備すべき条件を説明できる。 2. 各種線材料の機械的特性を説明できる。 3. 接着材の材料特性と接着機構を説明できる。 **[B-1-2、B-1-3、B-2-4]**
講義	7/10 (金)	2	佐藤和朗教授 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**不正咬合の原因Ⅰ 先天的原因** 不正咬合を引き起こす様々な先天的原因について理解する。	1. 先天的原因と後天的原因の違いについて説明できる。 2. 先天異常により生じる不正咬合および口腔内所見の異常について説明できる。 3. 不正咬合の原因となる事項を列挙できる。 **[D-5-5-3]**

講義	7/17（金）	2	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**不正咬合の原因Ⅱ** **後天的原因** **不正咬合の予防** 不正咬合を引き起こす様々な後天的原因と不正咬合の予防について理解する。	1. 先天的原因と後天的原因の違いについて説明できる。 2. 先天異常により生じる不正咬合および口腔内所見の異常について説明できる。 3. 不正咬合の原因となる事項を列挙できる。 4. 予防矯正と抑制矯正の概念が説明できる。 5. 不正咬合の原因と結び付けてその予防法を説明できる。 **[D-5-5-3]**
講義	9/15（火）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**抜歯と固定Ⅰ** 矯正歯科治療における抜歯と固定の必要性を理解する。	1. 抜歯の目的、適応症について説明できる。 2. 適切な抜歯部位を選択できる。 3. 抜歯の判定基準を理解し説明できる。 4. 連続抜去法について説明できる。 5. 固定の概念と種類を説明できる。 **[D-5-5-3]**
講義	9/15（火）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**抜歯と固定Ⅱ** 矯正歯科治療における抜歯と固定の必要性を理解する。	1. 抜歯の目的、適応症について説明できる。 2. 適切な抜歯部位を選択できる。 3. 抜歯の判定基準を理解し説明できる。 4. 連続抜去法について説明できる。 5. 固定の概念と種類を説明できる。 **[D-5-5-3]**
講義	9/15（火）	3	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置①** **器械的矯正装置Ⅰ** 器械的矯正装置の種類、構造、特徴について理解する。	1. 器械的矯正装置の基本的条件および分類について説明できる。 2. 器械的矯正装置の構造を説明できる。 3. 器械的矯正装置の力系を説明できる。 4. 各装置の使用目的を説明できる。 **[D-5-5-4]**
講義	9/15（火）	4	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置①** **器械的矯正装置Ⅱ** 器械的矯正装置の種類、構造、特徴について理解する。	1. 器械的矯正装置の基本的条件および分類について説明できる。 2. 器械的矯正装置の構造を説明できる。 3. 器械的矯正装置の力系を説明できる。 4. 各装置の使用目的を説明できる。 **[D-5-5-4]**
講義	9/29（火）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置②** **機能的矯正装置Ⅰ** 機能的矯正装置の種類、構造、特徴について理解する。	1. 機能的矯正装置の基本的条件について説明できる。 2. 機能的矯正装置の構造を説明できる。 3. 機能的矯正装置の力系を説明できる。 4. 各装置の使用目的を説明できる。 **[D-5-5-4]**

講義	9/29（火）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置②** **機能的矯正装置Ⅱ** 機能的矯正装置の種類、構造、特徴について理解する。	1. 機能的矯正装置の基本的条件について説明できる。 2. 機能的矯正装置の構造を説明できる。 3. 機能的矯正装置の力系を説明できる。 4. 各装置の使用目的を説明できる。 **[D-5-5-4]**
講義	9/29（火）	3	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正歯科治療に必要な器械・器具** 矯正歯科治療を行う際に必要な器械・器具の使用目的、使用方法を理解する。	1. 矯正歯科治療に用いる器械・器具を列挙できる。 2. 矯正歯科治療に用いる器械・器具の使用目的、名称および使用法を説明できる。 **[D-5-5-4]**
講義	9/29（火）	4	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置③** **マルチブラケット装置** マルチブラケット装置について理解する。	1. マルチブラケット装置を使用する目的を説明できる。 2. マルチブラケット装置を構成している各名称を列挙できる。 3. ブラケットの特徴を説明できる。 4. エッジワイズ法の基本手技を説明できる。 5. アーチワイヤーの屈曲について説明できる。 **[D-5-5-4]**
講義	10/6（火）	1	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**矯正装置④/保定** **その他の装置/保定と保定装置** その他の矯正装置の種類、構造、特徴について説明できるようになる。さらに移動後の保定の必要性や後戻りについて理解する。	1. その他の矯正装置を列挙できる。 2. その他の矯正装置の構造を説明できる。 3. その他の矯正装置の力系を説明できる。 4. 保定の概念と種類を説明できる。 5. 保定期間について説明できる。 6. 不正咬合の再発および防止策について説明できる。 **[D-5-5-4]**
講義	10/6（火）	2	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**診断・治療計画の立案Ⅱ（症例分析演習）** 診察・検査・分析により得られるデータを統合し、症例の治療目標・計画および予後を設定することができるようになる。	1. 口腔内や顔貌の診察・評価方法を説明できる。 2. 模型分析の意義と内容が説明できる。 3. エックス線分析の意義と内容が説明できる。 4. 治療目標を設定できる。治療計画の立案ができる。 5. 予後を推定できる。 **[D-5-5-3]**

講義	10/6（火）	3	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**診断・治療計画の立案Ⅲ（症例分析演習）** 診察・検査・分析により得られるデータを統合し、症例の治療目標・計画および予後を設定することができるようになる。	1. 口腔内や顔貌の診察・評価方法を説明できる。 2. 模型分析の意義と内容が説明できる。 3. エックス線分析の意義と内容が説明できる。 4. 治療目標を設定できる。治療計画の立案ができる。 5. 予後を推定できる。 **[D-5-5-3]**
講義	10/6（火）	4	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**上顎前突、過蓋咬合の治療** 上顎前突と過蓋咬合の原因とその障害を認識し、それらの診断と治療計画、治療方法について説明できるようになる。	1. 上顎前突、過蓋咬合の症状を概説できる。 2. 上顎前突、過蓋咬合の原因を列挙できる。 3. 上顎前突、過蓋咬合による障害を列挙できる。 4. 上顎前突、過蓋咬合の治療に使用する装置を列挙できる。 5. 上顎前突、過蓋咬合の治療計画を年齢に応じて立案できる。 **[D-5-5-3]**
講義	10/20（火）	1	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**開咬の治療** 開咬の原因とその障害を認識し、開咬の診断と治療計画、治療方法について説明できるようになる。	1. 開咬の症状を概説できる。 2. 開咬の原因を列挙できる。 3. 開咬による障害を列挙できる。 4. 開咬の治療に使用する装置を列挙できる。 開咬の治療計画を年齢に応じて立案できる。 **[D-5-5-3]**
講義	10/20（火）	2	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**叢生の治療** 叢生の原因とその障害を理解し、それらの診断と治療計画、治療方法について説明できるようになる。	1. 叢生の症状を概説できる。 2. 叢生の原因を列挙できる。 3. 叢生の障害を列挙できる。 4. 叢生に使用する装置を列挙できる。 5. ディスクレパンシー要因の症例に対する治療法を理解している。 6. 年齢に応じた叢生の治療計画を立案できる。 **[D-5-5-3]**
講義	10/27（火）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**上下顎前突の治療** 上下顎前突の原因とその障害を理解し、それらの診断と治療計画、治療方法について説明できるようになる。	1. 上下顎前突の症状を概説できる。 2. 上下顎前突の原因を列挙できる。 3. 上下顎前突の障害を列挙できる。 4. 上下顎前突治療に使用する装置を列挙できる。 5. 年齢に応じた上下顎前突の治療計画を立案できる。 **[D-5-5-3]**

講義	10/27（火）	2	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**反対咬合の治療** 反対咬合の原因とその障害を認識し、反対咬合の診断と治療計画、治療方法について説明できるようになる。	1. 反対咬合の症状を概説できる。 2. 反対咬合の原因を列挙できる。 3. 反対咬合による障害を列挙できる。 4. 反対咬合の治療に使用する装置を列挙できる。 5. 反対咬合の治療計画を年齢に応じて立案できる。 **[D-5-5-3]**
講義	11/10（火）	1	佐藤和朗教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**顎変形症の治療** 顎変形症の原因と概要、治療方針について説明できるようになる。	1. 顎変形症を概説できる。 2. 顎変形症の原因を説明できる。 3. 顎変形症に対する外科的矯正治療のプロセスについて説明できる。 4. 顎変形症の術前、術後の矯正歯科治療について説明できる。 5. 顎変形症に対する手術法を列挙できる。 **[D-3-1-1-3]**
講義	11/17（火）	1	飯塚康之助教（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**交叉咬合の治療** 交叉咬合の原因とその障害を認識し、交叉咬合の診断と治療計画、治療方法について説明できるようになる。	1. 交叉咬合の症状を概説できる。 2. 交叉咬合の原因を列挙できる。 3. 交叉咬合による障害を列挙できる。 4. 交叉咬合の治療に使用する装置を列挙できる。 5. 交叉咬合の治療計画を年齢に応じて立案できる。 **[D-5-5-3]**
講義	11/24（火）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療** 睡眠時無呼吸症候群の病態と歯科的治療方針について理解する。	1. 睡眠時無呼吸症候群の症状を説明できる。 2. 睡眠時無呼吸症候群の特徴を説明できる。 3. 睡眠時無呼吸症候群の歯科的な対応法について説明できる。 **[D-3-1-11-6]**
講義	12/1（火）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**口唇裂・口蓋裂の矯正歯科治療、構音と鼻咽腔閉鎖不全Ⅰ** 口唇裂・口蓋裂の病態と構音・鼻咽腔閉鎖不全について説明できるようになる。	1. 上口唇の発生と唇裂の発生機序について説明できる。 2. 顎裂・口蓋裂の発生機序について説明できる。 3. 口唇裂・口蓋裂が引き起こす咬合異常について説明できる。 4. 口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 **[D-3-1-1-1、D-3-1-1-2]**
講義	12/8（火）	1	桑島幸紀准教授（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**口唇裂・口蓋裂の矯正歯科治療、構音と鼻咽腔閉鎖不全Ⅱ** 口唇裂・口蓋裂の病態と構音・鼻咽腔閉鎖不全について説明できるようになる。	1. 上口唇の発生と唇裂の発生機序について説明できる。 2. 顎裂・口蓋裂の発生機序について説明できる。 3. 口唇裂・口蓋裂が引き起こす咬合異常について説明できる。 4. 口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 **[D-3-1-1-1、D-3-1-1-2]** ＊コースアンケート実施

実習日程表

実習	10/20 (火)	3 4 5	佐藤和朗教授 桑島幸紀准教授 飯塚康之助教 菊池恵美子助教 浅沼莞奈助教 深澤慶子助教 上田　茜助教 吉田弘法助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**症例分析と診断①** 与えられた２課題の資料について、説明、計測、分析を実施することで、診断、治療計画の立案ができるようになる。	症例の以下の項目について説明、計測、分析または実施できる。 1. 主訴、家族歴、既往歴、現症歴、現症 2. 咬合分類および上下顎の咬合状態 3. 歯列弓の形態、歯の位置異常 4. 歯冠幅径、歯列弓の幅径と長径 5. 歯槽基底部の幅径と長径 6. OverjetおよびOverbite 7. Arch length discrepancy 8. Tooth size ratio 9. 側面頭部エックス線規格写真の透写（tracing） 10. 計測点の設定 11. 計測用基準平面の設定 12. 角度的、量的、図示的計測 13. Tweedの分析とその所見 これらの資料をもとに治療計画の立案ができる。 **[D-5-5-1,2,3,4,5,6、E-5-4-1]**
実習	10/27 (火)	3 4 5	佐藤和朗教授 桑島幸紀准教授 飯塚康之助教 菊池恵美子助教 浅沼莞奈助教 深澤慶子助教 上田　茜助教 吉田弘法助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**症例分析と診断②** 与えられた２課題の資料について、説明、計測、分析を実施することで、診断、治療計画の立案ができるようになる。	症例の以下の項目について説明、計測、分析または実施できる。 1. 主訴、家族歴、既往歴、現症歴、現症 2. 咬合分類および上下顎の咬合状態 3. 歯列弓の形態、歯の位置異常 4. 歯冠幅径、歯列弓の幅径と長径 5. 歯槽基底部の幅径と長径 6. OverjetおよびOverbite 7. Arch length discrepancy 8. Tooth size ratio 9. 側面頭部エックス線規格写真の透写（tracing） 10. 計測点の設定 11. 計測用基準平面の設定 12. 角度的、量的、図示的計測 13. Tweedの分析とその所見 これらの資料をもとに治療計画の立案ができる。 **[D-5-5-1,2,3,4,5,6、E-5-4-1]**

実習	11/10 (火)	2 3 4	佐藤和朗教授 桑島幸紀准教授 飯塚康之助教 菊池恵美子助教 浅沼莞奈助教 深澤慶子助教 上田　茜助教 吉田弘法助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**症例分析と診断③** 与えられた課題資料について、説明、計測、分析を実施することで、診断、治療計画の立案ができるようになる。	症例の以下の項目について説明、計測、分析または実施できる。 1. 主訴、家族歴、既往歴、現症歴、現症 2. 咬合分類および上下顎の咬合状態 3. 歯列弓の形態、歯の位置異常 4. 歯冠幅径、歯列弓の幅径と長径 5. 歯槽基底部の幅径と長径 6. OverjetおよびOverbite 7. Arch length discrepancy 8. Tooth size ratio 9. 側面頭部エックス線規格写真の透写（tracing） 10. 計測点の設定 11. 計測用基準平面の設定 12. 角度的、量的、図示的計測 13. Tweedの分析とその所見 これらの資料をもとに治療計画の立案ができる。 **[D-5-5-1,2,3,4,5,6、E-5-4-1]**
実習	11/17 (火)	2 3 4	佐藤和朗教授 桑島幸紀准教授 飯塚康之助教 菊池恵美子助教 浅沼莞奈助教 深澤慶子助教 上田　茜助教 吉田弘法助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**ダイレクトボンディング①（タイポドント実習）** ダイレクトボンディング法によるブラケットの装着とワイヤー装着を実施することで歯の移動のメカニズムが説明できるようになる。	以下の項目について説明または実施できる。 1. マルチブラケット装置の構造 2. ブラケットポジションの設定 3. ダイレクトボンディング法によるブラケットの装着 4. 歯の移動状態の観察と移動のメカニズムの考察 **[D-5-5-1,2,3,4,5]**
実習	11/24 (火)	2 3 4	佐藤和朗教授 桑島幸紀准教授 飯塚康之助教 菊池恵美子助教 浅沼莞奈助教 深澤慶子助教 上田　茜助教 吉田弘法助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**ダイレクトボンディング②（タイポドント実習）** ダイレクトボンディング法によるブラケットの装着とワイヤー装着を実施することで歯の移動のメカニズムが説明できるようになる。	以下の項目について説明または実施できる。 1. マルチブラケット装置の構造 2. ブラケットポジションの設定 3. ダイレクトボンディング法によるブラケットの装着 4. 歯の移動状態の観察と移動のメカニズムの考察 **[D-5-5-1,2,3,4,5]**
実習	12/1 (火)	2 3 4	佐藤和朗教授 桑島幸紀准教授 飯塚康之助教 菊池恵美子助教 浅沼莞奈助教 深澤慶子助教 上田　茜助教 吉田弘法助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**ダイレクトボンディング③（タイポドント実習）** ダイレクトボンディング法によるブラケットの装着とワイヤー装着を実施することで歯の移動のメカニズムが説明できるようになる。	以下の項目について説明または実施できる。 1. マルチブラケット装置の構造 2. ブラケットポジションの設定 3. ダイレクトボンディング法によるブラケットの装着 4. 歯の移動状態の観察と移動のメカニズムの考察 **[D-5-5-1,2,3,4,5]**

実習	12/8 (火)	2 3 4	佐藤和朗教授 桑島幸紀准教授 飯塚康之助教 菊池恵美子助教 浅沼莞奈助教 深澤慶子助教 上田　茜助教 吉田弘法助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**症例検討会** **（1階SGL使用）** 具体的な治療計画を立案し、発表できるようになる。	1. 適切な治療計画を立案できる。 2. 症例の概要を適切に説明できる。 3. 治療計画を説明できる。 4. 適切に質疑に答えることができる。 **[D-5-5-1,2,3,4,5]** 事前学習：立案した治療計画のプレゼンテーションの仕方を考える。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	歯科矯正学　第7版	後藤滋己、齋藤　功 他編	医歯薬出版	2024年
参	矯正歯科臨床ヒント集（カラーアトラスハンドブック）	三浦廣行、葛西一貴、氷室利彦編	クインテッセンス出版	2004年
参	混合歯列期の矯正歯科治療	後藤滋巳ほか編	医歯薬出版	2002年
推	プロフィトの現代歯科矯正学　新版	William R. Proffit 著、高田健治訳	クインテッセンス出版	2004年

成績評価方法・基準・配点割合等

講義（65点以上を合格）
定期試験　80％(前期:40%、後期:40%)
プレポストテス 20％
プレポストテストついては、講義やWebClassを通して解説を行う。

実習（65点以上を合格）
実習試験　70％
(実習試験は記述及び選択問題形式とする)
実習レポート　30％
実習レポートについては、5段階(A～E)評価とし、E評価は不合格とする。実習レポート返却時に個別にコメントする。

講義、実習のいずれとも合格したものを合格とする。
合格点に満たなかった場合、再試験を行う。

		講義			
到達目標	DP	前期試験	後期試験	プレポスト	合計
1	4、6	10	2	3	15
2	4	8	3	3	14
3	4	2	15	4	21
合計		**20**	**20**	**10**	**50**

実習		
実習試験	レポート	合計
5	5	10
10	5	15
20	5	25
35	**15**	**50**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

各講義・実習ではグループワークを取り入れ、伝える力の強化を図るとともに、必要に応じ各講義・実習時間内に講義・実習内容に関して担当教員とのディスカッションを行う。講義資料は必要に応じてWebClassにアップする。
各学生は事前学習教材を事前に予習した上で、各講義・演習および解説講義に臨むこと。講義終了後は、教科書や事前学習教材を利用し事後学習を必ず行うこと。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有　（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デスクトップパソコン・一式	VPCL138FJ/S	1	視聴覚用機器	実習（講義）の資料作成
カラーレーザープリンタ	LBP9950Ci	1	視聴覚用機器	実習（講義）の資料印刷
ノートパソコン・一式	SVP132A1CN	1	視聴覚用機器	実習（講義）の資料提示

小児歯科学

責任者・コーディネーター	口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野） 小林　琢也　教授				
担当講座（分野）	口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野）				
対象学年	4	区分・時間数		講義/演習	実習
期間	後期		前期	―	―
			後期	40.0時間	30.0時間

学修方針（講義概要等）

身体的及び精神的、社会的に発育過程にある小児の顎口腔領域の形態ならびに機能の発育を基礎とし、新生児期から成人に至るまでの顎口腔領域の成長発育を学ぶとともに、少子化や核家族化といった現代の日本の社会状況の面から考えるべき小児の保健や医療、社会のかかわりの意義について理解することを目的とする。

教育成果（アウトカム）

講義：小児の心身の発育と歯列咬合の成長発育、小児・障害児への対応法、診査・診断・治療法について系統的に講義を行うことにより、成長発達期の歯科医療への治療を実践できる医療プロフェッショナルの基盤を形成することができる。また、小児齲蝕の病因論、小児と歯科保健医療について講義を行うことにより、より小児の齲蝕の特徴や小児歯科医療への責務に対する考え方を深めることができる。

実習：小児の歯科診療に必須で高頻度に行われる治療法を学ぶことで知識・技術が身につけることができる。実習中の教員との関りや口頭試問を経験することで良好なコミュニケーションスキルが学修できる。また、グループ作業により周囲と協調することの重要性を認識することで、将来の歯科医師として、自己のあるべき態度に気付くことができる。

（関連するディプロマポリシー：1～6、8、9）

到達目標（SBOs）

1. 小児歯科学の目的と小児歯科医療の特徴を説明できる。
2. 小児の心身の成長発育、歯列・咬合の発育を説明できる。
3. 小児に対する歯科的な対応法について列挙できる。
4. 小児の齲蝕の特徴を列挙し、齲蝕予防方法について説明できる。
5. 小児の齲蝕の治療方法について列挙し、説明できる。
6. 小児歯科学に関連する疾患、原因、治療法について列挙し、説明できる。
7. 小児に関わる母子保健や児童福祉について説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】
　シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し、教科書や講義ノート、Webclass資料等を用いて事前学修（予習）を行うものとし、各授業40分程度を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。各授業に特記された事前学修項目がある場合は、その内容に従うものとする。
【事後学修】
　授業や実習においてレポートが課された場合は、提出をすること。授業後は、学修した内容について教科書や配布資料を用いて事後学修（復習）を行うものとし、各授業40分程度を要する。

（事前学修：平均40分を要する　事後学修：平均40分を要する）

講義/演習/実習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［コア・カリキュラム］** 事前事後学修
講義	9/10（木）	1 2	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**小児歯科学概論** **小児の心身の発育** 小児歯科医療の特徴を理解する。 小児の成長発育を理解する。	1. 成長、発達、発育の意味の違いを説明できる。 2. 成長・発育に影響する因子を列挙できる。 3. 小児の年齢を正しく評価できる。 4. 小児の身体的発育を正しく評価できる。 5. 小児の精神発達段階を説明できる。 6. 小児の生理的特徴を理解できる。 **[A-2-2-1、2]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
実習	9/11（金）	1 2	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児患児へのラバーダム防湿・シーラント** 小児の歯科治療に必須のラバーダム防湿法を修得する。 レジン系、グラスアイオノマー系シーラントの適応症と実際の手技を修得する。	1. 必要な器具を列挙できる。 2. クランプを正しく選択できる。 3. シートに適切な穴を開けることができる。 4. 複数歯にかけることができる。 5. フロス結紮ができる。 6. フレームを正しく装着することができる。 7. レジン系、グラスアイオノマー系シーラントの違いを説明できる。 8. 必要な器具を列挙できる。 9. ラバーダム防湿が的確にできる。 10. シーラントが的確に実施できる。 **[E-5-1-1,2、E-5-5-6]** 事前学修：実習書の該当部分を熟読し、使用する器機類の把握をし、手順を理解しておくこと。また、予習用問題に取り組み、疑問点を整理しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：実習中に行う小テストで理解が不十分であった箇所について、実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間40分程度。

講義	9/11 (金)	3	森川和政非常勤講師 （九州歯科大学歯学部教授）	**歯列・咬合の発育** **(1.乳歯列期)** 歯齢ⅡCまでの歯列および咬合の発育を理解する。	1. 生理的歯間空隙とその意味を説明できる。 2. ターミナルプレーンを理解し、その臨床的意味を説明できる。 3. 乳歯列の咬合の特徴を列挙できる。 4. 第一大臼歯の萌出を説明できる。 **[A-2-4-5]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
実習	9/18 (金)	1 2	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**乳歯歯内療法** **（生活歯髄切断）** 生活歯髄切断法 水酸化カルシウム法とFC法の適応症の違いを理解し、その手技を習得する。	1. 必要な器具、薬品を列挙できる。 2. 水酸化カルシウム法とFC法の適応症を説明できる。 3. 水酸化カルシウム法の手技を正しく行うことができる。 **[E-5-3-2-7]** 事前学修：実習書の該当部分を熟読し、使用する器機類の把握をし、手順を理解しておくこと。また、予習用問題に取り組み、疑問点を整理しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：実習中に行う小テストで理解が不十分であった箇所について、実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間40分程度。
講義	10/1 (木)	1	森川和政非常勤講師 （九州歯科大学歯学部教授）	**歯列・咬合の発育** **(2.歯の交換)** 歯列および咬合の発育を歯の交換の観点から理解する。	1. 切歯交換期の特徴を説明できる。 2. 側方歯群交換期の特徴を説明できる。 3. リーウェイスペースを理解し、その臨床的意味を説明できる。 **[A-2-4-5]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。

講義	10/1 (木)	2	森川和政非常勤講師 （九州歯科大学歯学部教授）	**歯の発育・萌出と異常** 歯の発育と萌出ならびにその障害を理解する。	1. 歯の発育時期と萌出時期を説明できる。 2. 乳歯の萌出順序を説明できる。 3. 永久歯の萌出順序を説明できる。 4. 歯の萌出異常について説明できる。 5. 歯の形成障害の原因を述べることができる。 6. 歯数の異常について説明できる。 7. 形態の異常について説明できる。 8. 構造の異常について説明できる。 9. 色調の異常について説明できる。 **[A-3-4-1,2,3,4,5,6]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/2 (金)	1	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学））	**乳歯とその特徴** **小児患者の診療方針立案** 乳歯とその特徴を理解する。 小児患者の診査法、診断法、診療計画法を理解する。	1. 乳歯の形態的特徴を列挙できる。 2. 乳歯の組織学的特徴を列挙できる。 3. 乳歯の物理的、化学的特徴を列挙できる。 4. 乳歯根の吸収を説明できる。 5. 小児歯科診療に必要な問診内容が説明できる。 6. 全身的な診査の内容が説明できる。 7. 口腔内診査の項目を列挙して説明できる。 8. 治療的計画の基本的原則を列挙し説明できる。 9. 乳歯、幼若永久歯の齲蝕治療方針の原則を説明できる。 10. 治療方針の立案法を説明できる。 **[A-3-4-2,4、D-2-1-2、D-2-2、D-2-3-8]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。

講義	10/2（金）	2	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**小児患者への対応法** 小児患者への正しい対応法を理解する。	1. 小児の恐れや不安の情動の対象を列挙できる。 2. 小児の情動に配慮した診療を説明できる。 3. 小児の年齢に応じた対応法を説明できる。 4. 行動変容法を説明できる。 5. 強制治療の持つ意味を説明できる。 6. 小児への笑気吸入鎮静法の利点と欠点を列挙できる。 7. 小児への様々な対応法の利点と欠点を列挙できる。 **[A-2-2-2、D-2-1-1,2,3、D-2-1-2-1,2,3]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/2（金）	3	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**小児虐待** 歯科臨床において被虐待児に遭遇した際に適切な対応をするために、児童虐待の概要と被虐待児の特徴、歯科医師としての責務について理解する。	1.児童虐待の定義を説明できる。 2.児童虐待の徴候を説明できる。 3.被虐待児の特徴を説明できる。 4.虐待発見時の対応を説明できる。 **[C-4-3-5、D-5-6-10]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
実習	10/9（金）	1 2	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**乳歯用既製金属冠** 乳歯用既製金属冠（乳歯冠）の適応症を理解し、その作製法を習得する。	1. 適応症を説明できる。 2. 支台歯形成を的確に実施できる。 3. 必要な器具とその使用法を説明できる。 4. 大きさの選択・調整・適合を実施できる。 **[E-5-3-1-4,8、E-5-5-7]** 事前学修：実習書の該当部分を熟読し、使用する器機類の把握をし、手順を理解しておくこと。また、予習用問題に取り組み、疑問点を整理しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：実習中に行う小テストで理解が不十分であった箇所について、実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間40分程度。

演習・実習	10/16（金）	1 2	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**ブラッシング指導** ブラッシング指導を理解し、その手技を習得する。	1. 小児の年齢にあった仕上げ磨きの方法を指導できる。 2. 適切な歯ブラシの選択方法を指導できる。 3. 様々な媒体を用いて指導ができる。 4. 分かりやすい言葉使いと聞き取りやすい話し方で説明できる。 5. プラークコントロールの目的を説明できる。 **[E-5-5-1,2,4]** 事前学修：実習書の該当部分を熟読し、使用する器機類の把握をし、手順を理解しておくこと。また、予習用問題に取り組み、疑問点を整理しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：実習中に行う小テストで理解が不十分であった箇所について、実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間40分程度。
実習	10/23（金）	1 ～ 4	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**保隙装置** **クラウンループ** 固定保隙装置（クラウンループ）の適応症を理解し、その作製法を習得する。 作業模型の咬合器装着操作を習得する。	1. 適応症を説明できる。 2. 作業模型の作製ができる。 3. ワイヤーループの屈曲ができる。 4. 乳歯冠とワイヤーのろう着ができる。 5. 調整、研磨ができる。 6. 石膏模型を正確に咬合器に装着できる。 7. 作業模型の歯列状態を説明できる。 **[D-5-6-9]** 事前学修：実習書の該当部分を熟読し、使用する器機類の把握をし、手順を理解しておくこと。また、予習用問題に取り組み、疑問点を整理しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：実習中に行う小テストで理解が不十分であった箇所について、実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間40分程度。

講義	10/29（木）	1	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**小児の齲蝕と予防** 小児齲蝕の特徴を知り、正しい対応法を理解する。	1. 乳歯齲蝕の特徴を列挙できる。 2. 乳歯齲蝕を疫学的に説明できる。 3. 乳歯齲蝕の臨床的分類を説明できる。 4. 乳歯重症齲蝕の為害作用を説明できる。 5. 小児齲蝕の発生過程を説明できる。 6. 各段階に対する理論的な対応法を説明できる。 7. 各段階に対する臨床的な対応法を説明できる。 **[D-5-1-1、D-5-6-1]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/29（木）	2	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**齲蝕の予防と進行抑制** 齲蝕の予防法と進行抑制法を臨床に則して理解する。	1. Stephanカーブの持つ意味を説明できる。 2. 歯口清掃指導の原則を列挙できる。 3. 哺乳と哺乳ビン齲蝕を関係づけて説明できる。 4. 薬物局所応用とその基本理論を説明できる。 5. フッ化物の局所応用法について、具体的に述べることができる。 6. 歯磨剤・洗口剤について説明できる。 7. フッ素の齲蝕予防機序を述べることができる。 8. フッ素の毒性について説明できる。 9. シーラントの術式と予後について説明できる。 **[D-5-1,2,3,4]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。

講義	10/30（金）	1	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**小児の歯冠修復** 小児の歯冠修復法とその特徴を理解する。	1. 局所麻酔法を具体的に述べることができる。 2. ラバーダム防湿の利点と欠点を列挙できる。 3. 小児の歯冠修復の目的を列挙できる。 4. 小児の歯冠修復の種類を列挙できる。 5. 乳歯窩洞形成時の注意事項を列挙できる。 6. コンポジットレジン充填の特徴を列挙できる。 7. インレー修復の特徴を列挙できる。 8. 既製冠修復の特徴を列挙できる。 9. コンポジットレジン冠の特徴を列挙できる。 **[D-5-2-1-3、D-5-6-2,3]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/30（金）	2	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**小児の外科的処置** 小児の抜歯ならびに薬物療法について理解する。	1. 乳歯抜去時の診査事項を列挙できる。 2. 乳歯抜去の適応症を列挙できる。 3. 乳歯抜去の禁忌症を列挙できる。 4. 乳歯抜去の前準備を具体的に述べることができる。 5. 乳歯抜去時のエックス線診査を説明できる。 6. 乳歯抜去時の注意事項を列挙できる。 7. 小児の薬理学的特性を説明できる。 8. 小児薬用量の算定法を説明できる。 9. 薬剤の投与方法を述べることができる。 10. 小児への投薬時の注意事項を列挙できる。 **[D-5-4-1]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。

講義	11/6（金）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児の歯内療法（１．診断と治療法）** 小児の歯内療法における診断と治療法を理解する。	1.歯髄炎の診断法を説明できる。 2.間接覆髄法について説明できる。 3.直接覆髄法について説明できる。 4.暫間的間接覆髄法について説明できる。 5.生活歯髄切断法について説明できる。 **[D-5-2-2-1,2、D-5-6-4]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	11/6（金）	2	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児の歯内療法（２．臨床）** 小児の歯内療法を臨床に則して理解する。	1.水酸化カルシウム断髄法を具体的に述べることができる。 2.FC断髄法を具体的に述べることができる。 3.乳歯の抜髄法について説明できる。 4.乳歯の感染根管治療について説明できる。 5.幼若永久歯の歯内療法について説明できる。 6.ApexogenesisとApexificationの違いを述べることができる。 **[D-5-2-2-2,3、D-5-6-4]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	11/13（金）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児の軟組織と歯周組織疾患** 小児の口腔軟組織、歯周組織疾患について理解する。	1.口唇の疾患を列挙できる。 2.舌の疾患を列挙できる。 3.歯肉の疾患を列挙できる。 4.その他の部位の疾患を列挙できる。 5.健全な歯周組織の特徴を列挙できる。 6.歯肉炎と歯周炎の違いを説明できる。 7.小児歯肉の疾患について述べることができる。 **[D-3-1-1-4、D-3-1-4-1、D-5-6-5,7]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。

講義	11/13（金）	2	齊藤桂子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**全身疾患を有する小児の治療** 全身疾患を持つ小児の歯科治療について理解する。	1. 全身疾患を持つ小児の口腔内について述べることができる。 2. 小児科との係わり方を述べることができる。 **[D-3-1-1-1]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	11/19（木）	1	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**咬合誘導** **（１．静的咬合誘導）** 静的咬合誘導法を理解する。	1.静的咬合誘導法の定義を述べることができる。 2.乳臼歯早期喪失の影響を説明できる。 3.乳前歯早期喪失の影響を説明できる。 4.永久歯早期喪失の影響を説明できる。 5.歯列、咬合の分析法を具体的に述べることができる。 6.保隙の定義を述べることができる。 7.固定保隙装置を説明できる。 8.可撤式保隙装置を説明できる。 **[D-5-6-8,9]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	11/19（木）	2	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**咬合誘導** **（２．動的咬合誘導）** 動的咬合誘導法を理解する。	1.動的咬合誘導法の定義を述べることができる。 2.各デンタルステージにおける咬合誘導の目標を述べることができる。 3.乳歯列期の咬合誘導を説明できる。 4.永久歯萌出余地不足に対する処置法を述べることができる。 5.混合歯列期の咬合誘導を説明できる。 6.筋機能療法を説明できる。 7.連続抜去法を説明できる。 8.主な咬合誘導装置を列挙できる。 **[D-5-6-8,9]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。

講義	11/20（金）	1	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**口腔習癖と治療** 口腔習癖の種類とその影響を理解する。	1.口腔習癖の種類とその影響を列挙できる。 2.口腔習癖の処置法を述べることができる。 **[D-5-6-8]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	11/20（金）	2	森川和政非常勤講師（九州歯科大学歯学部教授）	**小児の歯の外傷** 小児の歯の外傷を理解する。	1. 歯の外傷の概要を説明できる。 2. 診査と診断について説明できる。 3. 外傷前歯の処置を具体的に述べることができる。 4. 外傷の分類について説明できる。 **[D-3-1-2-1,2、D-5-6-6]** 事前学修：教科書の該当項目の部分を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：WebClass上にある小テストを用い、不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
実習	11/27（金）	1 2	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**フッ化物塗布** フッ化物塗布を理解し、その手技を習得する。	1. 歯面清掃を適切に行うことができる。 2. 簡易防湿を行うことができる。 3. 患者に配慮した器材の操作ができる。 4. 指定された部位に塗布を行うことができる。 5. 清潔に配慮した操作ができる。 6. フッ化物塗布時の保健指導ができる。 **[E-5-5-3,5]** 事前学修：実習書の該当部分を熟読し、使用する器機類の把握をし、手順を理解しておくこと。また、予習用問題に取り組み、疑問点を整理しておくこと。所要時間40分程度。 事後学修：実習中に行う小テストで理解が不十分であった箇所について、実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間40分程度。

実習	12/11 （金）	2	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児歯科学 実習試験**	1. 各実習項目について治療の目的について説明できる。 2. 各実習項目に必要な器具・器材を列挙できる。 3. 各実習項目の適応症を説明できる。 4. 各実習項目を実践できる。 5. 清潔に配慮した操作ができる。 **[E-5-5]** 事前学修：実習書を熟読し、実習内容について理解をしておくこと。所要時間60分程度。 事後学修：実習試験の内容について復習をしておくこと。所要時間20分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	小児歯科学　第6版	白川哲夫ほか編	医歯薬出版	2023年
参	小児の口腔科学　第6版	朝田芳信ほか著	学建書院	2023年
参	小児歯科学ベーシックテキスト　第3版	新谷誠康ほか 編	永末書店	2023年
参	小児歯科学基礎・臨床実習 第3版	白川哲夫ほか編	医歯薬出版	2021年

成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験　50%
実習試験　40%
平常点　　8%
レポート　2%

定期試験では、講義内容についての到達度を評価する試験を行う。実習試験では、実習内容（知識）についての到達度を評価する試験を行う。
レポートについては、講義・実習中に課題を提示し、その内容について評価を行う。
平常点は、授業態度や実習中の積極性等を評価する。

到達目標	DP	レポート	実習試験	定期試験	平常点	その他	合計
1	1、2、9			14	2		16
2、3	2、3			12	2		14
4、5、6	4、6、8	2	40	12	2		56
7	5			12	2		14
合計		**2**	**40**	**50**	**8**		**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【フィードバック】
・非常勤講師担当以外の講義では、必要に応じ講義前後に試験（プレテスト、ポストテスト）を行い、結果は講義中にフィードバックする。
・提出されたレポートは、採点後、コメントをつけて返却する。
【アクティブラーニング】
講義/演習日程表の「ユニット名 内容」の欄に別途記載済み。
【ICT活用】
講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。
講義・実習において、小テストなどをタブレットやスマートフォンなどで利用できる学修支援ツールを用いて実施する場合があるため、指示に従い実施をすること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有　（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的

障害者歯科学

責任者・コーディネーター	口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野） 小林　琢也　教授				
担当講座（分野）	口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野）				
対象学年	4	区分・時間数		講義/演習	実習
期間	後期		前期	―	―
			後期	28.0時間	―

学修方針（講義概要等）

ノーマライゼーションや障害全般に対する考え方を理解し、障害者の対応法、全身麻酔下での治療を含めた歯科治療法について学修する。

教育成果（アウトカム）

講義：障害者の医科学的特徴・歯科学的特徴を理解し、対応法について系統的に講義を行うことにより、障害者への治療を実践できる医療プロフェッショナルの基盤を形成することができる。また、障害者歯科医療への責務に対する考え方を深めることができる。

（関連するディプロマポリシー：1、3、4、5、6）

到達目標（SBOs）

1.障害者歯科学の目的と障害者歯科医療の特徴を説明できる。
2.障害の概念や種類を記述できる。
3.障害者の医科学的特徴・歯科学的特徴を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し、教科書や講義ノート、Webclass資料等を用いて事前学修（予習）を行うものとし、各授業平均40分程度を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。各授業に特記された事前学修項目がある場合は、その内容に従うものとする。授業においてレポートが課された場合は、提出後、評価の上返却する。授業後は、学修した内容について教科書や配布資料を使用した事後学修を平均40分程度を要する。

（事前学修：平均40分を要する　事後学修：平均40分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［コア・カリキュラム］** 事前事後学修
講義	9/10（木）	4	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**障害者歯科学概論** 障害者および障害者と歯科医療の関わりを理解する。	1. 障害者の歴史、定義および実態を説明できる。 2. 障害者の医療、障害者歯科学の定義、困難性、対象患者について説明できる。 **[GE-05、IP-03]** 事前学修：教科書p2～p37、58を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	9/17（木）	4	磯部可奈子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**知的能力障害Ⅰ** 知的能力障害ごとの特徴、歯科治療法について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 知的能力障害 2. Down症候群などの先天異常 **[D-5-8-1,2,3,4、E-5-7]** 事前学修：教科書p40～p47とp170～p172を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	9/24（木）	4	磯部可奈子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学）	**知的能力障害Ⅱ** 知的能力障害ごとの特徴、歯科治療法について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 自閉スペクトラム症 2. 学習障害 **[D-5-8-1,2,3,4、E-5-7]** 事前学修：教科書p48～p57を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/1（木）	4	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**神経・運動障害Ⅰ** 運動障害ごとの特徴、歯科治療と予防法について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 脳性麻痺 2. てんかん **[D-5-8-1,2,3,4、E-5-7]** 事前学修：教科書p58～p67とp93～p105を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
演習	10/8（木）	4	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**前半復習試験**	

講義	10/15（木）	4	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**神経・運動障害Ⅱ** 運動障害ごとの特徴、歯科治療と予防法について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 筋ジストロフィー 2. 脊髄損傷 3. 関節リウマチ **[D-5-8-1,2,3,4、E-5-7]** 事前学修：教科書p67～p78を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/22（木）	4	磯部可奈子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**障害者歯科の困難性の克服Ⅰ** 障害者歯科での困難性に対応する対処法を説明できる。	以下の項目について説明できる。 1. 行動管理 2. 医学的管理 **[D-5-8-1,2,3,4]** 事前学習：教科書p208～p239読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/22（木）	5	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**障害者歯科の困難性の克服II** 障害者歯科での困難性に対応する対処法を説明できる。	以下の項目について説明できる。 1. 歯科治療における工夫・配慮 2. 口腔衛生管理 **[D-5-8-1,2,3,4、E-2-1-2-3、E-5-7]** 事前学修：教科書p239～p244とp277～p315を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	10/29（木）	4	磯部可奈子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**障害者歯科学** **中間試験**	
講義	11/12（木）	4	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**障害者の麻酔** 障害者に多用される日帰り麻酔とその他の全身麻酔の違いを理解する。	1. 障害者の麻酔法の特徴を説明できる。 2. 障害者歯科における全身麻酔の役割を説明できる。 **[D-1-2-3-1,2,3]** 事前学修：臨床歯科麻酔学p177～p185を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	11/19（木）	4	菊池和子非常勤講師	**症候群Ⅰ** 知的能力障害、咬合異常、全身疾患を有する主な症候群を説明できる。	以下の項目について説明できる。 1. 常染色体異常 2. 性染色体異常 3. 皮膚、神経の異常 **[D-3-1-1-1]** 事前学修：教科書p168～p200を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。

講義	11/19（木）	5	菊池和子非常勤講師	**症候群Ⅱ** 知的能力障害、咬合異常、全身疾患を有する主な症候群を説明できる。	以下の項目について説明できる。 1. 小下顎症 2. 皮膚、毛髪、爪の異常 3. 骨格の異常 **[D-3-1-1-1]** 事前学修：教科書p168～p200を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	11/26（木）	4	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**発達期の摂食嚥下障害** 摂食嚥下障害の特徴、歯科的特徴と訓練法を理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 摂食嚥下の発達を説明できる。 2. 摂食嚥下障害の特徴を説明できる。 3. 摂食嚥下障害の口腔内の特徴と歯科的治療法、予防法を説明できる。 4. 摂食嚥下障害での訓練法を説明できる。 **[A-3-2-10 、D-5-8-5]** 事前学修：教科書p127～p146を読み、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。
講義	12/10（木）	4	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**国家試験重要項目の実力養成** 障害歯科の重要事項について理解する。	以下の項目について説明できる。 1. 知的能力障害 2. Down症候群などの先天異常 3. 脳性麻痺 4. 症候群 **[D-5-8-1,2,3,4、D-3-1-1-1、E-5-7]** 事前学習：障害者歯科領域の国家試験問題に目を通し、疑問点を抽出しておく。所要時間40分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行う。所要時間40分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スペシャルニーズデンティストリー　障害者歯科　第2版	日本障害者歯科学会編集	医歯薬出版	2017年
参	臨床歯科麻酔学　第5版	丹羽　均ほか編集	永末書店	2019年

成績評価方法・基準・配点割合等

総括的評価：進級試験（記述式）80%、前半復習試験（記述式）5%、中間試験（記述式）15%
形成的評価：講義ごとの振り返りシートで理解度を確認し、フィードバックする。

到達目標	DP	前半復習試験	中間試験	定期試験	その他	合計
1	1、4、5	1	5	25		31
2	3、4	2	5	25		32
3	4	2	5	30		37
合計		**5**	**15**	**80**		**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【フィードバック】講義後に試験を行い、結果は次の講義中にフィードバックする。
【アクティブラーニング】講義日程表の「ユニット名　内容」の欄に別途記載済み。
【ICT】講義前にWeb Classに資料を提示するので事前学修に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有　（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
ノートパソコン	PC-NM550MAB	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション用

高齢者歯科医学

責任者・コーディネーター	歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 小林　琢也　教授
担当講座（分野）	歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）、口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）、口腔医学講座（関連医学分野）、解剖学講座（機能形態学分野）、生理学講座（病態生理学分野）、口腔医学講座（予防歯科学分野）

対象学年	4	区分・時間数	講義/演習　実習 前期　46.0時間 後期
期間	前期		

学修方針（講義概要等）

高齢者歯科医学は、歯科医学のなかで最も新しい学問の一つとして位置づけられており、臨床だけに留まらず、加齢学、社会学、疫学などの幅広い学問体系をもつ。我が国では超高齢社会の到来により、介護が必要な高齢者の歯科治療とともに、摂食嚥下機能の維持・回復の重要性が高まっている。高齢者の診察をするうえで、高齢者に多くみられる全身疾患、口腔症状、医療の仕組み、多職種連携のチーム医療について理解する必要がある。

本科目では各専門分野の教員が分担して講義を行い、これまでに履修した基礎系科目ならびに臨床系科目の学修内容をふまえて超高齢社会において歯科医師に必要とされる知識を学修する。

教育成果（アウトカム）

高齢者歯科医学は、我が国では超高齢社会の到来により、様々な基礎疾患を有する患者が増加している。さらに、介護が必要な高齢者の増加と共に、摂食嚥下機能の維持・回復のための口腔機能の維持とリハビリテーションの重要性が高まっている。本科目では国民の健康に貢献できるオーラルフィジシャン（口腔科医）になるために、全身疾患を持つ高齢者、機能低下した高齢者に対する歯科的対応と高齢者を診察するうえでの医療の仕組みと多職種連携のチーム医療について講義を行う。この科目履修することで、歯科医師としての高齢社会への地域医療貢献について理解することができる。

（関連するディプロマポリシー：1、3～5）

到達目標（SBOs）

1. 高齢者歯科医学の基本的な学問体系を説明できる。
2. 生体の加齢と老化について説明できる。
3. 口腔の加齢と老化について説明できる。
4. 高齢者における口腔機能について説明できる。
5. 高齢者に多い歯、歯周組織の疾患について説明できる。
6. 高齢者に多い口腔疾患について説明できる。
7. 高齢者の薬物動態について説明できる。
8. 有病高齢者に対する歯科治療時の管理について説明できる。
9. 高齢者に多い全身疾患について説明できる。
10. 高齢患者の臨床評価と診療方針の決定について説明できる。
11. 摂食嚥下に関わる筋とその神経支配について説明できる。
12. 摂食嚥下のメカニズムについて説明できる。
13. 摂食嚥下障害の原因と病態について説明できる。
14. 摂食嚥下障害の評価と診断について説明できる。
15. 摂食嚥下障害への対応について説明できる。
16. 在宅・施設での診療環境の基本と歯科訪問診療について説明できる。
17. 高齢者の社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。
18. 人生の最終段階における医療の関わりについて説明できる。
19. 周術期の歯科処置について説明できる。
20. 高齢者の虐待とその対応について説明できる。
21. 高齢者の栄養評価と栄養管理について説明できる。
22. チーム医療について説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】
　シラバスに記載されている各回到達目標の内容に関し、教科書を用いて調べて、ノートにまとめておくものとする。各回平均30分以上を要する。また、各講義に対する事前配布資料またはWeb classに提示される講義資料がある場合には、適宜活用することとする。
各講義の冒頭または講義中に、適宜、事前学修内容の発表時間を設けて知識の習得状況を確認する。
【事後学修】
　講義や実習で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は各回平均45分を要する。

　本内容はすべての講義・実習に対して該当するものとする。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［コア・カリキュラム］** 事前事後学修
講義	4/2（木）	2	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学①** **概論** 高齢者をとりまく社会環境と高齢者の特徴を理解する。	到達目標 １．高齢者歯科医学の基本的な学問体系を説明できる。 a）高齢者をとりまく社会環境について説明できる。 b）高齢者の生理的特徴について説明できる。 c）高齢者の精神心理的特徴について説明できる。 d）高齢者の行動的特徴について説明できる。 e）口腔と全身の健康関連を説明出来る. f）健康、障害、疾病と死の概念を説明出来る **[A-2-3-1,2,3]，[C-4-1-1,2]，[C-4-3-4]， [D-5-7-1]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P2，5-19，26-30を読み、高齢者をとりまく社会環境と高齢者の特徴について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/2（木）	3	小林琢也教授 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学②** **口腔の加齢変化** **高齢者の歯と歯周組織の疾患** 加齢による口腔変化とそれに伴い増加する疾患を理解する。	到達目標 ３．口腔の加齢と老化について説明できる。 ４．高齢者における口腔機能について説明できる。 ５．高齢者に多い歯、歯周組織の疾患について説明できる。 a）歯、歯周組織、咀嚼機能、嚥下機能の加齢変化を説明できる。 b）加齢、歯の喪失に伴う顎骨と顎関節の形態変化を説明できる。 **[A-2-4-7,8]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P64-77，98-100を読み、高齢者の歯と歯周組織の疾患について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/9 (木)	3	平野大輔 講師 （口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野）	**高齢者歯科医学③** **高齢者に多い口腔疾患** 高齢者に多い口腔疾患を理解する。	到達目標 ６．高齢者に多い口腔疾患について説明できる。 a）高齢者に多い軟組織疾患について説明できる。 b）高齢者に多い硬組織疾患について説明できる。 c）高齢者に多い神経疾患について説明できる。 d）高齢者に多い唾液腺等の疾患について説明できる。 **[D-3-1-4-1,2]，[D-3-1-6-1,2,3,4,5,6]，[D-3-1-8-1,2,3,4,5,6,7]，[D-3-1-9-1,2,3,4,5]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P107-117を読み、高齢者に多い口腔疾患について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/9 (木)	4	山田浩之 教授 （口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野）	**高齢者歯科医学④** **高齢者に対する薬剤投与** **歯科医療における安全管理** 高齢者への薬剤投与における注意点を理解する。 安全に配慮した高齢者の歯科加療を理解する。	到達目標 ７．高齢者の薬物動態について説明できる。 a）高齢者の薬物動態について説明できる。 b）高齢者の薬物療法の注意点について説明できる。 c）高齢者の歯科医療における安全管理について説明できる。 **[A-6-3-1,2,3]，[A-6-4-1,2,3,4,5,6]，[D-2-3-1,2,3,4,5,6,7,8],[D-5-7-2,6]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P8-10，123-128，152-156を読み、高齢者への薬剤投与における注意点と、安全に配慮した高齢者の歯科加療について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/23（木）	2	千葉俊美 教授 （口腔医学講座関連医学分野）	**高齢者歯科医学⑤** **全身に関連した加齢変化と高齢者に多い全身疾患** 加齢に伴う全身機能の変化を理解する。 高齢者が罹患する全身疾患について理解する。	到達目標 ２．生体の加齢と老化について説明できる。 ９．高齢者に多い全身疾患について説明できる。 a）高齢者の全身的加齢変化について説明できる。 b）高齢者に多い全身疾患，とくに認知症，脳血管疾患について説明できる。 c)高齢者の口腔と医科疾患の関連について説明できる **[A-6-3-1,2]，[A-6-4-1,5]，[D-2-3-1,2,3,4,5,6,7,8]，[D-2-4-1,2,3]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P52-63，132-149，歯科医師のための内科学 P134-P142，P247-251を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/23（木）	3	千葉俊美 教授 （口腔医学講座関連医学分野）	**高齢者歯科医学⑥** **高齢者に対する問診と診察** 様々な全身疾患を有する高齢者に対する問診と検査、診察について理解する。	到達目標 ８．有病高齢者に対する歯科治療時の管理について説明できる。 10．高齢患者の臨床評価と診療方針の決定について説明できる。 a）全身疾患，とくに糖尿病，腎不全，骨粗鬆症，不整脈を有する高齢者の問診について説明できる。 b）全身疾患を有する高齢者の検査について説明できる。 c）高齢者の歯科治療時の安全管理について説明できる。 **[D-2-3-1,2,3,4,5,6,7,8]，[D-2-4-1,2,3]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P132-149，歯科医師のための内科学P125-129，P180-P187，P192-P196，P207-210を読み、様々な全身疾患を有する高齢者に対する問診と検査、診察について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	4/30（木）	2	藤原尚樹 教授 （解剖学講座機能形態学分野）	**高齢者歯科医学⑦** **摂食嚥下に関連する解剖** 摂食嚥下機能を担う筋の構造、機能、神経支配について理解する。	到達目標 11. 摂食嚥下に関わる筋とその神経支配について説明できる。 a）咀嚼、嚥下機能を担う筋の構造について説明できる。 b）咀嚼、嚥下機能を担う筋の機能について説明できる。 c）咀嚼、嚥下機能を担う筋の神経支配について説明できる。 d）咽頭の基本構造、咽頭挙上筋と咽頭収縮筋及び支配神経を説明できる。 e）喉頭の基本構造、喉頭内筋及び分布する神経を理解している。 f）発声と構音に関わる器官の構造と機能を説明できる。 **[A-3-2-4,10,12,13,14]，[A-3-3-1,2,3,4]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P188-189を読み、摂食嚥下機能を担う筋の構造、機能、神経支配について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	4/30（木）	3	黒瀬雅之 教授 （生理学講座病態生理学分野）	**高齢者歯科医学⑧** **摂食嚥下に関連する生理とメカニズム** 摂食嚥下のメカニズムについて理解する。	到達目標 12. 摂食嚥下のメカニズムについて説明できる。 a）咀嚼、嚥下の意義と制御機構が説明できる。 b）摂食嚥下のメカニズムを説明できる。 c）摂食嚥下の中枢機構を説明 d）摂食嚥下の5期モデルを説明できる。 e）嚥下と呼吸の協調機構について説明できる。 **[A-3-2-10]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P191-193を読み、摂食嚥下のメカニズムについて疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/14（木）	2	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学⑨** **摂食嚥下障害の病因と病態** 摂食嚥下障害を引き起こす病因とその病態について理解する。	到達目標 13. 摂食嚥下障害の原因と病態について説明できる。 a）摂食嚥下障害について説明できる。 b）摂食嚥下障害の病因について説明できる。 c）摂食嚥下障害の病態について説明できる。 **[D-5-7-8]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P193-196を読み、摂食嚥下障害を引き起こす病因とその病態について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/14（木）	3	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学⑩** **摂食嚥下障害の評価と診断** 摂食嚥下障害に対する検査法と障害に対する診断を理解する。	到達目標 14. 摂食嚥下障害の評価と診断について説明できる。 a）摂食嚥下障害のスクリーニングテストについて説明できる。 b）嚥下内視鏡検査について説明できる。 c）嚥下造影検査について説明できる。 d）摂食嚥下障害の診断について説明できる。 **[D-5-7-8]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P197-200を読み、摂食嚥下障害に対する検査法と障害に対する診断について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/21（木）	2	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学⑪** **摂食嚥下障害に対する摂食機能療法①** 摂食嚥下障害に対する治療的アプローチ（間接訓練）を理解する。	到達目標 15. 摂食嚥下障害への対応について説明できる。 a）摂食嚥下障害患者に対するリハビリテーション治療について説明できる。 b）治療的アプローチについて説明できる。 c）間接訓練について説明できる。 [D-5-7-8] 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P201-202を読み、摂食嚥下障害に対する治療的アプローチ（間接訓練）について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/21（木）	3	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学⑫** **摂食嚥下障害に対する摂食機能療法②** 摂食嚥下障害に対する治療的アプローチ（直接訓練）を理解する。	到達目標 15. 摂食嚥下障害への対応について説明できる。 a）摂食嚥下障害患者に対するリハビリテーション治療について説明できる。 b）治療的アプローチについて説明できる。 c）直接訓練について説明できる。 [D-5-7-7] 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P202-204を読み、摂食嚥下障害に対する治療的アプローチ（直接訓練）について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	5/28（木）	2	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学⑬** **摂食嚥下障害に対する摂食機能療法③** 摂食嚥下障害に対する代償的アプローチや様々なアプローチを理解する。	到達目標 15. 摂食嚥下障害への対応について説明できる。 a）代償的アプローチについて説明できる。 b）摂食嚥下障害患者に対する姿勢調整を説明できる。 c）摂食嚥下障害患者に対する食事介助を説明できる d）摂食嚥下障害患者に対する食形態の調整を説明できる。 e）摂食嚥下障害患者に対する栄養管理法を説明できる。 f）環境的アプローチについて説明できる。 g）心理的アプローチについて説明できる。 **[D-5-7-8]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P204-208を読み、摂食嚥下障害に対する代償的アプローチや様々なアプローチについて疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/28（木）	3	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下障害に対する歯科的対応** 摂食嚥下障害に対して歯科医師の役割とその治療法を理解する。	到達目標 15. 摂食嚥下障害への対応について説明できる。 a）摂食嚥下障害患者に対する口腔衛生管理を説明できる。 b）口腔機能低下について説明できる。 c）口腔機能低下症の検査について説明できる。 d）摂食・嚥下リハビリテーションに用いる口腔内装置（PAP・PLP）について説明できる。 **[D-5-7-3,4]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P117-119，201，205を読み、摂食嚥下障害に対して歯科医師の役割とその治療法について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/4 (木)	2	古屋純一 非常勤講師 小林琢也 教授 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学⑭** **摂食嚥下障害に対する診察の実際** 摂食嚥下障害患者に対する診察から治療計画の立案法を理解する。	到達目標 15. 摂食嚥下障害への対応について説明できる。 a）摂食嚥下障害患者に対する治療計画立案ができる。 b）摂食嚥下障害患者に対するリハビリテーション治療について説明できる。 **[D-5-7-7]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P186-208を読み、摂食嚥下障害患者に対する診察から治療計画の立案法について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/4 (木)	3	古屋純一 非常勤講師 小林琢也 教授 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学⑮** **歯科訪問診療概論** 歯科訪問診療の目的と患者ごとの治療到達目標を理解する。	到達目標 16. 在宅・施設での診療環境の基本と歯科訪問診療について説明できる。 a）訪問歯科診療を行う上での医療制度を説明できる。 b）要介護高齢者の歯科治療時の注意点を説明できる。 c）訪問診療に必要な機材を説明できる。 **[D-6-1-1,2,3],[D-6-2-1]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P164-173を読み、歯科訪問診療の目的と患者ごとの治療到達目標について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/18 （木）	2	佐藤俊郎 准教授 （口腔医学講座予防歯科学分野）	**高齢者歯科医学⑯** **高齢者の社会保障と医療・保健・福祉** 高齢者の診療をするにあたり保健・福祉に関する法制度を理解する。	到達目標 17. 高齢者の社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。 a) 高齢者の医療・保健・福祉に関する法制度について説明できる。 b) 老人福祉法について説明できる。 c) 介護保険法について説明できる。 d) 高齢者の医療について説明できる。 e) 高齢者に関わる関連法について説明できる。 **[C-4-3-1,2,3,4,6]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学33-45を読み、高齢者の診療をするにあたり保健・福祉に関する法制度について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/18 （木）	3	杉山由紀子 助教 （口腔医学講座予防歯科学分野）	**高齢者歯科医学⑱** **高齢者等における周術期の口腔管理** 高齢者の周術期における歯科処置と医科担当医との連携の重要性を理解する。	到達目標 19. 周術期の歯科処置について説明できる。 a) 周術期の口腔機能管理を説明できる。 b) 周術期の専門的口腔衛生処置を説明できる。 c) 医科担当医との情報交換ができる。 d) 介護職員との情報交換ができる。 **[D-6-1-1,2,3],[D-6-2-1]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P121-122を読み、高齢者の周術期における歯科処置と医科担当医との連携について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	6/25 （木）	2	杉浦剛 非常勤講師 小林琢也 教授 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学⑲** **歯科訪問診療の実際** 歯科訪問診療の現場の実際を理解する。	到達目標 16. 在宅・施設での診療環境の基本と歯科訪問診療について説明できる。 a) 在宅医療を説明できる。 b) 在宅患者の全身評価ができる。 c) 医科担当医との情報交換ができる。 d) 周術期の歯科治療について説明できる。 **[D-6-1-1,2,3], [D-6-2-1]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P164-184を読み、歯科訪問診療の現場の実際について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/25 （木）	3	熊谷章子 教授 （法科学講座法歯学・災害口腔医学分野）	**高齢者歯科医学⑳** **高齢者の医療倫理** ライフステージの終末を迎える高齢者への対応を理解する。	到達目標 18. 人生の最終段階における医療の関わりについて説明できる。 a) 人生の最終段階における歯科の関わりについて説明できる。 b) 人生の最終段階における本人の意思決定について説明できる。 c) 人生の最終段階における意思表示について説明できる。 d) 緩和ケアについて説明できる。 e) 終末期ケアについて説明できる。 f) リビングウィルとアドバンスディレクティブについて説明できる。 **[C-1-3-5,6]** 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P20-24, 171-173を読み、ライフステージの終末を迎える高齢者への対応について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/2 (木)	2	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学㉑** **高齢者の虐待の徴候と対応** **高齢者歯科治療のまとめ** 高齢者に対する虐待がある現状とその対応について理解する。	到達目標 20. 高齢者の虐待とその対応について説明できる。 a). 高齢者の虐待の徴候と対応を説明出来る。 b) 高齢者虐待の防止等に関する国等の責務について説明できる。 c) 高齢者虐待を受けた高齢者に対する保護のための措置を説明できる。 d) 養護者に対する支援のための措置を説明できる。 [D-5-7-10] 事前学修：過去の高齢者虐待に関する記事を読み、高齢者に対する虐待がある現状を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/2 (木)	3	遠藤龍人教授 小林琢也教授 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学㉒** **高齢者の栄養管理** 高齢者の栄養管理について理解する。	到達目標 21. 高齢者の栄養評価と栄養管理について説明できる。 a) 高齢者の栄養障害について説明できる。 b) 高齢者の栄養管理について説明できる。 [D-5-7-8,9] 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P209-213を読み、高齢者の栄養管理について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
演習	7/9 (木)	2	小林琢也 教授 島田崇史 助教 （歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**高齢者歯科医学㉓** **高齢者歯科治療とチーム医療** 他職種の役割を知り、多職種連携によるチーム医療について理解する。	22. チーム医療について説明できる。 a) 歯科衛生士と連携する口腔健康管理の方法を説明できる。 b) 他職種の仕事を説明できる。 c) 多職種連携に必要となる基本的な専門用語を説明できる。 d) 多職種チーム医療を説明出来る。 [C-1-3-1,2,3,4],[D-5-7-5,10],[D-6-2-3,4] 事前学修：よくわかる高齢者歯科学P46-51を読み、多職種連携によるチーム医療について疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	よくわかる高齢者歯科学 第2版	佐藤裕二ほか編	永末書店	2023年
参	老年歯科医学　第2版	森戸光彦ほか編	医歯薬出版	2022年
参	歯科医師のための内科学	千葉俊美、山田浩之	医歯薬出版	2021年
参	歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学	向井美恵ほか編著	医歯薬出版	2019年
参	摂食嚥下リハビリテーション　第3版	才藤栄一ほか慣習	医歯薬出版	2016年

成績評価方法・基準・配点割合等

・講義（65点以上で合格）：筆記試験の評価
各科より講義数に応じた問題数による総合試験を実施する。

到達目標	DP	定期試験	その他	合計
１～15	４	60		60
16	１、４、５	10		10
17、20	１、３、４、５	10		10
18、22	１、３、４	10		10
19、21	３、４	10		10
合計		**100**		**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【フィードバック】
・非常勤講師担当以外の講義では講義後に試験（ポストテスト）を行い、結果は次の講義前にフィードバックする。
・実習で作成されたプロダクトを他の学生と共有し相互でブラッシュアップする。
【アクティブラーニング】
・講義/演習日程表の「ユニット名 内容」の欄に別途記載済み。
【ICT】
・講義前にWeb Classに資料を提示するので事前学習に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 …有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的

歯科総合演習（4年）

責任者・コーディネーター	医療工学講座　武本 真治 教授				
担当講座（分野）	歯学部全講座(分野)				
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間換算)		講義/演習	実習
期間	通期		前期	34.0時間	—
			後期	92.0時間	—

学修方針（講義概要等）

ICTを活用した繰り返し演習や講義、ネット模擬試験、総合試験を実施することにより、4年次までに履修する歯科医学的重要事項を再確認し修得する。本科目を履修することで5年次臨床参加型実習に必要且つ十分な基本的な学力を養い、歯科医学的知識基盤の確立を目指す。

教育成果（アウトカム）

これまでに学んだ基礎歯科医学、臨床歯科医学および社会歯科医学についてICTも活用して各演習を繰り返し実施することによって、5年次の臨床実習に入る前に、これら履修済み歯科医学のコア歯学教育修得状況を自らが再確認できる。講義室演習試験、ネット模擬試験、総合試験で判明した理解不足の弱点領域を復習することにより真に臨床実習を行うに足るレベルの知識を身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：4）

到達目標（SBOs）

5年次の診療参加型臨床実習を行うために必要な歯科医学知識の確認を行い、5年次臨床実習の診断や治療計画立案等に役立つ知識として修得する。そこで4年次までの履修済み基礎歯科医学、臨床歯科医学、社会歯科医学を再び復習し、各自の弱点領域を補修することにより臨床実習を行う上で必要かつ十分な知識を身につけることとして、以下の到達目標を設定する。

1. 歯科医学の診断に必要な基礎知識を説明できる。
2. 歯科診療で適切な治療法の選択基準となる基礎知識を説明できる。
3. 診断に基づいた歯科診療の手順を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

事前学修は、シラバスに記載されている各回の講義・試験内容に関しICTや教科書等を用いて調べ自らの弱点を抽出しておくこと。時間は各回平均30分を要する。適宜、コア歯学教育演習講義等で事前学修内容の確認時間を設ける。

事後学修は、各回の講義・試験内容を振り返り、ノート等にまとめること。時間は各回平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［コア・カリキュラム］** 事前事後学修
講義	5/1（金）	3	武本真治教授（医療工学講座）	**歯科理工学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	1.3年次までに履修した範囲の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **［関連コアカリ全て］** 事前学修：各回の講義担当分野のDESS演習を行い、自らの弱点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：各回の講義内容を振り返り、ノート等にまとめること。事前学修で行ったDESS演習を再度実施し、知識定着の再確認を行うこと。所要時間45分程度。
講義	5/1（金）	4	横田聖司講師（生化学講座 細胞情報科学分野）	**生化学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	5/22（金）	3	石河太知教授（微生物学講座 分子微生物学分野）	**微生物学・免疫学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	5/22（金）	4	田村晴希講師（薬理学講座 病態制御学分野）	**薬理学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	5/29（金）	4	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**病理学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	6/5（金）	3	大津圭史教授（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**組織学・発生学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	6/5（金）	5	千葉俊美教授（口腔医学講座 関連医学分野）	**内科学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	6/11（木）	2	佐藤宏明講師（歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**全部床義歯補綴学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	6/19（金）	3	黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野）	**生理学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	

講義	6/26（金）	1	髙橋徳明講師（口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**歯科放射線学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	1.3年次までに履修した範囲の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **［関連コアカリ全て］** 事前学修：各回の講義担当分野のDESS演習を行い、自らの弱点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。事後学修：各回の講義内容を振り返り、ノート等にまとめること。事前学修で行ったDESS演習を再度実施し、知識定着の再確認を行うこと。所要時間45分程度。
講義	7/3（金）	1	佐々木大輔教授（歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周療法学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	7/10（金）	1	深澤翔太准教授（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**冠橋義歯補綴学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	7/17（金）	1	吉岡望准教授（解剖学講座 機能形態学分野）	**解剖学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	7/24（金）	3 4	岸光男客員教授（口腔医学講座 予防歯科学分野）	**衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、社会歯科学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	8/25（火）	3 4	浅野明子准教授（歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**保存修復学、歯内治療学の総復習(1)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	9/9（水）	3	大津圭史教授（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**組織学・発生学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	1. 4年次前期までに履修した範囲の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **［関連コアカリ全て］** 事前学修：各回の講義担当分野のDESS演習を行い、自らの弱点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。事後学修：各回の講義内容を振り返り、ノート等にまとめること。事前学修で行ったDESS演習を再度実施し、知識定着の再確認を行うこと。所要時間45分程度。
講義	9/11（金）	4	藤原尚樹教授（解剖学講座 機能形態学分野）	**解剖学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	9/30（水）	3	石河太知教授（微生物学講座 分子微生物学分野）	**微生物学・免疫学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	9/30（水）	4	髙橋徳明講師（口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**歯科放射線学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	

講義	10/7（水）	3	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生理学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	1. 4年次前期までに履修した範囲の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **［関連コアカリ全て］** 事前学修：各回の講義担当分野のDESS演習を行い、自らの弱点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：各回の講義内容を振り返り、ノート等にまとめること。事前学修で行ったDESS演習を再度実施し、知識定着の再確認を行うこと。所要時間45分程度。
講義	10/7（水）	4	横田聖司講師 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**生化学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	10/14（水）	3	佐々木かおり助教 （医療工学講座）	**歯科理工学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	10/21（水）	3	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**病理学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	10/28（水）	3	熊谷章子教授 （法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**法歯科医学・災害歯科医学の総復習(1)** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	10/28（水）	4	村井治講師 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周療法学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	11/6（金）	3 4	岸光男客員教授 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、社会歯科学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	11/11（水）	3	小林琢也教授 島田崇史助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下・口腔リハビリテーション学の総復習(1)** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	11/13（金）	3 4	相上雄亮助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**保存修復学、歯内治療学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	11/20（金）	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**歯科麻酔学の総復習(2)** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	

講義	11/25（水）	2	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**内科学の総復習(2)** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	1. 4年次前期までに履修した範囲の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **［関連コアカリ全て］** 事前学修：各回の講義担当分野のDESS演習を行い、自らの弱点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：各回の講義内容を振り返り、ノート等にまとめること。事前学修で行ったDESS演習を再度実施し、知識定着の再確認を行うこと。所要時間45分程度。
講義	11/25（水）	3 4	今一裕教授 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**冠橋義歯補綴学・口腔インプラント学の総復習(2)** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	12/2（水）	3	菊池恵美子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**歯科矯正学の総復習(1)** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	12/2（水）	4	太田藍里助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**口腔外科学の総復習(1)** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	12/9（水）	3 4	佐藤宏明講師 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**全部床義歯補綴学・部分床義歯補綴学の総復習(2)** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	12/11（金）	4	田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**薬理学の総復習(2)** 3年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/5（火）	1	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**CBT直前講義（微生物学・免疫学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	1. 4年次までに履修した範囲の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **［関連コアカリ全て］** 事前学修：各回の講義担当分野のDESS演習を行い、自らの弱点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：各回の講義内容を振り返り、ノート等にまとめること。事前学修で行ったDESS演習を再度実施し、知識定着の再確認を行うこと。所要時間45分程度。
講義	1/5（火）	2	藤原尚樹教授 （解剖学講座 機能形態学分野）	**CBT直前講義（組織学・発生学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/5（火）	3	横田聖司講師 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**CBT直前講義（生化学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/5（火）	4	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**CBT直前講義（生理学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	

講義	1/5（火）	5	入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）	**CBT直前講義（病理学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	1.　4年次までに履修した範囲の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **［関連コアカリ全て］** 事前学修：各回の講義担当分野のDESS演習を行い、自らの弱点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：各回の講義内容を振り返り、ノート等にまとめること。事前学修で行ったDESS演習を再度実施し、知識定着の再確認を行うこと。所要時間45分程度。
講義	1/6（水）	1	大津圭史教授（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**CBT直前講義（解剖学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/6（水）	2	佐藤健一教授（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**CBT直前講義（歯科麻酔学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/6（水）	3	田村晴希講師（薬理学講座 病態制御学分野）	**CBT直前講義（薬理学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/6（水）	4	髙橋徳明講師（口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野）	**CBT直前講義（歯科放射線学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/6（水）	5	佐藤俊郎准教授（口腔医学講座 予防歯科学分野）	**CBT直前講義（衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、社会歯科学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/7（木）	5	熊谷美保准教授（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**CBT直前講義（障害者歯科学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/8（金）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**CBT直前講義（小児歯科学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/8（金）	2	高橋美香子助教（口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**CBT直前講義（口腔外科学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/8（金）	3	今一裕教授（歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**CBT直前講義（冠橋義歯学、インプラント学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	

講義	1/8（金）	4	佐藤宏明講師 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**CBT直前講義（全部床義歯補綴学・部分床義歯補綴学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	1.　4年次までに履修した範囲の知識を補強し、自らにフィードバックできる。 **［関連コアカリ全て］** 事前学修：各回の講義担当分野のDESS演習を行い、自らの弱点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：各回の講義内容を振り返り、ノート等にまとめること。事前学修で行ったDESS演習を再度実施し、知識定着の再確認を行うこと。所要時間45分程度。
講義	1/8（金）	5	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野）	**CBT直前講義（内科学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/12（火）	2	武本真治教授 （医療工学講座）	**CBT直前講義（歯科理工学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/12（火）	3	小林琢也教授 島田崇史助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**CBT直前講義（摂食嚥下・口腔リハビリテーション学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/12（火）	4	熊谷章子教授 （法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**CBT直前講義（法歯科医学・災害歯科医学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/12（火）	5	菊池恵美子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**CBT直前講義（歯科矯正学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/13（水）	1	野田守教授 高満正宜助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**CBT直前講義（保存修復学、歯内治療学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	
講義	1/13（水）	2	八重柏隆客員教授 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**CBT直前講義（歯周療法学）** 4年次までに履修した項目について理解を深める。	

その他（演習等）日程表

演習	9/26（土）	1 2 3 4		**CBTネット模試（1）**	
演習	11/7（土）	1 2 3 4		**CBTネット模試（2）**	

教科書・参考書・推薦図書･･･予め指定する図書はありません。

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年

成績評価方法・基準・配点割合等

【成績評価方法】
下記により評価し、65%以上を合格とする。

前期試験 ---------- 30%
総合試験 ---------- 70%

【受験資格】
前期試験については、指定した演習を受験し、かつ、講義に規定数以上出席すること。
総合試験（後期試験期間中）については、DESS演習、CBTネット模擬試験を受験し、講義に規定数以上出席すること。

到達目標	DP	前期試験	後期試験	その他	合計
1、2、3	4	30	70		100
合計		**30**	**70**		**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

一般的な講義に加え、ICTを活用し知識の定着をはかる。事前学修としてICTを用いた演習に加え、講義終了毎に事後学修として再度ICTを用いた演習を行うこととノートの作成を課し、自学自習の習慣と知識の集約化をはかる。事前・事後学修の成果は、コメントなどによりフィードバックする。定期的に試験を実施し、到達度を確認する。
講義室演習試験、前期試験、CBTネット模擬試験及び総合試験はCBT本試験と同様に原則としてマルチメディア教室PCを使用して実施する。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
デジタル一眼レフカメラ一式	EOS8000D	1	臨床実習・診療用機器	4年総合試験用問題作成、臨床実習用および診療用機器

専門英語（４年）

責任者・コーディネーター	病理学講座（病態解析学分野）入江太朗教授 口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）川井忠准教授
担当講座（分野）	歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）、歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）、口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野）、法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）、口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）、口腔保健育成学講座（歯科矯正学分野）、口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野）

対象学年	4	区分・時間数 （1コマ2時間換算）		講義/演習	実習
期間	後期		前期	—	—
			後期	14.0時間	—

学修方針（講義概要等）

教養課程、2年次と3年次に履修した専門英語の理解度をさらに深めるため、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどのアクティブ・ラーニングを活用した繰り返し演習を実施する。本科目の修得により、歯科臨床の現場で使用される歯学の英語基本用語を再確認できる。5年次臨床実習を行うに足る十分な歯学専門英語の知識を確実に身につけることができる。

教育成果（アウトカム）

医学・医療のグローバル化、先進化にともない、歯科医学・医療についての情報を収集する場面、増加する外国人の歯科診療を行う場面など、様々な場面で、英語を用いたコミュニケーションを行うことが必要とされる。専門英語では、1）医学の共通語としての医学（歯科）用語を学び、臨床実習のケースプレゼンテーションや歯科医師国家試験における“歯科医学、医療分野で必要とされる英語”に備えるとともに、2）教養課程で学んだ英語をさらに発展させ、専門論文などを読む上に必要な読解力を習得することで、総合的なコミュニケーションスキルを高める。

（関連するディプロマポリシー：7）

到達目標（SBOs）

1. 学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。
2. 専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。
3. 学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、テキストを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。適宜、事前学修内容の発表時間を設ける場合がある。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[コア・カリキュラム]** 事前事後学修
講義	9/16（水）	3	今一裕教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**歯学の基本用語　1** 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1.補綴学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2.専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3.補綴学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 **[SO-07,C-7-1]** 事前学修：補綴学領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
講義	9/25（金）	3	熊谷章子特任教授 （法歯学・災害口腔医学分野）	**歯学の基本用語　2** 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1.法歯科医学・災害歯科医学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2.専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3.法歯科医学・災害歯科医学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 **[SO-07,C-7-1]** 事前学修：法歯科医学・災害歯科医学領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
講義	10/9（金）	3	小林琢也教授 （有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**歯学の基本用語　3** 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1.高齢者歯科学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2.専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3.高齢者歯科学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 **[SO-07,C-7-1]** 事前学修：高齢者歯科学領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。

講義	10/16（金）	3	佐藤健一教授 （歯科麻酔学分野）	**歯学の基本用語　4** 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1.歯科麻酔学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2.専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3.歯科麻酔学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [SO-07,C-7-1] 事前学修：歯科麻酔学の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
講義	11/16（月）	3	川井忠准教授 （口腔外科学分野）	**歯学の基本用語　5** 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1.口腔外科学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2.専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3.口腔外科学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [SO-07,C-7-1] 事前学修：口腔外科学領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
講義	11/20（金）	3	桑島幸紀准教授 （歯科矯正学分野） 齊藤桂子講師 （小児歯科学・障害者歯科学分野）	**歯学の基本用語　6** 臨床でよく使われる歯学用語を理解する。	1.小児歯科学および矯正歯科学を通して学習した内容に関連した基礎的な歯学用語を理解できる。 2.専門用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。 3.小児歯科学および矯正歯科学を通して学習した内容について、臨床の場で使われる歯学用語を英語で説明できる。 [SO-07,C-7-1] 事前学修：**小児歯科学および矯正歯科学**領域の基本的な英語について、講義までに資料にある問題を解答する。所用時間30分程度。 事後学修：講義での解答を確認して事後学習を行うこと。所用時間45分程度。
演習	12/11（金）	3	入江太朗教授 （病態解析分野） 川井忠准教授 （口腔外科学分野）	**歯学の基本用語** **（到達度評価試験）**	1.客観的な評価（到達度評価試験）を受け、達成度と理解度を知る。

教科書・参考書・推薦図書…予め指定する図書はありません。

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年

成績評価方法・基準・配点割合等

到達度評価試験　100%

到達目標	DP	到達度評価試験	その他	合計
1、2、3	7	100		100
合計		**100**		**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【授業資料】
事前にテキストを配布する。
【試験】
・各6講義より、テキスト内容と授業内容の理解度を評価を行うための筆記試験を行い、到達度を評価する。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的

コミュニケーション学

責任者・コーディネーター	歯科医学教育学分野　浅野明子　准教授				
担当講座（分野）	臨床講座				
対象学年	4	区分・時間数 （1コマ2時間換算）		講義/演習	実習
期間	後期		前期	—	—
			後期	12.0時間	38.0時間

学修方針（講義概要等）

医療面接情報収集、口腔内検査、医療安全、感染対策など患者治療に必要な知識、技術を習得する。

教育成果（アウトカム）

講義、実習を通して、基本的な医療コミュニケーション、感染対策の能力を身に着けることができる。また口腔領域に発症する頻度の高い歯科疾患の診断ならびに必要な知識と基本的検査の手技を習得する。

（関連するディプロマポリシー：1～4、6）

到達目標（SBOs）

1.医療面接の目的と方法、手技を説明できる。
2.医療情報収集（歯科体系、専門用語、主訴、現病歴、既往歴）を説明できる。
3.歯科医の心構えを理解し、診断の基本を説明できる。
4.チーム医療における歯科医師の役割を理解し、多職種連携について説明できる。
5.基本的な初診時の医療面接を行うことができる。
6.基本的な診療姿勢を身に着ける。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】
　シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、WEBCLASS上の講義資料等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。
【事後学修】
　講義・実習等で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日(曜)	時限	担当教員(講座 分野)	**ユニット名** 内容	到達目標 **[コア・カリキュラム]** 事前事後学修
講義	9/10(木)	3	浅野明子准教授 (歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野) 千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	**科目の概要** **医療コミュニケーション1** **医療面接の意義** 医療面接の目的、必要な聴取項目等を理解することで、適切な医療面接が行えるようになる。	1. 科目の目標、概要、評価法について説明できる。 2. 医療面接の目的を説明する。 3. 医療面接時の心構え得を理解する。 4. 主訴について説明する。 5. 医療面接に必須のコンテンツを列挙できる。主訴に対する現病歴の医療面接の仕方を説明する。 6. 既往歴(全身、口腔関連領域)について説明する。 **[PR-01, GE-01, CM-01, D-2-1, E-2-1]** DESS演習の準備をしておくこと。 事前学修:WebClassの資料を理解しておく。3年次、社会と歯学教科書スタンダード社会歯科学第8版書籍p.28-40を読んでまとめておく。講義の最初に事前学修の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。所要時間30分程度。 事後学修:理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/17(木)	3	千田弥栄子助教 (う蝕治療学分野)	**医療コミュニケーション2** **医療情報** 患者からの医療情報収集に必要な用語等(歯科診療体系、専門用語、主訴、既往歴、現病歴)を理解することで、適切な医療面接が行えるようになる。	1. 診療録の意義を説明する。 2. 診療録に記載する項目を列挙する。 3. 歯式の記入法を説明する。 4. 歯式に用いる略語を説明する。 5. 主訴の定義、種類を説明する。 6. 主訴に対する現病歴の医療面接の仕方を説明する。 7. 既往歴(全身、口腔関連領域)について説明する。 **[CM-01, C-6-3-2, D-4-1-1]** 事前学修:WebClassの資料を理解しておく。3年次、社会と歯学講義「5.診療所に関する諸記録と管理」資料、書籍、インターネット等で診療録について調べ、まとめておく。所要時間30分程度。 事後学習:理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	9/24 (木)	3	千田弥栄子助教 （う蝕治療学分野）	**医療コミュニケーション3** **患者へのアプローチ** 患者に対する歯科医の心構えを理解するとともに、診断の基本について説明できるようになる。	1. 疾患の慢性期と急性期における医療面接の差違を概説できる。 2. 日常診療におけるインフォームドコンセントの重要性を説明できる。 3. 診断に必要な主観的及び客観的情報を列挙できる。 4. 医療情報の収集方法を説明できる。 5. 診断を患者にわかりやすく説明できる。 **[D-2-1, E-2-1]** 事前学修：WebClassの資料を理解しておく。書籍で患者に対する歯科医の心構えについて調べ、まとめておく。講義の最初に事前学修の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	10/1 (木)	3	千田弥栄子助教 （う蝕治療学分野）	**医療コミュニケーション4** **チーム医療と多職種連携** チーム医療における歯科医師の役割を理解し、多職種連携について説明できるようになる。	1. 医療チームの種類を列挙できる。 2. チーム医療における各種職業の役割について説明できる。 3. チームの形成過程について説明できる。 4. 多職種連携について説明できる。 **[A-1-2)、A-4、A-5]** DESS演習の準備をしておくこと。 事前学修：WebClassの資料を理解しておく。書籍でチーム医療と多職種連携について調べ、まとめておく。講義の最初に事前学修の内容についてプレゼンテーションの機会を設ける。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	11/19 (木)	3	佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座予防歯科学分野)	**感染対策** 全ての歯科診療に共通な感染対策を学ぶことによって患者への対応の基本が身につく。	1.安全、安心な医療提供について説明できる。 2.臨床の場における感染の要因と連鎖について説明できる。 3.スタンダードプレコーションについて説明できる。 **[PS-09, A-4-1-7～9, C-7-5, E-1-1]** 事前学修：2, 3年次の感染、免疫に関する教科書とその他の参考書を含めて調べ、予習しておく。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	12/9 （水）	2	坪田まり子非常勤講師 千田弥栄子助教 （う蝕治療学分野）	**歯科医師に必要とされるコミュニケーション力** コミュニケーションの意義と技法を学ぶことで患者中心の歯科医療におけるコミュニケーションの意義を理解することができる。	1.メラビアンの法則を理解し、自分自身に活用できる。 2.患者から見た歯科医師としての自分の印象を想像できる。 3.相手を不快にさせない聞き方、話し方の原則を列挙できる。 4.医療面接に活かす自分自身の長所を列挙できる。 5.自分の歯科医師としてのキャリアビジョンを模索できる。 **[CM-01～04、C-1-2-3,4]** 事前学修：コミュニケーションに関する任意の書物、記事などを読んでおくこと。

実習日程表

実習	10/8 （木）	1 2	浅野明子准教授 （歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野） 千田弥栄子助教 （う蝕治療学分野） 他臨床講座	**医療コミュニケーション実習①（矢巾実習室）** ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 **[E-2-1]** 事前学習：講義「医療コミュニケーション1-4」の内容を復習し、各自医療面接の歯科医師役をシミュレーション練習して実習に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	10/15 （木）	1 2	浅野明子准教授 （歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野） 千田弥栄子助教 （う蝕治療学分野） 他臨床講座	**医療コミュニケーション実習②（矢巾実習室）** ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 **[E-2-1]** 事前学習：講義「医療コミュニケーション1-4」の内容を復習し、各自医療面接の歯科医師役をシミュレーション練習して実習に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	11/12 （木）	1 2	浅野明子准教授 （歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野） 千田弥栄子助教 （う蝕治療学分野） 他臨床講座	**医療コミュニケーション実習③（矢巾実習室）** ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 **[E-2-1]** 事前学習：講義「医療コミュニケーション1-4」の内容を復習し、各自医療面接の歯科医師役をシミュレーション練習して実習に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。

実習	11/26 （木）	3	浅野明子准教授 （歯科医学教育学分野・う蝕治療学分野） 千田弥栄子助教 （う蝕治療学分野） 佐藤俊郎准教授 衣斐美歩講師 （口腔医学講座予防歯科学分野）	**感染対策実習（矢巾実習室）** 臨床の場における感染予防対策を実施できるようになる。	1.術前・術後の手洗いを適切に実施できる。 2.防護衣の装着、脱着を実施できる。 **[E-1-1]** 事前学修：感染対策の講義内容を復習し実習に望むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や実習書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
実習	12/10 （木）	3	千田弥栄子助教 （う蝕治療学分野）	**補足実習** ※該当者のみ、それ以外は出席確認無し、自主学習 **医療コミュニケーション実習** ロールプレイ実習で医療面接を実施できるようになる。	以下の項目を規定時間内に実施できる。 1. 指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 **[E-2-1]** 事前学習：補足実習該当者は、「医療面接実習」の内容を復習し、各自シミュレーション練習して実習に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	1/15 （金）	3 4	佐藤俊郎准教授 大石泰子助教 佐藤華子助教 杉山由紀子助教 （予防歯科学分野）	**口腔内状態の記録**	1.口腔内の歯式を正しく記録することができる。 **[E-2-2-3]** 事前学修：事前に口腔内状態の記録（硬組織診査等）について該当する講義資料等を調べてまとめておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	1/18 （月）	3 4	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**初診患者の医療面接（急性症状、慢性症状）**	1.指定された時間内に、初診時医療面接を行うことができる。 **[D-2-1-1,E-2-1]** 事前学修：歯科治療時に注意しなければいけない全身的な疾患と処方されている薬物について調べておく。 ・抗凝固薬、免疫抑制薬、骨吸収抑制薬、薬の相互作用など。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。

実習	1/19 （火）	1 2	山田浩之教授 川井 忠准教授 大橋祐生准教授 古城慎太郎講師 平野大輔講師 野宮孝之助教 秋本祐基助教 高橋美香子助教 太田藍理助教 川又慎介助教 矢菅絵里加助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**手指消毒（衛生的手洗い・擦式消毒）と手袋の装着、単純抜歯（滅菌手袋の装着と廃棄を含む）**	1.手術前の手洗いが適切に実施できる。 2.滅菌グローブを適切に装着できる。 3.普通抜歯の器具の準備および抜歯操作が実施できる。 **[D-5-4,E-1-1-1 ～5,E-5-3-5]** 事前学修：手洗い・滅菌グローブの装着、抜歯器具の準備・抜歯操作について講義レジメ、実習書を確認してから臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所要時間45分程度。
実習	1/19 （火）	3 4	野田守教授 浅野明子准教授 東兼司助教 大塚泰寛助教 相上雄亮助教 清水彩恵子助教 高満正宜助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**ラバーダム防湿、う蝕罹患歯質の除去、コンポジットレジン修復（単純窩洞）**	1.ラバーダム防湿を適切に実施できる。 2.罹患歯質を適切な切削器具を用いて除去できる。 3.コンポジットレジン充填を実施できる。 **[E-5-3-1]** 事前学修：ラバーダム防湿、う蝕象牙質の除去、コンポジットレジン充填について講義ノート、実習書を確認してから臨むこと。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。
実習	1/20 （水）	1 2 3	佐藤宏明講師 原総一朗助教 米澤悠助教 島田崇史助教 伊藤凌助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野） 今一裕教授 深澤翔太准教授 横田潤講師 福徳暁宏講師 斎藤裕美子助教 佐々木渓斗助教 星美貴助教 八戸勇樹助教 （歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**支台歯形成、概形印象採得、補綴前処置（レストシートの形成）**	**[D-5-3-1、D-5-3-1-1、D-5-3-1-4]** 事前学修：補綴学のクラウンの実習書の支台歯形成に関する手技と使用する機材を確認しておくこと。 **[D-5-3、D-5-3-1-5、D-5-3-2、D-5-3-2-3]** 事前学修：概形印象採得と補綴前処置（レストシートの形成）に関する有床義歯補綴学および冠橋義歯補綴学の講義レジメおよび実習書の内容を確認しておくこと。所用時間30分程度 事後学修：理解できなかった内容について講義資料、実習資料を用いて復習すること。所用時間45分程度。

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	メディカル・インタビューマニュアル第3版：医師の本領を生かすコミュニケーション技法　第3版	福井　次矢　監修	インターメディカ	2002
参	POSによる歯科診療録の書き方	日野原　重明　監修	医歯薬出版出版	2005
参	臨床口腔診断学	内山　洋一ほか編	国際医書出版	1994
参	総合口腔診断学	増田　屯　編	砂書房	1996
参	スタンダード社会歯科学第8版	尾崎哲則ほか　編著	学建書院	2023

成績評価方法・基準・配点割合等

講義、実習いずれとも合格したものを合格とする。
講義：レポート課題により評価する。レポート評点65点以上を合格とする。
実習：実習過程、実習試験で評価し、実習評点65点以上を合格とする。

到達目標	DP	レポート	実習課程･実習試験	合計
1、2	4	40		40
3	4		20	20
4、5	1、4		30	30
6	4		10	10
合計		**40**	**60**	**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

一般的な講義に加えて、相互実習、相互評価の機会を設け、伝える力の強化を図る。
講義資料は1日前までにWebClassにアップする。または、講義、実習時に資料を配布する。
インターネット上の教材(DESS問題、WebClass教材)を利用することがあるので、学生は講義室でインターネットに接続可能なPC、タブレット等の準備をしておくこと。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的

自　由　科　目

(海外外国語研修)

(地域医療課題解決演習)

海外英語演習

責任者・コーディネーター	外国語学科英語分野　柳谷　千枝子 准教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野		
担　当　教　員	柳谷　千枝子 准教授、Jonathan Levine-Ogura 助教、 松田 竜宙 助教、Robert Ken Asano 助教		
対象学年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	約 2 週間
期　間	後期		

・学修方針（講義概要等）

英語圏の国に短期間滞在し、大学または語学学校の講師による語学コースを受講する。授業では、主として、日常会話に役立つ表現や文法事項などのテーマを扱う。さらに、リスニング練習を通してスピーキング能力を伸ばし、将来医師・歯科医師・薬剤師・看護師として活躍する際に必要な英語の総合力を培う。また、英語圏の国の文化や歴史に対する理解を深めるため、名所旧跡を見学する。その他、様々な国の人々と共にアクティビティーに参加したり、医療関連施設を訪問したりすることもある。

本演習では、外国で様々な経験を重ねることで医療者に求められる豊かな人間性を養い、また異文化コミュニケーションを図ることで国籍にかかわらず相手の立場を理解し、さらに、臆することなく自己を表現することで、友好的かつ国際的な人間関係を築くことができるようになる。

・教育成果（アウトカム）

本演習は教養教育に求められる豊かな人間性を涵養する一環として実施される。

1. 海外での生活体験を通して異文化に触れることで多様な価値観を理解でき、幅広い視点から人および物事を見ることができる。
2. 英語演習を通じて日本語を再認識することで、その能力向上を図るとともに、将来必要とされる患者との相互理解、信頼関係構築のためのコミュニケーション能力を育成できる。

（ディプロマポリシー：1, 2, 3, 7, 9）

・到達目標（SBO）

(1) 異文化を理解し、現地の人と英語で意思疎通を図ることができる。
(2) 教室では間違いをおそれず積極的に発言することができる。
(3) 日本人同士で集まることなく各国の人たちと積極的に交流することができる。
(4) 英語圏の文化・歴史・価値観・医療に触れることで、医療者に求められる豊かな人間性と柔軟な思考力を身につけることができる。

・成績評価方法

【総括的評価】　研修レポート: 30%、演習態度*: 70%

【形成的評価】 研修内容に関する質疑応答により、異文化に対する理解度評価を行う。

*本科目の演習態度とは、主に、授業、イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での積極的な発言、自主的行動、外国での問題解決能力等を指す。
*演習態度の具体的な評価方法については「参加者募集説明会」および「参加者対象説明会」で説明する。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、4	1、7、9		30					30
1、2、3、4	1、2、3、7						70	70
合計			30				70	100

備考：
「その他」（70%）は、授業・イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での発言、自主的行動、外国での問題解決能力等による演習態度評価を含む。

・特記事項・その他

研 修 先 ：英語圏の国（例：イギリス、オーストラリア等）
期　　間：3 月（約 2 週間）の予定
宿泊施設：ホームステイ等

研修内容を把握し渡航に向けて準備するため、参加希望者は「参加者対象説明会」および「最終説明会」（各 1 時間程度）に出席する必要がある。なお、提出レポート（感想文）は、後日、個別にフィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無　無

（令和８年度）地域医療課題解決演習

科目担当責任者	医学部総合診療医学講座　下沖 収 教授		
担当講座・学科（分野）	（医学部）総合診療医学講座、内科学講座脳神経内科・老年科分野 （歯学部）歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、 口腔医学講座予防歯科学分野、法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 （薬学部）臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野 （看護学部）地域包括ケア講座		
担当教員	（医学部）下沖 収 教授、大間々 真一 准教授、髙橋 智弘 講師、前田　哲也 教授、 赤坂　博 助教 （歯学部）小林 琢也 教授、熊谷 章子 特任教授 （薬学部）松浦 誠 特任教授、白石　博久 特任教授 （看護学部）岩渕 光子 教授、赤井 純子 助教 ＜協力＞矢巾町健康長寿課関係者の皆様、演習訪問先等関係者の皆様		
対象学年	全学年（全学部）	期　間	通期
区分・時間数	演習　　16.0 時間（全８回） （1 コマ 2 時間換算）	単位数	１単位

■　学習方針（演習概要等）

患者（対象者）を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行う、多職種連携 PBL 科目である。自治体関連施設等の訪問、関係専門職や、対象者（住民）へのインタビュー等をグループで行い、学部・学年を超えたディスカッションの上で提言をまとめる。

■　教育成果（アウトカム）

患者（対象者）や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナリズムを理解し実践する力を身につける。施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につける。併せて、多職種（専門職）連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につける。
（ディプロマ・ポリシー）
医学部：1，2，4，6，8　歯学部：1，2，3，5，9　薬学部：1，2，3　看護学部：1，2，3，7，8

■　到達目標（SBOs）

1. 対象とする地域医療課題に関する現状と問題点を捉え、説明できる。
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくりにおける各職の役割が説明できる。
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

■　成績評価方法

最終発表会を含め演習への参加態度評価（50%）、ルーブリックによるグループワーク等評価（30%）、成果物評価（20%）により評価する。

到達目標	DP				ルーブリック	発表参加態度	成果物	合計
	医	歯	薬	看				
1,2,3,4	1，2，4，6，8	1，2，3，5，9	1，2，3	1，2，3，7，8	30	50	20	100
5	2	9	1	1				
合計					30	50	20	100

■　事前学修時間・内容

各回到達目標の内容を事前に学習するとともに、実施前にメールで事前もしくは事後課題の指示あり。各回、事前事後 4 時間以上の学習を要する。学習結果は、演習当日に持参もしくは指示によりデータ提出すること。フィードバックは授業時、または個別にメール等で行う。

■　特記事項・その他

開催日：別途調整のうえ指定　　対　象：全学年（全学部）　　会　場：矢巾キャンパス・矢巾町役場等 ＊受講希望者は掲示を確認の上、所定の期日までに履修届を提出のこと。＊30 分以上の遅刻は欠席とする。 当該科目に関する実務経験の有無　有 行政（矢巾町）と連携したフィールドワーク等を通じて、地域課題や解決方法について学ぶ。

実施日程

月日	時限	内容／到達目標	担当教員	会場
第 1 回 6 月 予定	5 限 予定	オリエンテーションと概要講義 2. 日本における当該課題の概要を理解し説明できる。 3. 地域における当該課題の概要を理解し説明できる。	大間々 真一 准教授 髙橋 智弘 講師 前田　哲也 教授 赤坂　博 助教 小林 琢也 教授 熊谷 章子 特任教授 松浦 誠 特任教授 白石　博久 特任教授 岩渕 光子 教授 赤井 純子 助教	矢巾町
第 2 回 6 月 予定	5 限 予定	グループワーク　（課題理解の共有） 1. 地域における当該科目の概要理解について、グループ内検討により、関わり方の相違点・共通点を確認し自分の言葉で説明できる。 2. メンバーが理解を共有できるよう、必要なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第 3 回 7 月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第 4 回 8 月 予定	5 限 予定	グループワーク　（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第 5 回 9-10 月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第 6 回 11 月 予定	5 限 予定	グループワーク　（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第 7 回 11 月 予定	5 限 予定	グループワーク（プレゼンテーション作成） 1. グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見をあわせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。		矢巾キャンパス

第8回 12月 予定	5限 予定	検討発表会・まとめ 1. 当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。 2. 自他尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス

学則・試験規程・その他

岩手医科大学学則

第１章　目的及び使命

第１条　本学の目的は、医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成するにある。すなわち、まず人としての教養を高め、充分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させること、これが本学の使命とする所である。

２　各学部における教育研究上の目的は別に定める。

３　本学は教育研究水準の向上を図り、前項の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

４　前項の点検及び評価の方法並びに体制等については、別に定める。

第２章　組織及び修業年限

第２条　本学に次の学部学科を置く。

医学部　医学科

歯学部　歯学科

薬学部　薬学科

看護学部　看護学科

２　医学部、歯学部及び薬学部の修業年限は６年とし、看護学部は４年とする。

３　各学部の学生及び再入学者の在学年限は、別に定める。ただし、通算して修業年限の２倍を超えることができない。

第３章　学年・学期及び休業日

第３条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。ただし、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第４条　学年は、前期、後期の２期に分ける。

前期　４月１日から９月 30 日まで

後期　10 月１日から３月 31 日まで

ただし、前期及び後期の期間は、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第５条　定期休業日は、次のとおりとする。

（１）　日曜日

（２）　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

（３）　春期休業　３月 16 日から４月 15 日まで

（４）　夏期休業　７月 16 日から８月 31 日まで

（５）　冬期休業　12 月 23 日から１月 15 日まで

ただし、春期、夏期及び冬期休業の期間については、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。
２　臨時休業日は、その都度学長が定める。

第４章　授業科目、授業時間数及び単位

第６条　各学部の授業科目等は別表１のとおりとする。

第５章　授業科目の履修及び課程修了の認定

第１節　医学部、歯学部

第７条　医学部、歯学部においては、第６条に定める所定の授業科目を履修しなければならない。
２　履修方法及び履修すべき授業時間数については別に定める。
３　履修した科目に単位を付与する場合は、45 時間の学修を必要とする内容を１単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとする。
第８条　所定の講義及び実習を履修した者に対し試験を行う。
２　試験に関する実施規程は別に定める。
第９条　試験の成績は、合格または不合格とし、評価等は別に定める。

第２節　薬学部、看護学部

第 10 条　薬学部、看護学部においては、第６条に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。
２　履修方法及び取得すべき単位数については別に定める。
３　単位の計算は、第７条第３項を準用する。
第 11 条　履修した授業科目については、別に定める方法で試験を行う。
第 12 条　試験の成績は、第９条を準用する。

第３節　全学部共通

第 13 条　特定の授業科目を履修した者に履修証明書を与えることがある。
第 14 条　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを標準とする。
第 14 条の２　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が所属する学部以外の学部の授業科目を履修することができる。
第 15 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第 16 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 17 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、30 単位を超えないものとし、かつ、第 15 条第１項（同条第２項において準用する場合を含む。）及び前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第６章　卒業及び学位

第 18 条　医学部、歯学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得し、試験に合格した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、医学部を卒業した者には学士（医学）、歯学部を卒業した者には学士（歯学）の学位を授与する。

２　薬学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、薬学実務実習 20 単位以上を含む 186 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

３　看護学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、124 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

第７章　入学、休学、再入学、転入学、編入学、転部入学及び退学

第 19 条　入学の時期は、学年の始めとする。

第 20 条　本学に入学資格のある者は、次の各号の一に該当しなければならない。

（1） 高等学校又は中等教育学校を卒業した者。
（2） 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む)。
（3） 外国において、学校教育 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
（4） 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
（5） 文部科学大臣の指定した者。
（6） 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定資格試験に合格した者（同規則附則第２条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む)。
（7） その他、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認めた者。

第 21 条　入学志願者は、所定の入学願書に、履歴書、資格証明書、写真及び入学検定料を添えて学長に願い出なければならない。

第 22 条　本学に入学を志願した者については、教授会の議を経て学長が入学の許可、不許可を決定する。

２　本学を退学した者で、本学に再入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、別に定めるところにより選考し、教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することができる。

第 23 条　入学を許可された者は、本学所定の方式によって宣誓し、保証人２名を定めて在学保証書その他所定の書類を提出し、かつ所定の期日までに入学金を納入しなければならない。

第 24 条　保証人は、学生本人の父兄及び独立の生計を営む成年者とする。ただし、保証人のうち１名は学費負担者でなければならない。

２　保証人は学生の在学中の一切のことについて責任を負わなければならない。

３　保証人が死亡し、あるいはその資格を失ったときは、直ちに第１項の規定によって新たに設けなければならない。

第 25 条　学生、保証人が氏名、本籍、住所を変更した場合は直ちに届け出なければならない。

第 26 条　病気、その他やむを得ない事由により３ヶ月以上修学できないときは、その事由を証明する書類を添え保証人連署の休学願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

２　休学の期間は、１年を超えることはできない。ただし特別の事情がある場合は、教授会の議を経て学長が更に１年以内の休学を許可することができる。

３　休学期間は、通算して４年を超えることができない。

４　休学期間は、在学期間に算入しない。

第 27 条　休学期間であっても事故止みとなり復学を願い出た場合は、教授会の議を経て許可することがある。

第 28 条　他の大学から本学に、本学から他の大学に転入学、編入学を願い出た者がある場合は、教授会の議を経て学長が許可することがある。

２　本学の第１学年の学生で他学部への転部入学を希望する者があるときは、選考の上、第２学年の始めに限り転部入学を許可することがある。ただし、看護学部は除くものとする。
３　転入学、編入学、転部入学に関する規程は、別に定める。
第 29 条　本学を退学しようとする場合は、その事由を明記し、保証人連署の退学願を提出し教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。ただし、退学の事由が病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

第８章　入学検定料、入学金、授業料、その他の学費

第 30 条　入学検定料、入学金、授業料、その他の学費（以下授業料等という）の額は別表２に定める。
第 31 条　授業料等の納入は、次の各号のとおりとする。
（１）　入学金は、入学手続き時に納入しなければならない。
（２）　入学初年度の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、入学初年度は入学手続き時に納入しなければならない。ただし、半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合には所定の期日までに納入しなければならない。
（３）　入学次年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年４月 25 日までに納入しなければならない。ただし、授業料は半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合の２回目の納入期限日は９月 25 日までとする。
（４）　薬学部第５学年の長期実務実習にかかる費用の額及び納入方法は、別に定める。
第 32 条　授業料等を所定期日までに納入しない場合は、納入するまでその者の出席を停止し、30 日を経過して、なお納入しない場合は、学長がこれを除籍することがある。
第 33 条　納入した授業料等は、返還しない。ただし、入学手続きを完了したもので、所定期日までに入学辞退の届出を行い、かつ授業料等の返還を申し出た者については、入学検定料及び入学金を除く外の納入金を返還する。
２　前項の規定にかかわらず、休学期間中の授業料および実験実習費は、休学を許可された月の翌月から復学を許可された月の前月までの月割計算による額の半額を免除する。

第９章　職員組織

第 34 条　本学に次の職員を置く。
学長・副学長・教授・准教授・講師・助教・助手・技術員・事務員・その他必要な職員。
２　職員の定員に関しては、別にこれを定める。

第 10 章　教授会

第 35 条　本学に教授会を置く。
２　教授会は、医学部、歯学部、薬学部及び看護学部のそれぞれの専任教授をもって当該学部毎に組織する。

３　教授会は、学長が次の事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
（１）　学生の入学、卒業及び課程の修了
（２）　学位の授与
（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、別に定めるもの
４　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
５　教授会の運営に関する規程は、別に定める。

第 11 章　学生収容定員

第 36 条　各学部の学生定員は次のとおりとする。
医学部医学科　入学定員　95 名　収容定員　570 名
歯学部歯学科　入学定員　73 名　収容定員　438 名
薬学部薬学科　入学定員　50 名　収容定員　300 名
看護学部看護学科　入学定員　90 名　3 年次編入学定員　5 名　収容定員　370 名

第 12 章　研究生・研修生・研究員・聴講生・科目等履修生及び外国人学生

第 37 条　本学において特殊事項に関する研究及び研修を志願する者については、選考のうえ研究生、研修生、研究員として許可することができる。
２　研究生、研修生、研究員に関する規程は、別に定める。
第 38 条　本学に聴講を希望する者がある場合は、選考のうえ聴講生として入学を許可することができる。
２　聴講生の規程は、別に定める。
第 38 条の２　本学の学生以外の者で、本学が開講する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、授業に支障のない限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。
２　科目等履修生の規程は、別にこれを定める。
第 38 条の３　研究生、研修生、研究員、聴講生には、第８条、第９条、第 11 条、第 12 条、第 18 条、第 19 条、第 20 条、第 30 条及び第 40 条は、これを適用しない。
第 39 条　外国人留学生を入学させることがある。外国人学生は、特に規定あるものの外は本学則の一般規定を準用する。

第 13 章　賞罰

第 40 条　人物及び学業の優秀な者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。
第 41 条　学生がその本分にもとる行為をした場合は、教授会の議を経て学長が懲戒する。
２　懲戒は、戒告、停学、退学、退学のうえ除籍の４種とする。

第 42 条　次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て学長が退学又は退学のうえ除籍することができる。

（1）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

（2）　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

（3）　正当の理由がなく欠席が多い者

（4）　本学の秩序を乱す者

第 14 章　附属施設

第 43 条　本学に次の附属施設を置く。

（1）　附属図書館

（2）　附属病院

（3）　附属薬用植物園

２　附属図書館規程、附属病院規程及び附属薬用植物園規程は、別に定める。

第 15 章　学生の厚生補導等

第 44 条　学生の厚生補導の充実を図るため、学生部を置く。

２　学生部規程および学生の厚生及び補導については別に定める。

第 45 条　本学に学生寮を置くことができる。

第 16 章　学生心得

第 46 条　学生心得は、別に定める。

第 17 章　改廃

第 47 条　この学則の改廃は、関係学部教授会及び教学運営会議の議を経て理事会が決定するものとする。

附　則

この学則は、昭和 22 年６月 18 日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 27 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 29 年９月 15 日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 40 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 41 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 43 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 44 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 46 年１月１日から施行する。

2　改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 46 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 48 年４月１日から施行する。

2　改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 48 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 50 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料等は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

この学則は、昭和 50 年 10 月 24 日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 52 年１月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 53 年２月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

この学則は、昭和 54 年２月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 55 年２月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 57 年１月５日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 59 年１月２日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 61 年１月６日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、昭和 62 年 10 月 20 日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成元年４月１日から施行する。
2　第 24 条第 1 項に定める歯学部学納金のうち、実験実習費並びに施設整備費の（）書は昭和 63 年度以降歯学部に入学した者に適用する。
3　この改正学則施行の際、昭和 60 年度以前に入学し、在学している学生については、第 24 条第３項の規定は適用しない。

附　則

1　この学則は、平成２年１月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学している学生については、第 20 条第２項、第３項および第 27 条第２項の規定は、平成２年４月１日より適用する。
ただし、この改正学則施行の際、現に休学している学生については、第 20 条２項、第３項および第 27 条第２項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成２年 10 月 19 日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成３年 11 月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。
ただし、消費税法の一部を改正する法律（平成３年５月 15 日法律第 73 号）の改正にともない、第 24 条の入学金及び施設整備費は非課税とする。

附　則

1　この学則は、平成５年 11 月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

この学則は、平成７年９月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 10 年９月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 11 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の在学年限は、第２条第３項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 13 年 10 月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 14 年 10 月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

この学則は、平成 17 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 18 年 11 月 30 日付、文部科学大臣からの薬学部設置認可に伴い改正し、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。

2　第36条の規定にかかわらず、平成20年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～29年度
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
収容定員	490人	500人	510人	520人	530人	540人

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附　則

この学則は、平成 20 年８月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　第36条の規定にかかわらず、平成21年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～29年度
入学定員	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	505人	520人	535人	550人	565人	570人

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附　則

1　この学則は、平成 21 年４月１日から施行する。

2　学生定員の取扱については、平成 20 年８月５日付、文部科学省からの「地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進について（通知）」に基づき改定するものとし、平成 20 年４月１日の「新医師確保総合対策」に基づく附則、ならびに平成 21 年４月１日施行の「緊急医師確保対策」に基づく附則に関わらず次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～29年度
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110人
収容定員	520人	550人	580人	610人	640人	660人

附　則

1　この学則は、平成 22 年４月１日から施行する。

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 22 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～29年度	平成30年度
入学定員	125人	125 人	125 人	125 人	125 人	125 人	110 人
収容定員	565人	610人	655人	700人	735人	750人	735人

	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	110人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	720人	690人	660人	630人	600人	585人	570人

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠等に係る入学生（地方自治体による医学生奨学金制度等を利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

4　第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～31年度
入学定員	75人	75人	75人	75人	75人	75人
収容定員	475人	470人	465人	460人	455人	450人

附　則

1　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。（平成 22 年６月 28 日一部改正）

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

3　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。（平成 23 年２月 28 日一部改正）

附　則

この学則は、平成 23 年６月１日から施行する。（平成 23 年５月 30 日一部改正）

附　則

1　この学則は、平成 24 年７月１日から施行する。（平成 24 年６月 25 日一部改正）

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 25 年４月１日から施行する。（平成 24 年 10 月 29 日一部改正）

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 25 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
入学定員	123人	123 人	123 人	123 人	123 人	108 人	108 人
編入学定員	7人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人
収容定員	705人	745人	765人	770人	768人	751人	736人

	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	0人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	701人	666人	631人	596人	583人	570人

3　第36条の規定にかかわらず、平成25年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度～31年度
入学定員	73人	73人	73人	73人	73人	73人
収容定員	458人	451人	444人	442人	440人	438人

附　則

この学則は、平成 27 年４月１日から施行する。（平成 27 年３月 23 日一部改正）

附　則

この学則は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 28 年８月 31 日付、文部科学大臣からの看護学部設置認可に伴い改正し、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 29 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の同一学年在学年限は、第２条第３項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 30 年４月１日から施行する。（平成 29 年７月 31 日一部改正、平成 30 年３月 26 日一部改正(別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
入学定員	123 人	123 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	7 人	7 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	661人	626人	598人

	平成37年度
入学定員	95 人
編入学定員	0 人
収容定員	570人

3　第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 35 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
入学定員	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人
収容定員	920人	880人	840人	800人	760人	720人

附　則

この学則は、平成 31 年４月１日から施行する。(平成 30 年４月 23 日一部改正（別表１第６条関係の変更)、平成 31 年３月 25 日一部改正（別表１第６条関係の変更)）

附　則

1　この学則は、令和２年４月１日から施行する。（令和元年７月 29 日一部改正、令和２年３月 30 日一部改正（別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和２年度から令和９年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	126 人	126 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	4 人	4 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	664人	632人	601人

	令和９年度
入学定員	95 人
編入学定員	0 人
収容定員	570人

附　則

1　この学則は、令和３年４月１日から施行する。（令和２年６月 29 日一部改正、令和３年３月 29 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和３年度から令和８年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	80 人	80 人	80 人	80 人	80 人	80 人
収容定員	760人	680人	600人	560人	520人	480人

附　則

1　この学則は、令和４年４月１日から施行する。（令和３年４月 26 日一部改正(別表１第６条関係の変更)、令和３年７月 26 日一部改正、令和４年３月 28 日一部改正(別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和４年度から令和 10 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度
入学定員	126 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	4 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	731人	699人	667人	632人	601人	570人

附　則

1　この学則は、令和５年４月１日から施行する。（令和４年９月６日一部改正、令和５年３月 27 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和５年度から令和 11 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	130 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
収容定員	766人	734人	702人	667人	636人	605人	570人

附　則

1　この学則は、令和６年４月１日から施行する。（令和５年 10 月 26 日一部改正、令和５年 12 月 18 日一部改正、令和６年３月 25 日一部改正（別表１第６条関係の変更、第７条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和６年度から令和 12 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
入学定員	130 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
収容定員	769人	737人	702人	671人	640人	605人	570人

3　第 36 条の規定にかかわらず、令和６年度から令和 11 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和 10 年度	令和 11 年度
入学定員	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名
収容定員	530 名	460 名	390 名	360 名	330 名	300 名

附　則

1　この学則は、令和７年４月１日から施行する。（令和６年 12 月 16 日一部改正、令和７年３月 24 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和７年度から令和 13 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
入学定員	130 名	95名	95 名	95 名	95 名	95 名	95 名
収容定員	772名	737名	706名	675名	640名	605名	570名

附　則

1　この学則は、令和７年８月１日から施行する。（令和７年６月 30 日一部改正（別表２第 30 条関係の変更））

附　則

1　この学則は、令和８年４月１日から施行する。（令和７年 12 月 15 日一部改正、令和８年３月 30 日一部改正（第２条第３項関係の変更、別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和８年度から令和 14 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
入学定員	130 名	95名	95 名	95 名	95 名	95 名	95 名
収容定員	772名	741名	710名	675名	640名	605名	570名

別表1（第6条関係：歯学部）

科目区分	科目名	履修年次	時間数	単位	区分	備考
教養教育科目	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	1	16.0 16.0	2	講義 演習	必修
	医療倫理学	1	28.0	1	講義	必修
	法学	1	28.0	1	講義	必修
	心理学	1	16.0	1	講義	必修
	医療における社会・行動科学	1	16.0	1	講義	必修
	医療面接の基礎	1	20.0	1	講義	必修
	データサイエンス	1	28.0	1	講義	必修
	情報リテラシー	1	14.0 14.0	1	講義 演習	必修
	物理学	1	28.0	1	講義	必修
	物理学実習	1	42.0	1	実験	必修
	専門課程への化学	1	28.0	1	講義	必修
	化学実習	1	42.0	1	実験	必修
	エッセンシャル生物	1	16.0	1	講義	必修
	専門課程への生物学	1	28.0	1	講義	必修
	生物学実習	1	42.0	1	実験	必修
	English Reading & WritingⅠ	1	28.0	1	講義	必修
	English Reading & WritingⅡ	1	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & ListeningⅠ	1	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & ListeningⅡ	1	28.0	1	講義	必修
	健康運動科学	1	16.0 16.0	1	講義 実技	必修
	ベーシック生物	1	28.0	1	講義	選択
	スタンダード生物	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト生物	1	28.0	1	講義	選択
	自然・文化人類学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック化学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック物理	1	28.0	1	講義	選択
	解析学入門	1	28.0	1	講義	選択
	医療とスポーツ	1	18.0 10.0	1	講義 実技	選択
	医療とコミュニケーション	1	28.0	1	講義	選択
	道徳のしくみ	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト数学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック数学	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト化学	1	28.0	1	講義	選択
	文学の世界	1	28.0	1	講義	選択
	実践英語	1	28.0	1	講義	選択
	医療と福祉	1	28.0	1	講義	選択
	科学英語	1	20.0	1	講義	選択
	医療と物語	1	20.0	1	講義	選択
	人間関係論	1	20.0	1	講義	選択
	パーソナリティ心理学	1	20.0	1	講義	選択
	哲学の世界	1	20.0	1	講義	選択
	医療と法律	1	20.0	1	講義	選択
	医学統計学	2	26.0	1	講義	必修

科目区分	科目名	履修年次	時間数	区分	備考
歯学専門科目	歯科医学概論	1	48.0	講義	必修
	（看護・介護体験実習、病院案内実習）	1	58.0	実習	必修
	解剖学Ⅰ	1	42.0	講義	必修
	組織学基礎	1	28.0	講義	必修
	生理学Ⅰ	1	28.0	講義	必修
	生化学Ⅰ	1	28.0	講義	必修
	臨床歯科学入門	1	44.0	講義	必修
	解剖学Ⅱ	2	84.0	講義	必修
	解剖学Ⅱ実習	2	140.0	実習	必修
	組織学・発生学	2	56.0	講義	必修
	組織学・発生学実習	2	56.0	実習	必修
	生理学Ⅱ	2	76.0	講義	必修
	生理学Ⅱ実習	2	8.0	実習	必修
	生化学Ⅱ	2	56.0	講義	必修
	生化学Ⅱ実習	2	28.0	実習	必修
	微生物学・免疫学Ⅰ	2	56.0	講義	必修
	歯科理工学Ⅰ	2	40.0	講義	必修
	歯科理工学Ⅰ実習	2	30.0	実習	必修
	薬理学Ⅰ	2	22.0	講義	必修
	薬理学Ⅰ実習	2	6.0	実習	必修
	病理学総論	2	24.0	講義	必修
	病理学総論実習	2	32.0	実習	必修
	衛生学・公衆衛生学	2	34.0	講義	必修
	衛生学・公衆衛生学実習	2	8.0	実習	必修
	歯科専門体験実習（講義）	2	4.0	講義	必修
	歯科専門体験実習	2	28.0	実習	必修
	専門英語（2年）	2	36.0	講義	必修

科目区分	科目名	履修年次	時間数	区分	備考
歯学専門科目	微生物学・免疫学Ⅱ	3	36.0	講義	必修
	微生物学・免疫学Ⅱ実習	3	20.0	実習	必修
	歯科理工学Ⅱ	3	38.0	講義	必修
	歯科理工学Ⅱ実習	3	32.0	実習	必修
	薬理学Ⅱ	3	22.0	講義	必修
	薬理学Ⅱ実習	3	6.0	実習	必修
	口腔病理学	3	32.0	講義	必修
	口腔病理学実習	3	52.0	実習	必修
	予防歯科学	3	20.0	講義	必修
	予防歯科学実習	3	8.0	実習	必修
	保存修復学	3	42.0	講義	必修
	保存修復学実習	3	42.0	実習	必修
	補綴学総論	3	14.0	講義	必修
	補綴学総論実習	3	14.0	実習	必修
	歯科放射線学	3	46.0	講義	必修
	歯科放射線学実習	3	10.0	実習	必修
	医科学（3年）	3	56.0	講義	必修
	歯周病学	3	52.0	講義	必修
	歯周病学実習	3	32.0	実習	必修
	臨床薬理学	3	12.0	講義	必修
	臨床薬理学実習	3	16.0	実習	必修
	社会と歯学	3	28.0	講義	必修
	歯内療法学	3	56.0	講義	必修
	歯内療法学実習	3	42.0	実習	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）	3	10.0	講義	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習	3	18.0	実習	必修
	冠橋義歯学	3	44.0	講義	必修
	冠橋義歯学実習	3	68.0	実習	必修
	基礎科学演習	3	6.0	演習	必修
	基礎科学演習実習	3	28.0	実習	必修
	医療リベラルアーツ	3	24.0	演習	必修
	歯科総合演習（3年）	3	68.0	演習	必修
	チーム医療リテラシー	3	24.0	演習	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅱ）	4	16.0	講義	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習	4	54.0	実習	必修
	部分床義歯補綴学	4	32.0	講義	必修
	部分床義歯補綴学実習	4	52.0	実習	必修
	歯科麻酔学	4	56.0	講義	必修
	法歯科医学・災害歯科医学	4	14.0	講義	必修
	法歯科医学・災害歯科医学実習	4	14.0	実習	必修
	医科学（4年）	4	98.0	講義	必修
	口腔外科学	4	138.0	講義	必修
	口腔外科学実習	4	16.0	実習	必修
	口腔インプラント学	4	20.0	講義	必修
	口腔インプラント学実習	4	8.0	実習	必修
	歯科矯正学	4	70.0	講義	必修
	歯科矯正学実習	4	42.0	実習	必修
	小児歯科学	4	40.0	講義	必修
	小児歯科学実習	4	30.0	実習	必修
	障害者歯科学	4	28.0	講義	必修
	専門英語（4年）	4	14.0	講義	必修
	高齢者歯科医学	4	46.0	講義	必修
	歯科総合演習（4年）	4	126.0	演習	必修
	コミュニケーション学	4	12.0	講義	必修
	コミュニケーション学実習	4	38.0	実習	必修
	総合講義（Ⅰ）	5	276.7	講義	必修
	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）	5	1212.0	実習	必修
	総合講義（Ⅱ）	6	851.5	講義	必修
	4学部合同セミナー	6	4.0	演習	必修

科目区分	科目名	履修年次	時間数	単位	区分	備考
自由科目	海外英語演習	1～6	約2週間	2	演習	自由
	地域医療課題解決演習	1～6	16.0	1	演習	自由

別表２（第30条関係）

１．入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。（転部入学含む）

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料（年額）		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	初年度（年額）	500,000 円	－	125,000 円	150,000 円
	第2学年以降（年額）	500,000 円	－	195,000 円	150,000 円
施設整備費（年額）		1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	入学時	3,000,000 円	2,000,000 円	－	－
	第2学年以降（年額）	1,000,000 円	800,000 円	－	－

※教育充実費のうち、平成 21 年度医学部在学中の学生の第 2 学年からの年額は 800,000 円とする。

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

２．再入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		500,000 円	300,000 円	175,000 円	125,000 円
授業料（年額）		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	第 1 学年(年額)	500,000 円	－	125,000 円	150,000 円
	第2学年以降（年額）	500,000 円	－	195,000 円	150,000 円
施設整備費（年額）		1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	第 1 学年(年額)	－	－	－	－
	第2学年以降（年額）	1,000,000 円	800,000 円	－	－

３．転入学（歯学部に限る。）に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、前項と同額とする。

４．編入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他の学費は、次のとおりとする。

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料（年額）		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費（年額）		500,000 円	－	195,000 円	150,000 円
施設整備費（年額）		1,500,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	編入学時	3,000,000 円	800,000 円	－	－
	次年度以降（年額）	1,000,000 円	800,000 円	－	－

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

５．留年した者についての授業料、その他学費は、次のとおりとする。

(1)　第１学年において留年した者

留年年度における第１学年の授業料、実験実習費及び施設整備費とする。

(2)　第２学年以降において留年した者

留年年度における留年学年の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費とする。ただし、最終学年で留年した者で、前期末に卒業する者については、授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費のいずれも半額とする。

備考　第１項から第５項における入学検定料、入学金、授業料、その他学費については、次年度以降変更することがある。

岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程

第１条　本規程は、岩手医科大学学則第２条第３項に定める在学年限について、歯学部における取扱いを定めるものである。

第２条　歯学部の学生の在学年限は、同一学年につき２年とする。ただし、次の学生は、所定の期限までに在学年限延長願（別紙様式１）を歯学部長に提出した上で、歯学部教授会の議を経て学長が決定した場合に限り、１年間当該学年の在学年限の延長が認められることがある。なお、通算して修業年限の２倍を超える場合は在学年限の延長は認めない。

（１）　第４学年において在学年数が２年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。または、医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する臨床実習前全国統一試験（CBT、OSCE）を受験し不合格となった者。

（２）　第６学年において在学年数が２年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。

（３）　前各号における在学年数には、休学した期間は含めない。

第３条　この規程の改廃は、歯学部教授会及び教学運営会議の議を経て学長が決定する。

第４条　この規程に関する事務は、歯学部教務課が行う。

附　則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

別紙様式１（第２条関連）

在学年限延長願

岩手医科大学学長　殿
岩手医科大学歯学部長　殿

年　　月　　日

歯学部＿＿＿＿年＿＿＿＿番

学 生 氏 名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

保証人氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

このたび、当該学年における在学年数が２年目であること、並びに所定の試験に不合格となったことから、「岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程」第２条に定める在学年限の延長をお願いいたしたく、保証人連署の上、願書を提出いたします。

※大学使用欄

年　　月　　日受付

学　長	歯学部長	歯学部 教務委員長	歯学部 学生部長	事務局長	学務部長	歯学部教務課 総括課長	歯学部教務課 係長	担当者

岩手医科大学における各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程

（趣旨）

第１条　大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第２条に則り、学則第１条第２項に基づき、本学の教育研究方針を明確にし、学部等における教育の質を保証するとともにその基準を内外に示すため、以下に各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命（以下「各学部等の目的と使命」という）を定めるものとする。

（各学部等の目的と使命）

第２条　医学・歯学・薬学・看護学の四学部をもつ医療総合大学としての特色を活かし、各学部間の緊密な連携のもとに人類の健康・福祉の向上に貢献することを目指す。各学部等の目的と使命を以下のとおり定める。

（１）　医学部

教育・診療・研究において、主導的役割を担う豊かな人間性を備えた人材を養成する。このために、社会、患者、保健や医療に関わる機関の期待に応え、地域や世界的な医療、社会の保健、健康増進、医学教育並びに医学研究の専門的能力を高める人材を育成する。また、人としての教養を高め、医師としての十分な知識と技能を修得させ、発展を続ける医学に対応する生涯学習のための自己啓発能力を涵養する。

（２）　歯学部

豊かな教養と人間性を涵養し、全人的医療を実践し、歯科医学、歯科医療ならびに口腔保健の進歩発展に寄与することのできる人材を養成する。

（３）　薬学部

基礎薬学から医療・臨床薬学の教育研究を通し、豊かな人間性と広い視野から問題を発見し解決する能力を備え、薬学の進歩と地域医療の発展に貢献する人材を養成する。

（４）　看護学部

人々の尊厳と権利を尊重し、最新の高度医療に対応する実践能力を持ち、自律的に責務を遂行できる看護専門職として、看護学の発展に寄与し、地域社会に貢献する人材を養成する。

（５）　全学教育推進機構教養教育センター

地域医療と国際社会に貢献する基盤として、学則に謳う人としての教養を高め、豊かな人間性を涵養する。そのため、人文科学も含めた広い意味での科学を修得し、医学、歯学、薬学、看護学、またそれらの複合領域等において、自己研鑽を継続できる人材を養成する。

（改廃）

第３条　この規程の改廃は、教学運営会議の議を経て学長が行う。

附　則

この規程は、平成 20 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 24 年９月 26 日　から施行し、改正後の規定は、平成 22 年６月 15 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 27 年 12 月１日から施行する。（薬学部における目的の変更）

附　則

この規程は、平成 29 年　４月１日から施行する。（看護学部の目的の追加、規程改廃の決定機関変更）

附　則

この規程は、令和２年２月 12 日から施行する。（教養教育センターの目的の追加）

附　則

この規程は、令和８年２月１日から施行する。（医学部および教養教育センターの目的と使命の追記）

学生心得

本学の目的は、「医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成する」にあります（学則第 1 章第 1 条)。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、良識ある公民として自らの責任で行動してください。

1．本学学生としての心構え

（1）医師、歯科医師、薬剤師、看護職を志す者としての自覚を常に持って行動してください。

（2）学生としてふさわしい言動、礼儀作法及び服装等について十分注意を払ってください。

（3）学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとるよう努めてください。

（4）講義、実習等に出席し、学修に対して意欲を持ち知識・技能・態度の修得に努めてください。

〇アンプロフェッショナルな行動の例示

本学は医学教育、歯学教育、薬学教育および看護学教育を通じて、誠の人間を育成することを建学の精神としています（学則第 1 章第 1 条)。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、医療人を志す学生としての自覚を持った行動を求めます。

それに反する行為、行動の例を以下に示します。

（1）不適切な態度･行動の繰り返し

- 活動に参加しない、臨床現場での学習に参加しない
- 事務手続き、教員からの連絡を無視する
- 時間管理ができない
- 講義、実習等を特段の理由がないにもかかわらず欠席する
- 患者や同僚などへの無礼
- 他者からの建設的なフィードバックから学ぶことができない
- 学修環境や臨床現場を混乱させる
- 教員へ挑戦的行動をとる
- 教員からの指摘を受け入れない

（2）不正行為

- 定期試験等での携帯電話・スマートフォン等の不正利用やカンニング行為
- 講義、実習での出席届の不正
- 他者が行った活動を自分が行ったと偽ること
- 自分が受けた試験の内容を他の学生に伝える
- 評価表での指導者のサインの捏造や、試験、ポートフォリオへの不正行為
- レポート等における剽窃、盗用、および生成AI等の不適切な利用

（３）職務上の役割以外の不正行為または詐欺

- 研究でのデータ捏造
- 金銭的詐欺
- 経歴詐欺、書類偽造
- 資格詐称
- ポートフォリオなどの書類の偽造、改ざん
- 不正行為や健康問題の大学への未申告
- 健康問題（例えば、インフルエンザやコロナの罹患）の故意隠蔽

（４）医療人を目指す者としての不適切な行動

- ソーシャルメディア等の悪用（教育病院での臨床現場を批判するなど）
- 守秘義務の不履行
- ケアや治療について、指導者に相談せずに患者に間違ったことを伝える
- 患者からの同意を得ずに医療行為を行う
- 性的、人種的およびその他のハラスメント
- 不適切な診察や一線を越えた行動
- 不当な差別

（５）攻撃的な暴力や脅し

- 暴行、身体的暴力
- いじめ（ソーシャルメディア等によるものを含む）
- ハラスメント
- ストーカー行為

（６）薬物またはアルコールの誤用や濫用

- 飲酒運転
- 処方薬の乱用
- 飲酒により臨床業務、職場環境や教育環境を乱す
- 薬物の不適切使用
- 不適切な過度の飲酒

（７）その他の不適切行動または犯罪行為

- 違法薬物の所持、取り扱い、提供
- 窃盗
- 無賃乗車
- 金融詐欺
- 児童ポルノ
- 児童虐待またはその他の虐待
- 犯罪の仲介・斡旋

また、学生生活を送る上で、以下のことを厳守してください。

２．伝達方法

大学からの通知や連絡は掲示板への掲示や学修支援システム（WebClass、moodle 等）を通じて行いますので、未確認による不利益を被ることがないよう必ず確認してください。利用する学修支援システムは、所属学部の指示に従ってください。また、メールアドレスを変更した場合は学修支援システムに登録されているアドレスも必ず変更してください。

父母等から大学へ電話による学生の呼出しを依頼される場合がありますが、緊急かつ必要と認められる場合を除き、原則として掲示板、学修支援システムによって通知する以外はできませんので、ご了承ください。

３．学生証について

学生証は本学学生であることを証明するものですので、常時携帯してください。また、学内で諸手続をする場合は、学生証の呈示が必要ですので、破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

学生証は卒業・退学・除籍等の場合は直ちに所属学部の教務課に返納してください。

４．ネームプレートの着用について

ネームプレートは学内では必ず着用してください。破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

５．ロッカーについて

全学生に対してロッカーを貸与します。貴重品を置く場合は必ず施錠して下さい。ロッカーの室内は共用の場所ですので私物を放置しないでください。また、ロッカーの鍵を破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課で再購入（実費負担）の手続きをしてください。

６．授業料等の納付について

入学年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年 4 月 25 日までに納入してください。なお、授業料は 2 回に分割することができ、分納する場合の 2 回目の納入期限日は 9 月 25 日です。授業料等を所定の期日までに納入しない場合は、学則により出席停止の上、除籍となる場合があります。

７．自動車通学について

矢巾キャンパスへの自動車通学は、「自動車通学許可申請書」を学事課（矢巾）に提出し、大学で定める自動車安全講習会を受講した後、許可証が発行された場合にのみ許可されます。なお、許可まで 1 ヶ月程度時間がかかります。

また、内丸キャンパスへの自動車通学は原則として認めていません。やむを得ず通学を希望する場合は、学事課（矢巾）に相談してください。学生駐車場以外に駐車した場合、自動車通学の許可を取り消します。

登録料	2,000 円（年間）
有効期限	申請年度内に限り有効　　※年度毎に更新申請が必要
通学許可基準	大学と居住地との距離が半径 1.3 km以上離れていること
申請に必要なもの	①　自動車通学許可申請書　②登録料　③免許証
登録証の発行	申請後、自動車安全講習会(初年度のみ)を受講し、 許可された場合のみ発行

８．自転車・バイクの登録について

自転車・バイクで通学する場合は必ず登録してください。1 回の登録で在学期間中は有効です。

登録料	バイク　1,000 円　自転車　500 円
有効期限	在籍中有効
申請に必要なもの	②　登録申請書　②登録料　③免許証（バイクのみ）
登録証の発行	申請後、即日ステッカーを発行

ステッカーは後輪カバーの下部に貼付し、指定駐輪区域内に整然と駐輪し、歩道・道路にはみ出した場合は別の場所に移動すること。

※車両買い替え時、再申請が必要です。

９．自動車・バイク・自転車の使用について

自動車・バイク・自転車を使用する場合は、交通法規等に違反しないことはもちろん、生命を尊ぶべき医学生、歯学生、薬学生及び看護学生として常に安全運転に徹してください。交通事故または道路交通法違反を起こした場合、大学として処分するのみならず、医師法・歯科医師法・薬剤師法・保健師助産師看護師法により各免許の交付を受けられない場合があります。万一、交通事故及び交通違反を起こしてしまった場合には、その軽重にかかわらず、直ちに報告してください。

【学生の交通事故又は道路交通法違反に対する処分の内容の一例】

交通事故・道路交通法違反の内容		酒酔い・酒気帯び運転	無免許運転	酒酔い・酒気帯び・無免許運転でない場合
死亡事故又は重大な傷害事故	運転者	無期停学	無期停学	6 ヶ月以内の停学
	同乗者	6 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
傷害事故	運転者	無期停学	6 ヶ月以内の停学	戒告又は注意
	同乗者	3 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
上記以外の交通事故・道路交通法違反	運転者	無期停学	1 ヶ月以内の停学	注意
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分
死亡事故又は重大な傷害事故を起した場合で、極めて悪質な行為があった場合	運転者	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分

１０．トラブル防止

若者が狙われる悪徳商法等のトラブルが急増しています。手口も年々巧妙になっています。

トラブルに巻き込まれないよう日頃から十分注意してください。トラブルに巻き込まれた場合は 1 人で悩まずクラス担任・チューター・大学窓口や公共の相談機関にまず相談してください。

内容	対応	日頃の注意点
【ワンクリック詐欺】 パソコンのＷＥＢサイトや、携帯電話のメールを利用した架空請求	払わない 連絡しない	①知らないアドレスからのメールは見ない ②怪しいページは見に行かない ③利用規約は必ずチェックする
【悪質商法】 マルチ商法、デート商法など「うまい話」で引き込み、巧妙な手口や脅迫めいた行為で商品を売り込む	クーリング・オフ制度を利用する	①街頭で声をかけられても相手にしない ②契約（署名や押印）は慎重に ③入会等は即断せず家族や知人に相談する

１１．注意事項

（１）飲酒

20 歳未満の飲酒は法律により禁止されています。また、新入生歓迎コンパ等でいっき飲みという行為から急性アルコール中毒になる事故が発生しています。悪質な場合は大学として処分するだけでなく、同席している成人（先輩）と保護者が監督責任を問われ社会的制裁を受けることもあります。さらに、飲み会における過度な飲食代の負担も発生していますので、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として節度ある飲酒を心掛けてください。

（２）拾得物

大学構内で本学学生の所有物とみられる物があった場合は、総務課・所属学部の教務課・学事課・内丸キャンパス事務室のいずれかへ届けられます。また、遺失物を拾得した場合は、速やかに前述のいずれかに届けてください。

（３）盗難防止及び郵便物

貴重品や現金及び自転車等の盗難防止のため、次のことに注意してください。

１）多額の現金は持ち歩かず、貴重品は自分の身から離さないようにしてください。更衣室等での盗難には十分注意してください。

２）ロッカー周辺の私物の盗難が多発しています。ロッカーに貴重品を置く時は必ず施錠してください。また、各自整理整頓を心掛けてください。

３）自転車、自動車、バイクから離れる時は必ず施錠してください。

４）学内（駐車場・駐輪場等を含む）で盗難にあった時、または不審者を見かけた時は直ちに所属学部の教務課に連絡してください。学外の場合は、最寄りの交番等に届出てください。

５）学生個人宛の郵便物は、自宅等に直接郵送してもらってください。やむを得ず大学を経由し、郵便物を送付してもらう場合は、必ず所属学部の教務課に申し出て指示を受けてください。

（4）校舎内､講義室等の美化

校舎内・講義室等へ雑誌類やゴミ等を散乱・放置したままにしないでください。特に講義室は、講義時間外に研究発表等で学内外者へ貸出することがあるので、個人所有物は各自ロッカー内において管理してください。放置している個人所有物は撤去の上、廃棄処分します。

（5）喫煙

20 歳未満の喫煙は法律により禁止されています。周囲から勧められても決して吸ってはいけません。なお、大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。医療系大学の学生である自覚を強く持ちマナーを守ってください。

なお、禁煙をお考えの方は健康管理センターまでご相談ください。

（6）薬物

近年、芸能人・スポーツ選手などの麻薬や大麻・覚せい剤などの薬物乱用が増え、若い人たち、特に大学生の間での薬物汚染が拡大しています。薬物使用は、言うまでもなく重大な犯罪です。脳機能障害を来すなど身体や生命に悪影響を及ぼすだけでなく、殺人などの犯罪を引き起こすこともあります。勧められても絶対に断る強い意志と勇気を持ち、すぐに専門家に相談してください。

１２．受講マナー

他大学のみならず本学においても講義を受ける学生のマナー、いわゆる受講マナーの低下がみられます。受講マナーを欠くということは、講義を担当する先生方への礼を失することです。

「誠の人間を育成する」という建学の精神を十分認識し、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として良識ある行動を取ってください。なお、マナー違反となる行為はアンプロフェッショナルな行為として、処分の対象となる場合があります。

【マナー違反】

（1）私語　（2）居眠り　（3）途中入退室　（4）携帯電話・スマートフォンの私的利用　（5）食事や飲酒　（6）受講中の化粧

（7）服装の乱れ

１３．日常のマナー

窓口やキャンパス内であまりに幼稚な言葉を平気で使う学生がいます。また、医療系大学の学生とは思えないような配慮のない行動をしている学生がいます。医療人を目指す以前に、大学生はすでに大人であるという自覚をしてください。

言葉遣いや日頃の態度で学生の知性が疑われることのないよう切に願います。

【マナー違反】

（1）ごみの放置

学内外に寄らず自分が飲み食いしたものを平気でその場に放置する学生がいます。掃除する方のことを考えましょう。

（2）タバコのポイ捨て

大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。また、学内外を問わず、タバコの吸殻のポイ捨て、歩きタバコはしないでください。

（３）言葉遣い

言葉遣いはその人の品性そのものです。岩手医大の学生である自覚を持ち、礼節ある言動を心掛けてください。

（４）駐輪

指定の駐輪場スペースからはみ出したり、次の人のことを考えない停め方はやめましょう。

岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程

第１条　この規程は、岩手医科大学において、学生が授業又は試験を欠席した場合の取扱いに関して定める。

第２条　欠席の取扱いは、授業又は試験を担当する責任者等が判断する。

第３条　学生は、授業又は試験を欠席しようとするとき、又は欠席したときは、速やかに欠席届を提出しなければならない。

第４条　次に掲げるいずれかの欠席に該当する場合は、当該欠席について取扱いを考慮することがある。

（１）　近親者の死亡の場合であって、１親等にあっては連続１週間、２親等にあっては連続３日、３親等にあっては１日の欠席（いずれの期間にも休日・祝日を含む。）

（２）　学校保健安全法施行規則（昭和 33 年文部省令第 18 号）第 18 条に定める感染症による入院又は加療の場合における同規則第 19 条に定める期間の欠席

（３）　授業中の事故による入院又は加療のための欠席

（４）　交通機関の不通又は遅延による通学困難の場合における発生から復旧までの期間の欠席

（５）　大学の行事又は学部長が認める公的行事への参加の場合における移動を含む必要期間の欠席

（６）　学部長が認める就職試験の受験の場合における当該日数の欠席

（７）　その他学部長が特に認める欠席

第５条　前条に定める欠席を願い出ようとする学生は、欠席届に次の表の左欄の区分に応じ、それぞれ当該欄に定める書類を添付のうえ、期限内に提出しなければならない。

欠席事由に対応する前条の号	添付書類	提出期限
（１）	会葬礼状等の説明書類	当該期間最終日から２週間以内
（２）	医師の診断書	登校後１週間以内
（３）		
（４）	交通機関が発行する遅延証明書	欠席日から１週間以内
（５）	事由を証明する書類	原則として事前に提出。やむを得ない場合は欠席日から１週間以内
（６）		
（７）	学部長が指定する書類	学部長が指定する期間内

第６条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、学部ごとに別に定める。

第７条　この規程の改廃は、教学運営会議の議決による。

第８条　この規程に関する事務は、各教務課が行う。

附　則

この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

平成 20 年８月 18 日一部改正

附　則

この規程は、平成 24 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 26 年 11 月 11 日から施行する（組織名の変更等）。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する（関係法令の名称変更）。

附　則

この規程は、平成 31 年４月１日から施行する（事務局組織の再編に伴う名称変更）。

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱に関し、必要な事項を下記の通り定める。

1 風水害等による事故の発生を防止するため、次の各号のいずれかに 該当する場合は、休講または定期試験の実施を延期とする。

（1）午前6時から授業または定期試験開始時刻までの間において、岩手県内陸部に暴風または大雪及び暴風雪の警報（ 以下「暴風警報等」という。）が発令されている場合または発令された場合。ただし、午前10時までに暴風警報等が解除され、公共交通機関が運行した場合、午後からの授業及び定期試験は実施する。

（2）登校後、岩手県内陸部に暴風警報等が発令され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

（3）岩手県内陸部に暴風警報等が発令されると予め想定され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

（4）暴風警報等解除後においても被害が甚大な場合または、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

2 前項により休講となる場合の学生・教職員等への周知については、次の各号により行う。

（1）前項第1号の場合の学生への周知は、緊急連絡用メールにより行う。

（2）前項第2号及び第3号の場合の学生への周知は、学内掲示、館内放送、緊急連絡用メールにより行う。

（3）前項各号による場合の教職員等への周知は、各教務課が緊急連絡網により行う。

（4）学内外からの照会には各教務課があたる。

3 地震等の不測事態による休講等の取扱については、各部局長の判断による。

4 教職員の緊急連絡招集等については別に定める。

5 本取扱要領の改廃については、各教授会等の審議を得るものとし、事務は全学教育企画課が担当する。

【注】（ⅰ）警報は、「盛岡地方気象台が発表する警報」による。

（ⅱ）警報の発令・解除及び公共交通機関の運行の確認は、テレビ・ラジオ等の報道または各公共交通機関への照会による。

（ⅲ）学外の実習棟の場合は、各実習先または実習担当教員の判断による。

附 則

この要領は令和２年１月30日より施行する。

この施行に伴い、「矢巾キャンパスにおける風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱」を廃止する。

昭和 42 年 10 月 1 日　制定
昭和 45 年 12 月 28 日　改正
昭和 48 年 5 月 16 日　改正
昭和 54 年 6 月 6 日　改正
昭和 55 年 6 月 10 日　改正
平成 4 年 2 月 20 日　改正
平成 8 年 5 月 15 日　改正
平成 9 年 3 月 17 日　改正
平成 9 年 8 月 6 日　改正
平成 10 年 3 月 4 日　改正
平成 11 年 3 月 24 日　改正
平成 13 年 2 月 21 日　改正
平成 15 年 1 月 24 日　改正
平成 16 年 3 月 3 日　改正
平成 18 年 3 月 15 日　改正
平成 18 年 11 月 15 日　改正
平成 21 年 3 月 18 日　改正
平成 26 年 3 月 13 日　改正
平成 30 年 3 月 7 日　改正
令和 5 年 2 月 16 日　改正
令和 7 年 3 月 5 日　改正
令和 8 年 3 月 4 日　改正

岩手医科大学歯学部試験規程

（趣　　旨）

第１条　この規程は、学則第 8 条第 2 項の規定に基づき、歯学部の試験に関し定めるものである。

（試験科目等）

第２条　試験科目及び試験の実施については、教授会の議を経てこれを定める。

（試験の種類）

第３条　試験は、次のとおりとする。

（１）本試験　履修した授業科目について行う試験をいう。

（２）再試験　本試験において不合格となった科目について改めて行う試験をいう。

（３）追試験　病気又は止むを得ない理由により試験を受けられなかった時、その理由の消滅後に願い出により当該試験科目について行う試験をいう。

（４）科目認定試験　第 2 学年、第 3 学年で不合格となった授業科目について進級後の学年で行う試験をいう。

（試験方法）

第４条　試験は、筆答、口答、レポート提出、製作品提出、実地試問、その他の中から、担当教員が適当と認めた方法により実施する。

（試験日程）

第５条　本試験は、前期及び後期の授業終了時に行うものとする。

２　本試験及び再試験の日程及び時間割等は、その実施の 2 週前までに発表する。

３　追試験は、学業成績判定までに行うものとする。

４　科目認定試験は、当該科目の責任者・コーディネーターが指定した時期に行う。

（受験資格）

第６条　各授業科目の所定履修時間の原則３分の２以上出席しなければ、本試験を受験することができない。ただし、その取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

（再・追試験受験手続）

第７条　再試験及び追試験の該当者は、所定の手続きをとらなければならない。

２　追試験該当者は、追試験願及び試験欠席届に理由書（病気の場合は診断書、その他は明確な理由書）を添えて提出し、当該科目責任者及び学部長の承認を得なければならない。

３　再試験料は１科目 3,000 円、追試験料は１科目 1,000 円とし、その都度前納しなければならない。

（評　　点）

第８条　各学年で履修する科目の評点は、次のとおりとする。

（１）第１学年で履修する科目の評点は、科目毎に 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

（２）第２学年～第５学年で履修する科目の評点は、科目毎に 100 点満点とし、65 点以上を合格とする。

（３）第６学年で履修する科目の評点に関し必要な事項は、別に定める。

（４）再試験、追試験及び科目認定試験の取り扱いに関し必要な事項は、別に定める。

（進　　級）

第９条　各学年で履修した全科目の試験に合格した者は、教授会の議を経て進級とする。

２　前項以外の者で、別に定める要件を満たした者は、教授会の議を経て進級とする。

３　進級不可と判定された者は留年とし、当該学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

（卒　　業）

第 10 条　所定の試験に合格した者に対し、教授会の議を経て学長が卒業の認定をする。

２　卒業不可と判定された者は留年とし、第 6 学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

（成績評価の開示）

第 11 条　個人の成績評価については、各学年の最終評価を開示するものとする。

（成績評価の異議申し立て）

第 12 条　成績評価に関する疑義が生じ、教員の説明では解決が得られなかった場合は、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行う場合には、別に定める「成績評価に対する異議申し立てに関する内規」の手続きにより「成績評価に対する異議申立書」（所定の様式による）を、歯学部教務課に提出するものとする。

（罰　　則）

第 13 条　試験に関して不正行為があった場合は、学則第 41 条により懲戒する。

（規程の改廃）

第 14 条　この規程の改廃は、教授会の議を経て歯学部長が行う。

（雑　　則）

第 15 条　この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

1　この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
2　この規程は、平成 8 年 5 月 15 日から施行する。
3　この規程は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
4　この規程は、平成 9 年 8 月 6 日から施行する。
5　この規程は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。
6　この規程は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。
7　この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
8　この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
9　この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
10　この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
11　この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
12　この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
13　この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
14　この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。（学則第 18 条第 1 項との整合性を図る修正）
15　この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
16　この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
17　この規程は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）

2026年度岩手医科大学歯学部 試験規程の取扱内規

１．この内規は、岩手医科大学歯学部試験規程第15条の規定に基づき、同規程第６条及び第８条の取扱いに関して定めるものである。

２．第６条（受験資格）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）別に受験資格を規定された科目及び試験については、それぞれ規定された要件を満たさなければならない。

（２）半期10回未満の科目で、出席が所定の割合未満の科目がある場合でも、当該学期における全科目の出席状況を勘案し、受験を認めることがある。

（３）第１学年において次のいずれかに該当する者は、再試験を受けることができない。
①履修科目の３分の１を超えて60点未満の評価を得た者
②総平均点が60点未満の者（小数点以下切り捨て）

（４）第２学年から第４学年においては、各授業科目の所定履修時間の５分の４以上出席しなければならない。

（５）第２学年において履修科目の総平均点が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（６）第３学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（３年）を除く）が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（７）歯科総合演習（３年）については、追試験を実施しない。

（８）第４学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（４年）を除く）が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（９）歯科総合演習（４年）については、追試験を実施しない。

(10) 第５学年前期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①前期の講義（解説講義を含む）に５分の４以上出席していること。
②前期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ５分の４以上受験していること。
③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

(11) 第５学年後期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①後期の講義（解説講義を含む）に５分の４以上出席していること。
②後期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ５分の４以上受験していること。
③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

(12) 第５学年総合講義（Ⅰ）については、追試験を実施しない。

(13) 第６学年第１回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①前期の講義（基盤形成講義II、総合試験解説講義）に５分の４以上出席していること。
②前期の復習試験を５分の４以上受験していること。
③選抜講義①に選出されている者は、その講義に５分の４以上出席していること。
④選抜講義①の受講対象者は、前年度の成績及び実力確認試験の成績を用いて、得点率で下位概ね３分の１の学生とする。
⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。

(14) 第６学年第２回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①後期の講義（臨実特化講義、必修特化講義、総合試験解説講義）に５分の４以上出席していること。
②後期の復習試験を５分の４以上受験していること。
③選抜講義②及び知識統合講義に選出されている者は、それぞれの講義に５分の４以上出席していること。
④選抜講義②の受講対象者は、大学主催の模擬試験、到達度評価試験、第１回総合試験の成績を用いて、得点率で下位概ね３分の１の学生とする（追加する場合がある）。
⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。

(15) 第６学年卒業判定保留解除試験（再試験）における受験資格の要件は次のとおりとする。
①２．(13)、(14) に定める要件を全て満たしていること。
②判定基準点（必修問題75%以上、一般問題65%以上、臨床実地問題65%以上、総合得点70%以上）がいずれも合格基準に到達していない場合は、受験することができない。
③総合得点が63%未満の者は、受験することができない。

(16) 第６学年総合講義（Ⅱ）については、追試験を実施しない。

３．第８条（評点）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）追試験の点数は、その得点より１割を減じたものとする。

（２）再試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。

（３）科目認定試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。

（４）歯科総合演習（３年）は、前期試験を30%、３年次総合試験（後期試験）を70%として評価する。

（５）歯科総合演習（４年）は、前期試験を30%、４年次総合試験（後期試験）を70%として評価する。

（６）第５学年総合講義（Ⅰ）は、実力確認試験及び復習試験（週間と月間）を 10%、前期総合試験を 40%、後期総合試験を 50%として評価する。
（７）第６学年総合講義（Ⅱ）は、実力確認試験及び到達度評価試験を５％、第１回総合試験を 40%、第２回総合試験を 55%として評価する。
（８）第６学年総合講義（Ⅱ）の判定基準点、判定基準及び評点は、次のとおりとする。
判 定 基 準 点：必修問題 75%以上、一般問題 65%以上、臨床実地問題 65%以上、総合得点 70%以上（小数点以下切り捨て）。
判　定　基　準：必修問題、一般問題、臨床実地問題、総合得点いずれも基準点を満たしていること。
評　　点：100 点満点とし、総合得点を評点に用いる。
（９）第６学年で履修する４学部合同セミナーの評点は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

付　則
この内規は、2026 年３月 27 日から施行する。

2026年度岩手医科大学歯学部 進級・卒業に関する申し合わせ事項

１．この申し合わせ事項は、岩手医科大学歯学部試験規程第15条の規定に基づき、同規程第９条及び第10条の取扱いに関して定めるものである。

２．第９条（進級）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）第１学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。

（２）第２学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。

a. 履修科目の平均点が65点以上
b. 再試験を受験している
c. 55点未満の科目がない
d. 55点以上65点未満の科目が１ないし２科目（合計８単位以内）である

（３）第３学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。

a. 歯科総合演習（３年）に合格している
b. 履修科目の平均点が65点以上
c. 再試験を受験している
d. 55点未満の科目がない
e. 55点以上65点未満の科目が１ないし２科目（合計８単位以内）である

（４）第４学年における修了要件は、履修した全科目の試験及び歯学生共用試験（CBT・OSCE）に合格していることとする。

（５）第５学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していること及び臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）を修了していることとする。

（６）臨床実習の修了要件は、次のとおりとする。

①全科目のリクアイアメントを100％以上所定の期日までに達成していること。
②臨床実習の全日程において、５分の４以上出席していること。
③臨床実習後臨床能力試験（一斉技能試験及び臨床実地試験）に合格していること。
④学外連携プログラムに係る実習（介護体験実習、地域医療体験実習）を修了していること。
⑤岩手医科大学附属病院総合安全教育プログラム研修を２回以上受講していること。

（７）第２学年及び第３学年の修了要件を満たさずに進級した者は、進級後の学年で不合格となった授業科目の科目認定試験を受け、合格する必要がある。

（８）カリキュラムの変更等により留年時に再履修できない授業科目が発生した場合は、不合格となった授業科目に限り、科目認定試験を受け、合格する必要がある。

（９）科目認定試験に不合格となった者は留年とし、改めて不合格となった科目認定試験を受けなければならない。

３．第10条（卒業）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）第６学年における卒業要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。

付　則

この申し合わせ事項は、2026年３月27日から施行する。

岩手医科大学歯学部 成績評価に対する異議申し立てに関する内規

制定　令和８年３月４日

（趣　　旨）

第１条　この内規は、岩手医科大学歯学部の学生（以下「学生」という。）が、履修した授業科目に係る成績評価に対して疑義が生じ、科目責任者からの説明をもってしても疑義の解消に至らなかった場合に行う異議申し立てに関して、必要な事項を定める。

（成績評価方法等の明示）

第２条　責任者・コーディネーター（以下「科目責任者」という。）は、成績評価に関連する事項を教育要項等に明示し、学生に説明しなければならない。

（成績評価結果の説明）

第３条　科目責任者は、学生に対して成績評価結果の基となる試験結果等の説明に努めるものとする。

（成績評価に関する質問・疑問等の受付）

第４条　科目責任者は、成績開示後に一定期間を設けて学生からの成績評価に関する質問・疑問等を受け付けるとともに、これに真摯に対応するものとする。

（異議申し立て手続き）

第５条　学生は、次に掲げる事項に該当する場合、成績評価に対する異議申し立てをすることができるものとする。

（１）成績の誤記入等、明らかに科目責任者等の誤りであると思われる場合。

（２）教育要項等により学生に明示している成績評価方法・基準・配点割合等から明らかに逸脱していると思われる場合。

２　学生は、異議申し立てを行う場合、成績開示後５日以内に成績評価に対する異議申立書（別記様式１）を、歯学部教務課に提出するものとする。ただし、同一の成績評価に対する異議申し立ては１回限りとする。

（異議申し立ての審査）

第６条　歯学部長は、異議申し立てを受けた場合、歯学部教務委員会へ回答書（別記様式２）の作成を指示するものとする。

２　歯学部教務委員会は、異議申し立てを受理する場合、歯学部教務委員長を長とする成績評価に対する異議申し立て審査委員会（以下「成績異議申立審査委員会」という。）を設置する。

３　成績異議申立審査委員会は、成績評価に対する異議申立書に基づき、審査を行う。

４　成績異議申立審査委員会は、審査に際し、当該学生及び科目責任者等への聴取調査を行うことができる。また、必要に応じて、科目責任者等に対して成績判定に用いた資料の提出を求めることができる。

（審査結果の取り扱い）

第７条　成績異議申立審査委員会は、審査結果を歯学部教務委員会に報告する。

２　歯学部教務委員会は、異議申し立てへの対応を決定し、歯学部長に報告する。

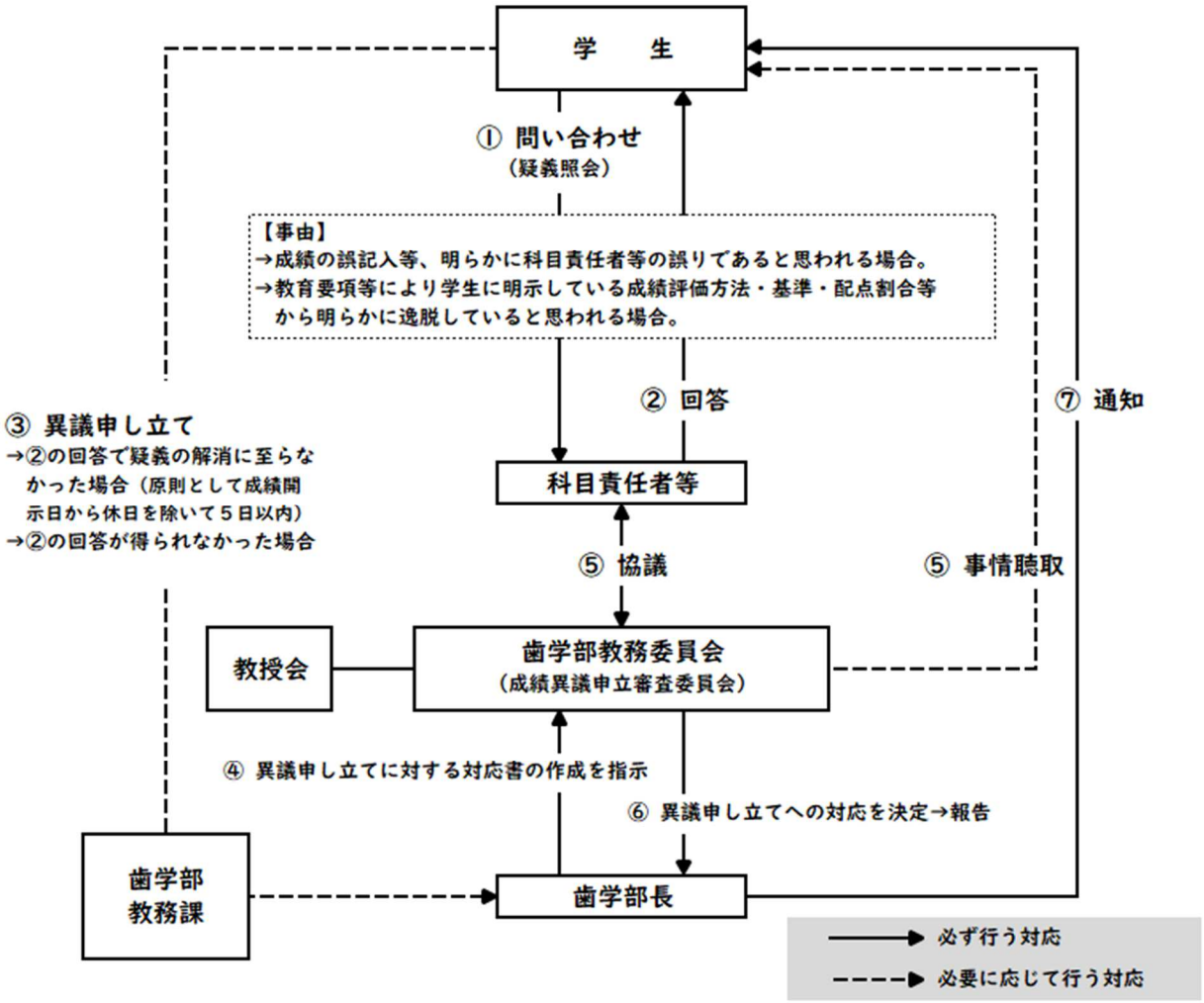
３　歯学部長は、審査結果を当該学生へ回答書（別記様式２）にて通知するものとする。

（内規の改廃）

第８条　この内規の改廃は、歯学部教授会の議を経て歯学部長が行う。

（雑　　則）

第９条　この内規に定めるもののほか、この内規の実施に関し必要な事項は、別に定める。



（様式１）

令和　　年　　月　　日

成績評価に対する異議申立書

歯学部長　様

歯 学 部　　年　　番

学籍番号

氏　　名　　㊞

以下の理由のとおり、当該授業科目の成績評価に対して異議を申し立てます。

授業科目名		開示された 成績評価	点
科目責任者名			
異議を申し立てる 具体的理由			

提出先：歯学部教務課

（様式２）

令和　　年　　月　　日

成績評価に対する異議申立への回答書

歯 学 部　　年　　番

学籍番号

氏　　名

歯学部長

令和　　年　　月　　日付、提出のありました成績評価に対する異議申し立てについて、歯学部教務委員会の決定に基づき、以下のとおり回答いたします。

授業科目名	
科目責任者名	
異議申立への対応	１．成績評価の変更を行います。　**【変更後の成績評価：　　点】** ２．成績評価の変更を行いません。
具体的理由	

岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程

令和６年４月１日制定

（目的）

第１条　この規程は、「障害者基本法(昭和 45 年法律第 84 号)」及び「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成 25 年法律第 65 号)」、その他関係法令、並びに岩手医科大学学生支援方針に基づき、岩手医科大学(以下「本学」という。)における障害のある学生等への合理的配慮に関し必要な事項等を定めることを目的とする。

（定義）

第２条　本規程において、次の用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

（１）　障害のある学生等　障害者基本法(昭和 45 年法律第 84 号)第２条第１号に規定する障害者、即ち、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(難病に起因する障害を含む。以下「障害」と総称する。)により継続的に修学上相当な制限を受ける状態にある学生等。

（２）　合理的配慮　障害のある学生等が、他の者との平等を基礎として修学上の不利益を被ることがないよう必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において障害のある学生等本人が必要とするものであり、教育の目的・内容・評価の本質を変えないもの、かつ、均衡を失したまたは過重な負担を課さないもの。

（教職員の責務）

第３条　本学教職員は、障害のある学生等が修学上の不利益を被ることがないよう、合理的配慮の提供に努めなければならない。

（支援体制）

第４条　本学における合理的配慮が必要な学生等に関するアセスメントとマネジメントは、学生支援室が担当する。

２　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、学生支援室を通じ、第５条及び第６条の手続きを経ることとする。

３　学生支援室は、次の各号に掲げる教職員及び所属により構成するものとする。

（１）　学生部長

（２）　学生副部長

（３）　学事課

（４）　その他学生部長が必要と認めた者

（面談）

第５条　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、窓口に相談後、面談を実施することとする。

２　面談は、次の各号に掲げる教職員および所属のうち、学生部長が必要と認めた人員に

より構成するものとする。

（１）　学生部長

（２）　学生副部長

（３）　教務委員長

（４）　クラス担任

（５）　当該学部教務課

（６）　健康管理センター

（７）　学事課

（８）　その他学生部長が必要と認めた者

３　前項構成員は、相互に連携し合理的配慮に関係する業務にあたるものとする。

（申請）

第６条　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、面談の実施後、様式１の申請書及び根拠資料等を学生支援室へ提出することとする。

２　新規申請は、合理的配慮が必要な事案が発生する都度、行うものとする。

３　更新申請は、年度ごとに行うものとする。

（合理的配慮の検討）

第７条　学生支援室は、学生等からの合理的配慮の申請意思について十分尊重するため、合理的配慮の提供について検討を行う。

２　前項の検討を行ったうえで、教育の目的・内容・評価の本質を変える、均衡を失する、または以下の各号を考慮し過重な負担にあたると判断した場合は、申請者にその理由を説明し、理解を得るよう努めるものとする。

（１）　本学および実習施設等の教育協力施設における教育研究その他の活動への影響の程度(その目的、内容、機能等)

（２）　実現可能性の程度(物理的及び技術的制約、または人的および体制上の制約)

（３）　費用及び負担の程度

（４）　本学および実習施設等の教育協力施設の規模、財政および財務状況

（合理的配慮の提供）

第８条　本規程に定める合理的配慮の提供の可否は、当該学部教授会または教養教育センター委員会にて決定する。

２　合理的配慮の提供の期間は、当該学部教授会または教養教育センター委員会が特別の事情があると認める場合を除き当該年度までとし、更新申請があった場合はその提供の可否を前項に基づき決定する。

（情報保護）

第９条　合理的配慮を提供するために必要な場合は、守秘義務を遵守のうえで関係者が個人情報を共有することができるものとする。

（事務）

第 10 条　本規程にて定める合理的配慮に関する事務は、学事課が行う。

（改廃）

第 11 条　この規程の改廃は、学生部長会議の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

様式第１号(第６条関係)

学生支援室　御中

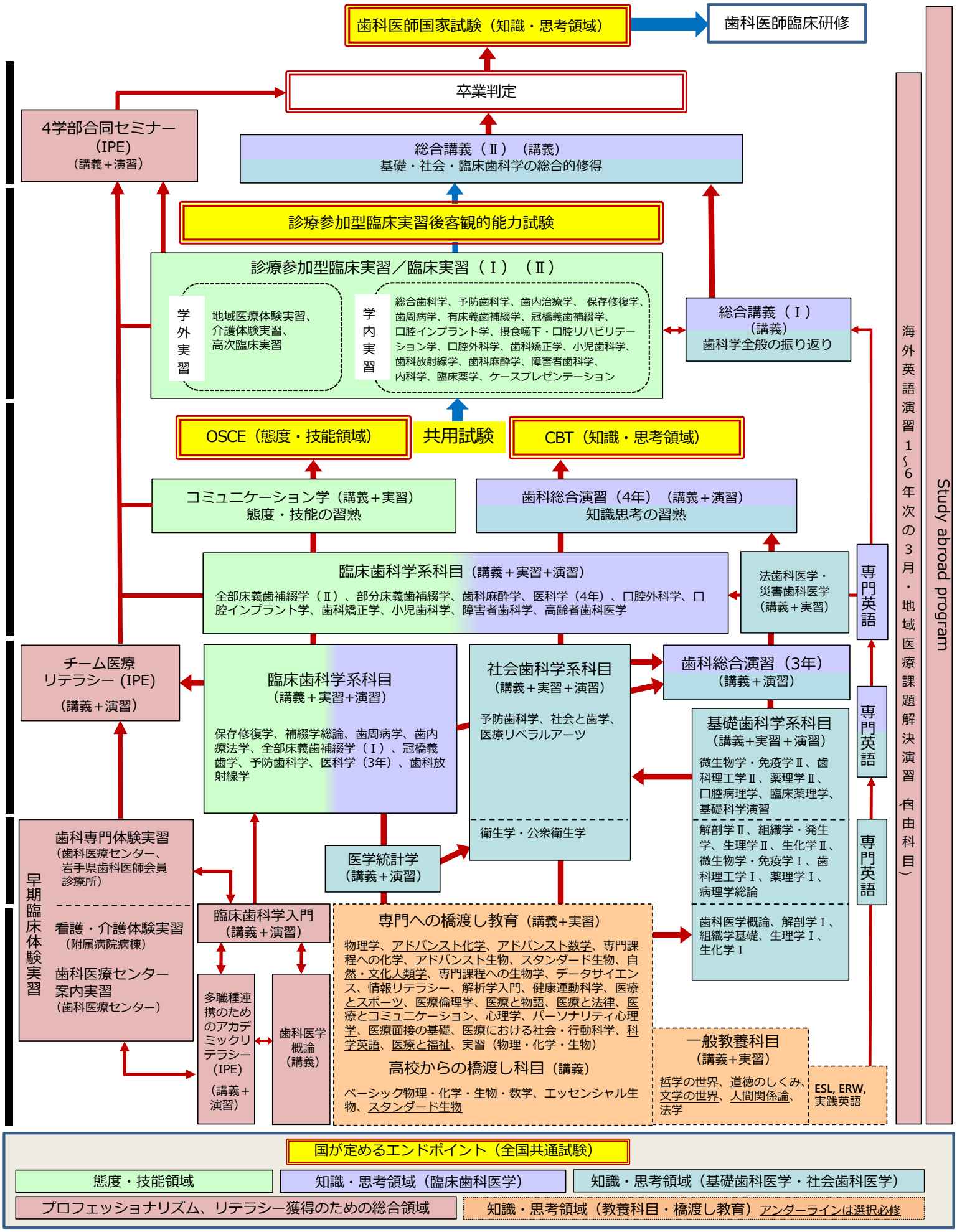
修学上の合理的配慮申請書

下記のとおり、＿＿＿年度における修学上の合理的配慮の提供を希望いたします。

<table>
<tr><td>申請日</td><td colspan="4">＿＿＿＿ 年 ＿＿ 月 ＿＿ 日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(ふりがな)
氏名※自筆</td><td colspan="2" rowspan="2">(　　)
※自筆 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td><td>入学年度</td><td>＿＿＿＿＿年度</td></tr>
<tr><td>学籍番号</td><td>＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>学部学年等</td><td colspan="4">＿＿＿学部 ＿＿＿年 出席番号 ＿＿＿番</td></tr>
<tr><td>連絡先・現住所</td><td colspan="4">携帯電話：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
E-mail ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
現 住 所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>緊急連絡先
(保護者等)</td><td colspan="4">氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
住　　所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 本人との関係：＿＿＿</td></tr>
<tr><td rowspan="3">障がい等の名称
障がいの種類
根拠書類</td><td colspan="4">＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
※障害者手帳の写しまたは診断書等の根拠資料を添付のこと</td></tr>
<tr><td colspan="4">障がいの種類(該当箇所にチェックのこと)
□身体障がい □知的障がい □精神障がい □その他心身の機能の障がい</td></tr>
<tr><td>障害者手帳
□有(　　手帳　　種　　級)
□無</td><td>診断書
□有
□無</td><td colspan="2">その他
□有
(内容：　　)</td></tr>
<tr><td>申し出理由
及び
希望する配慮内容</td><td colspan="4">配慮を申し出る理由(支障をきたす具体的な身体等の状況など)

希望する合理的配慮(科目等が限定される場合、科目名も明記のこと)</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="4">□規程第９条　関係者間における個人情報の共有に同意します。</td></tr>
</table>

歯学部歯学科カリキュラムマップ　2026



GPA（Grade　Point　Average）制度について

●定　義：アメリカの大学で一般的な成績評価方法で、学生の履修科目の成績評価を単位数に応じて重み付けした平均値で表したものである。

●目　的：学生の学習意欲を高めることおよび学生自身が学修の状況及び成果を示す指標として自主的、意欲的に学修することを促すことを目的とする。また、教員は個々の学生の学修成果を全体的に把握し、教育課程の到達度を評価するとともに、各学年において GPA1.0 未満のものは成績不振者として学習指導対象とすること、および GPA0.5 未満のものは進路再考の指導対象にすることを目的とする。併せて、GPA1.0 未満のものは、全学部共通の自由科目の履修単位上限を 2 単位とする（CAP 制度参照）。

●評価および GP

医学部 1～6 学年、歯学部 1 学年 薬学部 1～6 学年、看護学部 1～4 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～60 点
D	0	59 点以下

歯学部 2～6 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～65 点
D	0	64 点以下

※歯学部における第 6 学年総合講義Ⅱ及び 4 学部合同セミナーの評価については別に定める。

●対　象：各年度による

●単位算出方法：

$$\frac{\text{1 コマ 2 時間（1 時間 30 分授業+事前学修時間 30 分）×回数}}{\text{講義・演習 15 時間または実習 30 時間}}$$

（例）

●GPA 計算方法：

$$\frac{\text{（評価「A」単位数×3 点）+（評価「B」単位数×2 点）+（評価「C」単位数×1 点）}}{\text{総単位数（不合格科目を含める）}}$$

●GPA 判定機関：各学部教務委員会の議を経て教授会にて判定する。

●対象外科目：自由科目他（各学部で設定）

CAP 制度の導入について

●目　的：学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修することができるよう、学生が 1 年間に履修する単位数（時間数）の上限を定めることを目的とする。

●対　象：全学部・全学年

●制度内容について【歯学部】

本学歯学部に於いては、モデル・コア・カリキュラムに基づき、必用な内容を必修科目・選択必修科目として設定している。1 年間に履修できる単位数（時間数）は、学則別表により各学年に配当する必修科目・選択必修科目の単位数（時間数）に以下の単位数を加えたものを上限として定めている。

学年	自由科目単位数
1～6 学年	3.0 単位

大学における単位の考え方と授業外学修について

日本の大学教育は単位制度を基本としており、1 単位あたり 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準であると大学設置基準に定められています。

> 第二十一条　各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。
> 2　前項の単位数を定めるに当たっては、**一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成する**ことを標準とし、第二十五条第一項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね十五時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位として単位数を計算するものとする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって一単位とすることができる。

つまり、1 単位の科目を履修するためには、講義室等で受講する授業と自宅等で学修する授業外学修を合わせて 45 時間の学修が必要になるため、授業時間外の予習・復習にあたる**事前・事後学修が必要になります。**

例えば以下の例を考えてみます。

例）講義・実習 14 コマで 1 単位の科目の場合
　　講義・実習 14 コマ × 1 コマ 2 時間（90 分を 2 時間として計算） ＝ 28 時間
　　45 時間 － 28 時間 ＝ 17 時間
　　計 17 時間分（1 コマあたり 72 分以上）の授業外学修が必要

この場合、講義室等で受講する 14 コマの授業以外に、1 コマ当たり 72 分以上の学修が必要となります。

シラバスには、科目または授業毎に必要な事前・事後学修の内容と時間が記載されていますので、その内容に従って自己学修を行うことが求められます。なお、事前学修は各授業の前に、事後学修は授業後または定期試験の準備期間や長期休暇を活用することができます。

医学部、歯学部における臨床実習等の一部の科目では、単位時間（90 分＝2 単位時間）ではなく実時間（実際の授業時間）に基づいて単位計算がされますが、1 単位 45 時間の考え方に基づいた事前事後学修は必要です。

岩手医科大学生命倫理規範

本学は、「誠の人間の育成」という建学の精神に基づき、専門の学理に対して誠実な理想を持ち、医療及び生命科学の研究、教育を通じて社会の進歩、福祉に貢献してきた。

関連諸科学が日々急速に進展するなか、本学が今後とも社会の要請に応えるために、すべての職員には、誠の精神に由来する高い倫理観をもって行動することが求められている。

本学は、すべての職員が常に自覚し、遵守すべき指針として、ここに生命倫理規範を制定し、本規範に基づき医療・研究を推進するとともに、生命倫理に関する教育と啓発活動に力を注ぐことを宣言する。

1．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、人間の尊厳を第一の原則とする。個人の有する基本的人権に敬意を払い、個人の自律を尊重するため、インフォームド・コンセントの原則を遵守し、意思決定能力が十分でない人々の権利擁護にも務める。また個人のプライバシーの権利を尊重し、個人情報の保護のために最善を尽くす。

2．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、無危害原則と善行原則を遵守する。医療においては個人に危害を加えることがあってはならず、個人に最善の利益を与えるよう努める。研究においては、個人、社会及び人類にもたらされる将来にわたる利益を最大化し、危害を最小化することを目指す。その際、個人の受ける不利益、未来世代への影響にも十分に配慮する。さらに、人類に多大な利益を与えると予想される研究であっても、個人の持つ人間の尊厳及び個人の福利を何よりも優先する。また実験動物の福祉にも十分に配慮する。

3．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、正義原則を旨とする。医療においては、個人を平等に扱い、医療資源の配分は公平に行う。研究においてもたらされる利益は社会的に公平に配分し、不適切な格差が生じないようにする。また極めて有用な研究であっても、社会的差別の要因となる可能性があるため、社会的に弱い立場にある人々を対象として実施する場合には、その人権・利益について最大限に配慮する。

4．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、多面的な要請に応えるために、学内諸分野及び学外諸機関・施設との共同作業を積極的に推進する。共同作業に伴う倫理的配慮や得られた科学的成果についての情報は適切に公表し、社会に対する説明責任を果たす。

5．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、世界医師会のヘルシンキ宣言、リスボン宣言をはじめとする各種宣言・倫理綱領の基本理念を尊重する。また省庁、関連学会によって作成された最新のガイドラインに準拠し、科学的及び倫理的観点から見て適切に課題を遂行する。これら宣言・倫理綱領・ガイドラインに示された生命倫理の精神に従い、将来の医療をになう人材の育成に努める。

（平成 26 年 3 月 11 日制定）

岩手医科大学における人体標本取扱指針

平成 29 年 4 月 1 日

本学の教育と研究において、人体および人体標本(遺体およびその一部である標本、さらに手術による摘出標本を含みます)を用いることは、人体の構造と機能、疾病の病理・病態を深く理解するために不可欠です。もとよりご遺体には尊厳があり、その使用にあたっては、死体解剖保存法によって、「死因解明」、「医学教育」、「医学研究」という公共の利益となる明確な目的をもつこと、および、遺体の取扱に当たっては礼意を失わないように注意しなければならないことが規定されています(死体解剖保存法第一条および第二十条)。また、標本提供者の個人情報の漏出があってはなりません。教育現場においては、学生は、以下の点を遵守するよう、留意して下さい。

- 人体標本を、教員の許可なく所蔵場所から移動するのを禁じます。
- 講義室・実習室で供覧する人体標本を、教員の許可なく撮影してはいけません。
- 実物だけでなく視聴覚装置で供覧される標本写真等についても、撮影ならびにインターネットに掲載してはいけません。
- 許可を受けて撮影したとしても、その画像を、インターネット（含、Social Network Service）に転載することは一切禁じます。
- ヒト以外の動物や動物標本を用いる場合も、人体標本と混同されることを避けるという観点に加え、生命体への畏敬の念を育む意味でも撮影してはいけません。
- 個人が特定できる情報（姓名、病名、受診年月日、死亡・採取年月日等）を、教室・実習室外へ持出してはいけません。
- 学修者が、学修のために正常組織および病理組織顕微鏡標本(ミクロ標本)のデジタル情報を取得・保存(例、写真撮影、デジタル画像ファイルのダウンロード、バーチャルスライドの画像情報保管)することは認められますが、インターネットへの転載は禁じます。

教育成果物の利用に関して

学生の皆さんの在学中の教育成果物（スケッチ、レポート、ポートフォリオ等）を、後進育成のために授業中に使用する教育資料として使用させていただく場合があります。また、e-learning システムへの掲載、教育成果報告書、学会発表、論文発表で使用し、機関リポジトリに掲載する場合がありますが、掲載する場合には個人の特定ができないように匿名化するなどの配慮をしますので、個々の事例に関して当該教員から要請があった場合はご協力下さい。同意されない場合でも、不利益になることはありません。

学生健康診断規程

（趣旨）

第１条　この規程は、学校法人岩手医科大学が運営する大学院、大学及び専門学校（以下「大学等」という）に在籍する学生(大学院、大学及び専門学校に在籍する者をいう。以下同じ。)に関する健康診断及び事後措置等について定めるものとする。

（健康診断の実施）

第２条　大学等は、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)に基づき毎年１回、健康診断を実施しなければならない。

２　健康診断は健康管理センターが実施する。

（健康診断の種類）

第３条　健康診断は定期健康診断及び臨時健康診断とする。

２　定期健康診断は、毎学年定期に行うものとする。

３　臨時健康診断は、健康管理センター長が必要と認めたときに行うものとする。

（受診の義務）

第４条　学生は健康診断を受けなければならない。

２　学生は、健康診断を受けなかったときは、健康管理センター長の定める期間内に、当該健康診断と同等の実施項目を含む健康診断書を健康管理センターに提出しなければならない。

３　前項の規定による健康診断書を提出できないときは、健康管理センター長に申し出て指示を受けなければならない。

（健康診断の総合評価及び通知）

第５条　健康管理センター長は、学校医に依頼し健康診断の結果を別表により判定し、学部長等に報告するとともに、学生に通知するものとする。

（事後措置）

第６条　学部長等は、健康診断の結果、疾病のため生活規制または治療を要する者があるときは、健康管理センター長と協議の上、当該学生の健康回復に必要な指導を行わなければならない。

２　学校医は、必要に応じて相談指導を実施し、学校医の指示のもと保健師が保健指導を実施する。

３　健康診断の結果、疾病のある者は、前項の指導に従わなければならない。

（復学時の健康診断）

第７条　疾病のため休学中の者が復学しようとするときは、学部長等を経て、健康管理センター長に申し出て、健康診断を受けなければならない。

（証明書の発行）

第８条　第３条の健康診断を受けた者が、健康診断証明書を必要とするときは、これを発行することがある。

（改廃）

第９条　この規程の改廃は、健康管理センター運営委員会の議を経て、理事長が行う。

附　則

この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 25 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

令和8年度　学生健康診断等実施要領

１．学生健康診断

＊M：医学部、D：歯学部、P：薬学部、N：看護学部、DH：医療専門学校歯科衛生学科

健　診　日　時		対象学生	個人票配付時間・場所		健診会場	健診項目
4月20日(月)	9：30～11：30	3M	9:20	キャンパスモール 階段下 (Yショップ前) ・詳細は掲示板で確認し、指定の時間に受診してください。	**＜矢巾キャンパス １階＞** ■北側入口(胸部検診車) ・胸部X線撮影 ■キャンパスモール 正面入口付近 ・視力検査 ■キャンパスモール ヤマザキショップ向かい側 ・血圧測定 ■東研究棟 SGL ・身長 ・体重 ・内科診察 ・歯科健診 ■西講義実習棟 キャンパスモール側トイレ ・尿検査 ■西研究棟 ラウンジ ・ 血液検査	■必須項目 ・身長 ・体重 ・血圧 ・内科診察 ・視力検査 ・胸部X線撮影 ■学年別追加項目 【1年】 ・血液検査 ・尿検査 ・歯科健診 【4年】 ・血液検査 ・尿検査 ■B型肝炎接種前検査 (血液検査) ・3M ・4D ・4P ・1N ・1DH ・3N編入生
		4D	10:50			
	13：30～15：30	4P	13:20			
		4N	13:50			
		6M	14:20			
		3DH	14:50			
4月21日(火)	9：30～11：30	1M	9:20			
		1D	10:50			
	13：30～16：00	1P	13:20			
		6P	13:50			
		1N 3N編入生	14:30			
		1DH	15:20			
4月22日(水)	9：30～12：00	4M	9:20			
		2N	10:50			
	13：30～16：00	2M	13:20			
		2D	14:50			
		2P	15:10			
		2DH	15:30			
4月23日(木)	9：30～12：00	5M	9:20			
		3D	10:50			
		3P	11:20			
	13：30～15：30	5D	13:20			
		6D	13:40			
		5P	14:10			
		3N	14:40			

※　変更の場合もありますので、掲示板で確認してください。

２．心理テスト・メンタルヘルスチェックについて

対象学年	日　　時	会　　場	内　　容
1N	4月20日(月)5限　16:20～17:50	各教室	東大式エゴグラム 学生精神的健康調査
1D	4月22日(水)4限　14:40～16:10		
1P	4月22日(水)5限　16:20～17:50		
1M	4月24日(金)1限　8:50～10:20		
2～6年(M・D・P) 2～4年(N)	4月20(月)、21日(火)、22日(水)、23日(木)、 健康診断時に実施	健康診断会場	メンタルヘルスチェック

３．健康講話

対　　象	日　　時	会　　場	内　　容
1M・1D・1P・1N	5月13日(水)5限　16:20～17:50	大堀記念講堂	受動喫煙講習会 (学生部と共催)
	6月5日(金) 2限　10:30～12:00	大堀記念講堂	メンタルヘルス講習会

４．ワクチン接種日程について

（1）Ｂ型肝炎ワクチン　　対象：3M・4D・4P・1N・1DH・3N編入生

区　　分	日　　時		対象学生	会　　場
接種前 採血検査	4月20日(月)	9:30～11:30	3M、4D	矢巾キャンパス 西研究棟1階 ラウンジ
		13:30～15:30	4P	
	4月21日(火)	13:30～16:00	1N･1DH･3N編入生	
ワクチン接種 １回目	5月21日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	5月22日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 ２回目	6月18日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	6月19日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 ３回目	11月5日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	11月6日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
接種後採血	12月3日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	12月4日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
追加接種 (該当者のみ)	1月7日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	
追加接種後採血 (該当者のみ)	2月4日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	

（2）インフルエンザワクチン　　対象：全員（接種料金は自己負担）

キャンパス	日　　時		対象学生	会　　場
内　丸	10月13日(火)	15:30	6D	内丸 創立60周年記念館 8階　研修室
	10月14日(水)	14:30	1DH	
		15:00	2DH	
		15:30	3DH	
矢　巾	10月19日(月)	13:30	1N	矢巾キャンパス 西講義実習棟2階 西2･C実習室
		15:00	4D	
		15:30	4P	
		16:10	3M	
	10月20日(火)	13:30	1P	
		14:00	5D	
		15:00	1M	
		16:10	2N	
	10月21日(水)	13:30	2M	
		14:30	6P	
		15:00	3P･3D	
		16:10	1D	
	10月22日(木)	13:30	4M	
		15:00	6M	
		16:10	4N	
	10月23日(金)	13:30	5P	
		14:00	2D	
		14:30	5M	
		15:00	2P	
		16:10	3N	

※日時・場所の変更もありますので、掲示板で確認してください。

歯学部教員・オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

内線番号は矢巾キャンパス、及び外線を経由して発信する際の番号です。内丸キャンパスから発信する際は、#のある番号は#を抜き、#のない番号は最初に#を付けて発信してください。

１．時　　間　　あらかじめ特定の時間帯を示す。

２．面談方式　　オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
学　　長	小笠原　邦昭	水	10：00～12：00	学長室 事前に学長室（内線 5001）に連絡しアポイントを取ること
解剖学講座 機能形態学分野	藤原　尚樹	月～金	16：30～17：30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） naokif@iwate-med.ac.jp
	吉岡　望	月～金	16：30～17：30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） yoshinoz@iwate-med.ac.jp
解剖学講座 発生生物・再生医学分野	原田　英光	月～金	16：30～17：30	解剖学講座　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または hideha@iwate-med.ac.jp
	大津　圭史	月～金	16：30～17：30	解剖学講座　　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または kotsu@iwate-med.ac.jp
	池崎　晶二郎	月～金	16：30～17：30	解剖学講座　　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または sikezaki@iwate-med.ac.jp
生理学講座 病態生理学分野	黒瀬　雅之	月・木	16：30～17：30	病態生理学分野 211 室 内線 5692 kurose@iwate-med.ac.jp
	加藤　哲也	火・水	16：30～17：30	病態生理学分野 213 室 内線 5690 tkkatou@iwate-med.ac.jp
生化学講座 細胞情報科学分野	石崎　明	月	16：30～17：30	生化学講座細胞情報科学分野教授室 内線 5740 aishisa@iwate-med.ac.jp
	帖佐　直幸	水	16：30～17：30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 nchosa@iwate-med.ac.jp
	横田　聖司	水	16：30～17：30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 syokota@iwate-med.ac.jp
微生物学講座 分子微生物学分野	石河　太知	月～金	16：00-17：00	微生物学講座分子微生物学分野教授室 内線 5800 tishikaw@iwate-med.ac.jp
	三浦　利貴	月～金	12:00～13:00 16:00～17:00	微生物学講座分子微生物学分野 スタッフルーム 1 303　内線 5801 tosmiura@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
薬理学講座 病態制御学分野	中村　正帆	月	16：00～16：30	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363　内線 5811 tadahonk@iwate-med.ac.jp
	田村　晴希	月	12：00～13：00 16：00～17：00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363　内線 5811 htamura@iwate-med.ac.jp
	山田　ありさ	月	16：00～17：00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363　内線 5811 yamaari@iwate-med.ac.jp
病理学講座 病態解析学分野	入江　太朗	木	16：00～18：00	病理学講座病態解析学分野　教授室 内線 5900 tarou@iwate-med.ac.jp
	佐藤　泰生	木	16：00～17：30	病理学講座病態解析学分野　461 室 staisei@iwate-med.ac.jp
法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野	熊谷　章子	木	18：00～19：00	法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 スタッフルーム　内線 5684 kumagaia@iwate-med.ac.jp
医療工学講座	武本　真治	木	16：30～17：30	医療工学講座教授室西 317 （内線 5760） takemoto@iwate-med.ac.jp
	佐々木　かおり	月・木	16：30～17：30	医療工学講座スタッフルーム西 316 （内線 5763） sskkaori@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 う蝕治療学分野	野田　守	木	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 nodam@iwate-med.ac.jp
	浅野　明子	月	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 akiasano@iwate-med.ac.jp
	千田　弥栄子	火	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaekon@iwate-med.ac.jp
	東　兼司	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 kenjih@iwate-med.ac.jp
	相上　雄亮	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaigami@iwate-med.ac.jp
	大塚　泰寛	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 oyasuhir@iwate-med.ac.jp
	清水　彩恵子	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 tobishi@iwate-med.ac.jp
	鈴木　大平	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 staihei@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 歯周療法学分野	佐々木　大輔	月	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） daisukes@iwate-med.ac.jp
	村井　治	火・木	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） osamurai@iwate-med.ac.jp
	鈴木　啓太	水	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） esuzuki@iwate-med.ac.jp
	相原　恵子	火	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） kaihara@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野	小林　琢也	金	17：00～18：00	教授室（441 号室）　内線 #4531 kobataku@iwate-med.ac.jp
	佐藤　宏明	木	17：30～18：30	義歯外来、医局、研究室　内線 4441 satohiro@iwate-med.ac.jp
	米澤　悠	木	17：00～18：00	医局、研究室　内線 4406 yyone@iwate-med.ac.jp
	米澤　紗織	木	17：00～18：00	医局、研究室　内線 71576 saki@iwate-med.ac.jp
	原　総一朗	火	17：00～18：00	医局、研究室（406 号室）　内線 4406 sohara@iwate-med.ac.jp
	島田　崇史	木	17：00～18：00	医局、研究室（406 号室）　内線 #71575 shimtak@iwate-med.ac.jp
	伊藤　凌	木	17：00～18：00	医局、研究室（404 号室）　内線 71563 itoryo@iwate-med.ac.jp
歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野	今　一裕	火	17：00～18：00	医局、研究室　453 号室 kazukon@iwate-med.ac.jp
	深澤　翔太	水	17：30～18：30	医局、研究室　447 号室 sfu@iwate-med.ac.jp
	横田　潤	火	17：00～18：00	医局、研究室　445 号室 jyokota@iwate-med.ac.jp
	福徳　暁宏	水	17：00～18：00	医局、研究室　447 号室　内線 #4418 afukuto@iwate-med.ac.jp
	齊藤　裕美子	月	16：00～17：00	医局、研究室　433 号室　内線 4439 ysaito@iwate-med.ac.jp
	佐々木　渓斗	水	17：00～18：00	医局、研究室　407 号室　内線 4418 sasakikeito0329@gmail.com
	八戸　勇樹	水	17：00～18：00	医局、研究室　407 号室　内線 4418 yk.8nohe@gmail.com
	星　美貴	水	17：30～18：30	医局、研究室　445 号室　内線 #4440 hoshmiki@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	山田　浩之	月	18：00～19：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野　教授室　内線 6311 yamadah@iwate-med.ac.jp
	川井　忠	木	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 6311 kawait@iwate-med.ac.jp
	大橋　祐生	月・火・ 木・金	18：00～20：00	矢巾附属病院 耳鼻咽喉科頭頸部外科医局　内線 6302 yohashi@iwate-med.ac.jp
	古城　慎太郎	金	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 6311 kshinta@iwate-med.ac.jp
	平野　大輔	月・木・金	16：00～17：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71535 thirano@iwate-med.ac.jp
	高橋　美香子	水	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71590 tmikako@iwate-med.ac.jp
	野宮　孝之	月・水	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71116 tnomiya@iwate-med.ac.jp
	秋本　祐基	火	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71527 akimoto@iwate-med.ac.jp
	川又　慎介	月・火・ 木・金	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71529 kawashi@iwate-med.ac.jp
	矢菅　絵里加	月・火	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71530 erikay@iwate-med.ac.jp
口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	佐藤　健一	火	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 satoken@iwate-med.ac.jp
	筑田　真未	月	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 mchikuda@iwate-med.ac.jp
	佐藤　州	金	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 satoshu@iwate-med.ac.jp
	坂野上　和奏	水	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 sakanoue@iwate-med.ac.jp
	柳町　晴香	木	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 yanaharu@iwate-med.ac.jp
	前澤　五月	木	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 satsukim@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野	泉澤　充	火・木・土	12：00～13：00	歯科放射線学分野・特任教授室(134 号室) 内線 #4513 mizumisa@iwate-med.ac.jp
	髙橋　徳明	火・木	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 71574 tnoriaki@iwate-med.ac.jp
	佐藤　仁	木	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室 (135 号室) 内線 #4513 satohito@iwate-med.ac.jp
	星野　正行	水・金	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 mhoshino@iwate-med.ac.jp
	星　勲	水	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 isaohosh@iwate-med.ac.jp
	金森　尚城	月・火・水	12：00～13：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 kanataka@iwate-med.ac.jp
	菅野　江美	火・木・金	12：00～13：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 emkanno@iwate-med.ac.jp
口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	佐藤　和朗	木	17：00～18：00	歯科矯正学分野・教授室 (456 号室) 内線:4533 kazsatoh@iwate-med.ac.jp
	桑島　幸紀	木	17：00～19：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 ykuwaji@iwate-med.ac.jp
	飯塚　康之	月	17：00～19：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 yiizuka@iwate-med.ac.jp
	菊池　恵美子	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 eaomatsu@iwate-med.ac.jp
	浅沼　莞奈	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 asanumak@iwate-med.ac.jp
	深澤　慶子	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 keikof@iwate-med.ac.jp
	上田　茜	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 uakane@iwate-med.ac.jp
	吉田　弘法	月	17：00～18：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 hironori@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	熊谷　美保	月～木	18：00～19：00	小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局 （PHS 71557） mkumagai@iwate-med.ac.jp
	齊藤　桂子	月～金	18：00～19：00	小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局 （PHS 71587） ksaitho@iwate-med.ac.jp
	磯部　可奈子	月・水・木・金	16：00～17：00	小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局 （PHS 71485） kisobe@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 関連医学分野	千葉　俊美	月～金	16：00～17：00	口腔医学講座 関連医学分野 教授室440号室　内線 #4435 toschiba@iwate-med.ac.jp
	王　挺	月～金	16：00～17：00	口腔医学講座 関連医学分野 研究室444号室　内線 #4228 tingwang@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 予防歯科学分野	佐藤　俊郎	火・水・木	17：00～18：00	予防歯科学分野519号室（内 #4516） toshiros@iwate-med.ac.jp
	衣斐　美歩	月～金	16：00～17：00	予防歯科学分野519号室（内 #4516） mibi@iwate-med.ac.jp
	大石　泰子	火・木・金	16：00～17：00	予防歯科学分野519号室（内 #4516） toishi@iwate-med.ac.jp
	佐藤　華子	月・金	17：00～18：00	予防歯科学分野517号室（内 #4518） satohana@iwate-med.ac.jp
	杉山　由紀子	月・水・木	17：00～18：00	予防歯科学分野517号室（内 #4518） yukikosu@iwate-med.ac.jp
非常勤教員	授業後に教室で質問を受け付ける。後日、質問がある場合は科目責任者を通じて連絡すること。			

教養教育センター　オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けたりするために開かれた時間です。有効に利用してください。希望者は以下一覧表を確認のうえ、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

担当教員		担当教員	曜日	時間帯	備　考
人間科学科	哲学分野	林　研	月・金	16:30～17:30	266人間科学科 教授・准教授室
		三浦　康宏	水	16:30～17:30	264-1文学分野　研究室
	法学分野	廣瀬　清英	火～木	12:00～13:00	223法学分野　研究室
	心理学・ 行動科学分野	藤澤　美穂	水・金	12:00～13:00	262人間科学科 教授・准教授室
		香川　由美	月・水・金	16:30～17:30	267心理学・行動科学分野 研究室
	体育学分野	佐々木　亮平	月・水・金	12:00～13:00	103体育学分野　研究室
情報科学科	数学分野	江尻　正一	月～金	16:30～17:30	257情報科学科 教授・准教授室
		長谷川　大	月～金	16:30～17:30	225数学分野　研究室
	医学統計 情報学分野	髙橋　史朗 教養教育センター長 教養教育センター学生部長	月・木	16:30～17:30	258情報科学科 教授・准教授室
		小野　保	月・水	16:30～17:30	222医学統計情報学分野 研究室
物理学科		奥村　健一	月～金	16:30～17:30	253物理学科 教授・准教授室
		小松　真	月～金	17:00～18:00	254物理学科　研究室2 komatsum@iwate-med.ac.jp
		小田　泰行	月～金	16:30～17:30	254物理学科　研究室2
化学科		中島　理 教務専門委員長	月	12:00～13:00	256化学科 教授・准教授室
		東尾　浩典	月～金	16:30～17:30	255化学科　研究室
		吉田　潤	月・水	16:30～17:30	255化学科　研究室
生物学科		三枝　聖	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科　研究室
		菅　孔太朗	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科　研究室
		内藤　雪枝	月・水・金	12:00～13:00	261生物学科　研究室
外国語学科	英語分野	柳谷　千枝子	月・木・金	16:30～17:30	265外国語学科 教授・准教授室
		松田　竜宙	火・木	16:30～17:30	224英語分野　研究室2
		Jonathan Levine-Ogura	月～金	16:30～17:30	221英語分野　研究室4
		Robert Ken Asano	月・水・金	16:30～17:30	226英語分野　研究室1
教養教育センター		非常勤教員		授業終了時	各講義室

医学部・オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原　邦昭	水	10:00～12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡しアポイントを取ること
副学長	仲　哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医学教育学講座 医学教育学分野	髙田　亮	月・火・水・金	16:00～18:00	医学教育学講座	内線：5102 内線：71339
	相澤　純	月	月：12:00～13:00		内線：71392
医学教育学講座 地域医療学分野	伊藤　智範	月・金	12:00～13:00	医学教育学講座 循環器内科医局	内線：5102 内線：6415
医学教育学講座 教育支援システム開発分野	前沢　千早	月・水	10:00～12:00、13:00～16:00	教育支援システム開発分野（358）	内線：5661
	安平　進士	火・木	17:00～18:00	教育支援システム開発分野（462）	
	柴﨑　晶彦	月・火	16:00～17:00		
解剖学講座 人体発生学分野	木村　英二	火	12:00～13:00	人体発生学分野　スタッフルーム	内線：5831
	中野　真人	月～金	17:00～18:00		
	足立　礼孝	月～金	16:00～18:00		
	勝本　恵一	月～金	16:00～18:00		
解剖学講座 細胞生物学分野	齋野　朝幸	火～金	12:00～13:00、16:00～19:00	解剖学講座研究室（405）	内線：5871
	成田　啓之	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
	ｱﾌﾞﾀﾞﾘ ｻｲﾄﾞ ｼｬﾘﾌ	月～金	12:00～13:00、16:00～19:00		
	阿久津　仁美	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
	平川　正人	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
生理学講座 統合生理学分野	中嶋　克己	月～金	16:30～19:00	統合生理学分野 スタッフルーム	内線：5733
	木村　眞吾	月～金	16:30～19:00		
	鈴木　喜郎	月～金	16:30～18:45		
	望月　圭	月～金	18:00～20:30		
	駒切　洋	月・水・金	16:30～19:00		
	鈴木　享	月～金	16:30～19:00		
生化学講座 分子医化学分野	金子　桐子	月・火・水・木	16:00～18:00	分子医化学分野 スタッフルーム	内線：5751
	鈴木　亘	月・火・木	16:00～18:00		
	髙橋　隼一郎	月・火・水・木	16:00～18:00		
微生物学講座 感染症学・免疫学分野	村木　靖	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座　教授室（308）	内線：5792
	海部　知則	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座　スタッフルーム（307）	
	小田切　崇	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座　スタッフルーム（306）	
	石川　静麻	月・火・水・木・金	12:00～13:00		
薬理学講座 情報伝達医学分野	平　英一	火・水	16:30～17:30	薬理学講座　スタッフルーム（365）	内線：5821
	ﾊｻﾝ ｱﾘﾌ ｳﾙ	月・火・水・木・金	16:00～17:00		
	小原　真美	月・水・金	16:00～17:00		
病理学講座 機能病態学分野	片岡　竜貴	火・水	12:00～13:00	病理学講座　教授室（455）	内線：5920
	中村　啓哉	木・金	12:00～13:00	研究室	
	伊藤　謙	水・木	12:00～13:00		
	松﨑　駿	月・水	12:00～13:00		
法科学講座 法医学分野	髙宮　正隆	火	12:00～12:20	医局	内線：5682
	森川　剛	火	12:00～12:20		
衛生学公衆衛生学講座	丹野　高三	月～金	16:15～18:00	講座 研究室	内線：5775
	赤坂　憲	月～金	16:15～18:00		
	田鎖　愛理	月～金	16:15～18:00		
	事崎　由佳	月～金	16:15～18:00		
	下田　陽樹	月～金	16:15～18:00		
	高梨　信之	月・火・水・金	16:15～18:00		

内科学講座 消化器内科分野	松本　主之	水	17:00～18:00	医局	内線：6222、6223
	黒田　英克	水	17:30～18:30		
	宮坂　昭生	水	17:30～18:30		
	梁井　俊一	水	17:00～18:00		
	柿坂　啓介	火・木	16:00～18:00		
	鳥谷　洋右	水	17:00～18:00		
	永塚　真	水	17:00～18:00		
	佐々木　裕	水	17:00～18:00		
	遠藤　啓	水	16:30～17:00		
	吉田　雄一	水	16:00～16:30		
	阿部　珠美	水	18:00～18:30		
	鈴木　彰子	水	12:30～13:30		
	星　綾乃	水	17:00～18:00		
	大友　康司	水	17:00～18:00		
	佐々木　登希夫	水	16:30～17:00		
	今成　慧祐	水	16:30～17:30		
	本多　俊介	水	16:30～17:30		
	藤原　裕大	水	16:30～17:00		
内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	石垣　泰	火	15:00～16:00	医局	内線：6271
	高橋　義彦	金	16:00～17:00		
	瀬川　利恵	木	12:00～13:00		
	武部　典子	月	16:00～17:00		
	長谷川　豊	金	9:30～10:30		
	小田　知靖	火	12:00～13:00		
	冨樫　弘文	水	16:00～17:00		
	千田　愛	水	12:00～13:00		
	千葉　拓	月	9:00～10:00		
	川島　智美	水	12:00～13:00		
	吉田　絵里子	水	15:00～16:00		
内科学講座 腎・高血圧内科分野	旭　浩一	火	12:15～13:15	教授室	内線：6416
	吉川　和寛	火	12:15～13:15	医局	
	河嶋　英里	火	12:15～13:15		
	野田　晴也	火	12:15～13:15		
	岡本　好生	火	12:15～13:15		
内科学講座 循環器内科分野	森野　禎浩	月～金	12:00～13:30	循環器内科医局	内線：6413
	石田　大	月～金	12:00～13:30		
	大和田　真玄	月～金	12:00～13:30		
	房崎　哲也	月～金	12:00～13:30		
	肥田　頼彦	月～金	12:00～13:30		
	二宮　亮	月～金	12:00～13:30		
	芳沢　礼佑	月～金	12:00～13:30		
	芳沢　美知子	月～金	12:00～13:30		
	佐々木　航	月～金	12:00～13:30		
	二宮　開	月～金	12:00～13:30		
	澤　陽平	月～金	12:00～13:30		
	浅野　峻見	月～金	12:00～13:30		
	登坂　憲吾	月～金	12:00～13:30		
	佐々木　健太	月～金	12:00～13:30		
内科学講座 呼吸器内科分野	川田　一郎	火・木・金	14:30～17:00	医局	内線：6251
	長島　広相	月・水・金	16:30～17:00		
	秋山　真親	火	16:30～17:00		
	内海　裕	月・水・金	16:30～17:00		
	堀井　洋祐	火・水・木	16:30～17:00		
	片桐　紘	月・木・金	16:30～17:00		

内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	藤本　穣	木（第4除く）	9:00～12:00	医局	内線：6471
	村田　興則	木	9:00～17:00		
	鈴木　悠地	木	9:00～17:00		
	駒ヶ嶺　正嗣	金	9:00～12:30		
	大河原　知治	水	9:00～12:00		
	舟嶋　英志	金	9:00～17:00		
	昆　康弘	水（第1.3）	14:00～17:00		
内科学講座 血液腫瘍内科分野	伊藤　薫樹	火	16:30～17:00	教授室	内線：6401
	小宅　達郎	火・木	17:00～18:00	医局・西6階血液病棟	
	古和田　周吾	月・火・木	17:00～18:00		
	岡野　良昭	火・水	17:00～18:00		
	佐藤　剛	火・水	17:00～18:00		
	西谷　真来	月・火・水	12:00～15:00		
	前田　峻大	火・水	17:00～18:00		
内科学講座 脳神経内科・老年科分野	前田　哲也	木	16:00～17:00	脳神経内科・老年科　医局	内線：6431,6432
	板橋　亮	水	16:00～17:00		
	工藤　雅子	月・火	16:00～17:00		
	石塚　直樹	金	16:00～17:00		
	赤坂　博	水	16:00～17:00		
	鈴木　真紗子	木	16:00～17:00		
	岩岡　和博	水	16:00～17:00		
	髙橋　真	水	16:00～17:00		
	髙橋　健太	水	16:00～17:00		
	津田　圭介	水	16:00～17:00		
	大井　清貴	水	16:00～17:00		
	田口　啓太	水	16:00～17:00		
	寺内　貴廣	水	16:00～17:00		
外科学講座	佐々木　章	火	15:00～17:00	外科学講座 教授室	内線：6220
	新田　浩幸	火	14:00～17:00	外科学講座 教授室	
	鈴木　信	火	14:00～17:00	外科学講座　医局	
	梅邑　晃	火	14:00～17:00		
	井原　欣幸	火	14:00～17:00		
	藤野　順子	火	10:00～11:00		
	馬場　誠朗	水	14:00～17:00		
	石田　和茂	火	14:00～17:00		
	八重樫　瑞典	木	9:00～11:00		
	武田　大樹	火	14:00～17:00		
	二階　春香	水	14:00～17:00		
	安藤　太郎	火	14:00～17:00		
	佐々木　教之	火	14:00～17:00		
	天野　総	火	14:00～17:00		
	瀬川　武紀	火	14:00～17:00		
	天野　怜	火	14:00～17:00		
	川島　到真	火	14:00～17:00		
	熊谷　秀基	水	14:00～17:00		
	棚橋　洋太	火	14:00～17:00		
	菊地　晃司	火	14:00～17:00		
脳神経外科学講座	赤松　洋祐	月～金	17:00～18:00	脳神経外科学講座　医局	会議等の予定がありますので、事前に医局に電話をして確認をお願いします。 （9：00～16：00） 内線：6422,6421
	別府　高明	火	17:00～18:00		
	石垣　大哉	月～金	17:00～18:00		
	佐藤　雄一	月・水・木	17:00～18:00		
	佐浦　宏明	月～金	17:00～18:00		
	吉田　純	月～金	17:00～18:00		
	大志田　創太郎	月～金	17:00～18:00		
	筒井　章太	月～金	12:00～13:00		
	柳原　普	月～金	17:00～18:00		

心臓血管外科学講座	金　一	水・金	17:00～18:00	西5階心臓血管外科　医局	内線：6411
	小泉　淳一	水・木	17:00～18:00		
	枝木　大治	月～金	17:00～18:00		
	齋藤　大樹	月～金	17:00～18:00		
	塩屋　雅人	月～金	17:00～18:00		
	田林　東	月～金	17:00～18:00		
	正木　直樹	月～金	17:00～18:00		
呼吸器外科学講座	齊藤　元	月～金	8:30～17:00	呼吸器外科学講座　医局	内線：6505
	出口　博之	月～金	8:30～17:00		
	友安　信	月～金	8:30～17:00		
	重枝　弥	月～金	8:30～17:00		
	兼古　由香	月～金	8:30～17:00		
	岩井　英頌	月～金	8:30～17:00		
整形外科学講座	田島　吾郎	水	9:00～12:00	整形外科学講座　医局	内線：6562
	佐藤　光太朗	木	10:00～11:00		
	丸山　盛貴	木	17:00～18:00		
	大竹　伸平	木	16:00～17:00		
	三又　義訓	月	14:00～17:00		
	及川　伸也	金	9:00～10:00		
	及川　龍之介	火	16:00～17:00		
	鈴木　忠	金	9:00～10:00		
	村上　賢也	火	15:00～17:00		
	山部　大輔	水	17:00～18:00		
	楊　寛隆	金	17:00～18:00		
	千葉　佑介	金	9:00～10:00		
	和田　俊太郎	金	16:00～17:00		
	松浦　真典	水	8:30～9:30		
	髙橋　裕孝	水	8:30～9:30		
	月村　悦子	水	8:30～9:30		
形成外科学講座	櫻庭　実	水・金	17:00～18:00	医局	内線：6571
	本多　孝之	水・金	16:00～17:00		
	小野寺　文	水・金	16:00～17:00		
	三橋　伸行	木・金	16:00～17:00		
	阿部　桃子	月～金	15:00～16:30		
	山﨑　友和	月・水	16:00～17:00		
産婦人科学講座	馬場　長	火	16:00～17:00	産婦人科学講座　医局	内線：3750
	小山　理恵	金	16:00～17:00		
	庄子　忠宏	金	16:00～17:00		
	利部　正裕	金	16:00～17:00		
	岩動　ちず子	金	16:00～16:30		
	永沢　崇幸	金	16:00～17:00		
	尾上　洋樹	火	16:00～17:00		
	羽場　厳	金	16:00～17:00		
	川村　花恵	金	16:00～17:00		
	佐々木　佳夏子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤　翔	講義終了後に受け付ける			
	髙取　恵里子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤　千絵	講義終了後に受け付ける			
	海道　善隆	金	16:00～17:00		
	村上　一行	講義終了後に受け付ける			
	鈴木　南奈子	講義終了後に受け付ける			
	黒川　絵里加	講義終了後に受け付ける			
	武蔵　実久	講義終了後に受け付ける			
	岡田　有加	講義終了後に受け付ける			
	髙木　駿	講義終了後に受け付ける			

小児科学講座	赤坂　真奈美	月・木	17:00～18:00	医局	内線：3701
	石川　健	火	12:00～13:00		
	齋木　宏文	木	12:00～17:00		
	外舘　玄一朗	火・木	13:00～17:00		
	鳥谷　由貴子	火・水・木・金	15:00～17:00		
	中野　智	火	12:00～13:00		
	松本　敦	月・水	17:00～18:00		
	三浦　翔子	水・金	14:00～16:00		
	水間　加奈子	月・火・金	12:00～13:00		
	草野　修司	月・火・金	12:00～13:00		
	朝倉　賀子	月・火・木・金	14:00～18:00		
	八鍬　瑛子	火・木	11:00～12:00		
	谷藤　幸子	月・火	12:00～14:00		
	浅見　麻耶	月・火	9:00～17:00		
	佐藤　啓	水・木	12:00～14:00		
	小野寺　千夏	金	12:00～14:00		
	田金　星都	月～木	16:00～17:00		
	滝沢　友里恵	木・金	12:00～14:00		
	千田　悠太郎	火・水	16:00～17:00		
	吉田　太郎	月・木・金	14:00～16:00		
	阿部　志津香	月～金	11:00～17:00		
	齋藤　寛治	月・金	16:00～17:00		
	鈴木　幸之介	月・水・木	9:00～17:00		
	高橋　学	火・木	14:00～16:00		
	千葉　智子	月・火・木・金	9:00～11:00		
	豊島　浩志	月・水・木	14:00～17:00		
耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓	月	17:00～19:00	医局	内線：6302
	片桐　克則	木・金	17:00～19:00		
	及川　伸一	火	10：00～17：00		
	亀井　昌代	火・木	17:00～		
	阿部　俊彦	火・木・金	17:00～		
	桂　彩	火・水	17:00～		
	土田　宏大	月	18:00～18：30		
眼科学講座	黒坂　大次郎	月	17:00～18:00	眼科学講座　医局	内線：6582
	橋爪　公平	月	16:00～17:00		
	新田　順福	月	17:30～18:30		
	及川　誠	月	17:30～18:30		
	清野　太郎	月	17:30～18:30		
	橋浦　哲哉	月	14:00～16:00		
	伊藤　愉一胤	月	17:00～18:00		
	今泉　利康	月	17:00～18:30		
	大島　広之	月	17:00～18:00		
	福田　一央	月	17:00～18:00		
皮膚科学講座	天野　博雄	水	17:00～18:00	皮膚科学講座　医局	内線：6543
	角田　加奈子	月	10:00～12:00		
	渡部　大輔	木	17:00～18:00		
	三浦　慎平	火	17:00～18:00		
	渡辺　彩乃	水	16:00～17:00		
	井上　剛	水	17:00～18:00		

泌尿器科学講座	小原　航	水	9:00～10:00	泌尿器科学講座　医局	内線：6551
	阿部　貴弥	月	9:00～10:00		
	杉村　淳	水	18:00～19:00	内丸MC控室	
	兼平　貢	火	18:00～19:00	泌尿器科学講座　医局	
	加藤　廉平	月	18:00～19:00		
	前川　滋克	火	18:00～19:00		
	五十嵐　大樹	火	18:00～19:00		
	塩見　叡	火	18:00～19:00		
	井藤　綾人	火	18:00～19:00		
	阿部　正和	火	18:00～19:00		
	田村　大地	海外留学中	海外留学中		
	久野　瑞貴	火	18:00～19:00		
神経精神科学講座	大塚　耕太郎	火	16:30～18:00	矢巾附属病院10階 神経精神科学講座　医局	内線：2011
	八木　淳子	金	12:00～13:00		
	三條　克巳	水	17:00～18:00		
	福本　健太郎	火	16:00～17:00		
	山家　健仁	火	16:00～17:00		
	内出　希	金	10:00～12:00		
	三田　俊成	水	16:00～17:00		
	吉岡　靖史	月	16:00～17:00		
	本多　笑奈	木	9:00～10:00		
放射線医学講座	田中　良一	月・金	16:00～16:30	放射線科　医局	内線：6322
	加藤　健一	月・水・木・金	16:00～16:30		
	鈴木　智大	火・木	16:00～17:00	放射線科　読影室	内線：2121
	田村　明生	火～金	16:00～17:00	放射線科　医局	内線：6322
	鈴木　美知子	月・木・金	9:00～10:00	放射線科　読影室	内線：2121
	折居　誠	月・金	16:00～17:00		
	小原　牧子	水	12:00～13:00		
	川島　和哉	月・金	15:00～17:00		
	曽根　美都	月・金	15:00～17:00		
	向井田　瑛佑	水・木	16:00～17:00		
	藤原　純平	月・金	15:00～17:00		
麻酔学講座	熊谷　基	月～金	16:30～	麻酔科管理室	内線：2465
	大畑　光彦	月～金	16:30～		
	脇本　将寛	月～金	16:30～		
	水間　謙三	月～金	16:30～		
	久慈　昭慶	月～金	16:30～		
	中野　雄介	月～金	16:30～		
	田村　雄一郎	月～金	16:30～		
	畠山　知規	月～金	16:30～		
	宮田　美智子	月～金	16:30～		
	小川　祥平	月～金	16:30～		
	髙橋　裕也	月～金	16:30～		
	栗原　寛人	月～金	16:30～		
	新居　正季子	月～金	16:30～		
臨床検査医学・感染症学講座	仲村　究	火	14:00～17:00	臨床検査医学・感染症学講座　教授室	内線：6331
	藤原　亨	木	12:00～13:00	臨床検査医学・感染症学講座　医局	
	小野寺　直人	木	9:00～10:00		
	熊谷　亜希子	月	12:30～13:30		
	七崎　之利	月	13:00～14:00		
	髙橋　敬太	木	11:00～12:00		
	日比谷　健司	火	9:00～12:00		

救急・災害医学講座	眞瀬　智彦	火・木	14:00～17:00	災害センター　研究室	内線：5565
	髙橋　学	月～金	12:00～13:00	救急センター　医局	内線：2682、2683
	藤田　友嗣	月～金	12:00～13:00		
	菅　重典	月～木	12:00～13:00		
	佐藤　寿穂	月～金	12:00～13:00		
	吉直　大佑	月～金	12:00～13:00		
	森野　豪太	月～金	12:00～13:00		
	野々口　マリア	月～金	12:00～13:00		
	横藤　壽	月～金	12:00～13:00		
	富永　綾	火・水	14:00～17:00	災害センター　研究室	内線：5565
	藤原　弘之	火・木	14:00～17:00		
	金子　拓	火・木	14:00～17:00	災害センター　研究室	内線：5565
	寺山　茉莉	月～金	12:00～13:00	救急センター　医局	内線：2682、2683
	星　眞太郎	月～金	12:00～13:00		
総合診療医学講座	下沖　収	月	17:00～18:00	医局	内線：#6304
	大間々　真一	月	17:00～18:00		
	髙橋　智弘	木	17:00～18:00		
	米田　真也	月・火・水	16:00～17:00		
	山田　哲也	月・火	17:00～18:00		
岩手県高度救命救急センター	藤野　靖久	月～金	12:00～13:00	救急センター　医局	内線：2683
	小鹿　雅博	月～金	12:00～13:00		
	千田　光平	月～金	12:00～13:00		
	三﨑　俊斉	月～金	12:00～13:00		
	丹田　実	月～金	12:00～13:00		
	石井　修平	月～金	12:00～13:00		
	佐々木　秀策	月～金	12:00～13:00		
	八鍬　一貴	月～金	12:00～13:00		
	藤本　健太郎	月～金	12:00～13:00		
	石田　馨	月～金	12:00～13:00		
	藤澤　良介	月～金	12:00～13:00		
	佐藤　貴紀	月～金	12:00～13:00		
病理診断学講座	柳川　直樹	月～金	17:00～	医局	内線：2393
	刑部　光正	月～金	17:00～		
	杉本　亮	月～金	17:00～		
	伊藤　一洋	月～金	17：00～		
臨床腫瘍学講座	板持　広明	月	15:00～17:00	医局	内線：2083
	岩谷　岳	水・木	17:00～19:00		
	遠藤　史隆	金	15:00～17:00		
医療安全学講座	肥田　圭介	木	12:00～14:00	医療安全管理部	内線：6112
睡眠医療学科	西島　嗣生	火・水	17:00～19:00	睡眠医療学科　医局	内線：#3358 emailでの連絡可
	細川　敬輔	月・火・木	17:00～19:00		
	細川　里絵	水	9:00～12:00		
臨床遺伝学科	鈴森　伸宏	金	16:00～17:00	臨床遺伝学科　医局	内線：#3258
	山本　佳世乃	金	16:00～17:00		
	吉田　明子	水	16:00～17:00		
	小林　有美子	金	16:00～17:00		
	勝部　暢介	月	16:00～17:00		
緩和医療学科	木村　祐輔	月～水	17:00～18:00	緩和医療学科　医局	内線：3364
	鴻巣　正史	月・火・金	17:00～18:00		
	中村　聖華	月・火	17:00～18:00		
放射線腫瘍学科	有賀　久哲	火	17:00～18:30	医局	内線：6322
	菊池　光洋	月	17:00～18:00		
	及川　博文	火	17:00～18:00		
	家子　義朗	月	17:00～18:00		
	瀬川　昂史	月	12:00～13:00		
リハビリテーション医学講座	西村　行秀	月・火	月：14:00～17:00 火：10:00～12:00	教授室	内線：3733
	西山　一成	火・金	火：　9:00～12:00 金：10:00～12:00	リハビリテーション科医室	内線：3731
災害・地域精神医学講座	赤平　美津子	火	17:00～18:00	神経精神科学講座　医局	内線：2371

いわて東北メディカル・メガバンク機構臨床研究・疫学研究部門	永井　雅人	随時	随時	医局	内線：5464
いわて東北メディカル・メガバンク機構生体情報解析部門	須藤　洋一	月～金	12:30～13:30	医局	内線：5472
	山﨑　弥生	月～金	10:00～12:00		
	楠　詩織	月～金	10:00～12:00		
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

医歯薬総合研究所　オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原　邦昭	水	10:00～12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡しアポイントを取ること
副学長	仲　哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所長	仲　哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所創薬・医療機器開発部門	西塚　哲	火・木	火：16:00～17:00木：12:00～13:00	教授室	内線：5685
	世良田　聡	月・木	13:00～17:00	107室	内線：5635
	鈴木　悠地	木	9:00～17:00	医局	内線：6471
	阿保　亜紀子	水・木・金	10:00～17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5686
	真柳　平	月～金	16:00～17:00	神経科学研究部門	内線：5711
	開　勇人	火・木・金	10:00～17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5687
医歯薬総合研究所基盤的研究部門	寺崎　一典	随時	随時	医局	内線：3331
	山下　典生	月・水	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	上野　育子	月・火・水	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	佐々木　敏秋	随時	随時	医局	内線：3331
	若井　淳	水	12:00～13:00	動物研究センター	内線：5390
	松田　豪	火・木・金	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	森　太志	水・木・金	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けるために開かれた時間です。
有効に利用してください。
希望者は、分野ごとに記載されている下記一覧表を確認の上、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

所属		氏名	曜日	時間帯	備　考
薬科学講座	創薬有機化学分野	河野　富一	月・水・金	12:00~13:00	場所：創薬有機化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		辻原　哲也	火・木・金	17:00~18:00	場所：創薬有機化学分野スタッフルーム2 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		稲垣　祥	火・水・木	17:00~18:00	場所：創薬有機化学分野スタッフルーム1 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	天然物化学分野	田浦　太志	月～金	12:00~13:00 16:00~18:00	場所：天然物化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		浅野　孝	月～金	16:00~18:00	場所：天然物化学分野スタッフルーム
	構造生物薬学分野	野中　孝昌	金	16:20~17:00	場所：Moodleの構造生物薬学分野コース Zoomによるオンライン面談。予約不要。
		阪本　泰光	月～金	16:30~17:30	場所：構造生物薬学分野スタッフルーム 質問の際には、教科書、ノートおよび筆記用具を持参してください。 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
	分析化学分野	藤本　康之	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00	場所：分析化学分野スタッフルーム(東研究棟4階 454) 左記以外でも在室時は対応可。
生物薬学講座	機能生化学分野	關谷　瑞樹	月～金	12:00~13:00 16:30~19:00	場所：機能生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	生体防御学分野	大橋　綾子	月～金	12:05~12:55	場　所：生体防御学分野にて（東研究棟3階 352-353） 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 質問の際は、教材や筆記用具を持参すること。
		錦織　健児	月～金	16:10~18:00	
病態薬理学講座	分子細胞薬理学分野	奈良場　博昭	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00	場所：分子細胞薬理学分野教授室 左記以外でも在室時は可
		藤原　俊朗	月・火・木	16:10～18:00	場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム（西研究棟356）等 左記以外でも在室時は可
			水・金	18:00～19:00	
		髙橋　巌	月～金	12:00~13:00 16:10~17:00	場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	臨床医化学分野	野口　拓也	月～金	16:00~19:00	場所：臨床医化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
医療薬科学講座	創剤学分野	杉山　育美	月～金	16:10~17:30	場所：創剤学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬物代謝動態学分野	幅野　渉	月～金	16:00~18:00	場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461） 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
		寺島　潤	月～金	9:00~17:00	場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461） 在室時は随時対応
	衛生化学分野	杉山　晶規	月～金	17:00~19:00	場所：衛生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		米澤　穂波	月～金	17:00~19:00	場所：衛生化学分野スタッフルーム 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
臨床薬学講座	臨床薬剤学分野	工藤　賢三	月～金	17:00~19:00	場所：臨床薬剤学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		朝賀　純一	月～金	17:00~19:00	場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム315 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		高橋　宏彰	月～金	16:30~18:00	場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム317 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	情報薬科学分野	西谷　直之	月～金	16:30~18:00	場所：情報薬科学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
		佐京　智子	月～金	16:30~18:00	場所：情報薬科学分野スタッフルーム 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
		氏家　悠貴	火～金	13:00~17:00	
	地域医療薬学分野	松浦　誠	月～金	16:10~18:00	場所：地域医療薬学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬学教育学分野	白石　博久	月～金	12:10~12:50	場所：薬学教育学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可

※非常勤教員は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には科目責任者を通じて連絡すること。

看護学部　オフィスアワー　一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般について質問、相談、あるいは指導等を受けるために設けられている時間です。学生に対して広く開かれた時間ですので、有効に活用して下さい。質問や相談等を希望する学生は、曜日・時間帯を確認し、各教員の研究室にて面談を受けて下さい。

看護学部

所属		担当教員	曜日	時間帯	備　考
共通基盤看護学講座（マルチメディア教育研究棟４階）	基礎	野里　同	火･水･木	16：30～17：30	研究室19　内線5403 nozato@iwate-med.ac.jp
		柏木　ゆきえ	水	16：00～17：00	研究室8　内線5401　事前アポイントがあれば随時可 kasiwagi@iwate-med.ac.jp
		小林　由美子	火･水･木	16：00～17：00	研究室15　内線5402　事前アポイントがあれば随時可 yumikoba@iwate-med.ac.jp
		松田　悠史	火･水･木	16：00～17：00	研究室9　内線5406　メールでの事前連絡があれば随時可 matsuy@iwate-med.ac.jp
	成人	佐藤　奈美枝	月	16：00～17：00	研究室6　内線5419　事前連絡があれば随時可 namies@iwate-med.ac.jp
		伊藤　奈央	火・木	16：00～17：00	研究室20　内線5358　事前アポイントがあれば随時可 naoito@iwate-med.ac.jp
		小坂　未来	火・金	15：30～16：30	研究室13　内線5404　事前連絡があれば調整可 mkosaka@iwate-med.ac.jp
		三上　邦子	月・金	16：30～17：30	研究室13　内線5303 mikamik@iwate-med.ac.jp
		畑中　るり子	木	16：00～17：00	研究室9　内線5425 hatanrur@iwate-med.ac.jp
地域包括ケア講座（マルチメディア教育研究棟４階）	地域	岩渕　光子	木	12：00～13：00	研究室5　内線5416　事前連絡があれば随時可 iwabuchi@iwate-med.ac.jp
		藤澤　純子	月・金	12：00～13：00	研究室9　内線5359　事前連絡があれば随時可 fujisawa@iwate-med.ac.jp
		赤井　純子	火・木	12：00～13：00	研究室9　内線5426　メールでの事前連絡があれば随時可 jakai@iwate-med.ac.jp
		五日市　瑠美子	水・木	12：00～13：00	研究室9　内線5202　事前連絡があれば随時可 rumikoi@iwate-med.ac.jp
	老年	舘向　真紀	火･水･木	16：00～17：00	研究室15　内線5407　事前アポイントがあれば随時可 makiy@iwate-med.ac.jp
		菊池　佑弥	火･水･木	16：00～17：00	研究室9　内線5405　事前アポイントがあれば随時可 yuyakkc@iwate-med.ac.jp
	精神	遠藤　太	木	16：30～18：00	研究室3　内線5417　事前アポイントがあれば随時可 futoshie@iwate-med.ac.jp
		熊地　美枝	水・木	16：00～17：00	研究室4　内線5201　事前連絡があれば随時可 kumachi@iwate-med.ac.jp
		髙崎　邦子	火・木	16：30～17：30	研究室16　内線5418　事前連絡があれば調整可 takasaki@iwate-med.ac.jp
成育看護学講座（マルチメディア教育研究棟４階）	小児	髙橋　亮	水	16：30～17：00	研究室17　内線5203　事前連絡があれば調整可 tryo@iwate-med.ac.jp
		伊東　佐由美	月～金	16：00～17：00	研究室14　内線5409　事前連絡があれば随時可 sayumii@iwate-med.ac.jp
	母性	蛎﨑　奈津子	月	15：00～17：00	研究室7　内線5353　事前連絡があれば随時可 kakizaki@iwate-med.ac.jp
		遊田　由希子	水・木	12：00～14：00	研究室11　内線5355　事前連絡があれば随時可 yuuda@iwate-med.ac.jp
		西里　真澄	月・水	15：00～17：00	研究室10　内線5354　事前連絡があれば随時可 nishima@iwate-med.ac.jp
		髙橋　淳美	火･木･金	16：00～17：00	研究室14　内線5427　事前連絡があれば随時可 atsumi@iwate-med.ac.jp
看護専門基礎講座（東研究棟２階）		遠藤　龍人	水・木	14：00～16：00	研究室2　内線5420　メールでの事前アポイントメントが望ましい ryuendo@iwate-med.ac.jp
		塚本　恭正	月～金	15：00～17：00	研究室3　内線5421 tsukamot@iwate-med.ac.jp
		一ノ渡　学	水・木	15：00～17：00	研究室4　内線5422　事前アポイントがあれば随時可 gakuichi@iwate-med.ac.jp
看護学部		非常勤教員	授業終了後、教室にて質問等を受け付けます。 後日質問等がある場合は、科目責任者を通じて連絡して下さい。		